# 学生生活に関する調査報告書

平成２８年度

小 樽 商 科 大 学

# ま　え　が　き

本学では，３年に一度，全学の学生を対象にして学生生活に関するアンケート調査を行っています。本年度は前回調査年度（２５年度）から３年目にあたるため，同様の調査を行い，その結果をまとめたものが本報告書です。

「同様の調査」とはいえ，今回は前回と較べ，時代の趨勢を反映した刷新を少なからず取り入れました。まず，調査方法ですが，紙媒体形式を廃止し，現在本学で全学的に導入されている学習支援システム”manaba”を利用した方法に切り替えました。具体的には，１・２年は複数の大規模人数授業，３・４年はゼミの協力を得て，スマートフォンを用いたアンケートを行うというものです。この改変による回収率の低下が懸念されましたが，全体の平均値は前回の73.9%から70.4%に若干下がったものの，１～３年次生では，さしたる変化が見られませんでした。次回以降は今回低下した4年次生の回収率アップのための方策を図るべきであると考えます。また，今回自由意見が前回に較べ少なかったのは，紙媒体と比較してmanabaでは記入に手間取ったせいである可能性が高く，この点の改善に関しましても，今後の検討課題といたします。

アンケート項目につきましては，「6. 学習状況について」の項を大きく改変しております。前回でもこの項ではアクティブ・ラーニング(AL)授業の導入に伴い，AL授業関連，特にAL教室と一般教室での受講状況の差異などを尋ねる質問を盛り込みましたが，ALの検証段階に入っている本年度は，AL関連のアンケート調査・分析は別のまとまった機会に譲り，ここでは新たに導入を開始した学習支援システム，或いはアンケートアプリなどの利用に関する質問を設定しております。他の項目でも，「9. 健康について」では，保健管理センターが独自調査をしている項目は重複をさけるために割愛するなど，個人のプライバシー保護の観点も含めて全般にわたり再検討いたしました。

この調査結果を参考として，本学では更に有効な学生支援を目指して参りますが，学生の皆さんも，本報告をもとに自らの生活実態を振り返り，より充実した学生生活を送っていただきたいと思います。

最後となりましたが，調査にご協力いただいた教員の方々，項目の点検と結果の分析にご尽力いただいた高橋恭子,杉山成,沼澤政信の各教授および学生支援課に厚く御礼申し上げます。

平成29年3月

小樽商科大学理事（教育担当副学長）　鈴 木 将 史

# 目　　　　次

Ⅰ　調査の概要‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　1

1　調査の目的
2　調査の組織
3　調査の内容
4　調査の対象
5　調査の実施時期
6　調査の方法
7　調査票の回収状況

Ⅱ　調査結果

1　基本的事項‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　4

(1)　入学年度別・男女別・所属コース
(2)　男女別・出身高校所在地
(3)　所属学科別・出身高校所在地
(4)　所属学科別・男女別

2　入学の経緯等について‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　6

問6　大学進学の動機
問7　本学を最初に知った情報源
問8　本学を選択した動機
問9　本学の志望順位

3　家庭状況について‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　１１

問10　主たる家計支持者の住居
問11　主たる家計支持者の職業
問12　主たる家計支持者の年収
問13　その他の方の年収

4　住居・通学について‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　１４

問14　学生の現住所
問15　同居者
問16　住居を選択したときに考慮した条件
問17　家賃・下宿料
問18　通学所要時間

５　生活費・アルバイトについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０
問19　1ヶ月の生活費
問20　1ヶ月の小遣い・仕送り
問21　授業料免除結果
問22　奨学金受給額（月額）
問23　アルバイトの職種
問24　1週間のアルバイト時間
問25　1ヶ月の収入の平均額
問26　アルバイト代の主な使途
問27　学業とアルバイトとの関係

６　学修状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４
問28　1週間の通学日数
問29　本を読む頻度
問30　研究指導(ゼミ)以外の通常講義における1週間あたりの自習時間
問31　研究指導(卒業研究も含む)のゼミ時間以外における1週間あたりの自習時間
問32　自習の場所
問33,37,41　語学科目,基礎科目，専門科目の予習と復習
問34,38,42　語学科目,基礎科目，専門科目の出席
問35,39,43　語学科目,基礎科目，専門科目の受講態度
問36,40,44　語学科目,基礎科目，専門科目のグループ演習
問45　学修支援システム（manaba）の利用状況
問46　授業への学修支援システム（manaba）導入の評価
問47　リアルタイムアンケートアプリ（respon）の利用状況
問48　授業でのリアルタイムアンケートアプリ（respon）活用の評価
問49　カリキュラムの満足度
問50　カリキュラムの消化度

７　課外活動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６９
問51　サークルに加入経験のある者の割合
問52　サークルへの加入動機
問53　1週間当たりのサークル活動に費やす時間
問54　サークル活動にかかる1ヶ月あたりの費用
問55　サークル活動と学業との関係
問56　サークルに加入しない理由

８　ボランティア活動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７６
問57　大学入学後のボランティア活動経験
問58　ボランティア活動の内容
問59　ボランティア活動の合計日数
問60　ボランティア活動をしたきっかけ
問61　ピアサポートへの参加意志

９　健康について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８１
問62　朝食を食べているか
問63　睡眠時間
問64　喫煙をしているか
問65　運動をしているか
問66～67　飲酒の頻度，程度

１０　友人・悩みについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８７
問68　友人づきあいの程度
問69　友人を見つけたきっかけ
問70　現在の悩み
問71　悩みの対処方法
問72　大学内の居場所

１１　ハラスメントについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９５
問73～74　ハラスメントを受けた又は見聞きした経験の有無
問75　受けた又は見聞きしたハラスメントの種類
問76　ハラスメントが発生した状況
問77　ハラスメントが発生した時の対応

１２　カルト，薬物について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９８
問78～79　カルト宗教団体等から勧誘された又は見聞きした経験の有無
問80～81　大麻や危険ドラッグの使用を勧められた又は見聞きした経験の有無

１３　就職について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １００
問82　　卒業後の進路
問83　　就職する場合の選択基準
問84　　就職する場合の希望勤務地
問85　　就職準備のための専門学校等への通学状況
問86　　就職支援に関しての要望
問87　　卒業後の進路を決めた時期
問88　　大学の就職支援に対する評価

１４　その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１２
問89　　ICT機器の所有状況
問90　　一日あたりの携帯電話またはスマートフォンの利用時間
問91　　携帯電話またはスマートフォンのよく利用する機能
問92　　SNS利用の悩み

Ⅲ　学生生活実態調査「自由意見」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２０

Ⅳ　資料　学生生活実態調査「アンケート用紙」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２６

# Ⅰ　調 査 の 概 要

## １ 調査の目的

この調査は，本学学生の生活実態をより正確に把握することで，今後における学生の修学環境の改善及び福利厚生の充実を図り，学生の多様なニーズに応えるための基礎資料を得ることを目的として実施する。

## ２ 調査の組織

小樽商科大学学生委員会

## ３ 調査の内容

①基本的事項　②入学の経緯等について　③家庭状況について
④住居・通学について　⑤生活費・アルバイトについて　⑥学修状況について
⑦課外活動について　⑧ボランティア活動について　⑨健康について
⑩友人・悩みについて　⑪ハラスメントについて　⑫カルト，薬物について
⑬就職について　⑭その他　⑮自由意見

## ４ 調査の対象

平成２８年１０月１日に在籍する昼間コース・夜間主コース学部学生とする。

## ５ 調査の実施時期

平成２８年１０月３日（月）～１０月１６日（日）

## ６ 調査の方法

教育支援システム「manaba」を利用したweb回答方式とする。なお，回答は無記名式とし，個人識別が出来ない仕様とする。

## ７ 調査票の回収状況

在籍者数（対象学生数）　（平成28年10月1日現在）（人）

| 入学年度 | 昼間コース | | | 夜間主コース | | | 合計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 |
| H28 | 303 | 197 | 500 | 31 | 23 | 54 | 334 | 220 | 554 |
| H27 | 317 | 188 | 505 | 25 | 26 | 51 | 342 | 214 | 556 |
| H26 | 305 | 180 | 485 | 26 | 24 | 50 | 331 | 204 | 535 |
| H25 | 301 | 184 | 485 | 26 | 25 | 51 | 327 | 209 | 536 |
| H24 以前 | 61 | 18 | 79 | 12 | 2 | 14 | 73 | 20 | 93 |
| 計 | 1,287 | 767 | 2,054 | 120 | 100 | 220 | 1,407 | 867 | 2,274 |

回答者数 （人）

| 入学年度 | 昼間コース | | | 夜間主コース | | | 合計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 |
| H28 | 258 | 179 | 437 | 29 | 23 | 52 | 287 | 202 | 489 |
| H27 | 217 | 153 | 370 | 18 | 24 | 42 | 235 | 177 | 412 |
| H26 | 219 | 138 | 357 | 17 | 16 | 33 | 236 | 154 | 390 |
| H25 | 169 | 88 | 257 | 14 | 18 | 32 | 183 | 106 | 289 |
| H24 以前 | 13 | 4 | 17 | 3 | 2 | 5 | 16 | 6 | 22 |
| 計 | 876 | 562 | 1,438 | 81 | 83 | 164 | 957 | 645 | 1,602 |

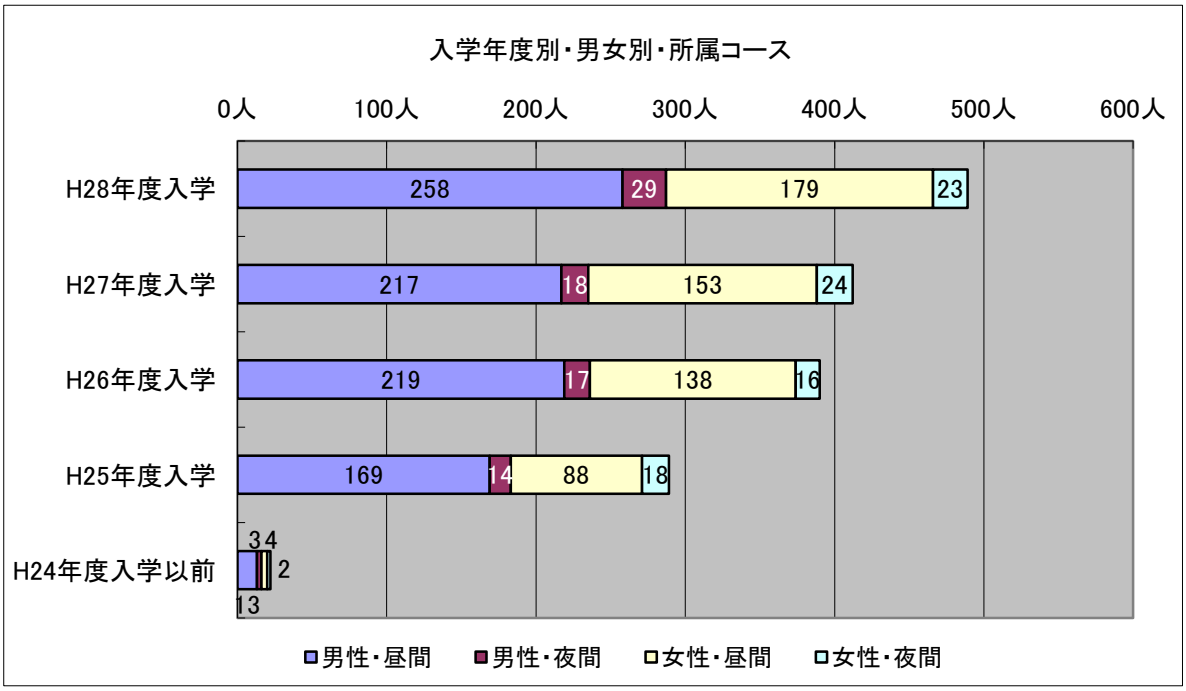
回答率 （%）

| 入学年度 | 昼間コース | | | 夜間主コース | | | 合計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 | 男性 | 女性 | 計 |
| H28 | 85.1 | 90.9 | 87.4 | 93.5 | 100.0 | 96.3 | 85.9 | 91.8 | 88.3 |
| H27 | 68.5 | 81.4 | 73.3 | 72.0 | 92.3 | 82.4 | 68.7 | 82.7 | 74.1 |
| H26 | 71.8 | 76.7 | 73.6 | 65.4 | 66.7 | 66.0 | 71.3 | 75.5 | 72.9 |
| H25 | 56.1 | 47.8 | 53.0 | 53.8 | 72.0 | 62.7 | 56.0 | 50.7 | 53.9 |
| H24 以前 | 21.3 | 22.2 | 21.5 | 25.0 | 100.0 | 35.7 | 21.9 | 30.0 | 23.7 |
| 計 | 68.1 | 73.3 | 70.0 | 67.5 | 83.0 | 74.5 | 68.0 | 74.4 | 70.4 |

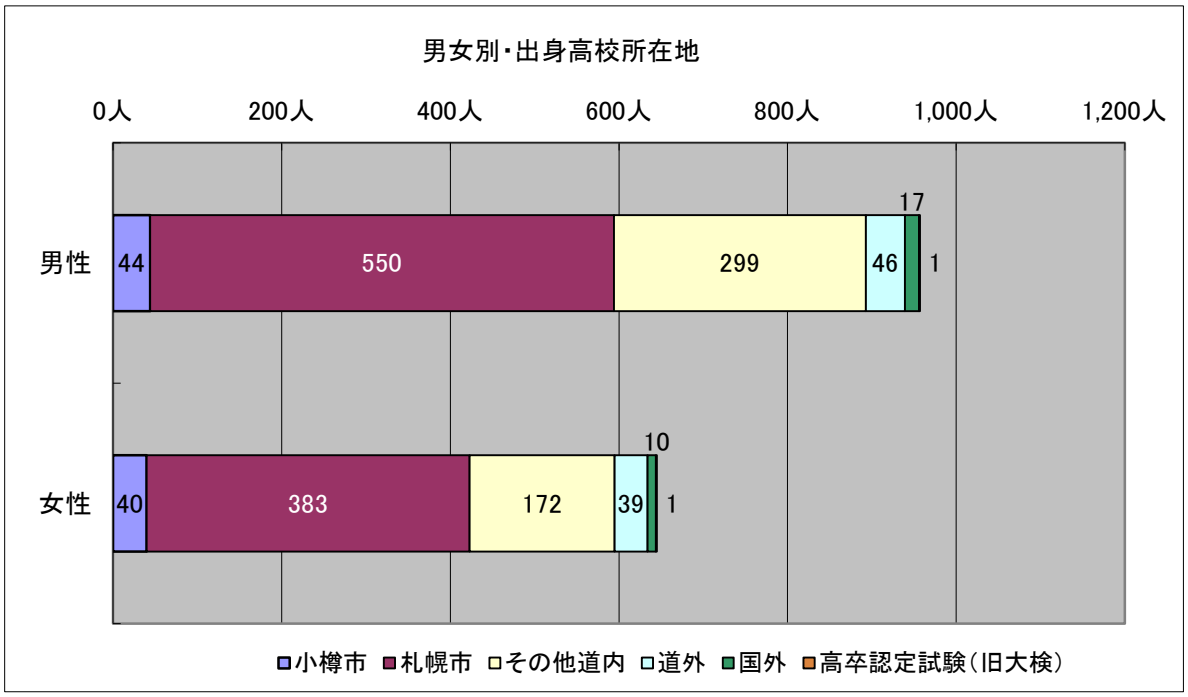
# Ⅱ　調査結果

## 1　基本的事項

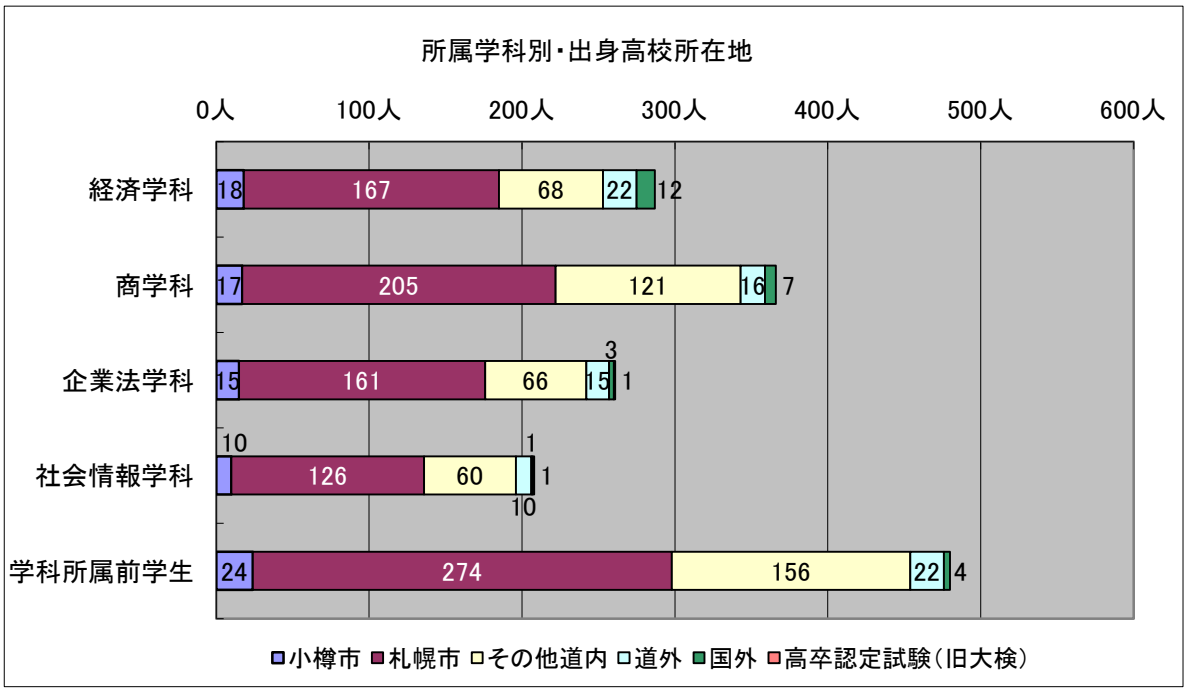
### （１）入学年度別・男女別・所属コース



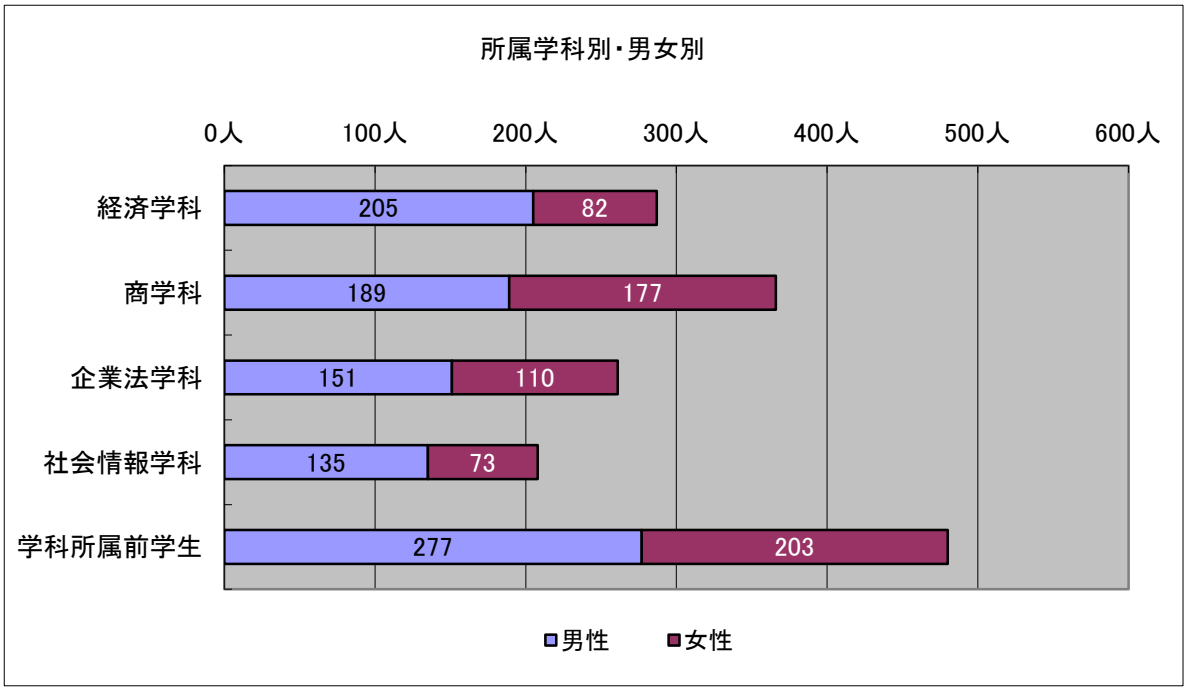

### （２）男女別・出身高校所在地



（３）所属学科別・出身高校所在地

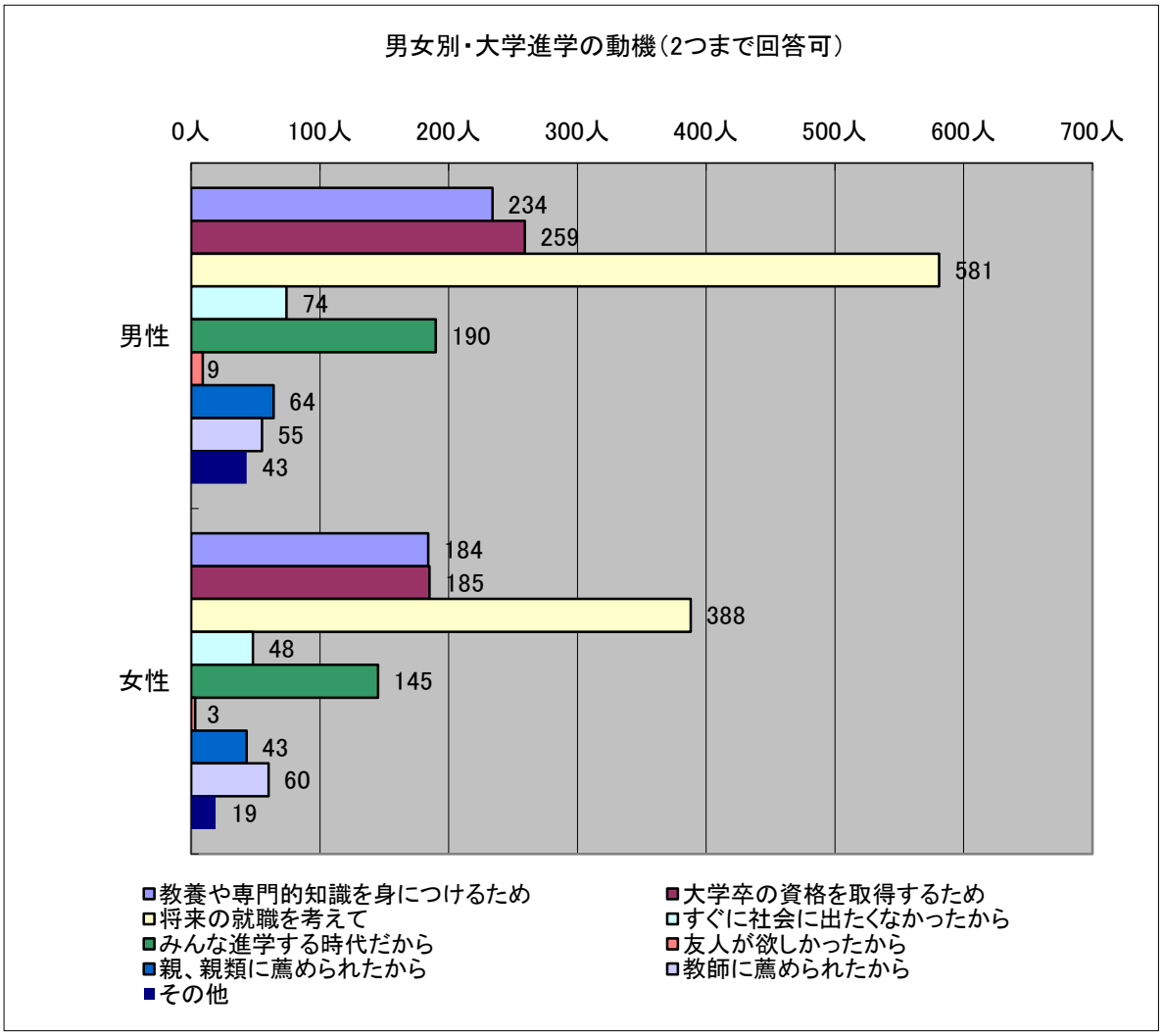


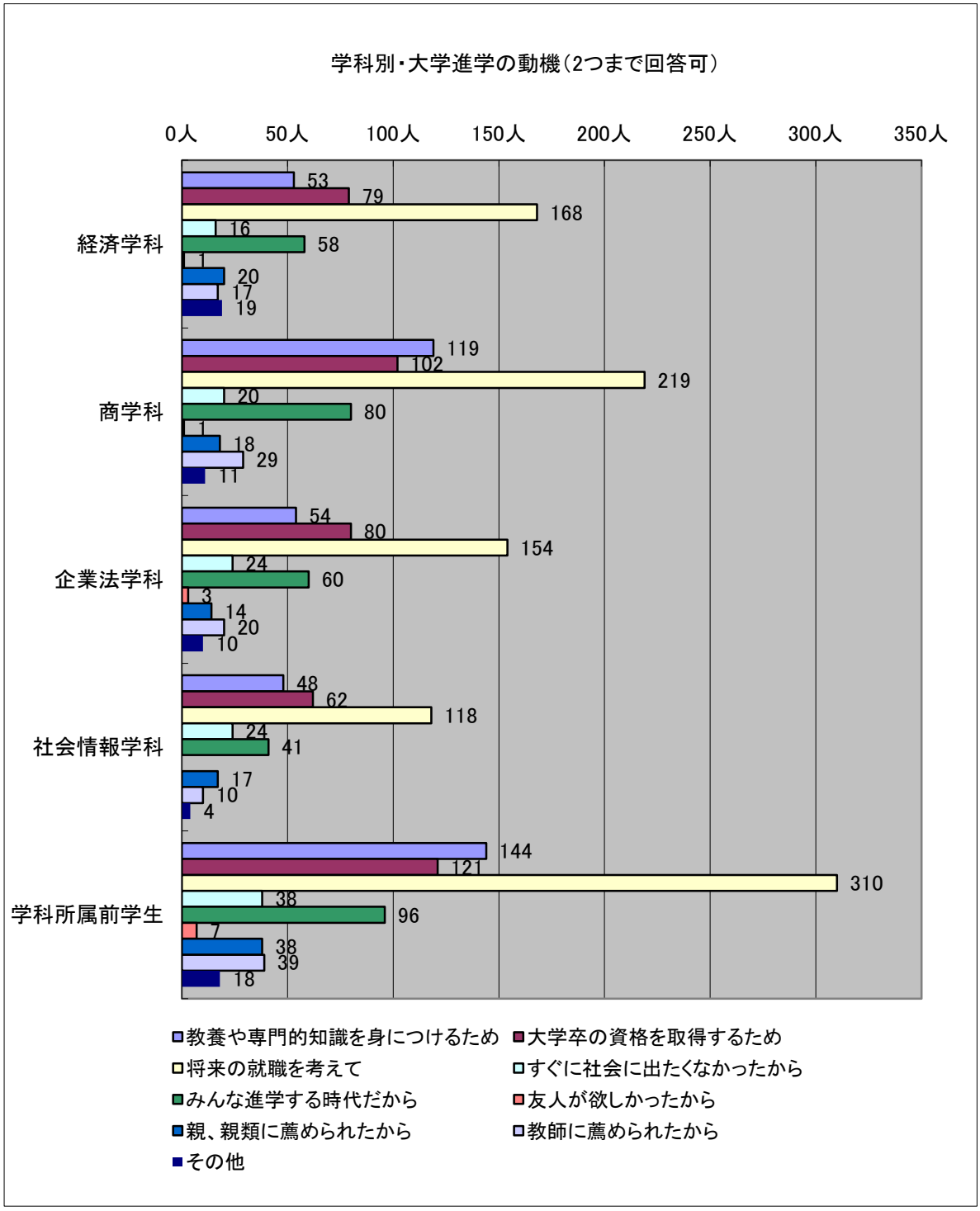

（４）所属学科別・男女構成



## ２　入学の経緯等について

問 6　大学進学を決めた時の動機は何ですか。（2 つまで回答可）

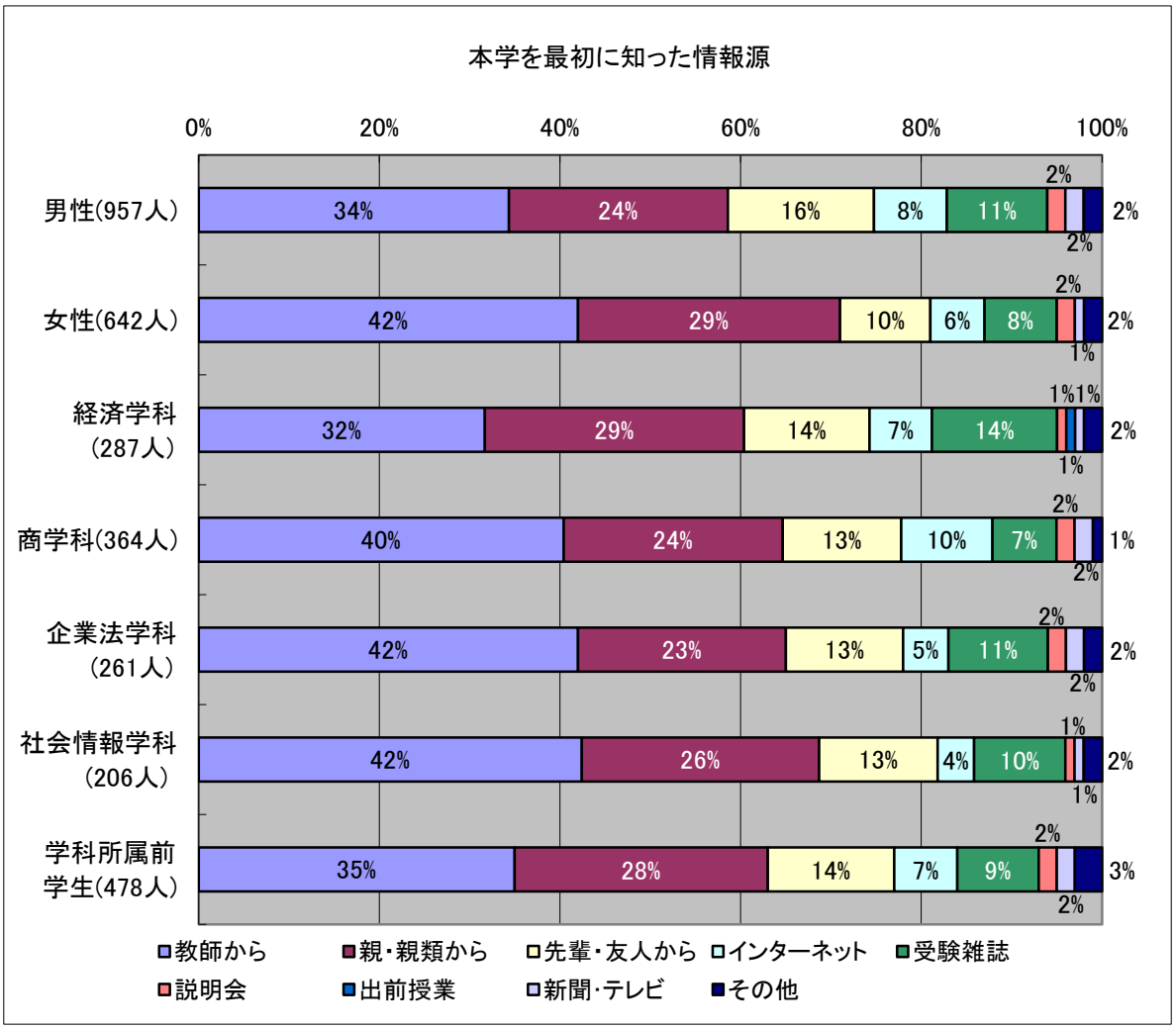





問 6　コメント

男女共同様の傾向を示し，「将来の就職を考えて」が，男性 581 名，女性 388 名と最も多い。次に「大学卒の資格を取得するため」が男性 259 名，女性 185 名，更に「教養や専門的知識を身に付けるため」が男性 234 名，女性 184 名と続く。この傾向は，前回，前々回と大きな変化はない。こうした傾向は各学科においても同様だが，商学科の教養・専門的知識重視傾向は，前回と同じく今回も見られ，4 学科中唯一大卒資格重視傾向を上回っている。

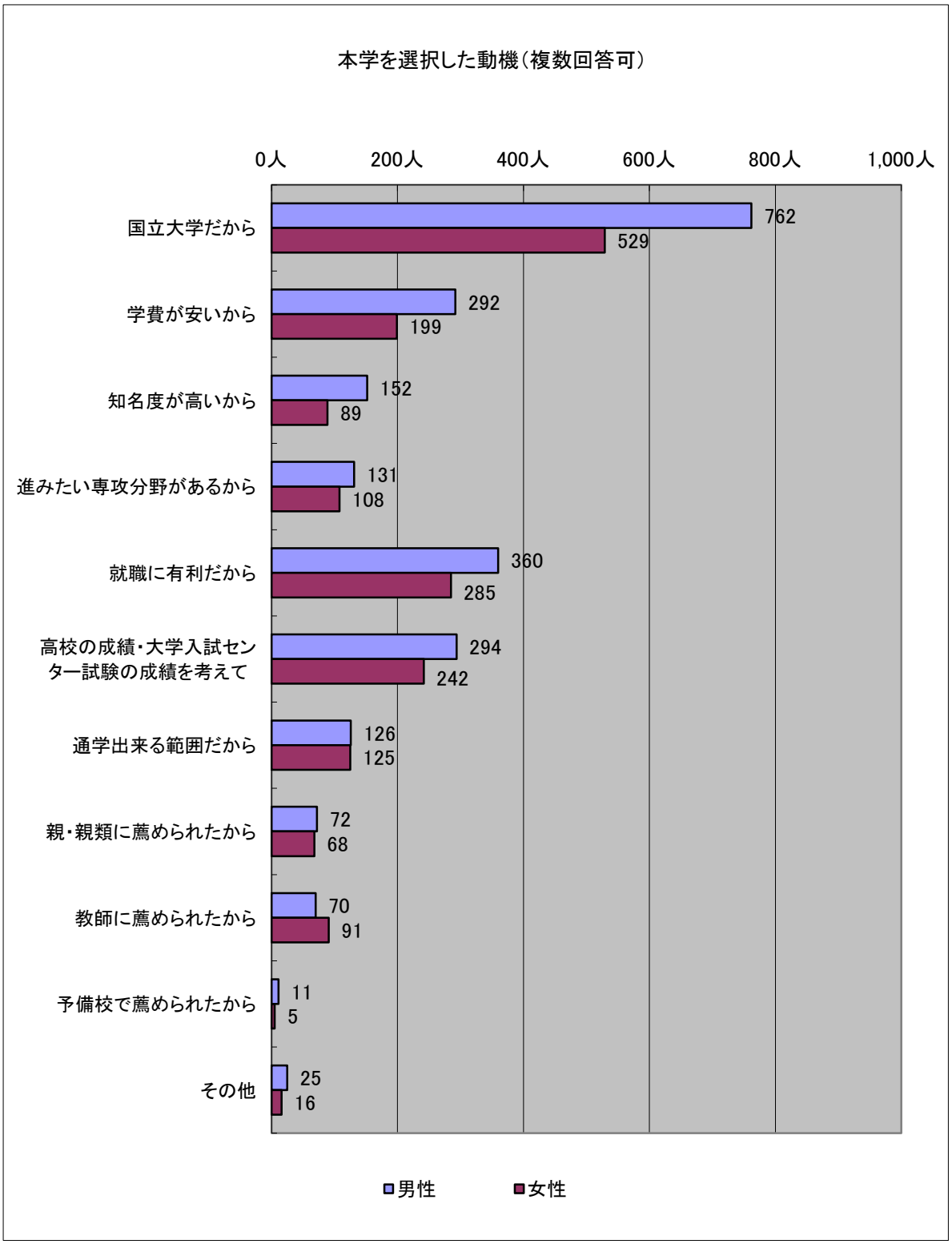
問７　本学を最初に知ったのは，どこからの情報ですか。




問７　コメント

男女共，教師から知った割合が１位であるが，男性の 34%に較べ，女性は 42%と，女性の方が教師から本学を紹介される場合が多く，対して男性は，先輩や友人から本学を知らされるケースがより多くなっている。前回と比較すると，今回はインターネットや受験雑誌からの情報が増えており，教師・親・友人といった身近な人以外からもたらされる大学情報が多様化してきた現在の状況を示している。

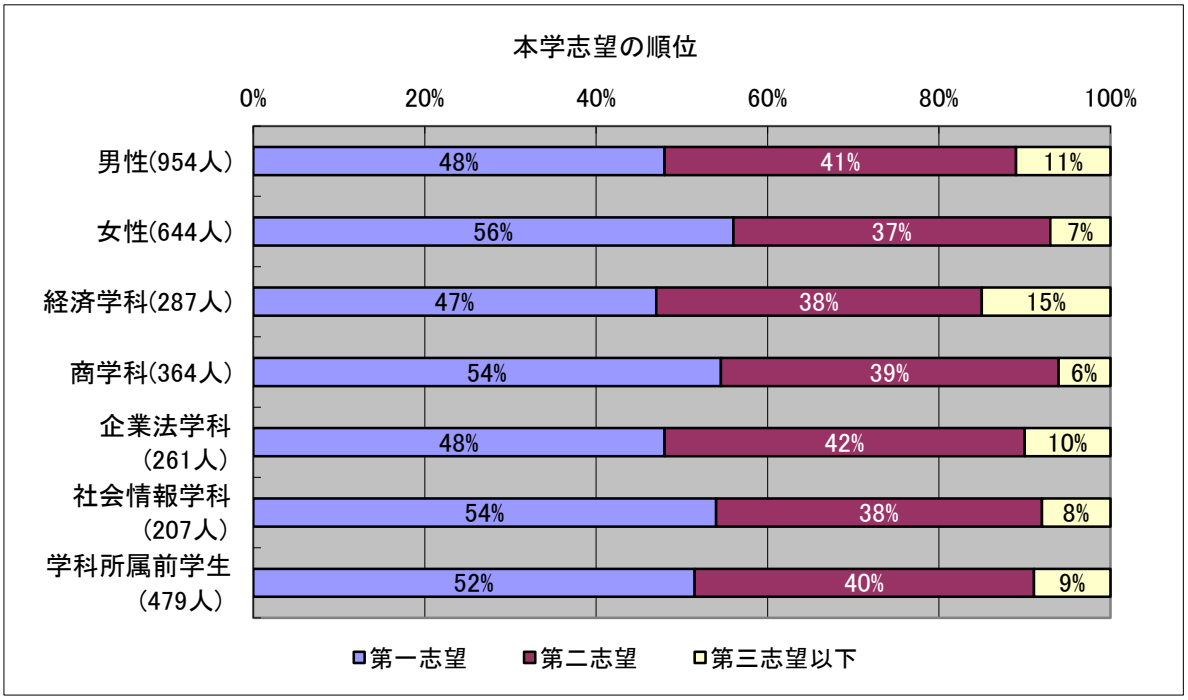
問 8　本学を選んだ主な動機は何ですか。（複数回答可）

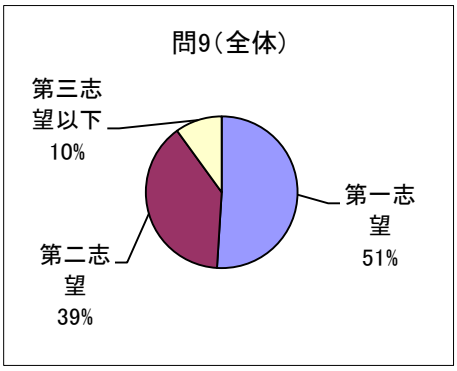


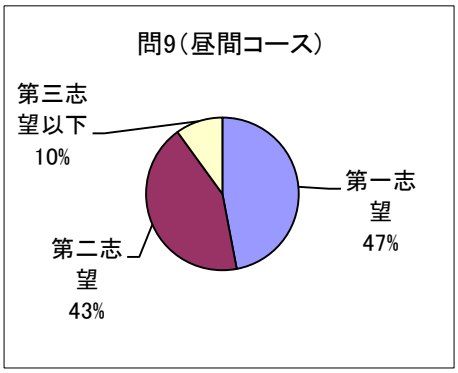

問 8　コメント

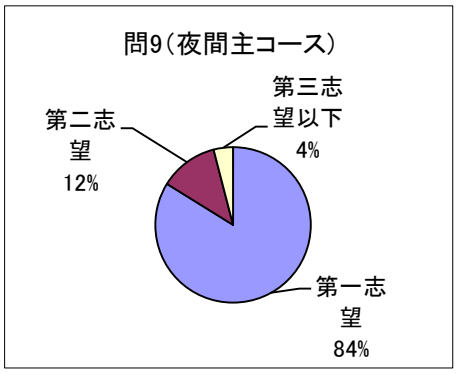
「国立大学だから」と回答した学生数は男女合わせて 1291 名で，全体の 81%であり，前回の 87%よりも若干減った。「就職に有利」（645 名：全体の 40%，前回は 48%），「成績を考えて」（536 名：全体の 33%，前回は 44%），「学費が安いから」（491 名：全体の 31%，前回は 34%）も軒並み減少している。いずれにせよ，国立大学であることが突出した選択動機であり，それ以外は，「就職」，「成績」，「学費」といった現実的な要素が主な動機となっていることは前回と変わらない。

問 9　あなたにとって本学は何番目の志望でしたか。



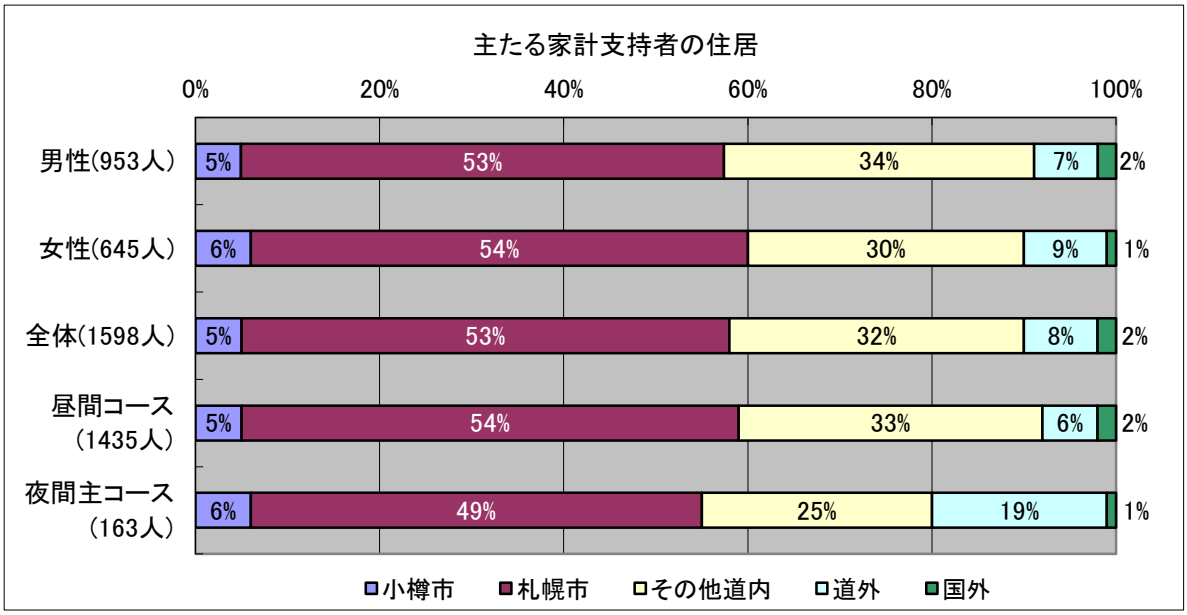




問 9　コメント

全体では第一志望 5 割，第二志望 4 割で，女性の第一志望率が男性よりも高くなる傾向は今回も変わらなかった。とりわけ夜間主コース全体においては，第一志望率が 84%と極めて高い割合を示している。法学部を持たない本学における企業法学科所属学生の第一志望率が 48%と他学科に較べ低いのは頷けるが，興味深いのは理系的要素が一番高いと思われる社会情報学科において第一志望率が 54%と，商学科と並び一番高くなっていることである。

## ３　家庭状況について

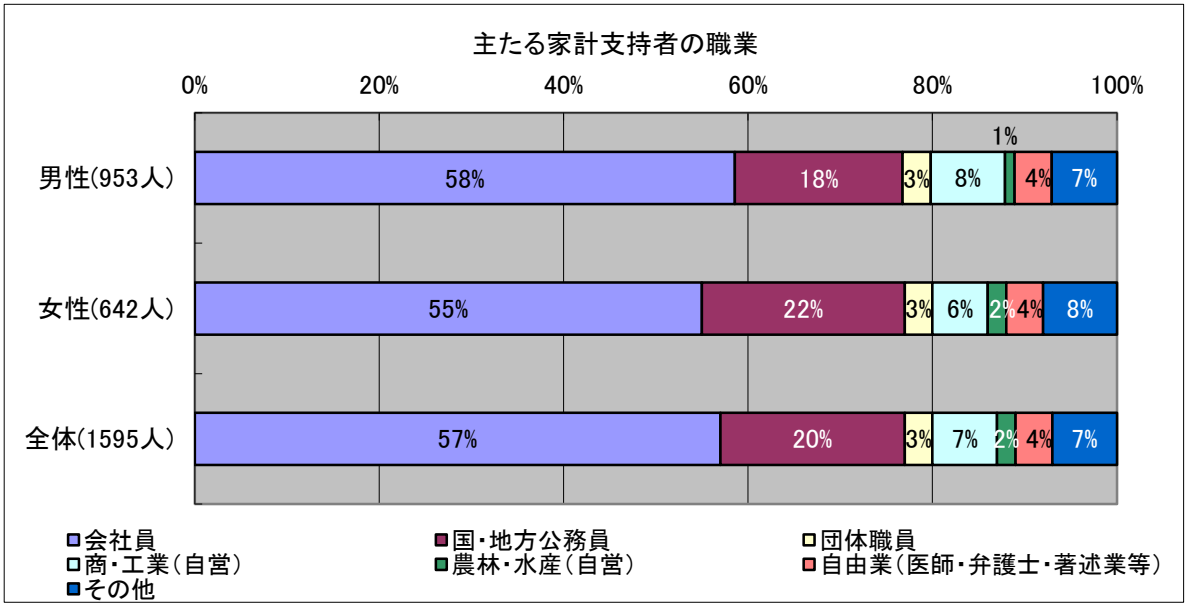
問 10　主たる家計支持者の住居はどこですか。




問 10　コメント

主たる家計支持者の住居は，全体では 90%が道内であり，「札幌市」が 53%，「小樽市」5%，「小樽市と札幌市を除く道内」が 32%となっている。昼間コースは 92%が道内であるのに対して，夜間主コースの道内の割合は 80%であり，道外（国外を含む）の割合が高くなっている。男女別には大きな差は見られず，前回の調査と比較しても全体の傾向，夜間主コースで道外が多い傾向に大きな変化は見られない。

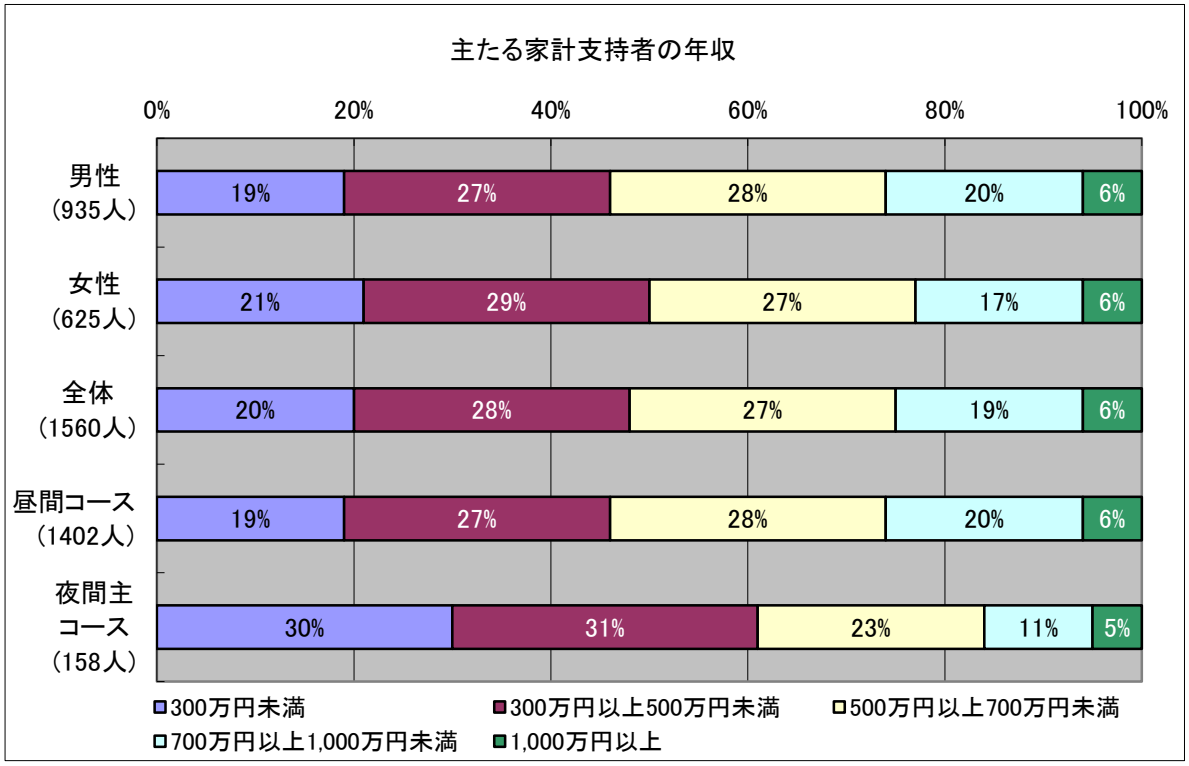
問 11　主たる家計支持者の職業は何ですか。




問 11　コメント

主たる家計支持者の職業は，全体で見ると，「会社員」が 57%，「国・地方公務員」が 20%である。男女別で見ても，全体の結果と大きな差はなく，前回の調査結果と比較して大きな変化は見られない。

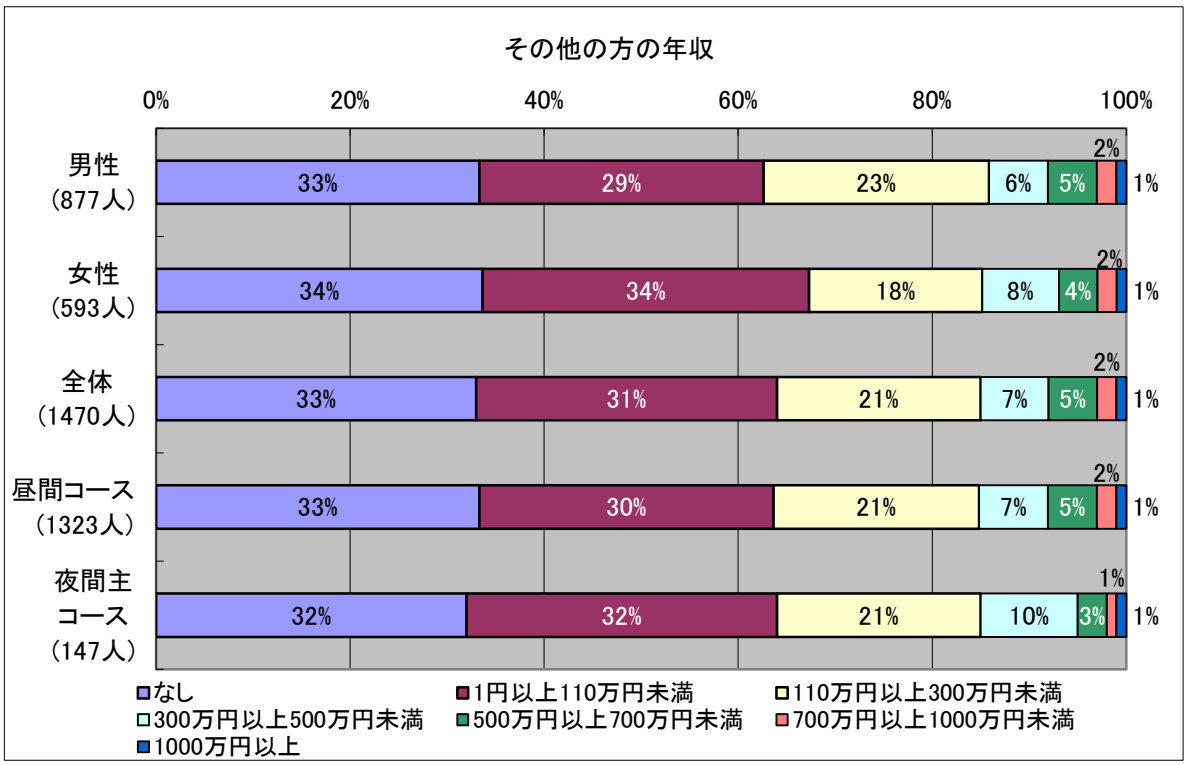
問 12　主たる家計支持者の年収額は，どのくらいですか。

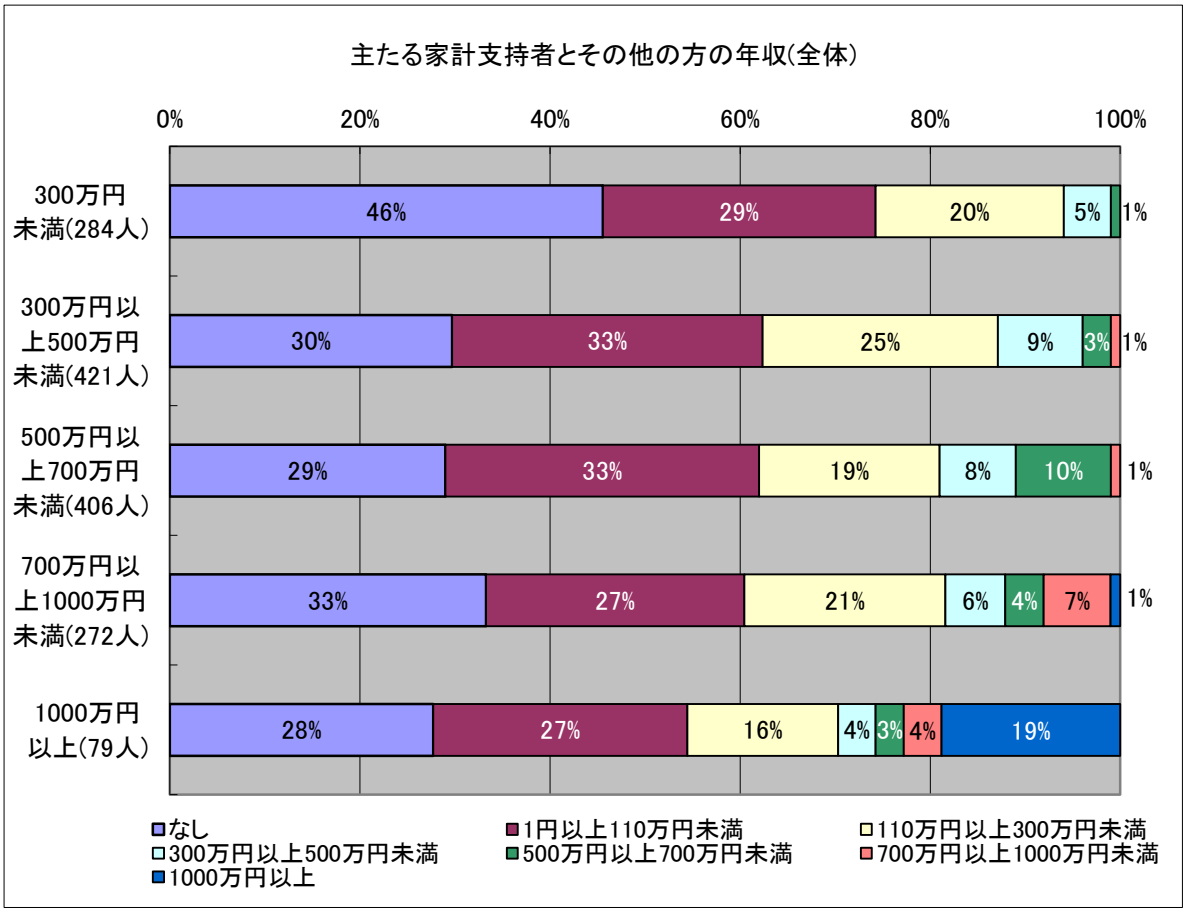



問 12　コメント

主たる家計支持者の年収について，全体では「300 万円未満」が 20%，「300 万円以上～500 万円未満」が 28%である。男女では大きな差は見られないが昼間コースでは，「300 万円未満」が 19%，であるのに対して，夜間主コースは 30%，昼間コースの「300 万円以上～500 万円未満」が 27%であるのに対して，夜間主コースは 31%であった。

問 13　その他の方（複数いる場合は合計）の年収額は，どのくらいですか。





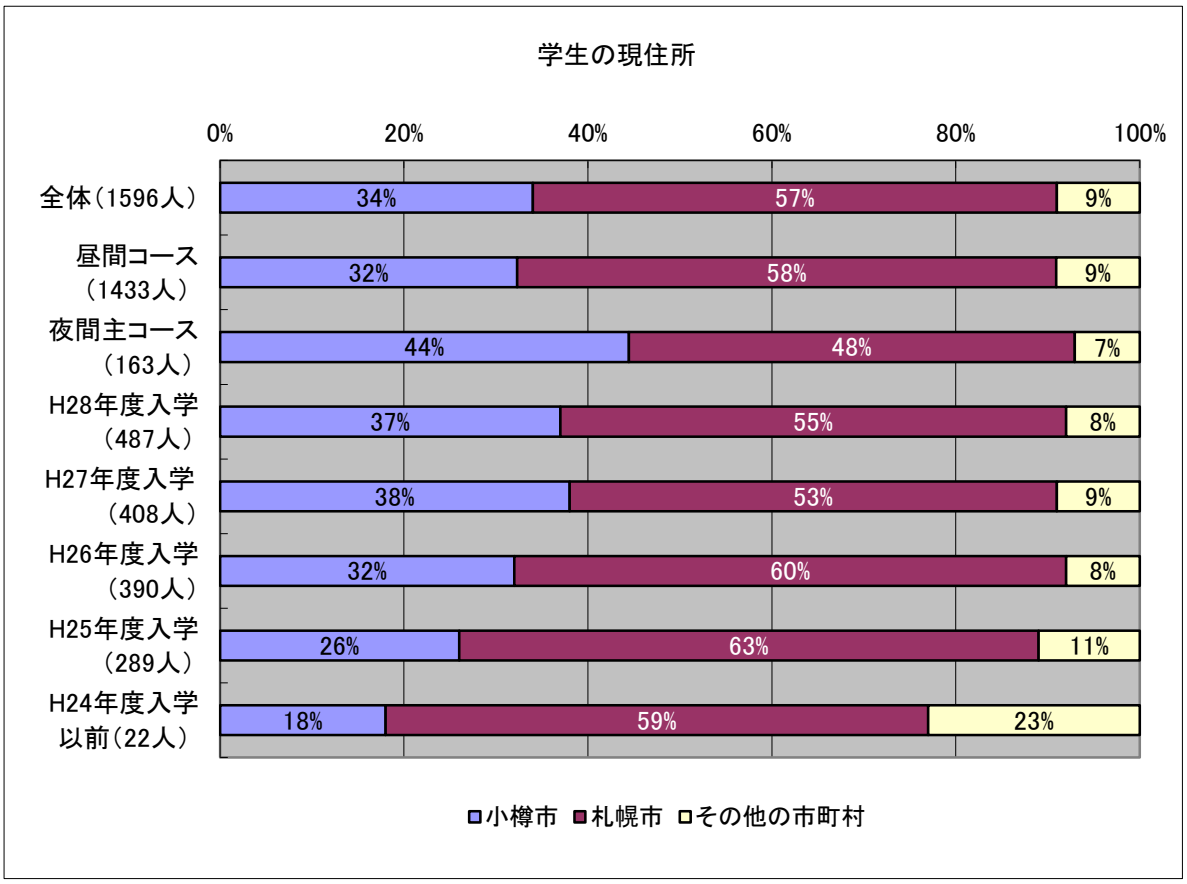

問 13　コメント

その他の方の年収については，全体では「なし」が 33%であり，男女別，昼間・夜間主コース別でも大きな差は見られない。

主たる家計支持者とその他の方の年収に関しては，主たる家計支持者の年収が 300 万円未満ではその他の方の年収が「なし」が 46%と高く，300 万円以上では 30%前後で大きな差は見られない。主たる家計支持者の年収が高くなるにつれて，その他の方の年収の高い人の割合が増加する傾向がある。

## ４　住居・通学について

問 14　あなたの現住所はどこですか。

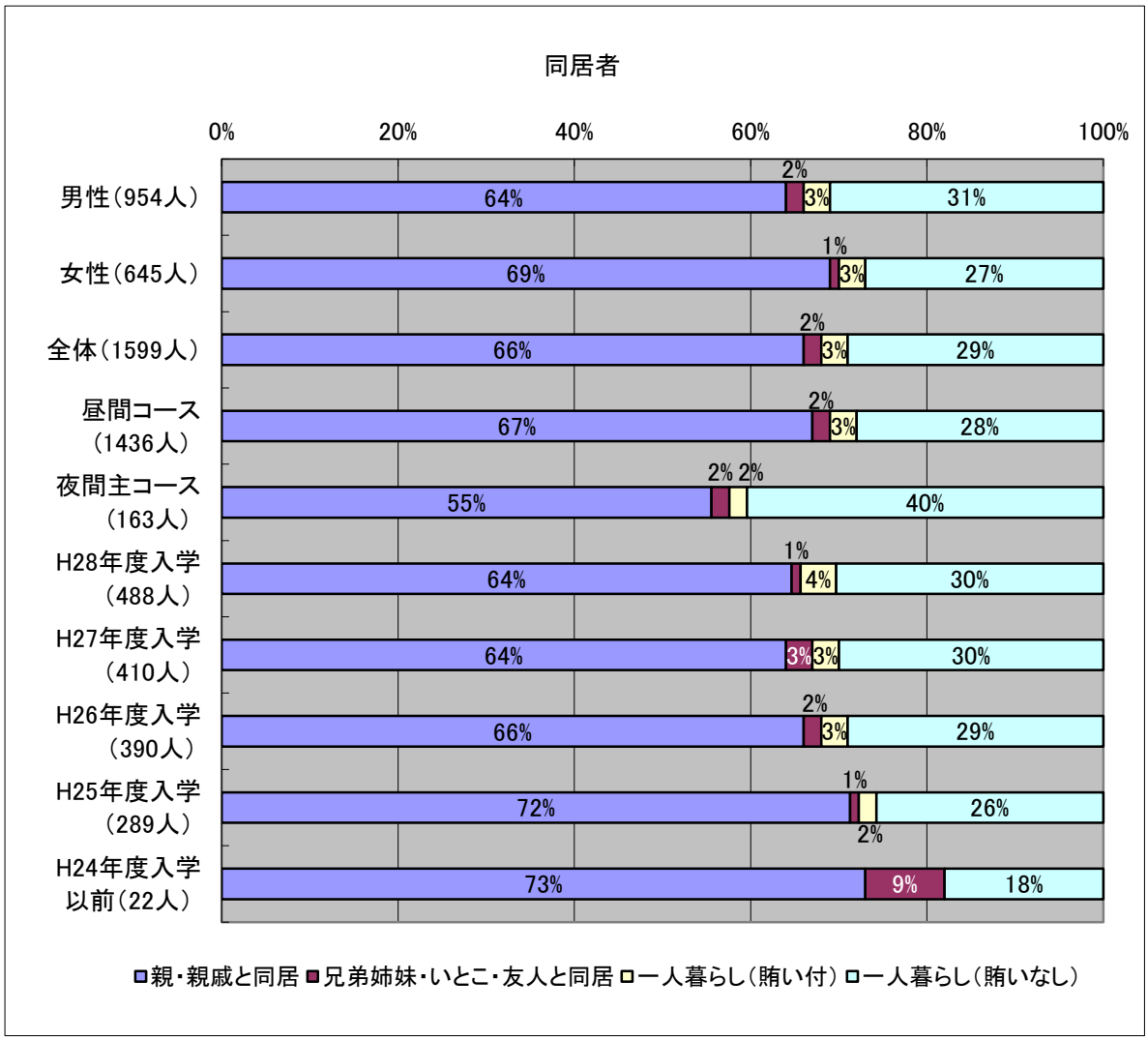



問 14　コメント

学生の現住所について，昼間コースでは「札幌市」が 58%，「小樽市」が 32%，夜間主コースでは「札幌市」が 48%，「小樽市」が 44%，全体として「札幌市」が 57%，「小樽市」が 34%である。各コースともに小樽市ではなく札幌市に現住所をおく学生が多いことがわかる。

学年別では，1，2 年生に比べて 3，4 年生の方が「小樽市」の割合が小さく，「札幌市」の割合が多い。1，2 年生に小樽市に住む理由としては，語学科目が 1 講目に開講されていることが多いため，3，4 年生に札幌市に住む理由としては，小樽市よりも札幌市の方がアルバイトできる機会が多いため，もしくはインターンシップ参加や就職活動のために，3，4 年生になって札幌市で一人暮らし，実家で同居しはじめる等が考えられる。

問 15　誰と一緒に住んでいますか。



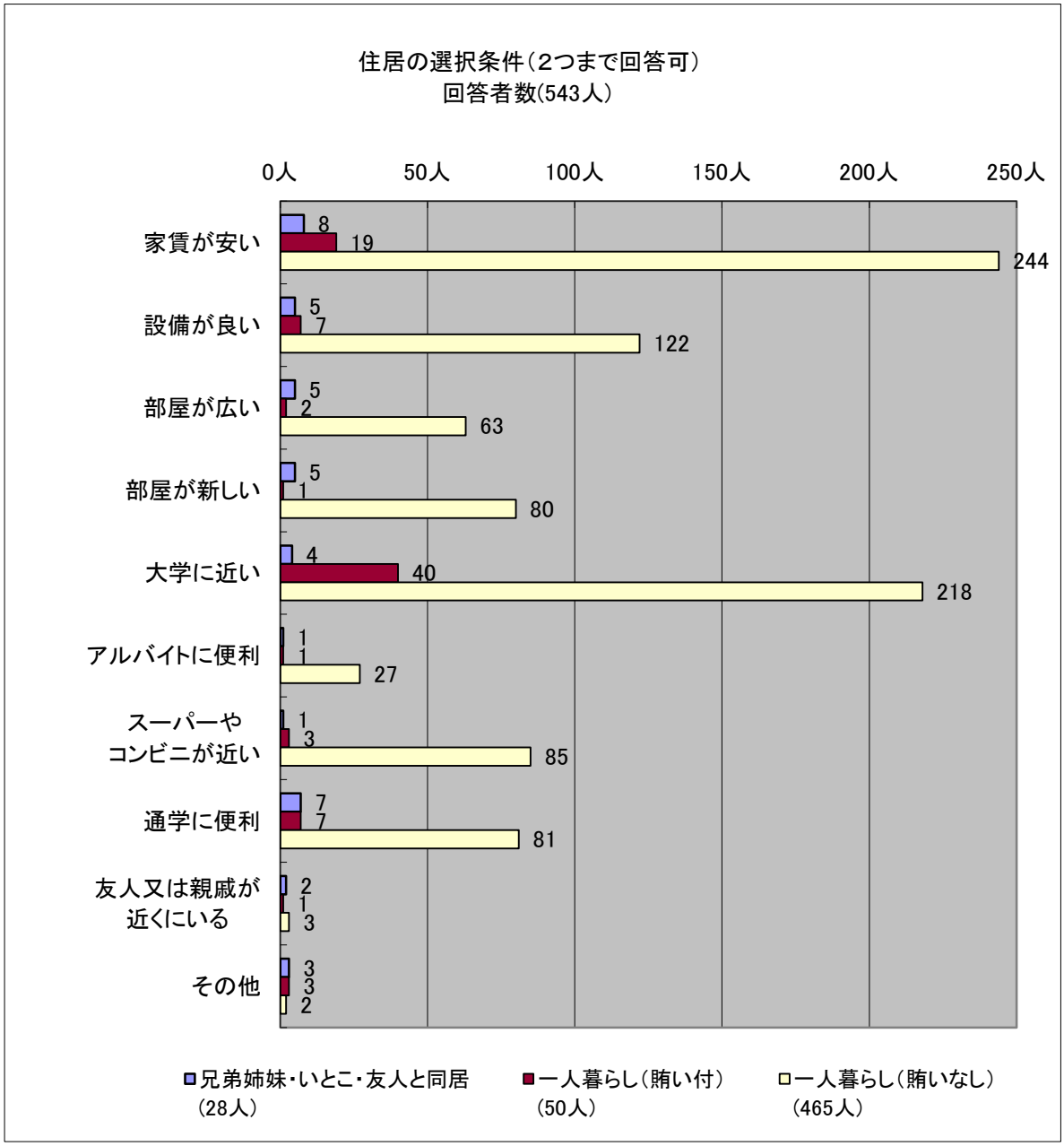

問 15　コメント

全体では，「親・親戚」が 66%，「一人暮らし（賄いなし）」が 29%，昼間コースでは，「親・親戚」が 67%，「一人暮らし（賄いなし）」が 28%である。それに対して，夜間主コースでは，「親・親戚」が 55%，「一人暮らし（賄いなし）」が 40%であり，「一人暮らし（賄いなし）」の割合が全体や昼間コースよりも高い。

男女別では大きな差は見られない。

学年別では，H26 年度～H28 年度入学生は「親・親戚」が約 65%，「一人暮らし（賄いなし）」が約 30%であるが，H25 年度入学生は「親・親戚」が 72%，「一人暮らし（賄いなし）」が 26%，H24 年度入学以前の学生は「親・親戚」が 73%，「一人暮らし（賄いなし）」が 18%であり，親・親戚と同居する学生の割合は H25 年度入学生および H24 年度入学以前の学生の方が H26 年度～H28 年度入学生よりも高い。

問 16　現在の住居を選ぶ時に考慮した条件は何ですか。（2 つまで回答可）

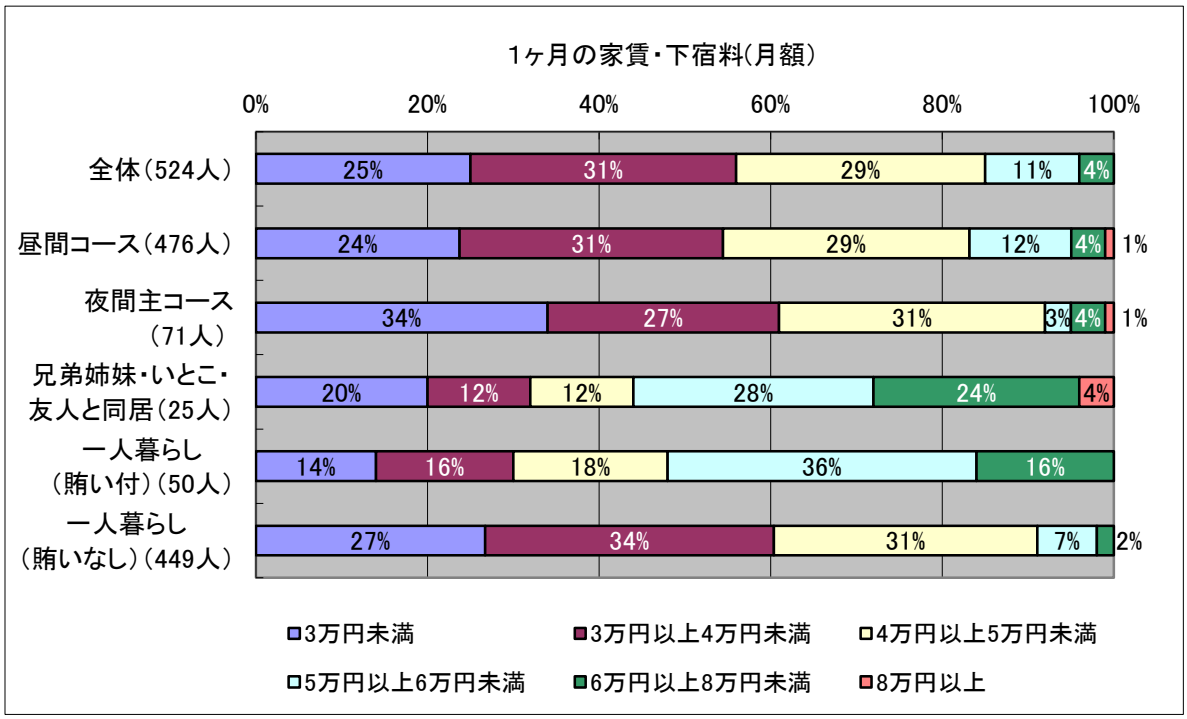


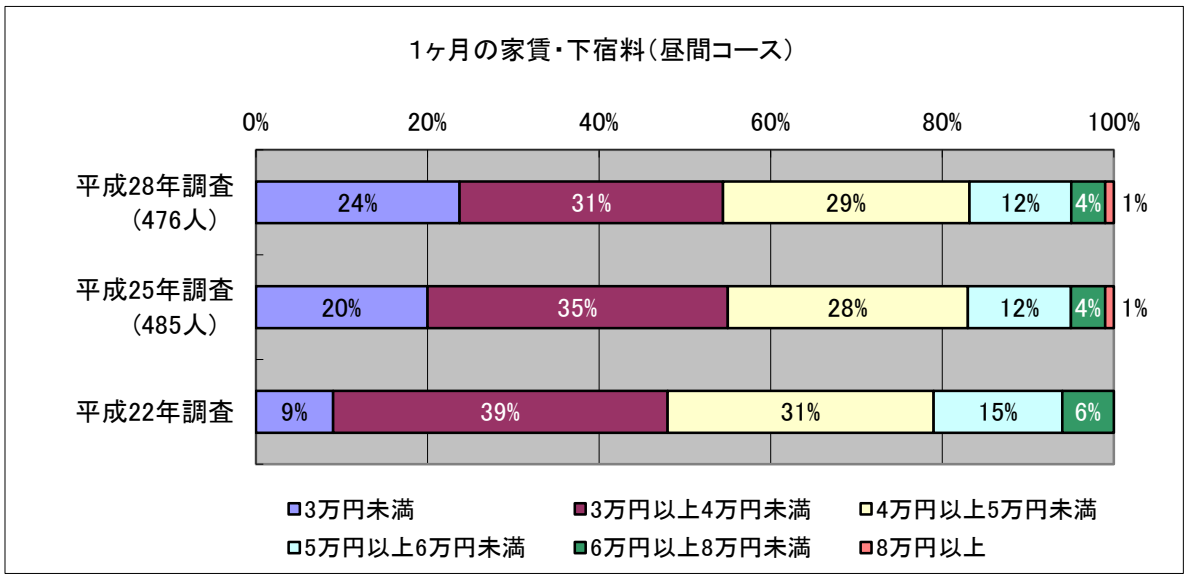

問 16　コメント

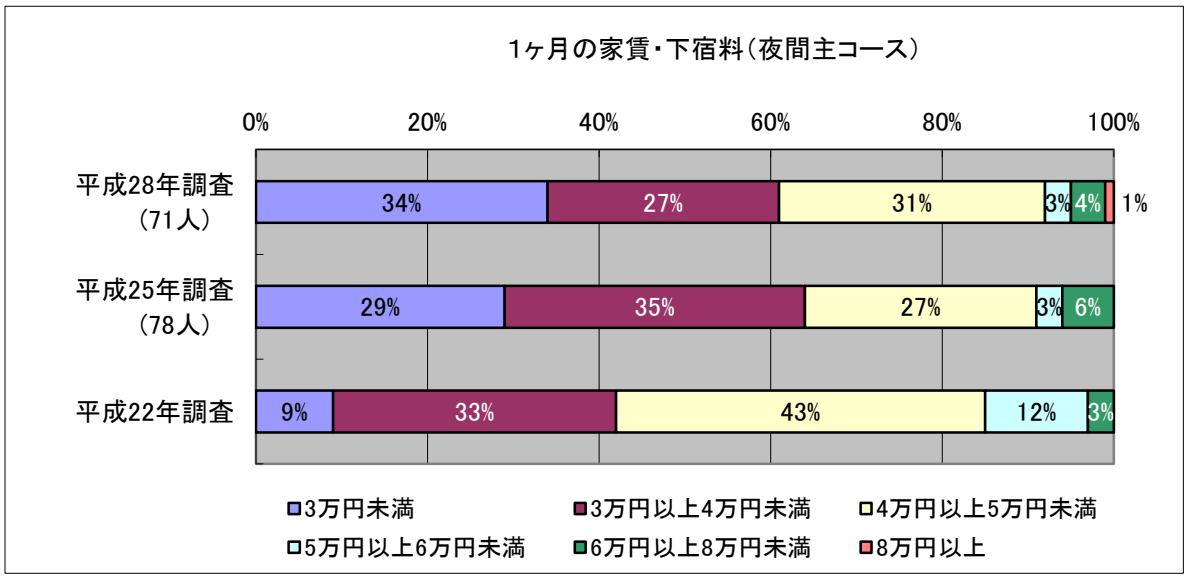
親・親戚と同居していない学生（543 名）が，現在の住居を選択したときに考慮した条件は，1 位が「家賃が安い」，2 位が「大学に近い」であり，いずれも 250 名を超えている。

同居，一人暮らし別では，兄弟姉妹・いとこ・友人と同居の学生については「家賃が安い」が 8 名(29%)，「通学に便利」が 7 名(25%)，一人暮らし（賄い付）の学生については「大学に近い」が 40 名(80%)，「家賃が安い」が 19 名(38%)，一人暮らし（賄いなし）については「家賃が安い」が 244 名(52%)，「大学に近い」が 218 名(47%)である。一人暮らし（賄い付）の学生の 8 割が「家賃が安い」よりも「大学に近い」ことを一番の条件として住居を選択したことがわかる。

問 17　１ヶ月の家賃又は下宿料はいくらですか。



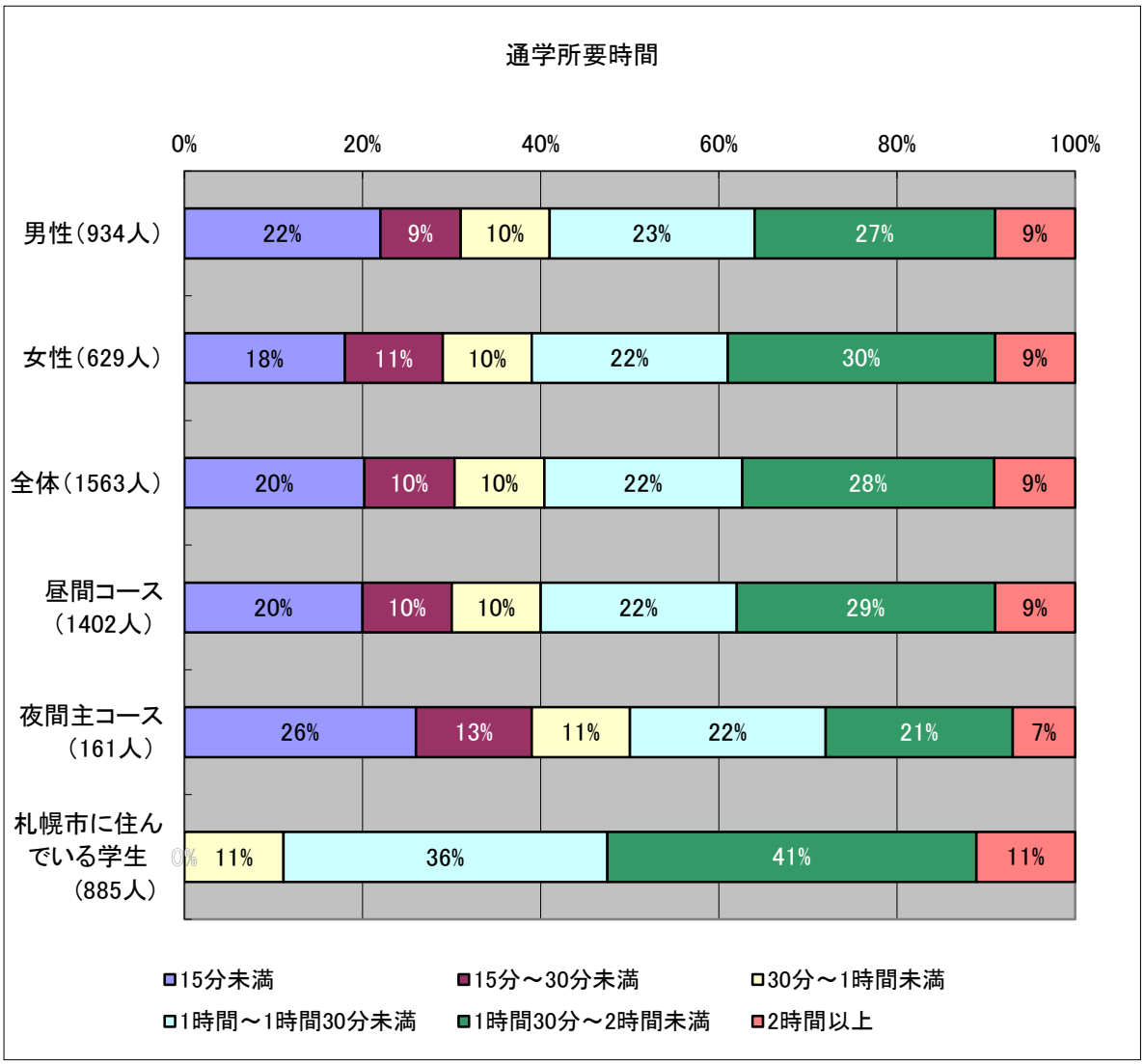



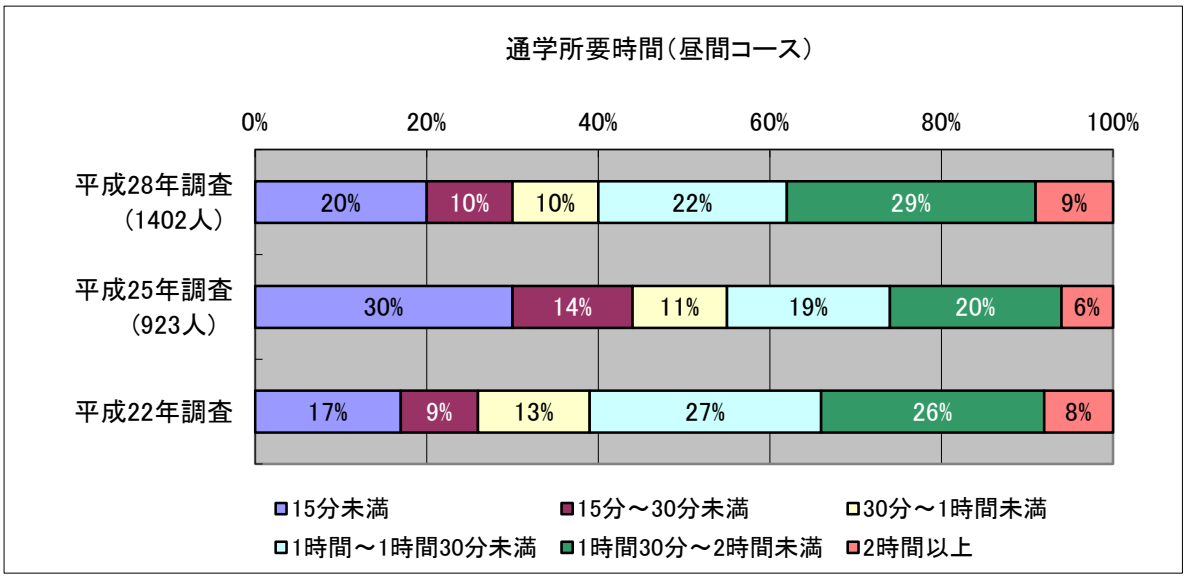
問 17　コメント

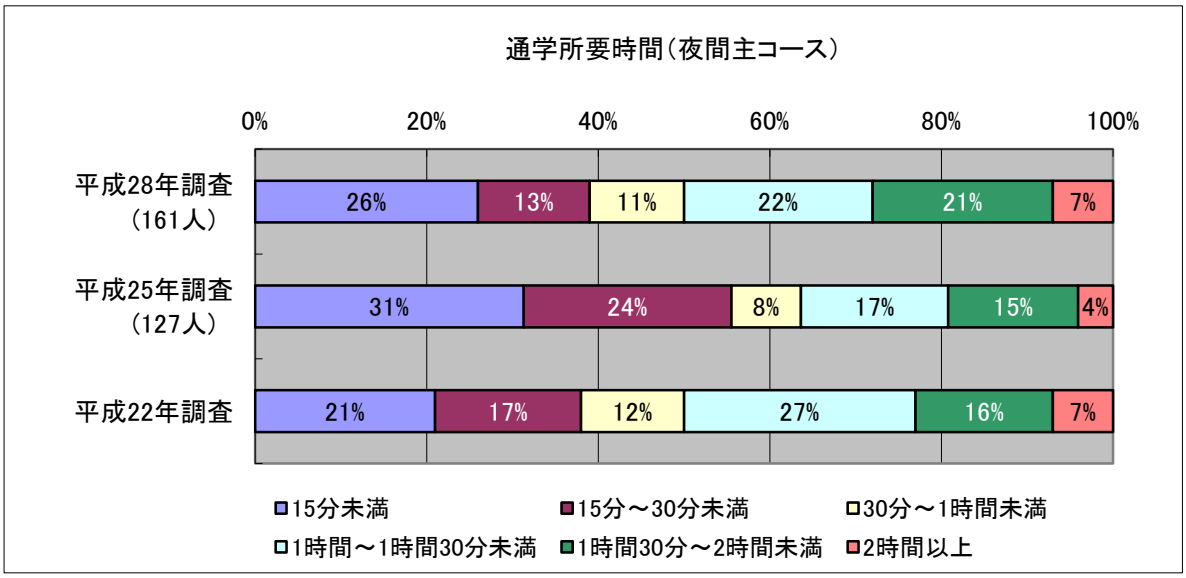
全体では，「3 万円以上 4 万円未満」が 31%，「4 万円以上 5 万円未満」が 29%，「3 万円未満」が 25%，昼間コースもほぼ同様で，「3 万円以上 4 万円未満」が 31%，「4 万円以上 5 万円未満」が 29%，「3 万円未満」が 24%である。

それに対して，夜間主コースでは，「3 万円未満」が 34%，「4 万円以上 5 万円未満」が 31%，「3 万円以上 4 万円未満」が 27%であり，上位 3 つの価格帯は全体および昼間コースとは異なることがわかる。前回の調査結果と比べると，昼間コース，夜間コースともに，「3 万円未満」と「4 万円以上 5 万円未満」の割合が増加し，「3 万円以上 4 万円未満」の割合が減少している。

問 18　通学のために要する時間はどのくらいですか。





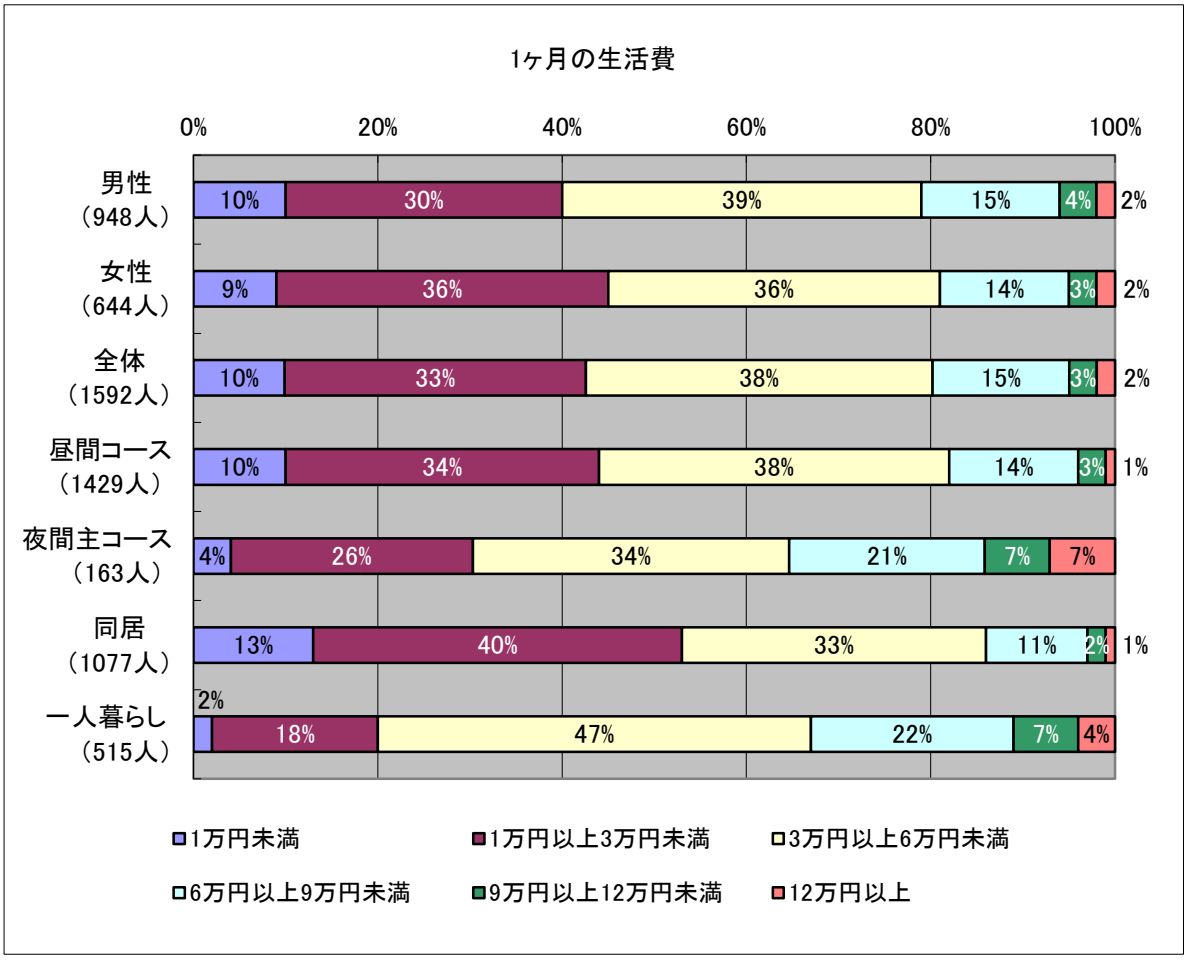

問 18　コメント

昼間コースでは，「15 分未満」が 20%，「15 分以上 30 分未満」が 10%，夜間主コースでは，「15 分未満」が 26%，「15 分以上 30 分未満」が 13%である。前回の調査と比較して，昼間コース，夜間主コースともに，「15 分未満」と「15 分以上 30 分未満」の割合が減少しており，通学に 30 分以上かかる地域に住む学生が多くなっていることがわかる。また，札幌市から通学する学生に限れば，「1 時間 30 分以上 2 時間未満」，「2 時間以上」を合わせた（札幌市から通学する全学生数に対する）割合は約 50%である。

1 時間 30 分以上の通学時間を要する学生が 1 講目の講義を受講するには，午前 7 時前後に自宅を出発すると考えれば午前 5 時台，午前 6 時台に起床する必要があり，睡眠時間が短くなる傾向があるため，通学時間が長い学生については健康面のケアが大切であると考える。

## ５　生活費・アルバイトについて

問 19　1 ヶ月の生活費はどのくらいですか。自宅生は小遣いプラス仕事・アルバイト収入のうち自分のために使う金額を回答してください。



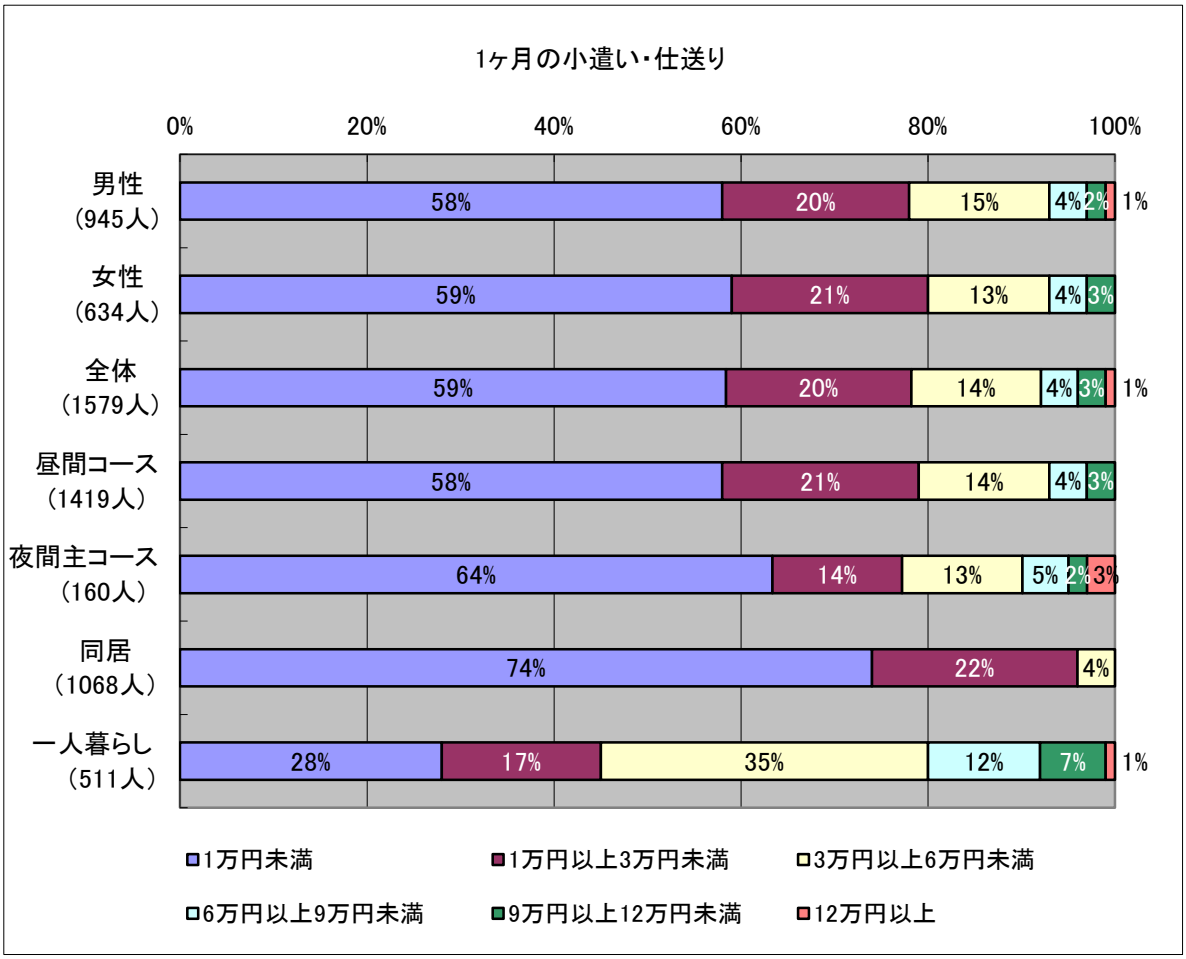

問 19　コメント

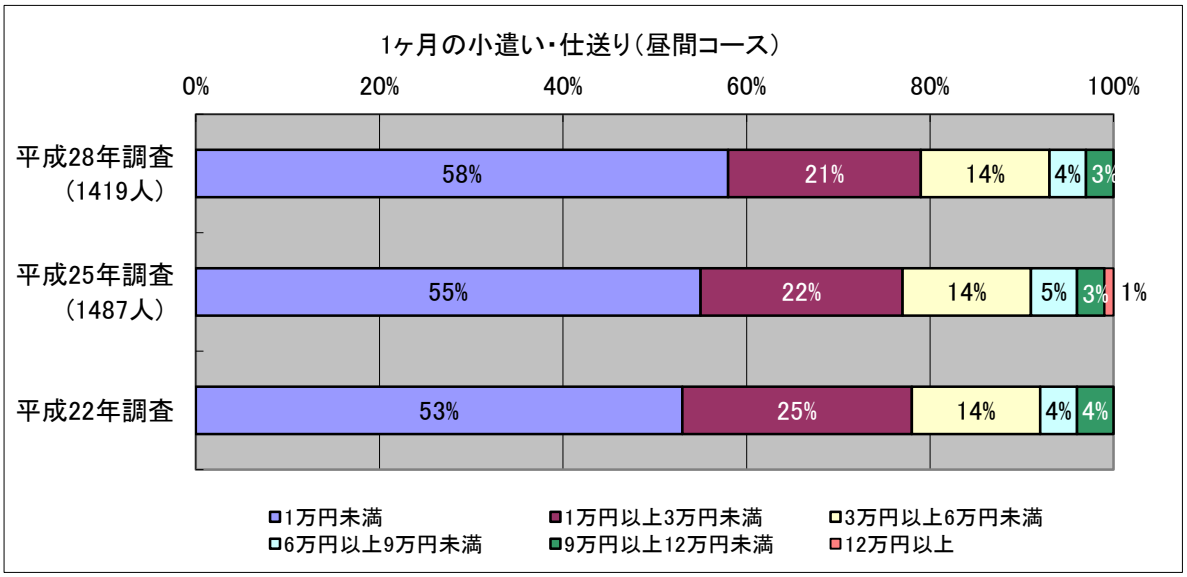
昼間コースでは，「1 万円未満」が 10%，「1 万円以上 3 万円未満」が 34%，「3 万円以上 6 万円未満」が 38%で，夜間主コースでは，「1 万円未満」が 4%，「1 万円以上 3 万円未満」が 26%，「3 万円以上 6 万円未満」が 34%であり，これら 3 つの費用帯を合わせた割合は昼間コースの方が高いことがわかる。

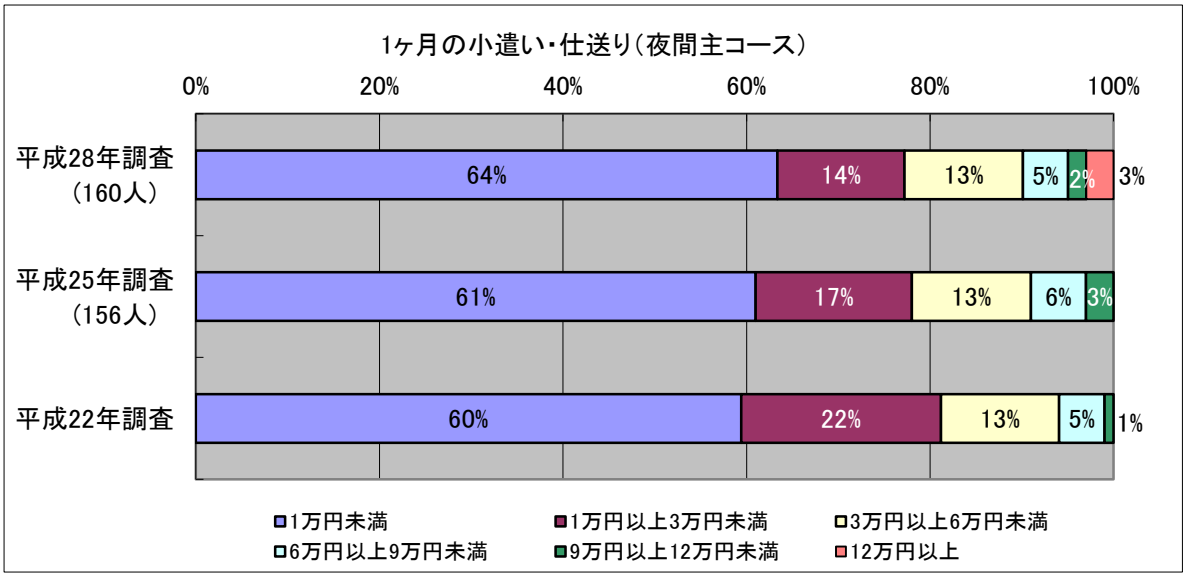
男女別では，大きな差は見られない。

同居と一人暮らし別では，「1 万円未満」と「1 万円以上 3 万円未満」を合わせた割合は，同居の学生が一人暮らしの学生よりも 33%ポイント高いことがわかる。これは，自宅生（同居の学生）が自分のために使う金額以上に，一人暮らしの学生は家賃，食費や光熱費などを生活費として支出しているからと考えられる。

問 20　1 ヶ月に親からもらう額（小遣い・仕送り等）はどのくらいですか。





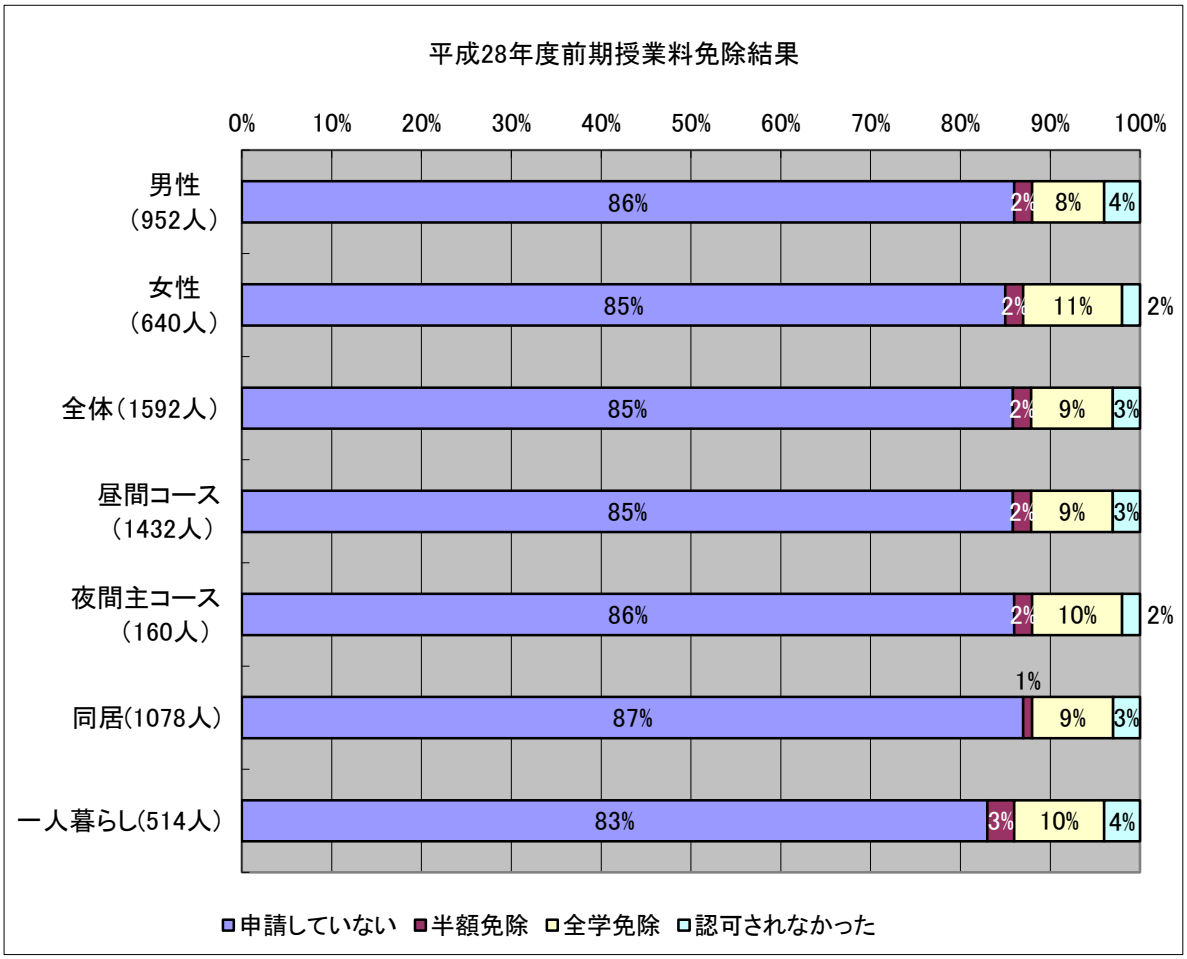

問 20　コメント

全体では，「1 万円未満」が 59%，「1 万円以上 3 万円未満」が 20%である。また，「1 万円未満」の割合は，昼間コースよりも夜間主コースの方が高く，「1 万円以上 3 万円未満」の割合は夜間主コースよりも昼間コースの方が高い。前回，前々回の調査結果と比較すると，昼間コース，夜間主コースともに「1 万円未満」が前々回よりも約 5%ポイント，前回よりも 3%ポイント増加して，「1 万円以上 3 万円未満」については，昼間コースが 4%ポイント，夜間主コースが 8%ポイント，前々回よりも減少している。

男女別では，大きな差は見られない。

同居，一人暮らし別では，親・親戚と同居する学生の「1 万円未満」の割合が 74%で他の金額帯よりも極めて高く，「6 万円以上～9 万円未満」，「9 万円以上～12 万円未満」，「12 万円以上」については 0 名である。親・親戚と同居する学生の約 75%は親から小遣いをもらっていない，もしくは小遣いをもらっていても 1 万円未満であることがわかる。

問 21　平成 28 年度前期授業料免除結果について答えて下さい。



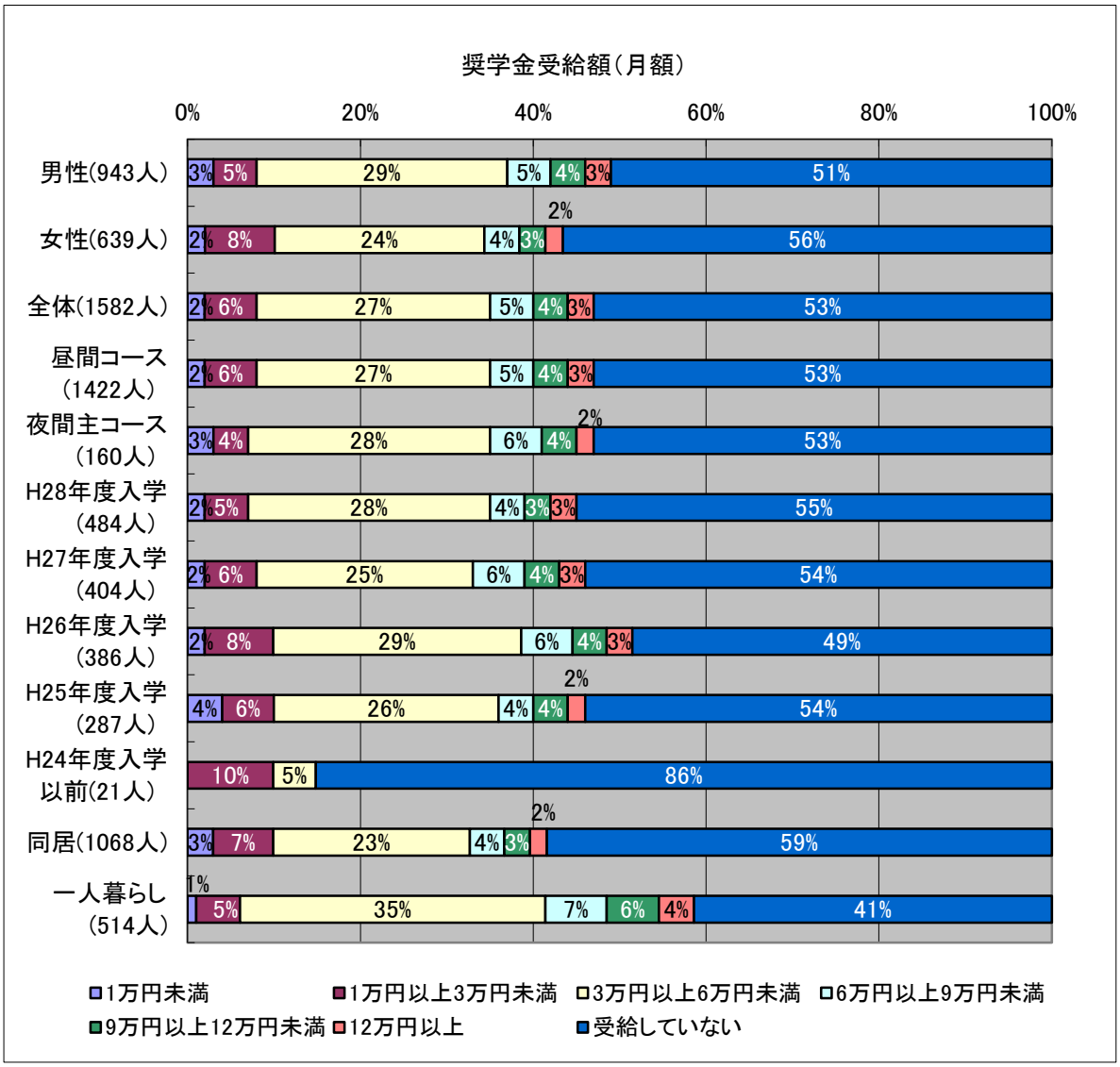

問 21　コメント

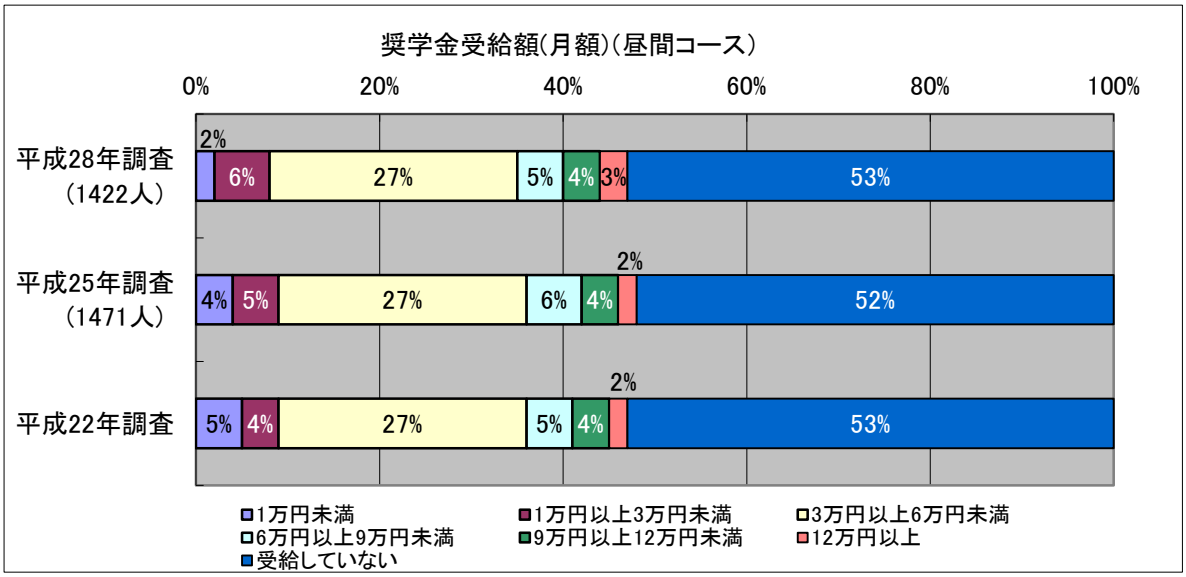
「申請していない」については昼間コースが 85%，夜間主コースが 86%，「半額免除」については，昼間コース，夜間主コースともに 2%「全額免除」については昼間コースが 9%，夜間主コースが 10%であり，コース別で大きな差は見られない。

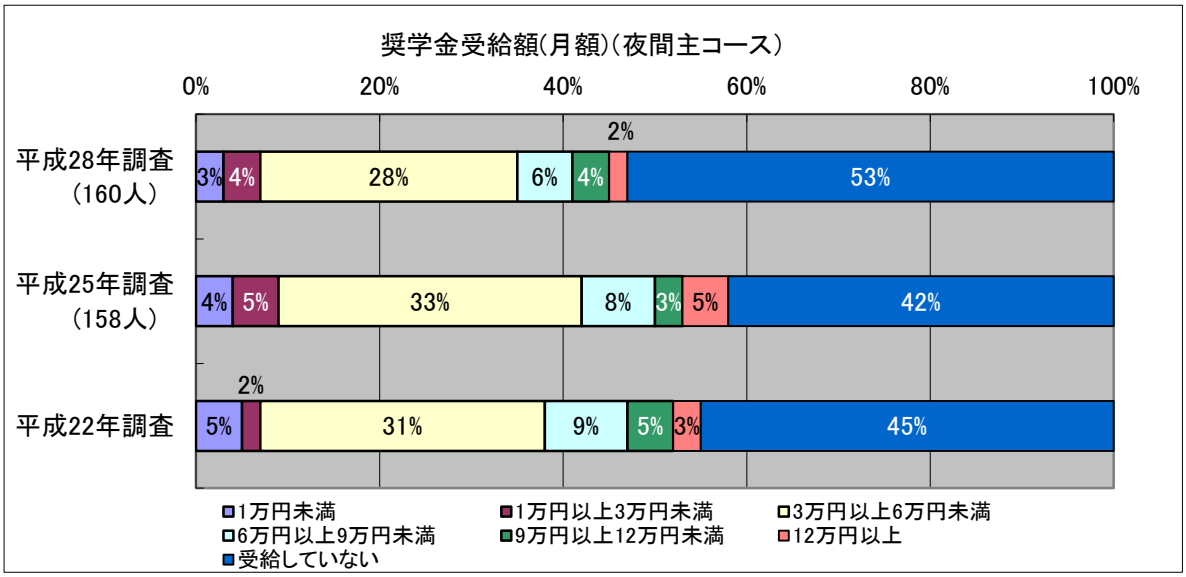
男女別でも，大きな差は見られない。

同居，一人暮らし別では，「全額免除」と「半額免除」を合わせた割合が同居で 10%，一人暮らしでは 13%であるが，　全体的に大きな差は見られない。

問 22　本年度の奨学金受給額（月額）はいくらですか。（日本学生支援機構以外の奨学金を含む）






問 22　コメント

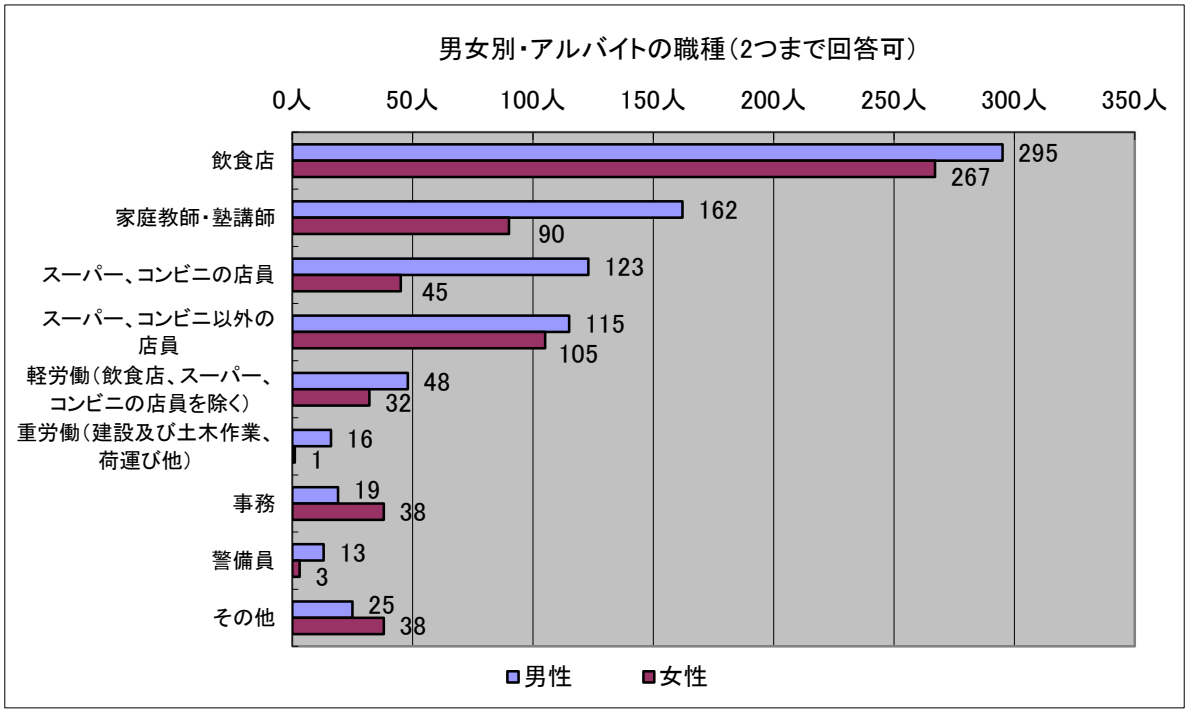
「受給していない」の割合は，全体，昼間コース，夜間主コースともに 53%である。前回の調査結果と比べて，昼間コースは 1%ポイント高く，夜間主コースは 11%ポイント高い。一番高い割合の受給額帯は「3 万円以上 6 万円未満」であり，その割合は昼間コースで 27%，夜間主コースで 28%である。前回の調査結果と比べると，昼間コースは変わらなく，夜間主コースは 5%ポイント低い。

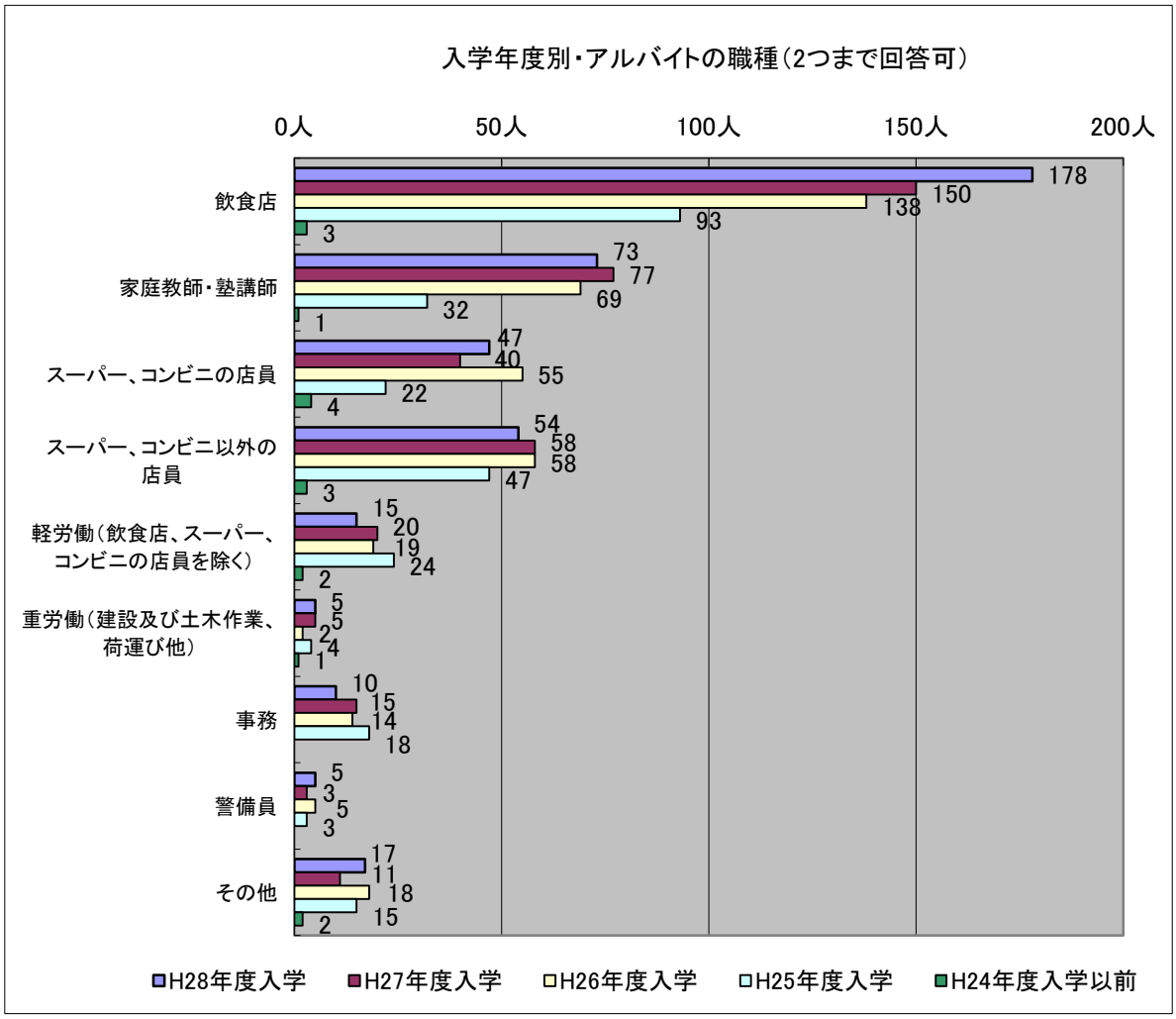
学年別では，大きな差は見られない。H24 年度入学以前の学生については，「受給していない」が 86%である。これは，奨学金受給期間（４年間）が終了したことが一因と考えられる。

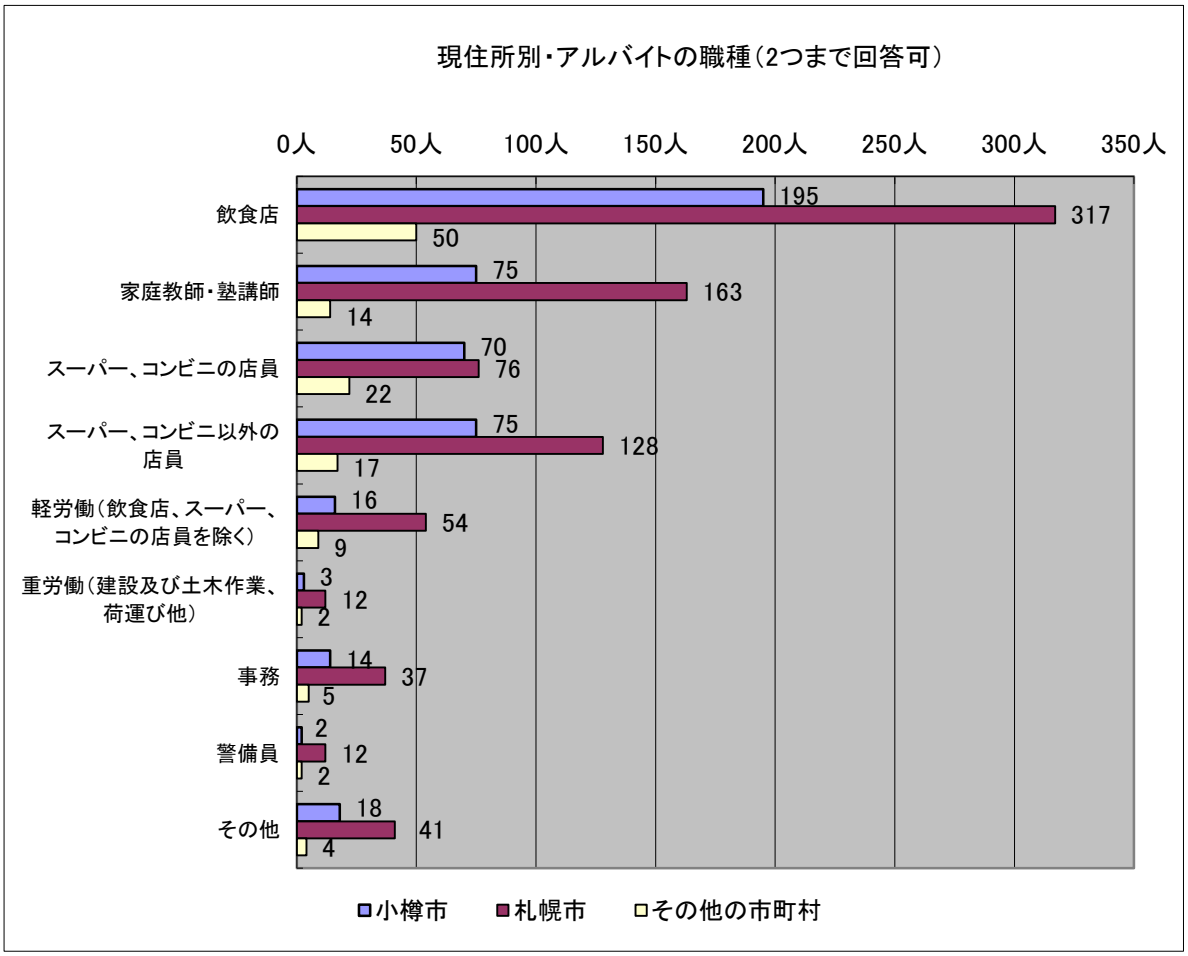
同居，一人暮らし別では，「受給していない」の割合は，同居の学生が約 60%，一人暮らしの学生が約 40%である。また，受給額については，同居の学生も一人暮らしの学生も一番割合が高いものは「3 万円以上 6 万円未満」である。

アルバイト

問 23　アルバイトの職種は何ですか。（2 つまで回答可）（過去半年間に 1 ヶ月以上の期間（週 1 回以上）アルバイトをした方のみ回答してください）





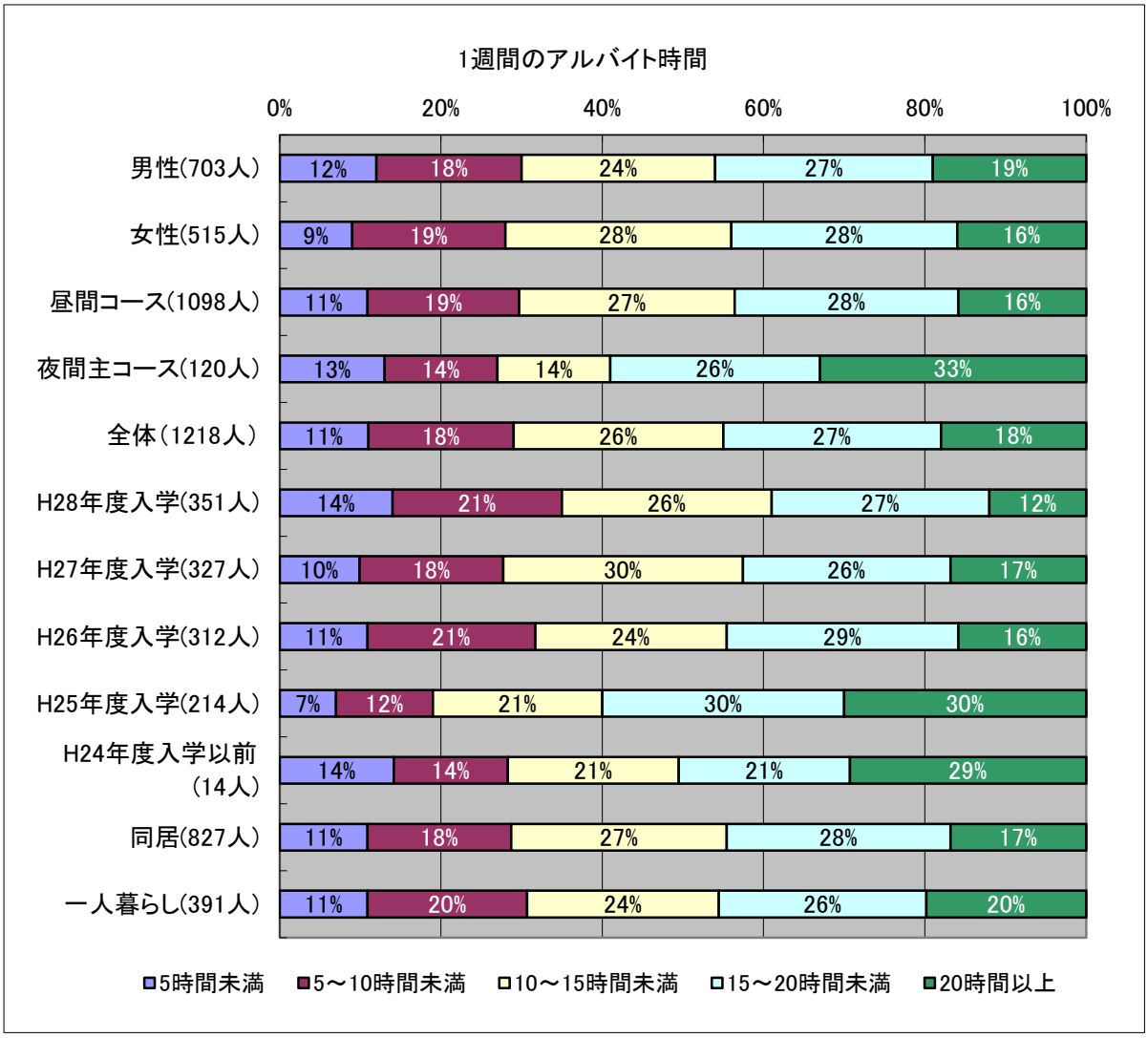

問 23　コメント

男女別では，男性，女性ともに「飲食店」，「家庭教師・塾講師」，「スーパー，コンビニの店員」，「スーパー，コンビニ以外の店員」の人数が多く，1 位はどちらも「飲食店」であるが，2 位～4 位は男性と女性で異なる。

学年別では，H26 年度～H28 年度入学生ともに 1 位～4 位は「飲食店」，「家庭教師・塾講師」，「スーパー，コンビニ以外の店員」，「スーパー，コンビニの店員」の順である。これに対して，H25 年度入学生は 1 位が同じであるが，2 位が「スーパー，コンビニ以外の店員」，3 位が「家庭教師・塾講師」，4 位が「軽労働」と異なる。

居住地別では，小樽市に住む学生，札幌市に住む学生，その他の市町村に住む学生ともに「飲食店」が 1 位で，順位は異なるが「家庭教師・塾講師」，「スーパー，コンビニの店員」，「スーパー，コンビニ以外の店員」などの人数が「飲食店」の次に多い点は同様である。

問 24　アルバイトに費やす時間は 1 週間に平均してどのくらいですか。（大学の休業期間中を除く）



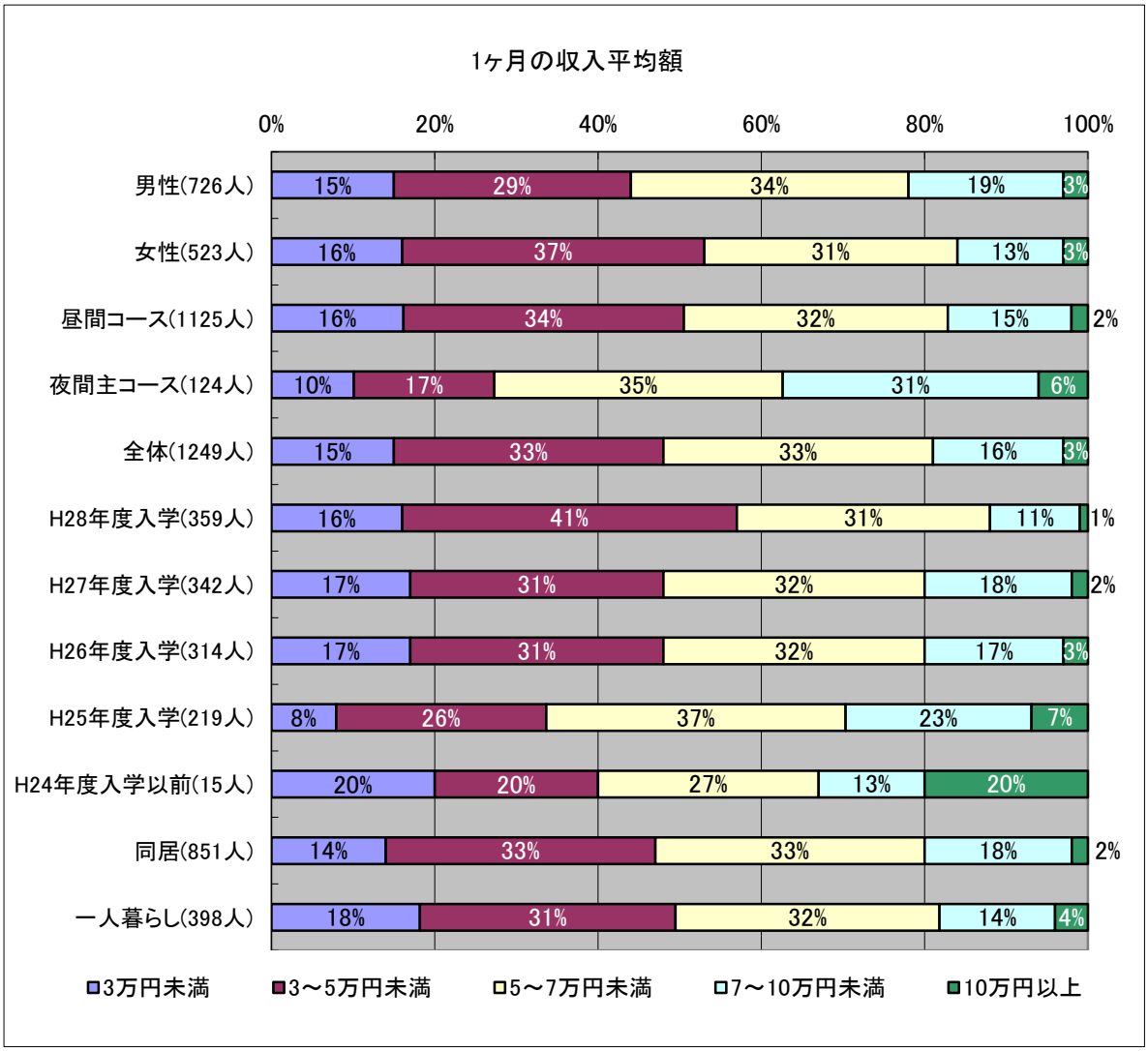

問 24　コメント

昼間コースでは，「10 時間以上 15 時間未満」が 27%，「15 時間以上 20 時間未満」が 28%，「20 時間以上」が 16%である。これに対して，夜間主コースでは，「20 時間以上」が 33%で一番多く，次いで「15 時間以上 20 時間未満」が 26%，「10 時間以上 15 時間未満」が 14%である。このことから，「20 時間以上」の割合は夜間主コースが昼間コースの約２倍，「10 時間以上 15 時間未満」の割合は昼間コースが夜間主コースの約２倍であることがわかる。

学年別では，「20 時間以上」の割合は，H25 年度入学生と H24 年度入学以前の学生の方が他の学年の学生よりも高い。これは，これまで順調に履修単位を獲得してきた学生は 4 年生において履修講義数が少なくなるため，アルバイトをこれまで以上に積極的に行い，授業料・修学費用，卒業旅行費用，および就職後の一人暮らしのための資金などを稼いでいることが一因に考えられる。

男女別，および同居，一人暮らし別ではともに，大きな差は見られない。

問 25　アルバイト収入の平均額は 1 ヶ月にいくらくらいですか。（大学の休業期間中を除く）



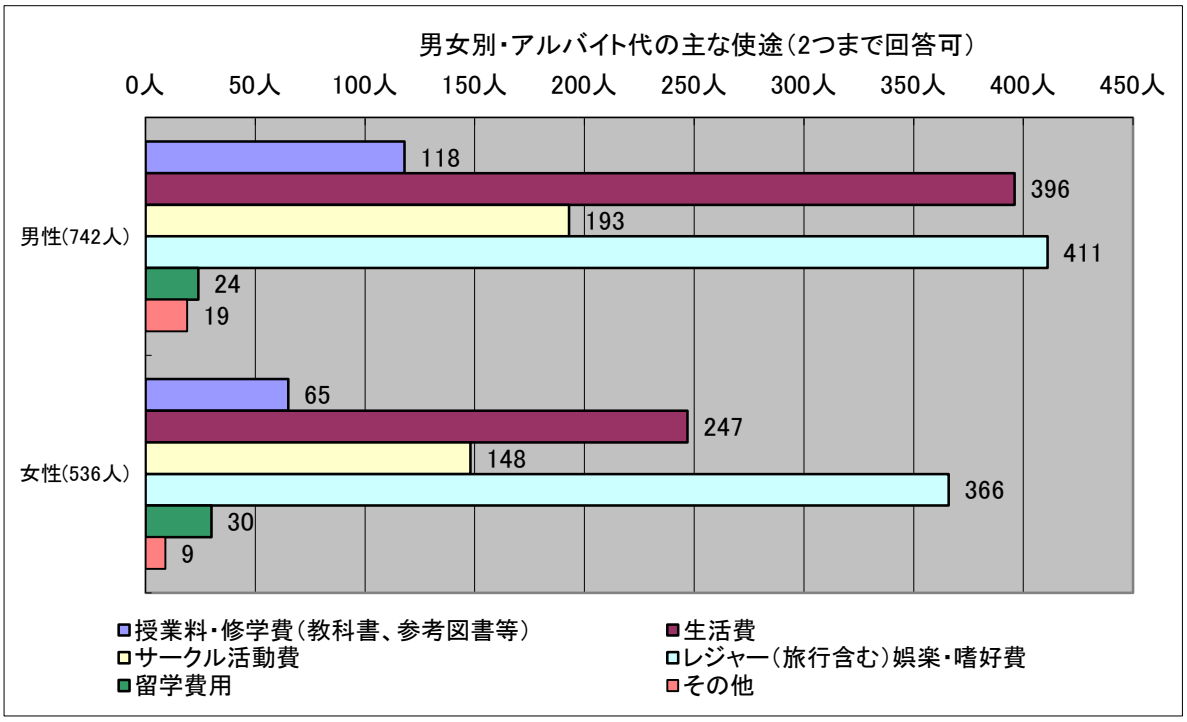

問 25　コメント

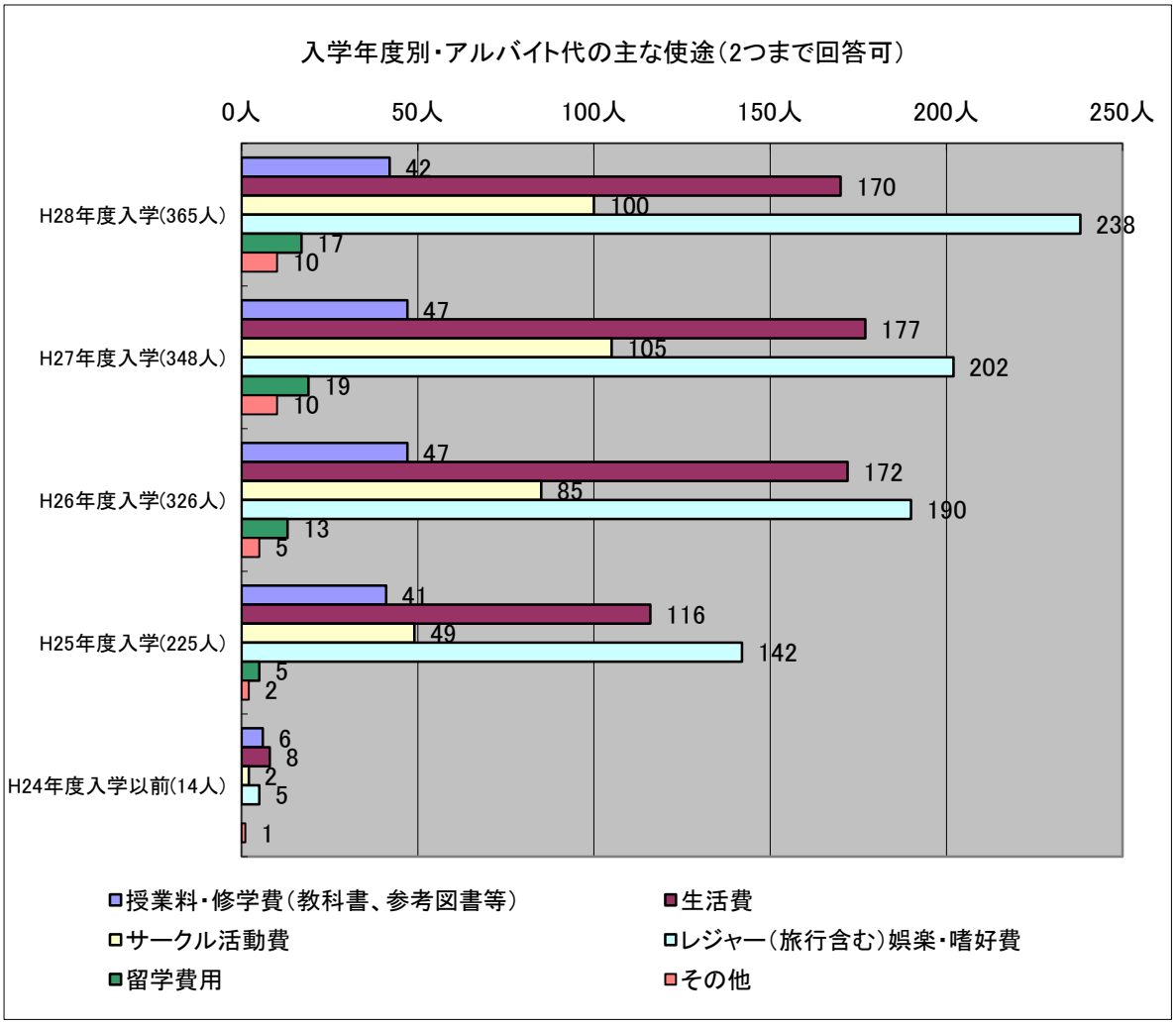
昼間コースでは，「3 万円以上 5 万円未満」が 34%，「5 万円以上 7 万円未満」が 32%，「7 万円以上 10 万円未満」が 15%である。これに対して，夜間主コースでは，「3 万円以上 5 万円未満」は 17%で昼間コースよりもその割合は半分と低く，「7 万円以上 10 万円未満」は 31%で昼間コースよりもその割合は約２倍と高い。

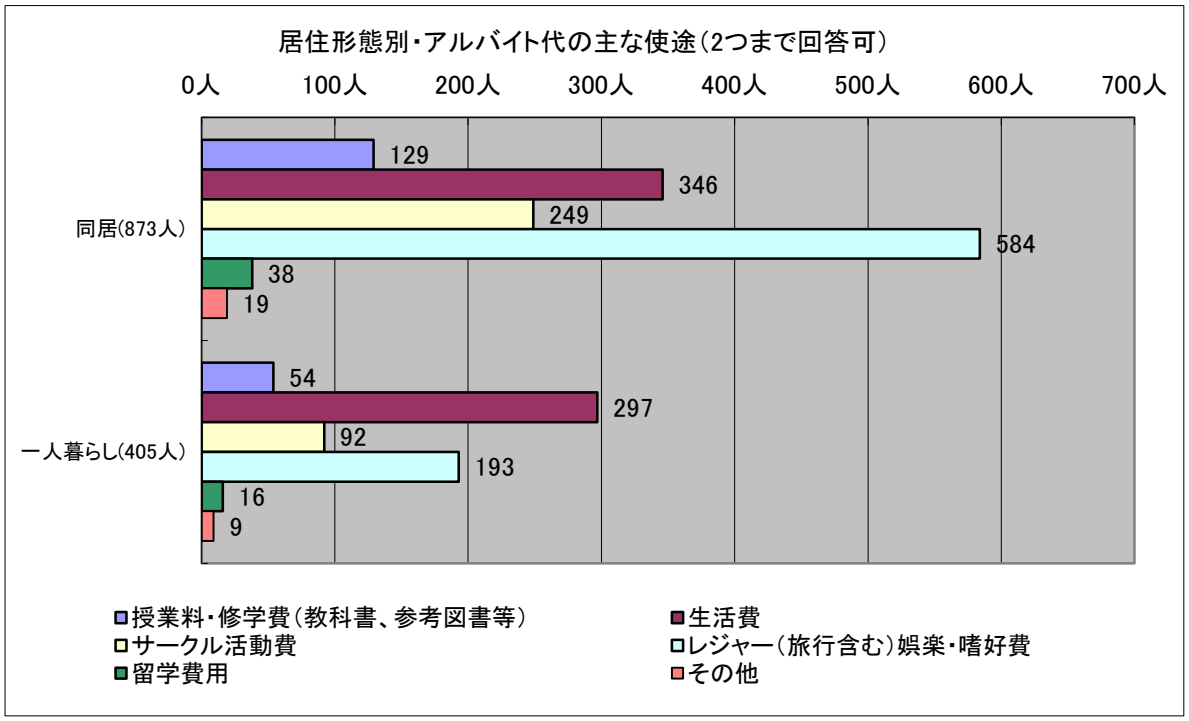
学年別では，「10 万円以上」の割合が H25 年度入学生と H24 年度入学以前の学生の方が他の学生よりも高い。これは，問 24 でも述べたが，これまで順調に履修単位を獲得してきた学生は 4 年生において履修講義数が少なくなり，授業料・修学費用，卒業旅行費用，および就職後の一人暮らしのための資金などを得ることを目的として，アルバイトをこれまで以上に積極的に行うことが一因に考えられる。

男女別，および同居，一人暮らし別ではともに，大きな差は見られない。

問 26　アルバイト代の主な使途は何ですか。（2 つまで回答可）（サークル：本学において学生が組織する部，サークル及び同好会等で顧問教員をおいている本学公認の団体）





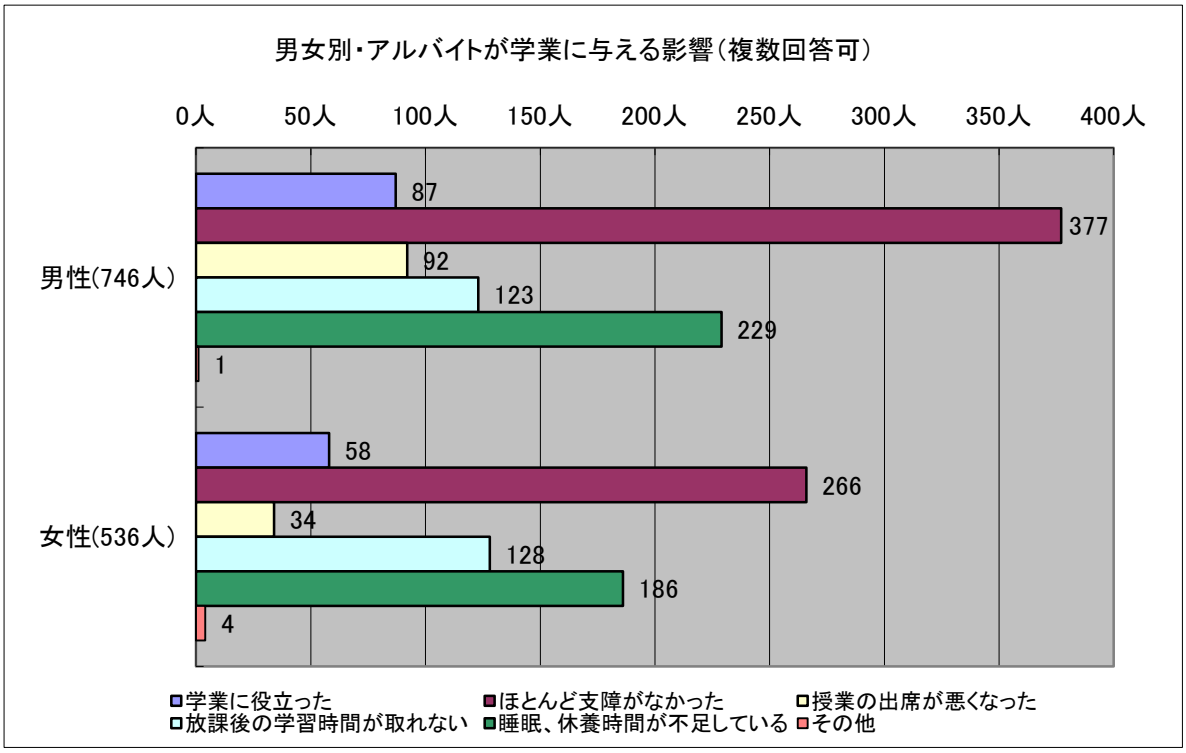

問 26　コメント

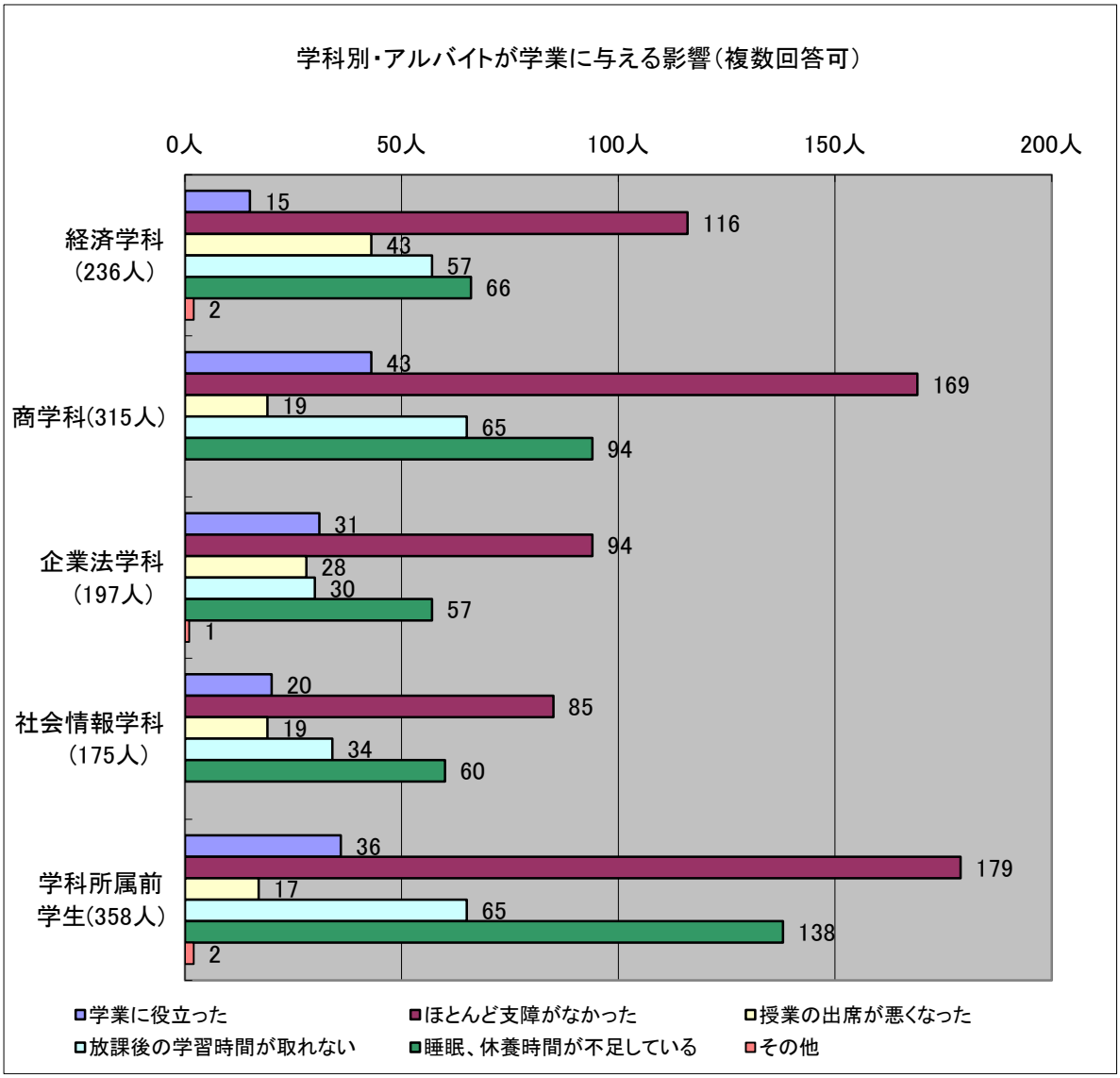
男女別では，どちらも「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」，「生活費」，「サークル活動費」の順で割合が高い。1 位の「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」については，女性が 68%であり，男性の 55%よりも 13%ポイント高い。それに対して，2 位の「生活費」は，男性が 53%であり，女性の 46%よりも 7%ポイント高くなっている。

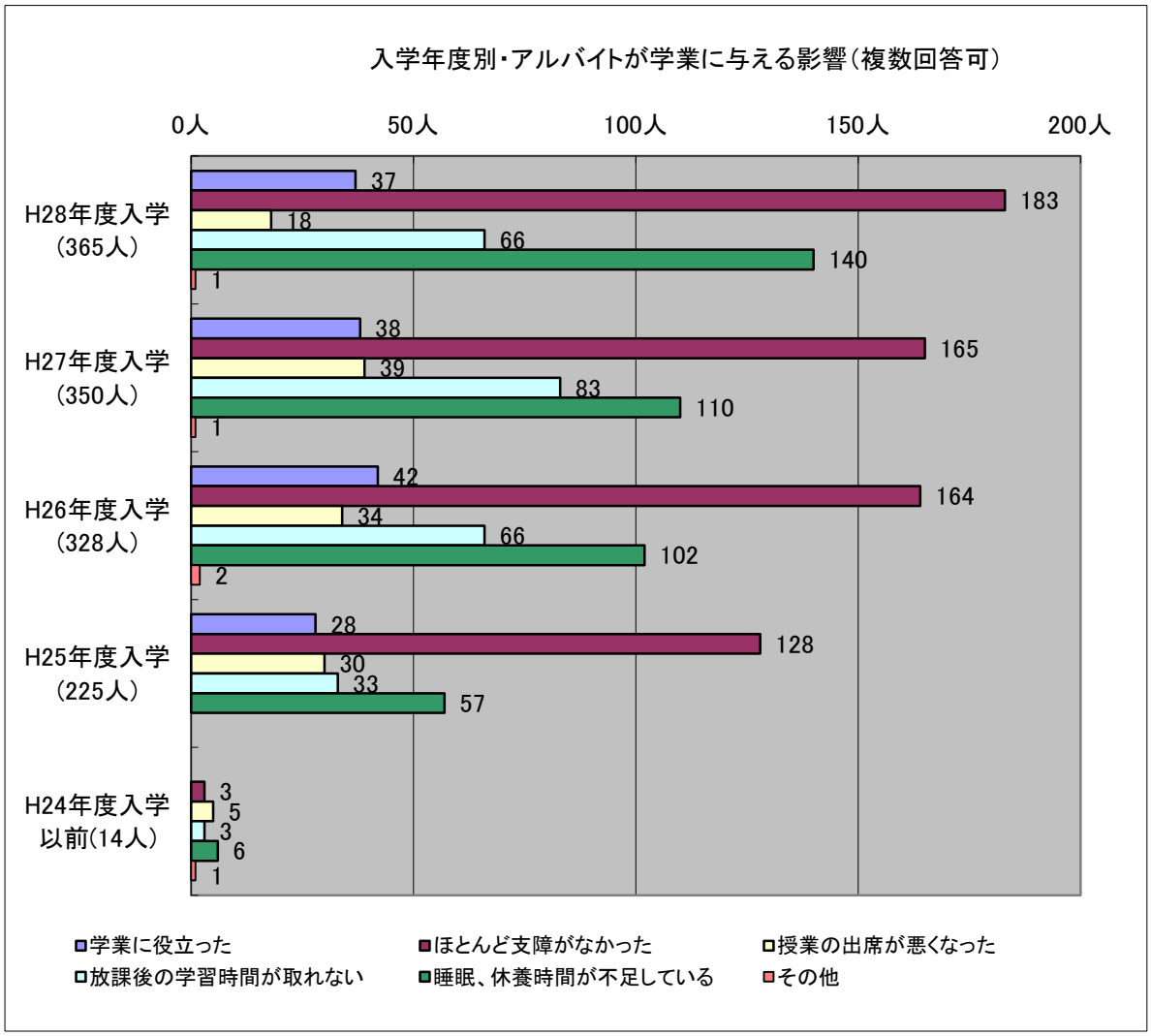
入学年度別では，H24 年度入学以前の学生を除いて，どの入学年度生も，男女別と同様に，「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」，「生活費」，「サークル活動費」の順で割合が高く，それらの割合も各入学年度で大きな差はない。

同居，一人暮らし別では，一人暮らしの学生は「生活費」が 73%で 1 位，同居の学生は「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」が 67%で 1 位であり，一人暮らしの学生の約 7 割が生活費を稼ぐことを目的にアルバイトをしていることがわかる。次いで，一人暮らしの学生が「レジャー（旅行含む）娯楽・嗜好費」（48%），「サークル活動費」（23%），同居の学生が「生活費」（40%），「サークル活動費」（29%）となっている。

問 27　アルバイトが学業に与える影響について答えてください。（複数回答可）






問 27　コメント

男女別では，割合の高い順は同様で，「ほとんど支障がなかった」，「睡眠，休養時間が不足している」，「放課後の学習時間が取れない」の順である。男女ともに約 50%が「ほとんど支障がなかった」と回答している。「睡眠，休養時間が不足している」については，男性が 31%，女性が 35%であり，約 3 割強の男女がアルバイトのために睡眠，休養時間が不足していることがわかる。また，「放課後の学習時間が取れない」については，男性が 16%，女性が 24%であり，約 2 割の男女がアルバイトのために十分な学習時間がとれない問題を抱えていることがわかる。

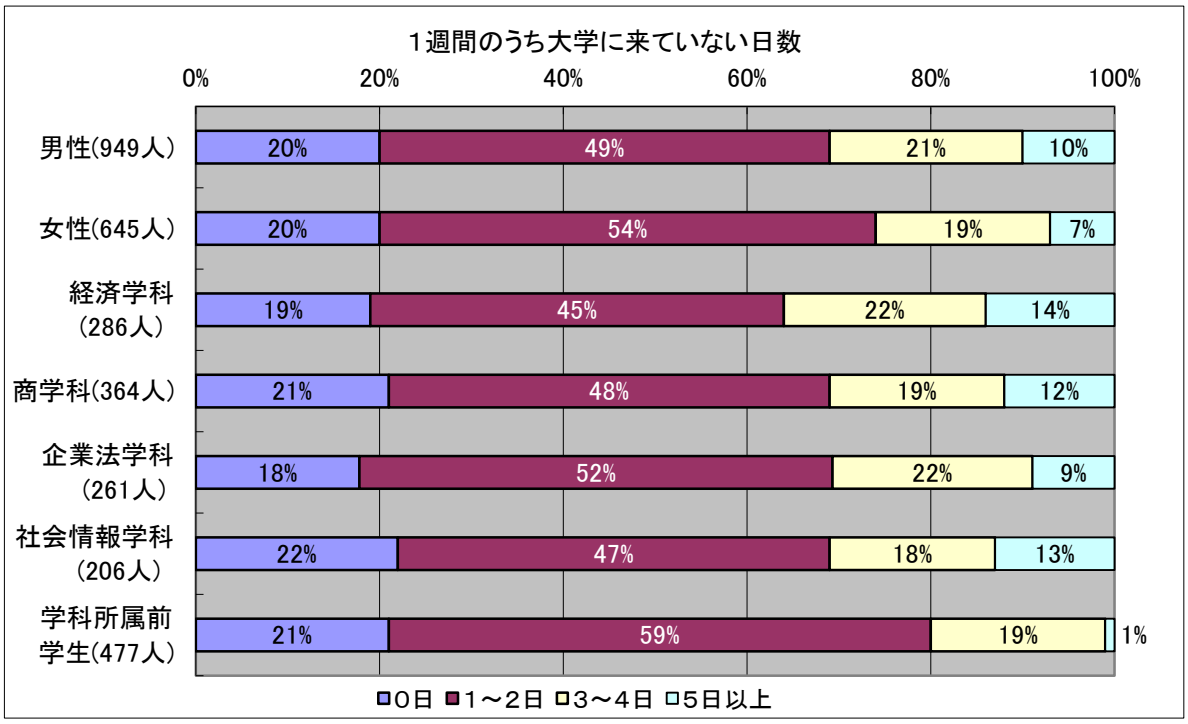
学科別では，どの学科も「ほとんど支障がなかった」が 1 位，「睡眠，休養時間が不足している」が 2 位である。3 位については，企業法学科のみ「学業に役だった」（ただし，4 位の「放課後の学習時間が取れない」との差は 1 名である）であり，その他の学科は「放課後の学習時間が取れない」となっている。

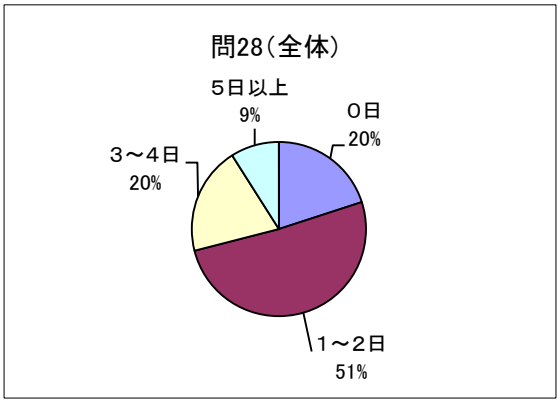
入学年度別では，どの入学年度生も，割合の高い順で 1 位から 3 位までは男女別と同様である。「睡眠，休養時間が不足している」については，H28 年度入学生の割合が 38%で，H27 年度入学生と H26 年度入学生の割合と比べて 7%ポイント，H25 年度入学生の割合と比べて 13%ポイント高い。この理由について，3 位の「睡眠，休養時間が不足している」も含めて考察すれば，1 年生は履修講義数を他の学年に比べて多くとる傾向があるにも関わらず，放課後の予習時間や復習時間をアルバイトに費やしてしまうために，睡眠，休養時間を削って予習時間や復習時間を確保していることが一因として考えられる。

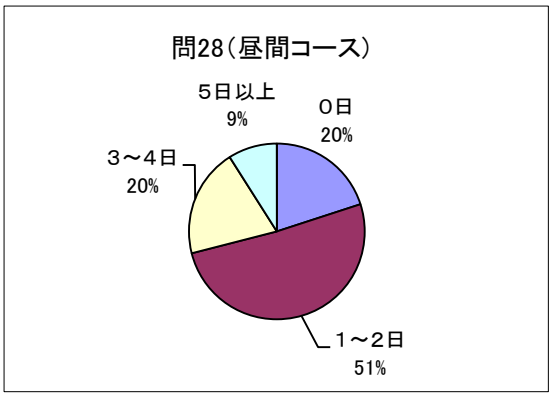
## ６　学修状況について

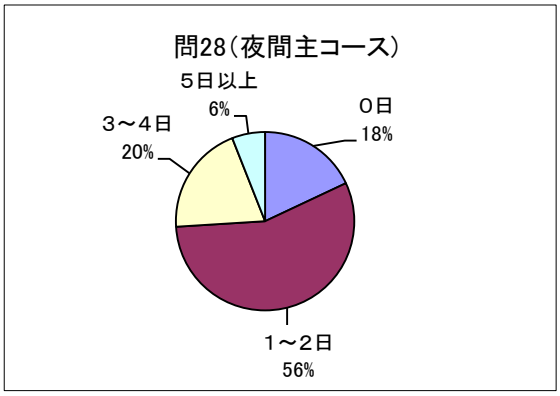
本学は近年アクティブ・ラーニングの推進を掲げて全学的な教育改善の取組を進めており，その中で特に「学生自身による自学自習の奨励と大学による支援」という観点が強く示されていることから，平成 25 年度実施前回調査から「学修状況について」の項目が設けられた。今回の調査では学修状況に関する調査項目を増やすとともに設問の内容を大幅に見直しており，前回調査と比較してその変化について観察することが困難な部分が多いが，可能な範囲で本学の学生の学修に対する態度や取組みの状況について評価しておく。

問 28　1 週間のうち，大学に来ていない日は何日程度ありますか。（28 年度前期）



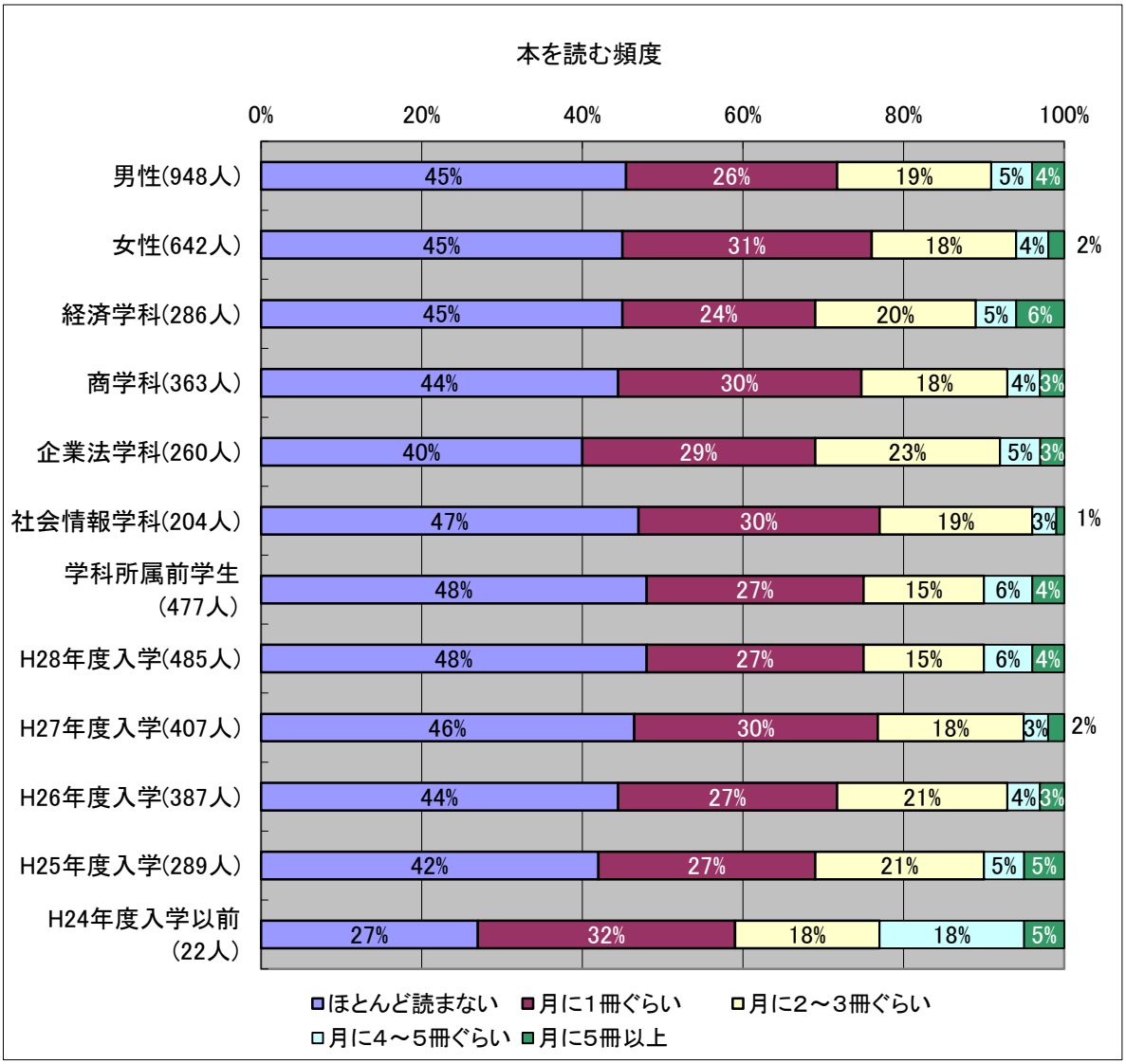



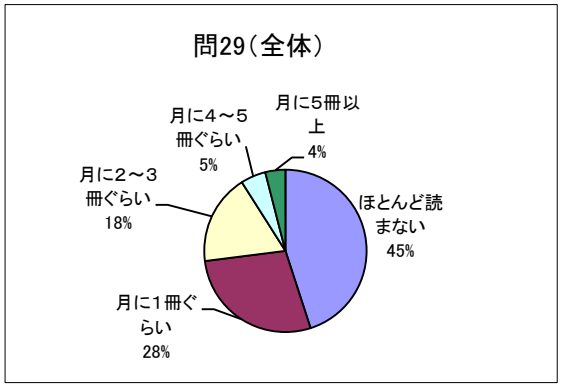



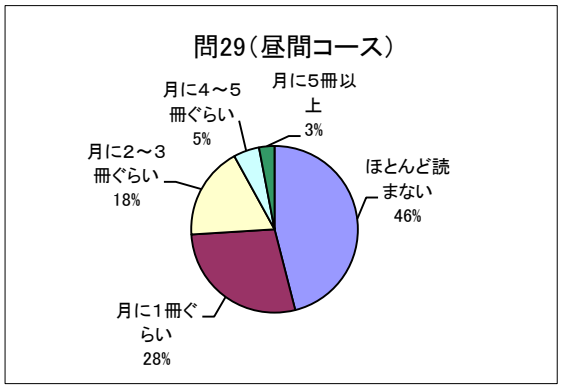
問 28　コメント

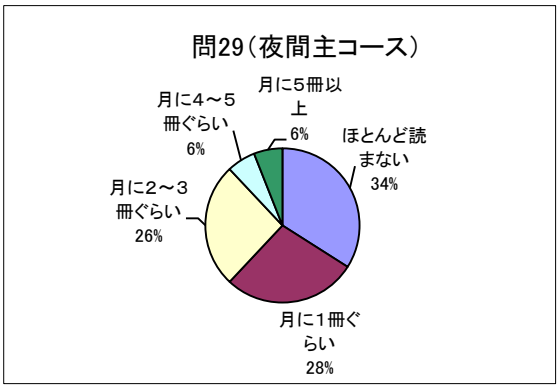
一週間あたりの平均的な通学日数を聞いたものである。概ね２割程度の学生がほぼ毎日大学に通学し，半数程度の学生が１～２日だけ大学に来ていないと回答しており，男女差や学科による差は大きくない。今回の調査より，土日や祝日などにも部活動やサークル活動で来学することを想定して設問文で「大学に来ていない日」と表記したため前回の調査とは単純には比較できない。この設問の意図が学生に正確に伝わらず「平日のうち何日大学に来ていないか（学生が“全休日”と称する終日履修科目が無い平日）」と解釈した可能性を否定できない。また学科所属学生（本学では２年生進級時に全学生が学科配属されるため，事実上２年生以上の学生）のうち１割程度が「５日以上」と答えているが，「大学に来ている日」を問われたと誤認した可能性も否定できないため，次回の調査では設問の表現について工夫することが望ましい。

問 29　あなたは普段，どの程度本（マンガや雑誌を除く）を読んでいますか。





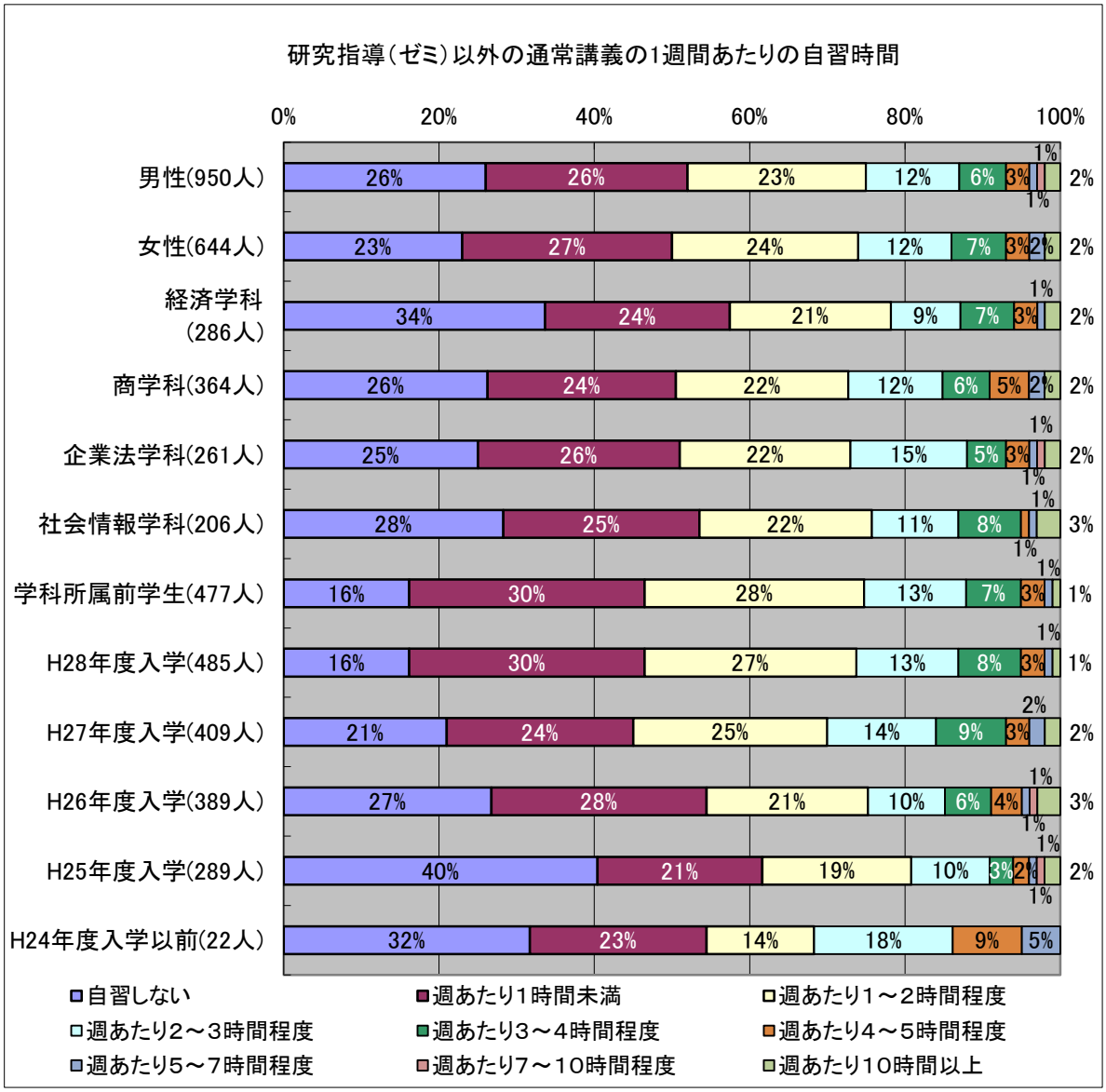



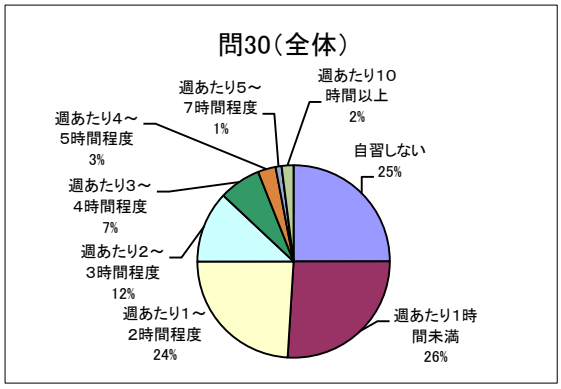



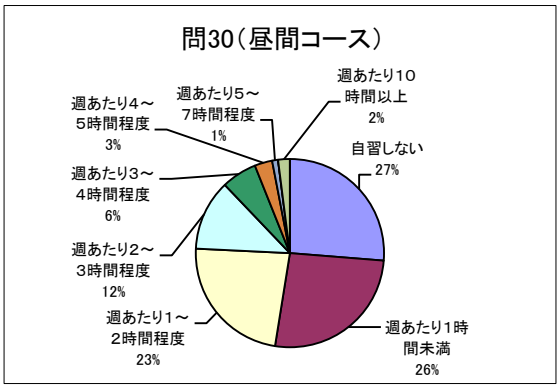

問 29　コメント

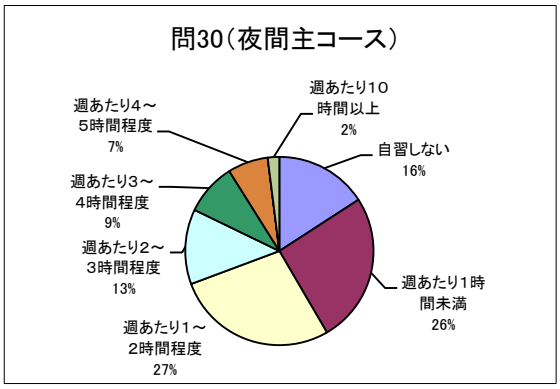
本学の学生のうち，半数弱がほとんど書籍を読んでいないことがわかった。学科ごとの集計では企業法学科の学生が相対的にその割合が低く，また学年ごとの集計では学年があがるとやや読書量が増加する傾向が見られ，研究指導において文献学習が課されていることが要因として考えられる。

問 30　研究指導（ゼミ）以外の通常の講義について，講義時間以外の 1 週間あたりの自習時間はどの程度ですか。

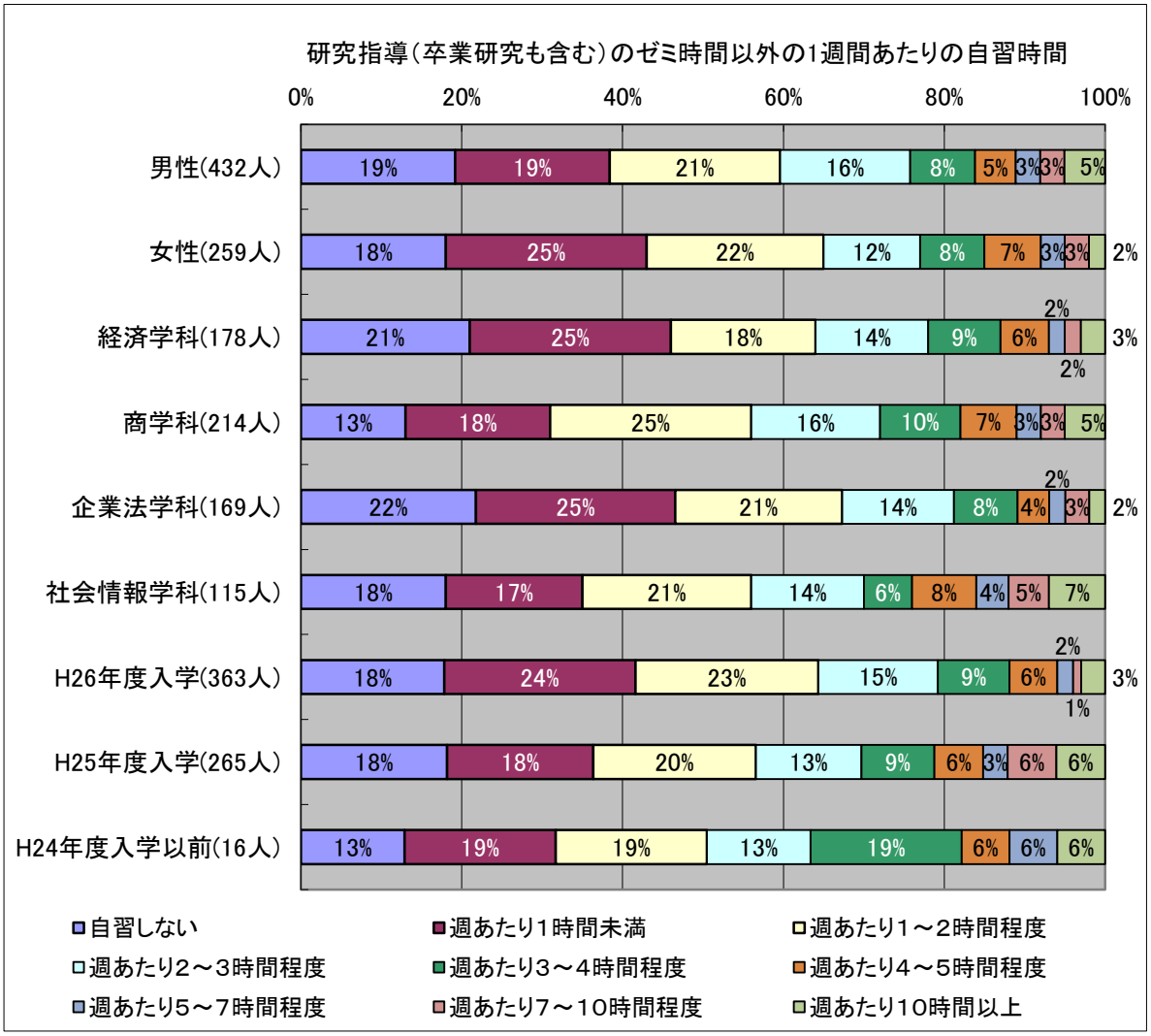


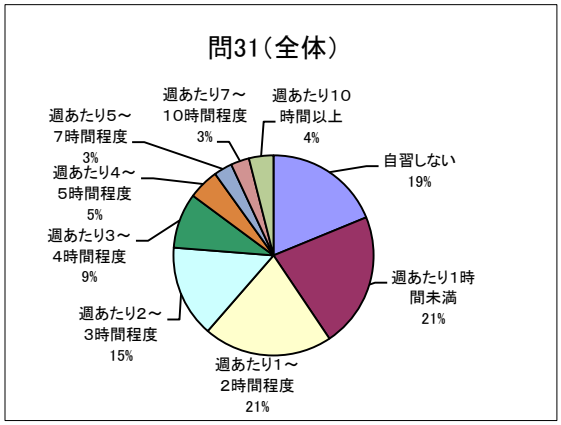



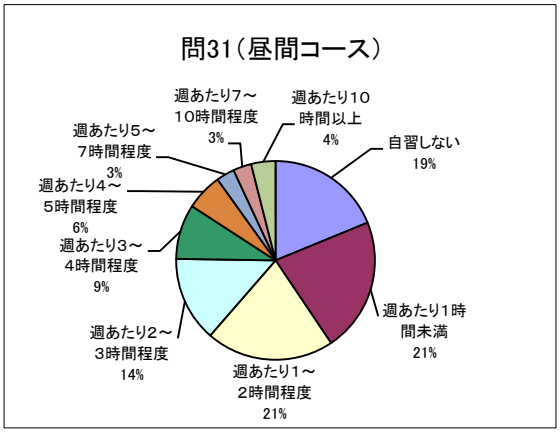


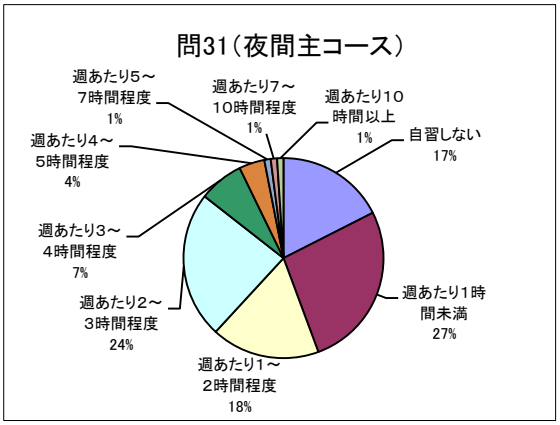




問 31　研究指導（卒業研究も含む）について，ゼミ時間以外の 1 週間あたりの自習時間はどの程度ですか。





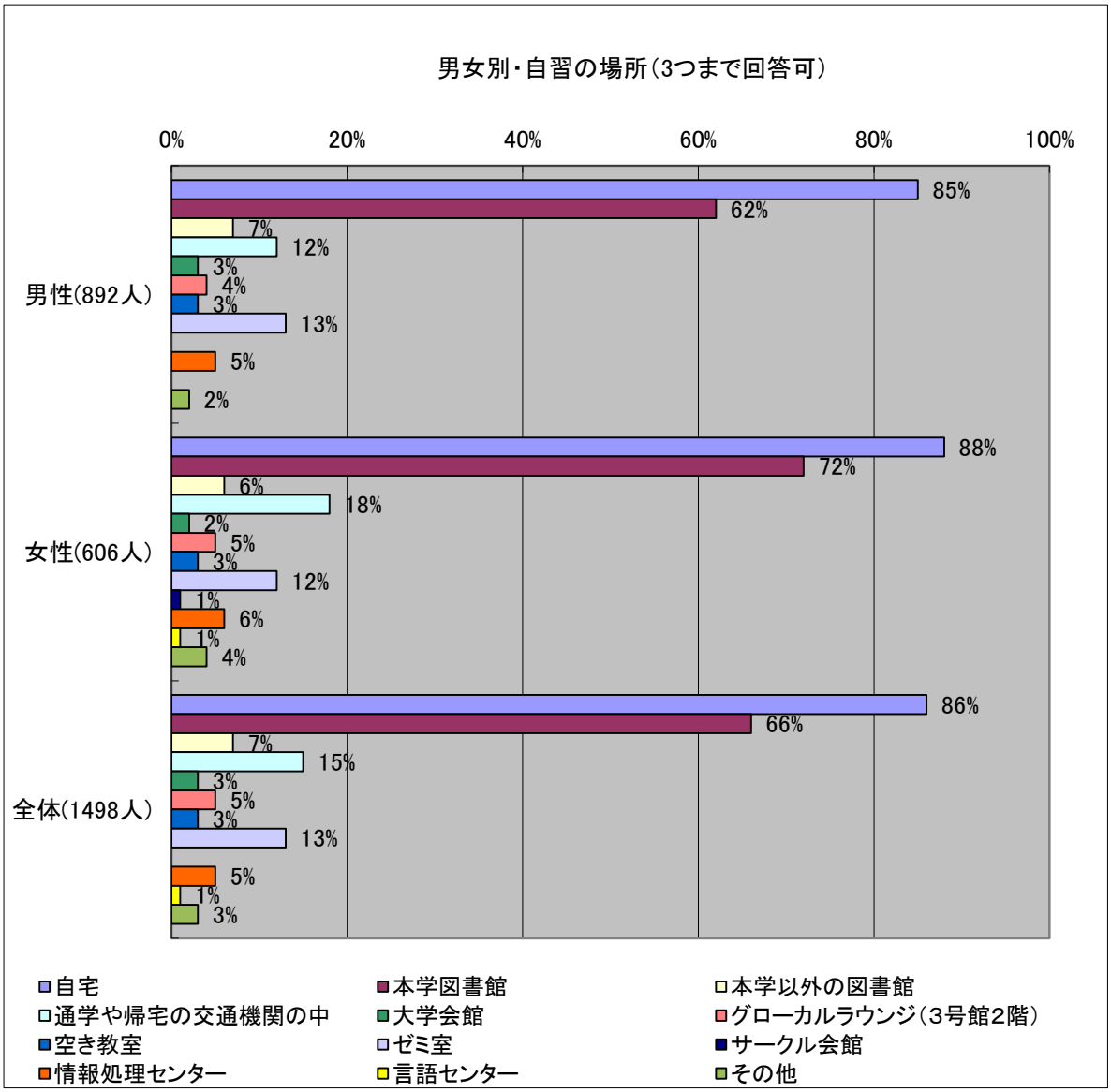



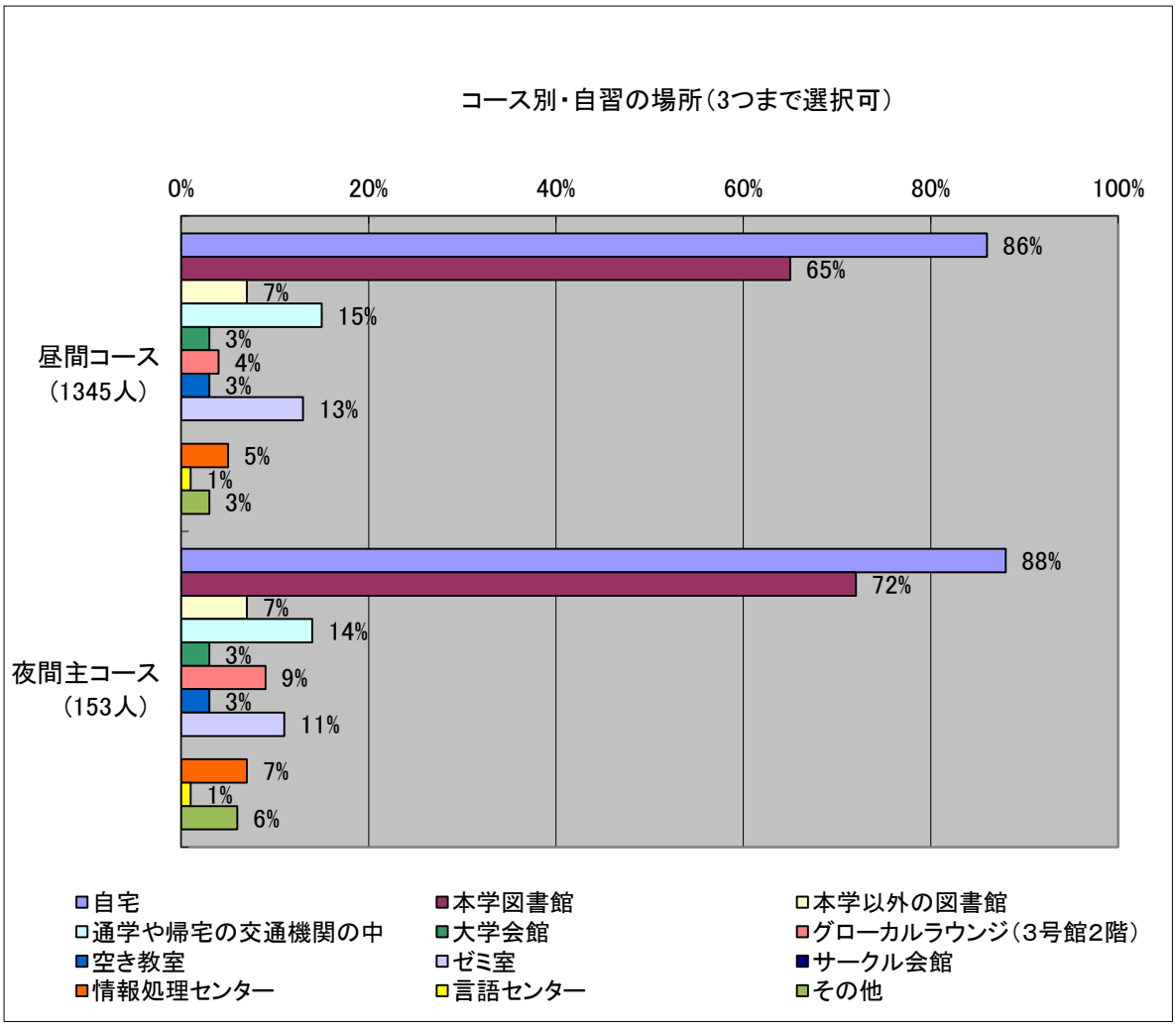

問 30～31　コメント

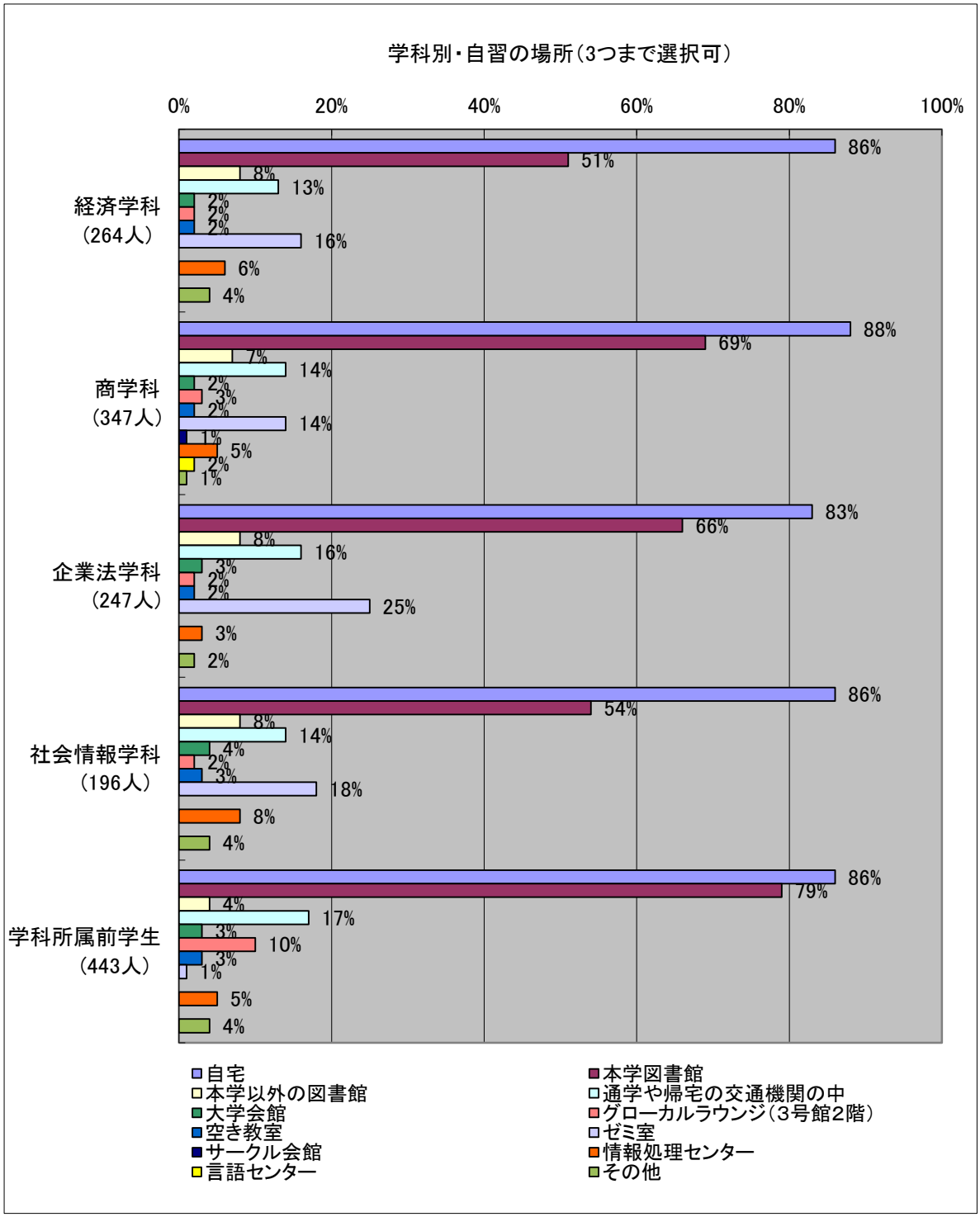
2 割前後の学生が通常の講義と研究指導を合わせて「自習しない」と回答し，「週あたり 1 時間未満」と合わせると 4 割から 5 割の学生がこれらに含まれることが分かる。自習時間は時間の長さだけで評価されるものではないが，主体的な学修態度の育成ならびに自学自習の支援という観点では課題が残る。学年ごとの集計を見ると学年が進行すると自習の内容が通常講義から研究指導に移行する傾向が明瞭に観察された。

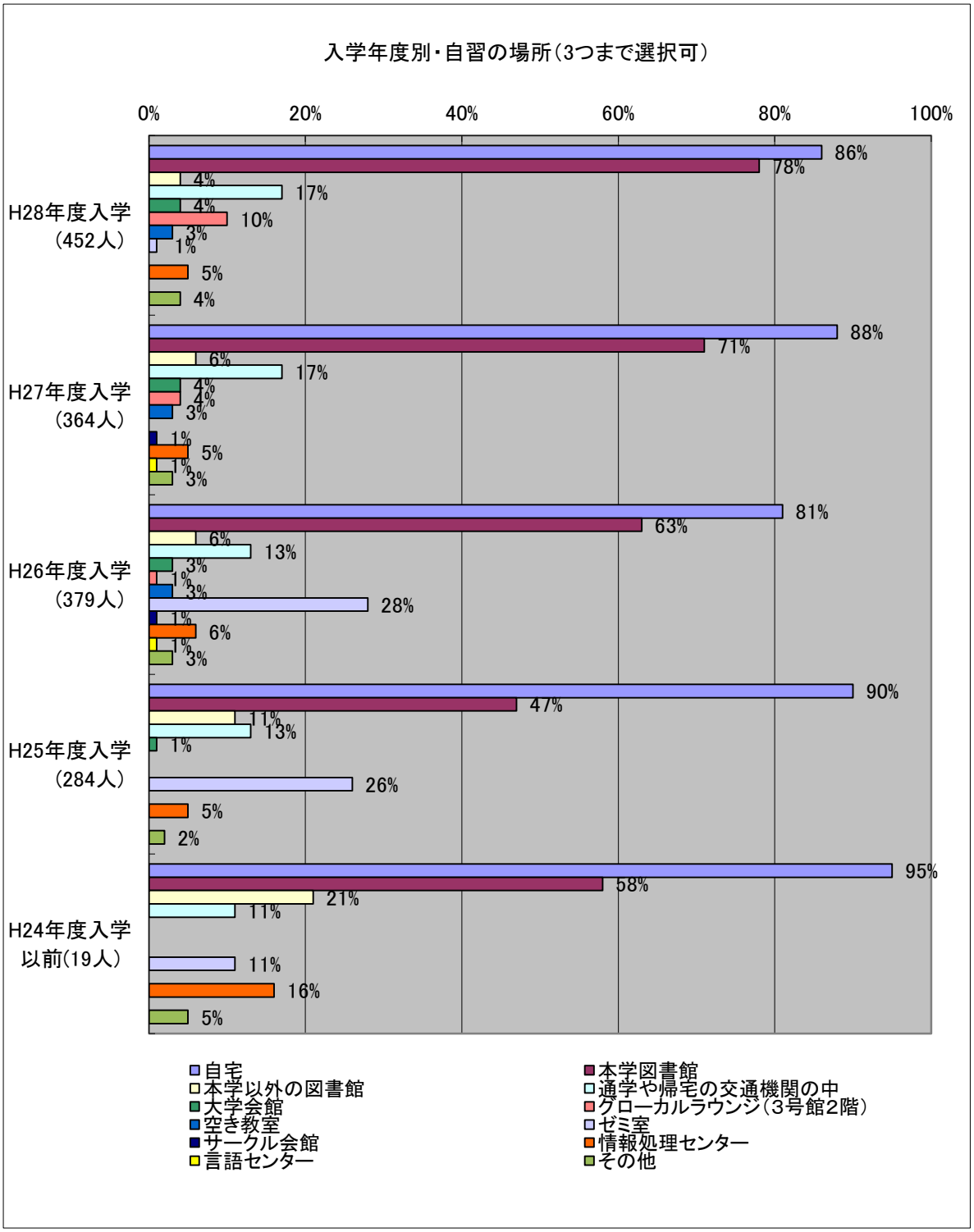
，，

問 32　自習を行う場所はどこですか。（3 つまで回答可）




コース別・自習の場所（3つまで選択可）
0%
20%
40%
60%
80%
100%
昼間コース
（1345人）
86%
65%
7%
15%
3%
4%
3%
13%
5%
1%
3%
夜間主コース
（153人）
88%
72%
7%
14%
3%
9%
3%
11%
7%
1%
6%
自宅
本学図書館
本学以外の図書館
通学や帰宅の交通機関の中
大学会館
グローカルラウンジ（3号館2階）
空き教室
ゼミ室
サークル会館
情報処理センター
言語センター
その他

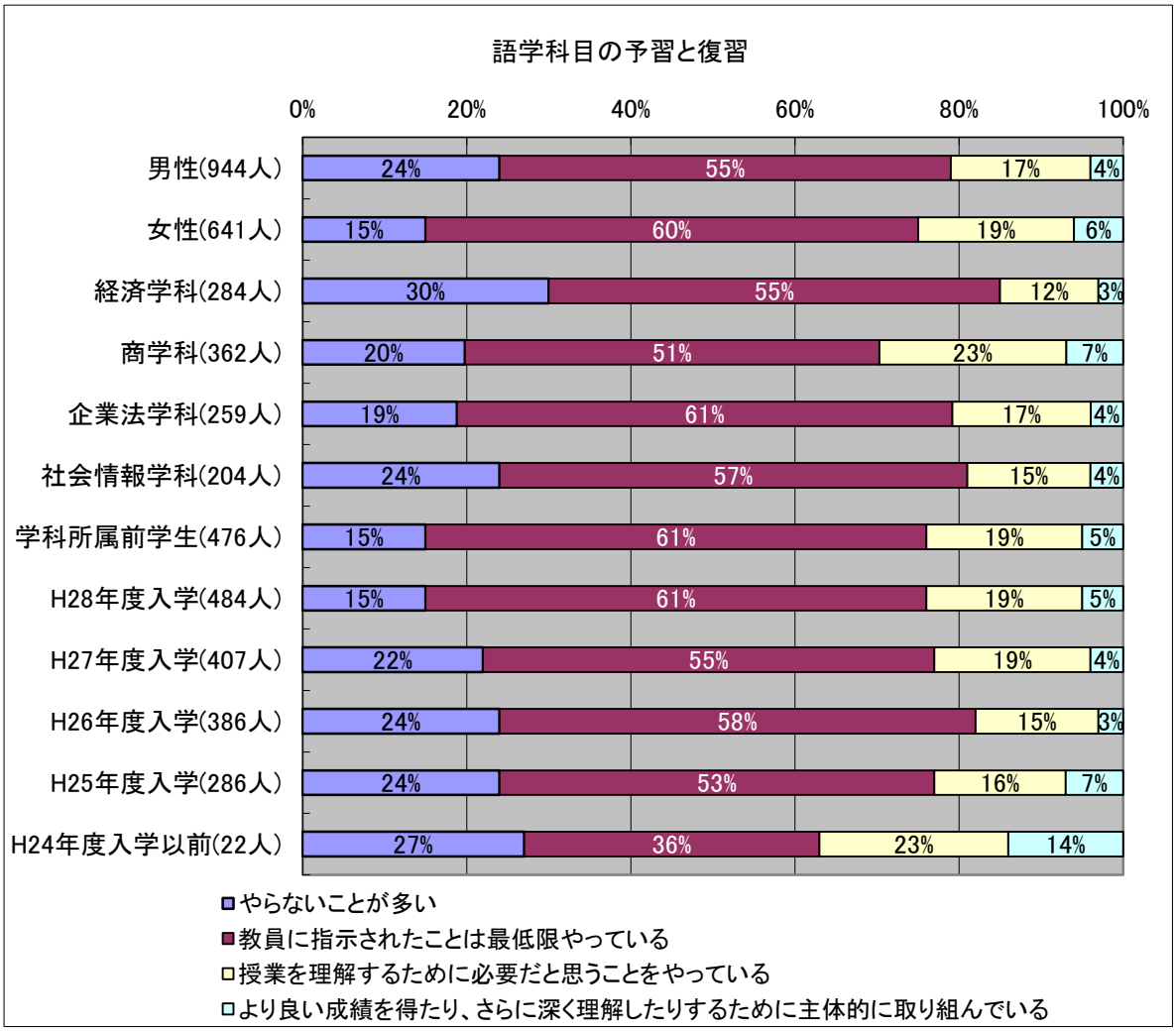

学科別・自習の場所（3つまで選択可）
0%
20%
40%
60%
80%
100%
経済学科
（264人）
86%
51%
8%
13%
2%
2%
2%
16%
6%
4%
商学科
（347人）
88%
69%
7%
14%
2%
3%
2%
14%
1%
5%
2%
1%
企業法学科
（247人）
83%
66%
8%
16%
3%
2%
2%
25%
3%
2%
社会情報学科
（196人）
86%
54%
8%
14%
4%
2%
3%
18%
8%
4%
学科所属前学生
（443人）
86%
79%
4%
17%
3%
10%
3%
1%
5%
4%
自宅
本学図書館
本学以外の図書館
通学や帰宅の交通機関の中
大学会館
グローカルラウンジ（3号館2階）
空き教室
ゼミ室
サークル会館
情報処理センター
言語センター
その他

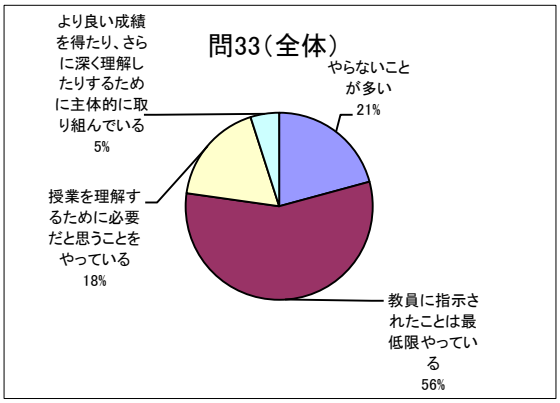


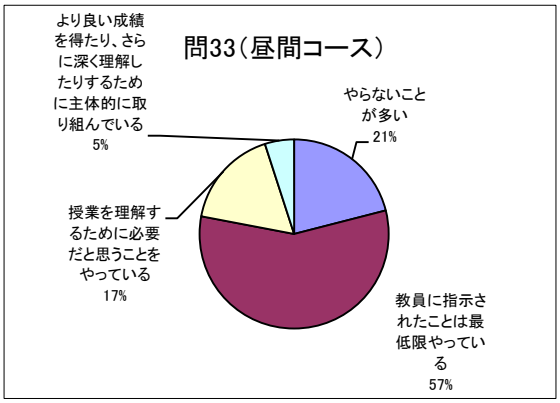

問 32　コメント

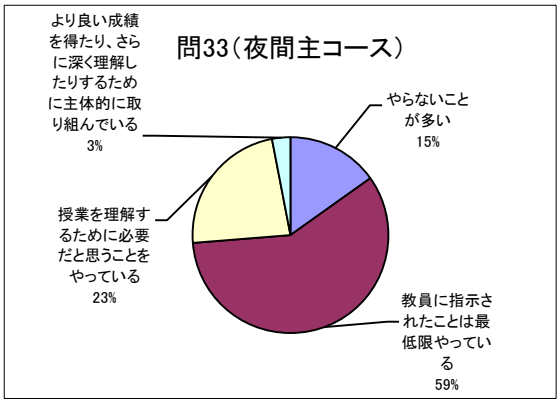
前回調査よりも選択肢が増やされ，学生の自習状況をより詳細に把握することが可能となった。おおよその傾向として，性別，所属コース（昼間／夜間主），学年・学科，いずれの区分でも自宅での自習が主となっており，続いて附属図書館を利用する学生が多い。所属学科別の附属図書館の利用について，最もよく利用する商学科（69%）と最も利用しない経済学科（51%）に 2 割弱の開きがある。比較的環境が整っている経済学関連の電子ジャーナル利用との関係については未調査である。3 年次以降になるとゼミ室の利用者が増え，ゼミ専用室の環境が活用されていることが分かる。前回調査までは選択肢に無かった「通学・帰宅の交通機関」を選択した学生が 15%程度いることが分かった。また昨年度整備したグローカルラウンジの利用者もおり，自学自習環境の整備の効果が確認された。

問 33　「予習と復習」についてのあなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。

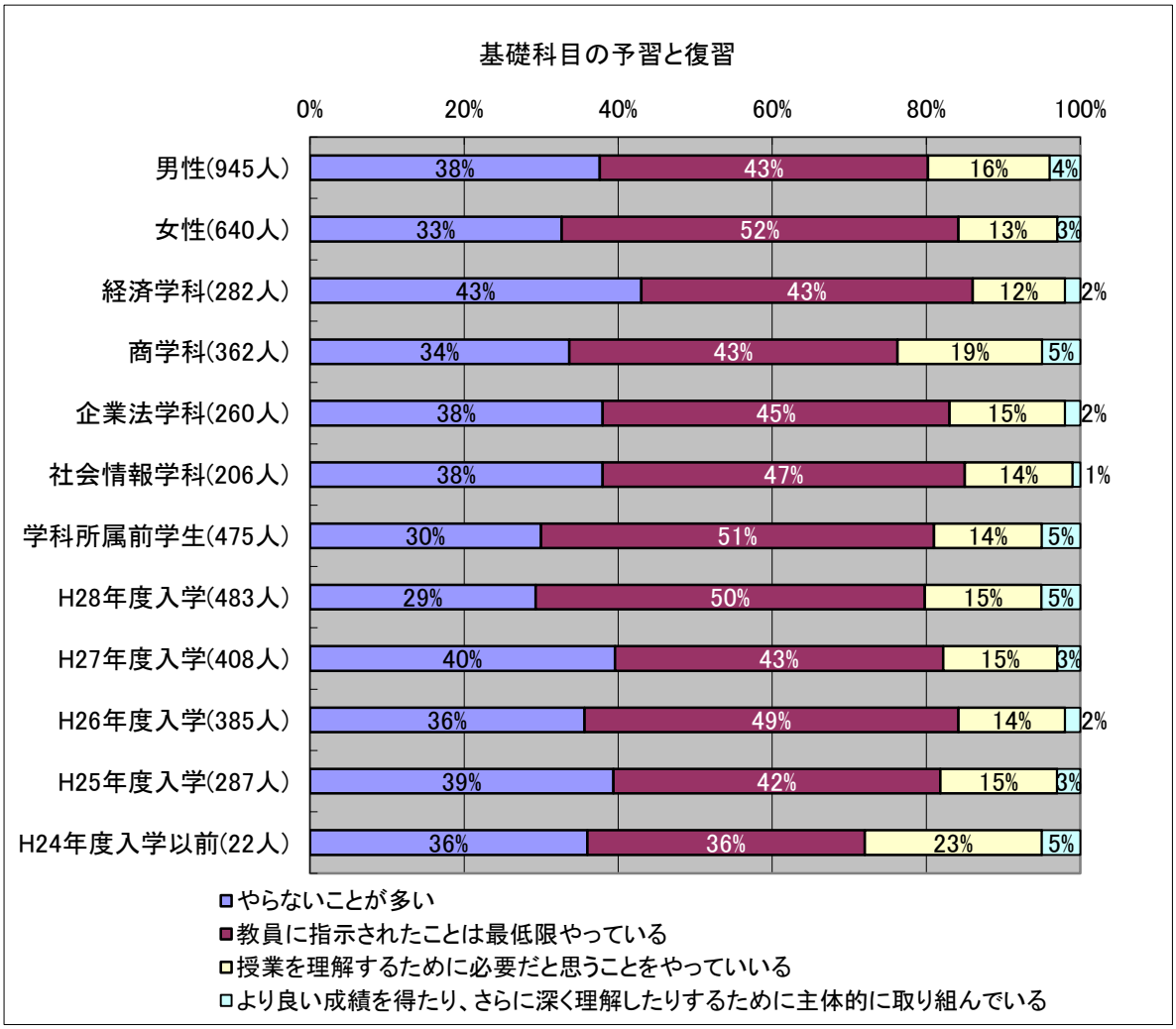


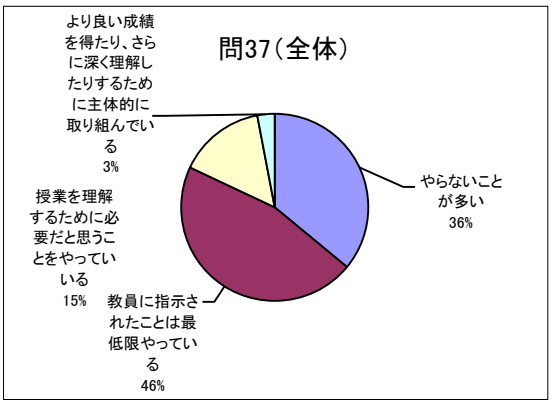



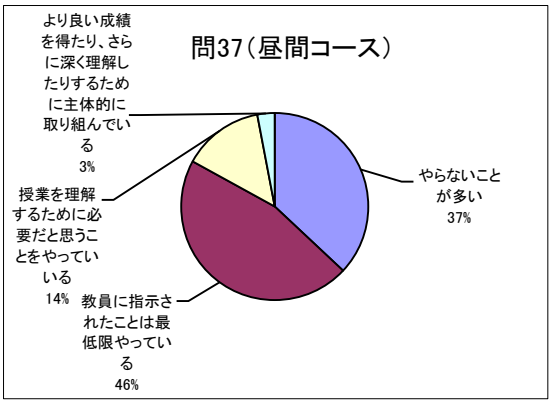



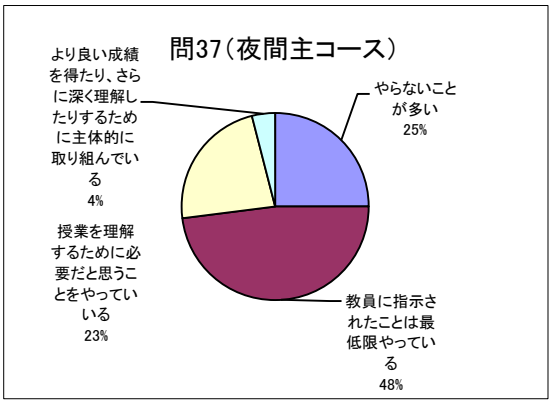



問 37　「予習と復習」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。

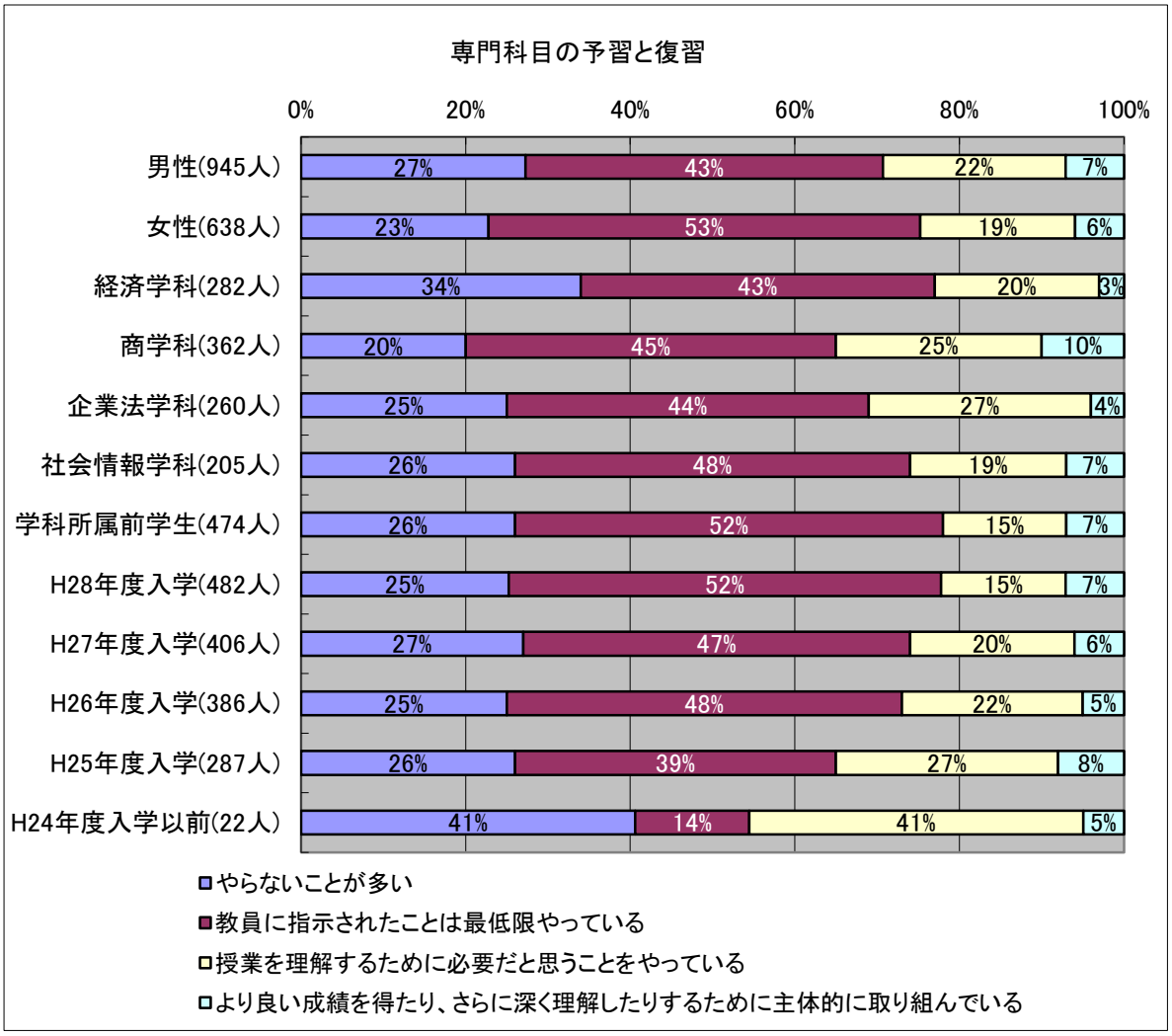


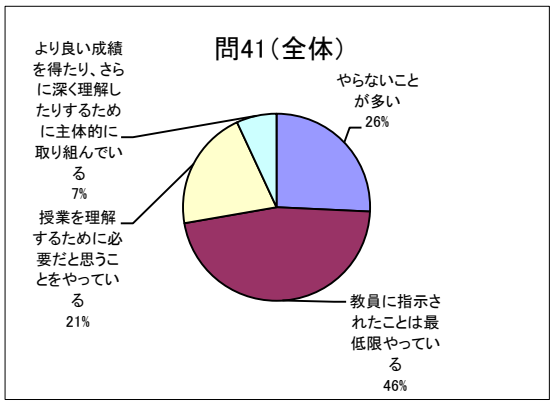



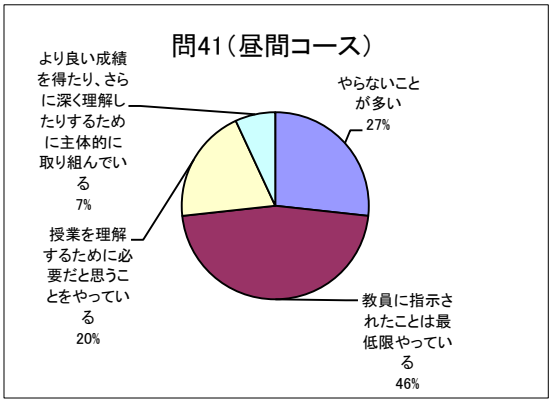



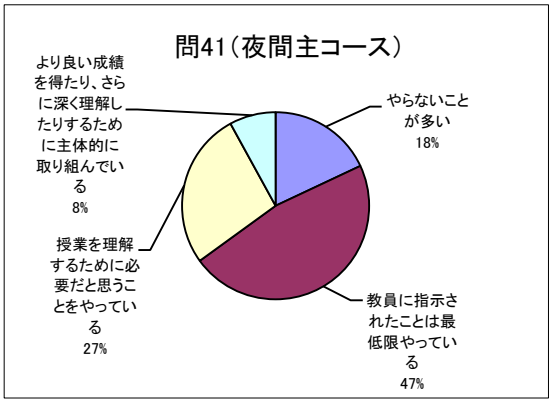



問 41　「予習と復習」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。



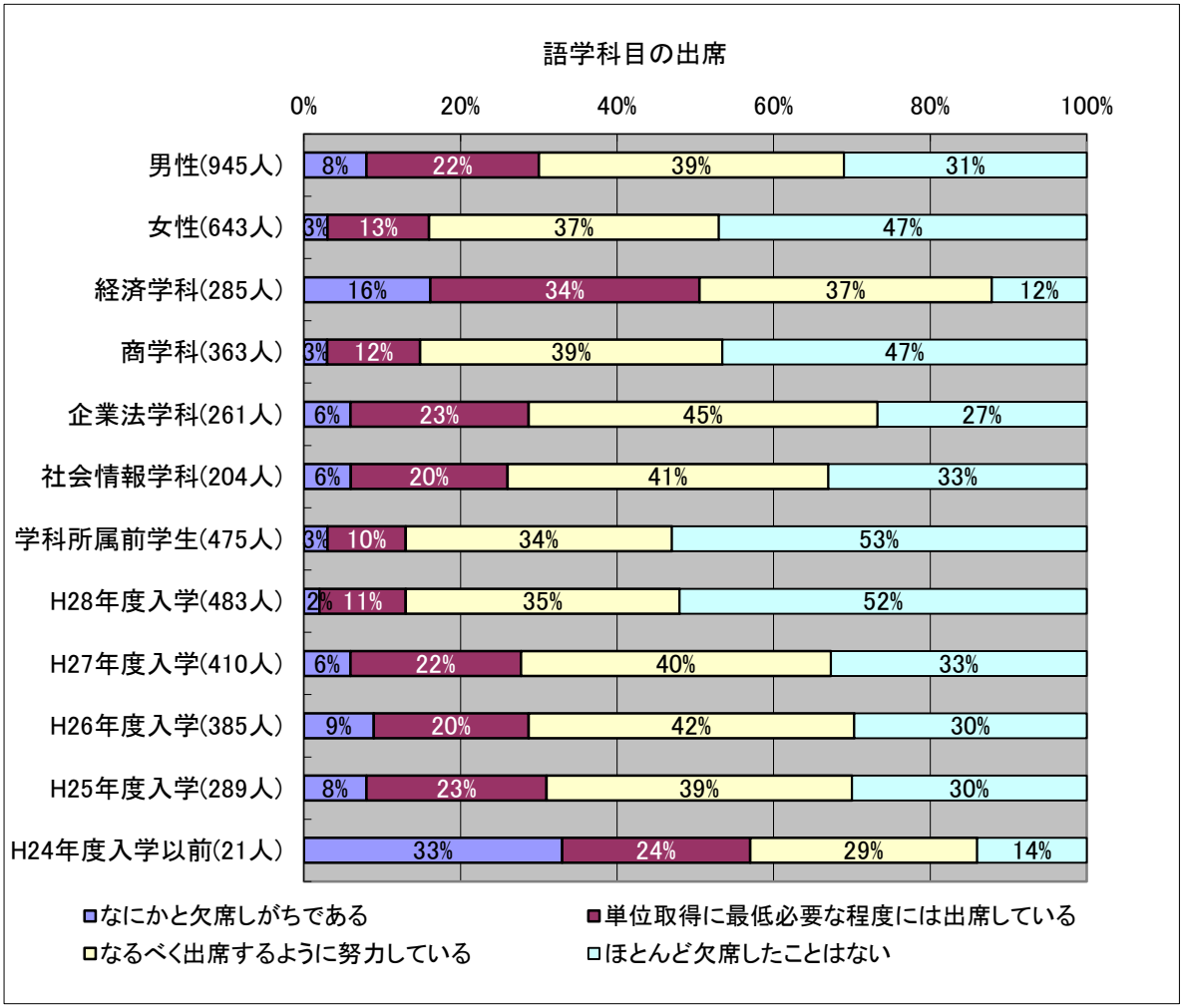



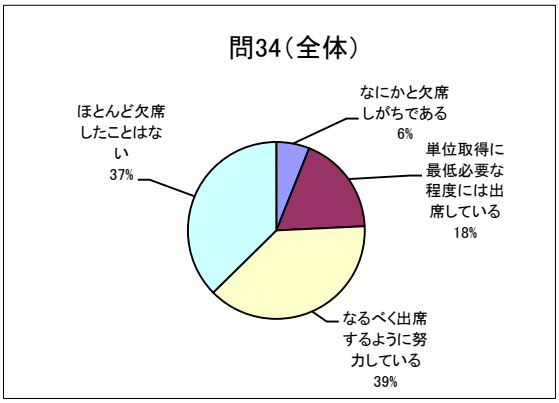



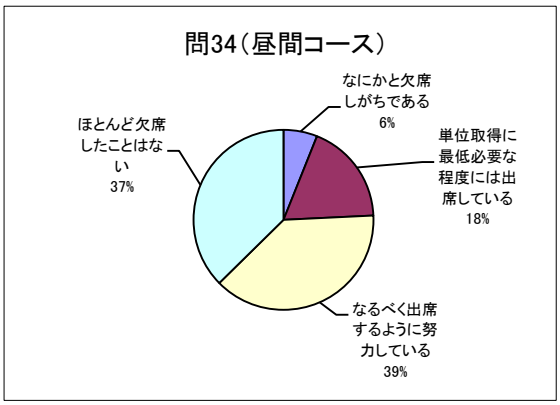
問 33・37・41　コメント

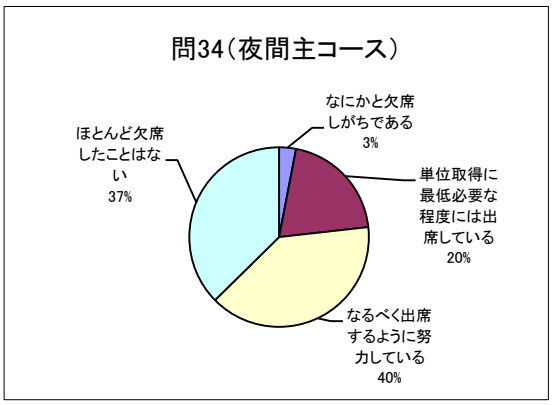
本学学生の学修態度を「予習と復習」について分析した結果である。学生全体でみると，「教員に指示されたことは最低限やっている」を選択した学生が，語学科目，基礎科目，専門科目を通じて 50%前後となっており，教員から明確に指示された授業外学修を忠実にこなしている姿が見て取れる。他方「やらないことが多い」を選択した学生は，語学科目 21%，基礎科目 36%，専門科目 26%となっており，相対的に基礎科目の予復習が軽視されている傾向にある。また専門性や授業難度が高まる専門科目では「授業を理解するために必要だと思うことをやっている」と回答する率が上昇し，やや消極的ながら自発的な予復習動機が見られる。また昼間コース所属学生に対して夜間主コース所属学生は「授業理解」を回答した率が高く，夜間主コース所属学生の主体的学修動機が高いと考えることもできるが，授業理解に困難を感じている可能性も否定できない。「より良い成績を得たり，さらに深く理解するために主体的に取り組んでいる」と答えた学生は総じて多くない。

問 34　「出席」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。

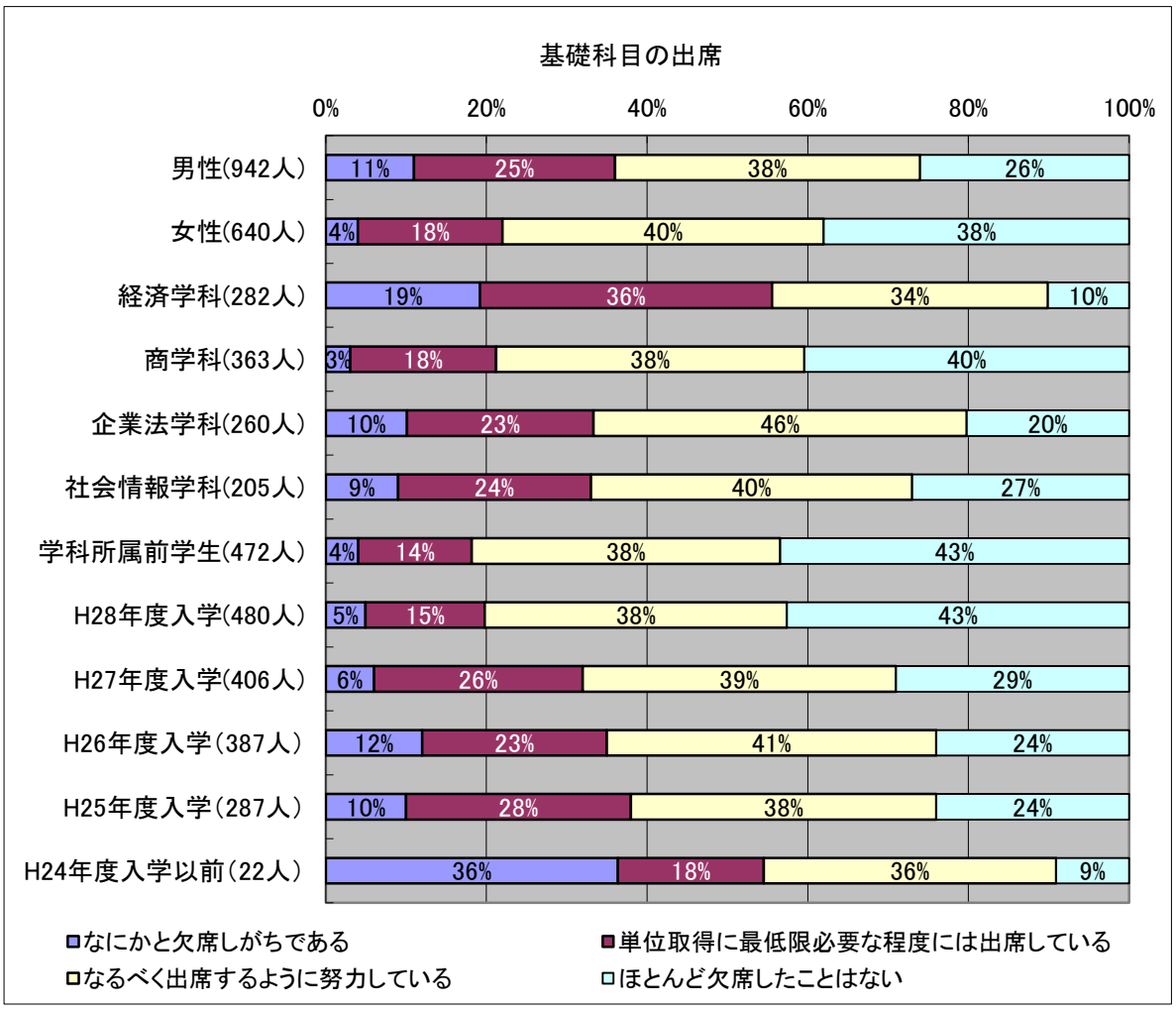


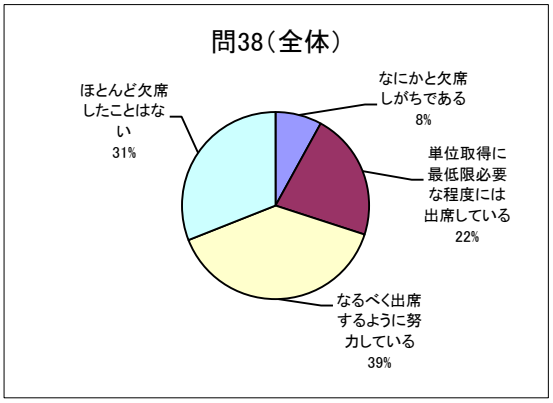


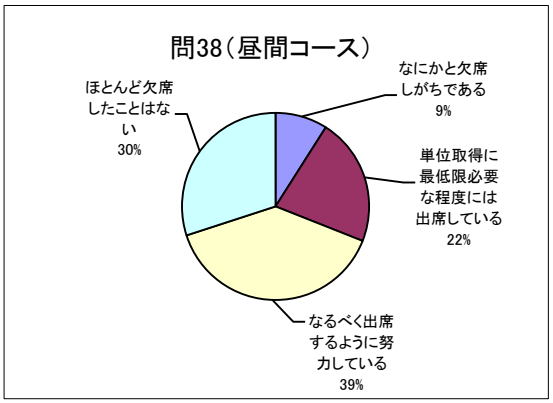



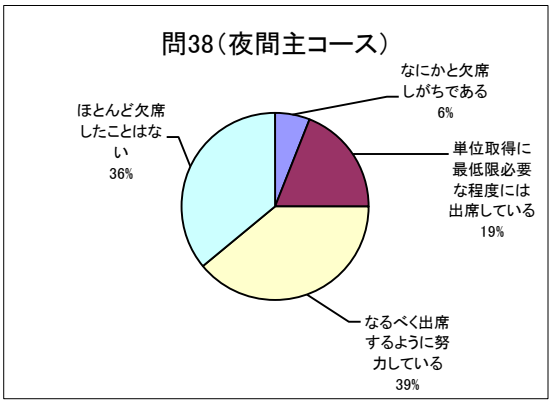




問 38　出席について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。

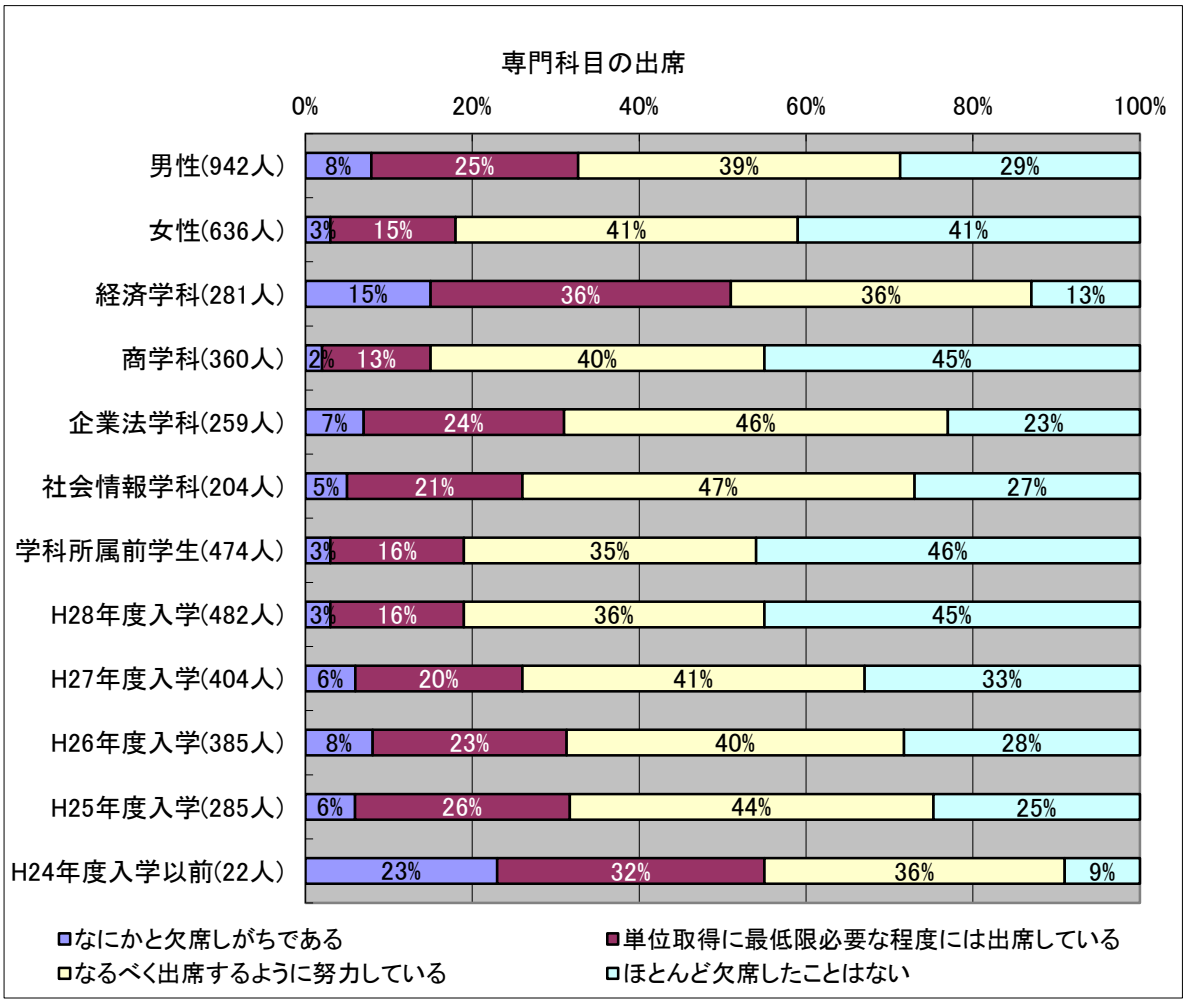


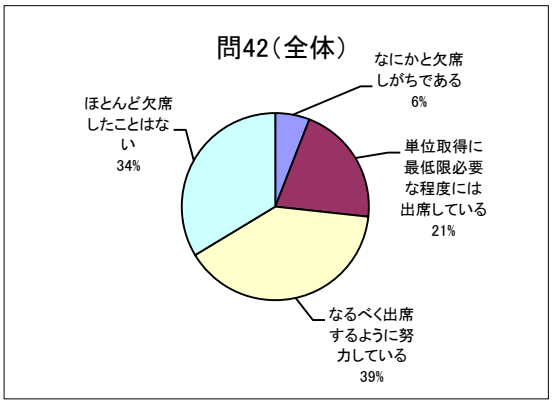


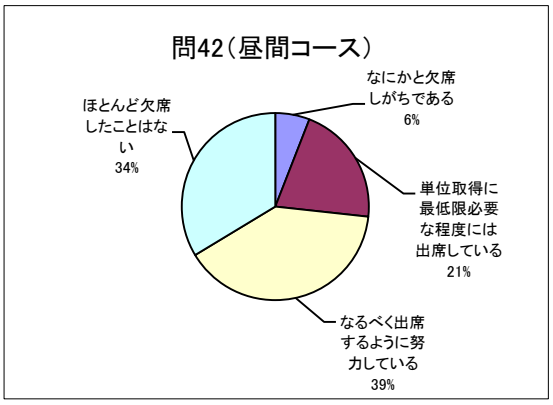



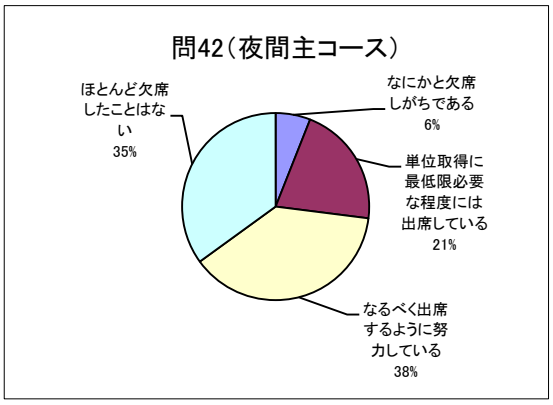




問 42　「出席」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。





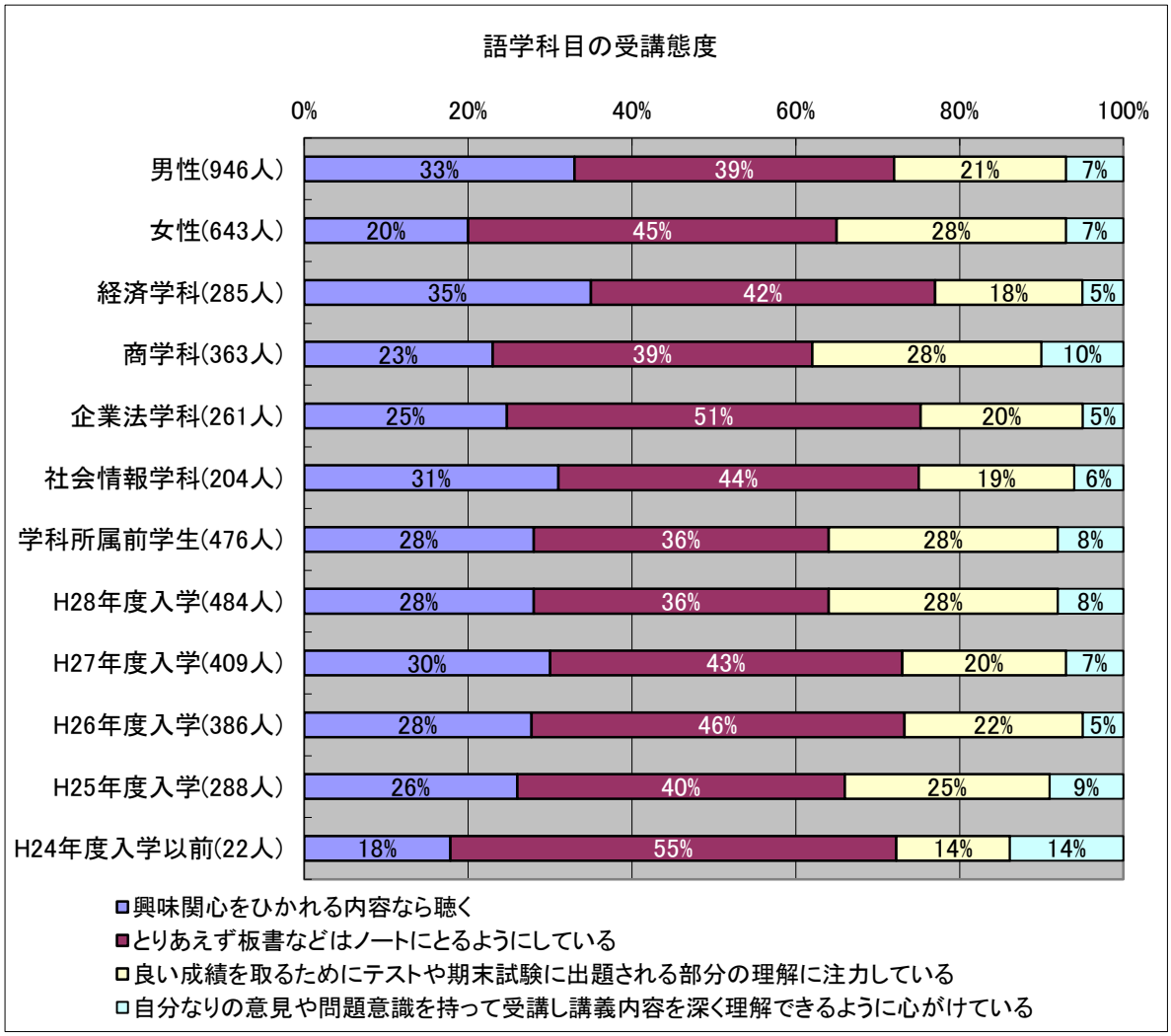



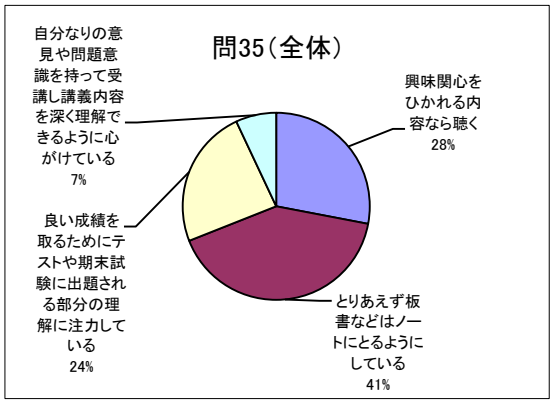



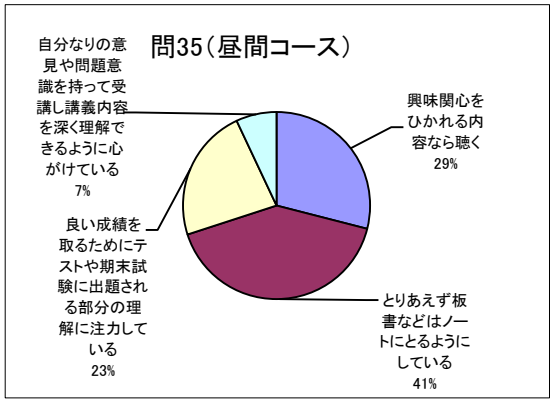

問 34・38・42 コメント

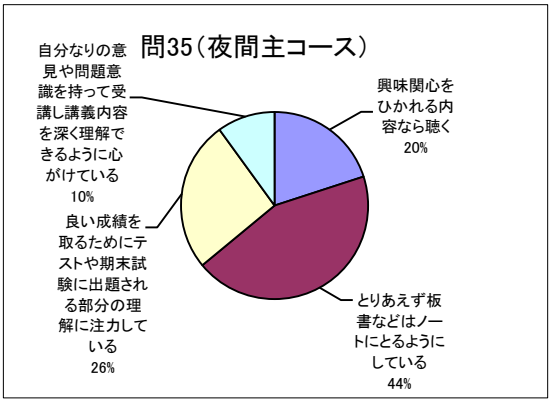
本学学生の学修態度を「出席」について分析した結果である。学生全体でみると，「ほとんど欠席していない」と回答した学生が語学科目 37%，基礎科目 31%，専門科目 34%，「なるべく出席するように努力している」がいずれも 40%弱となっており，7～8 割の学生が講義への出席を重視した学習スタイルを取っていることが伺える。このことは近年出席確認を実施している科目が増加していることとも無関係では無いと考えられる。学年ごとの集計からはより低学年の学生ほど出席意向が高く，またいずれの科目群でも女子学生が男子学生を大きく上回る結果となった。

問 35　「受講態度」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。

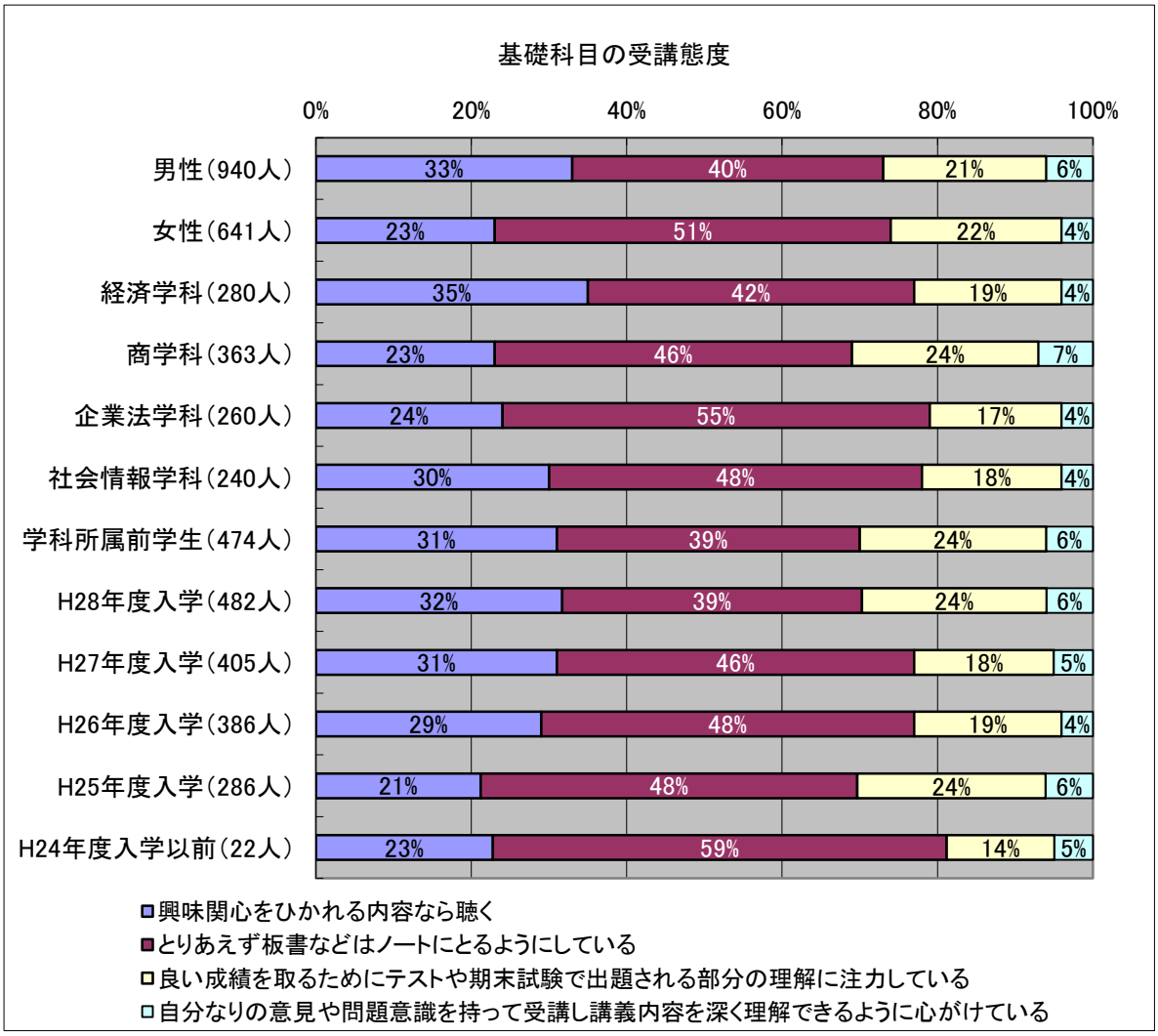


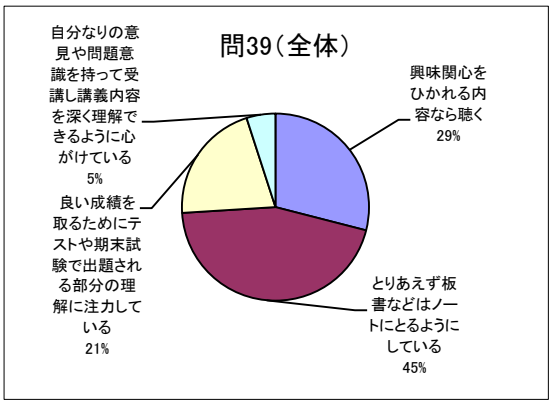



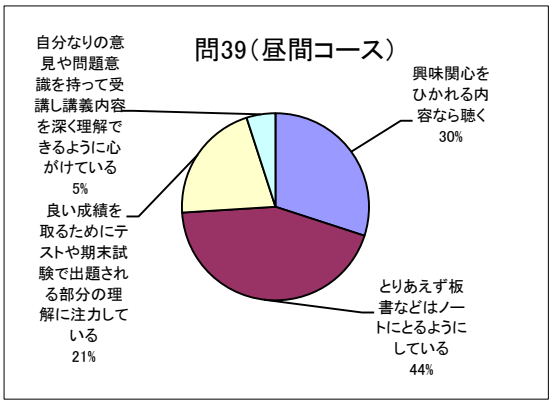



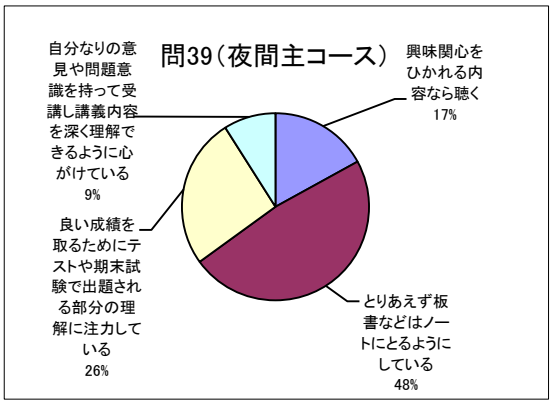



問 39　「受講態度」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。

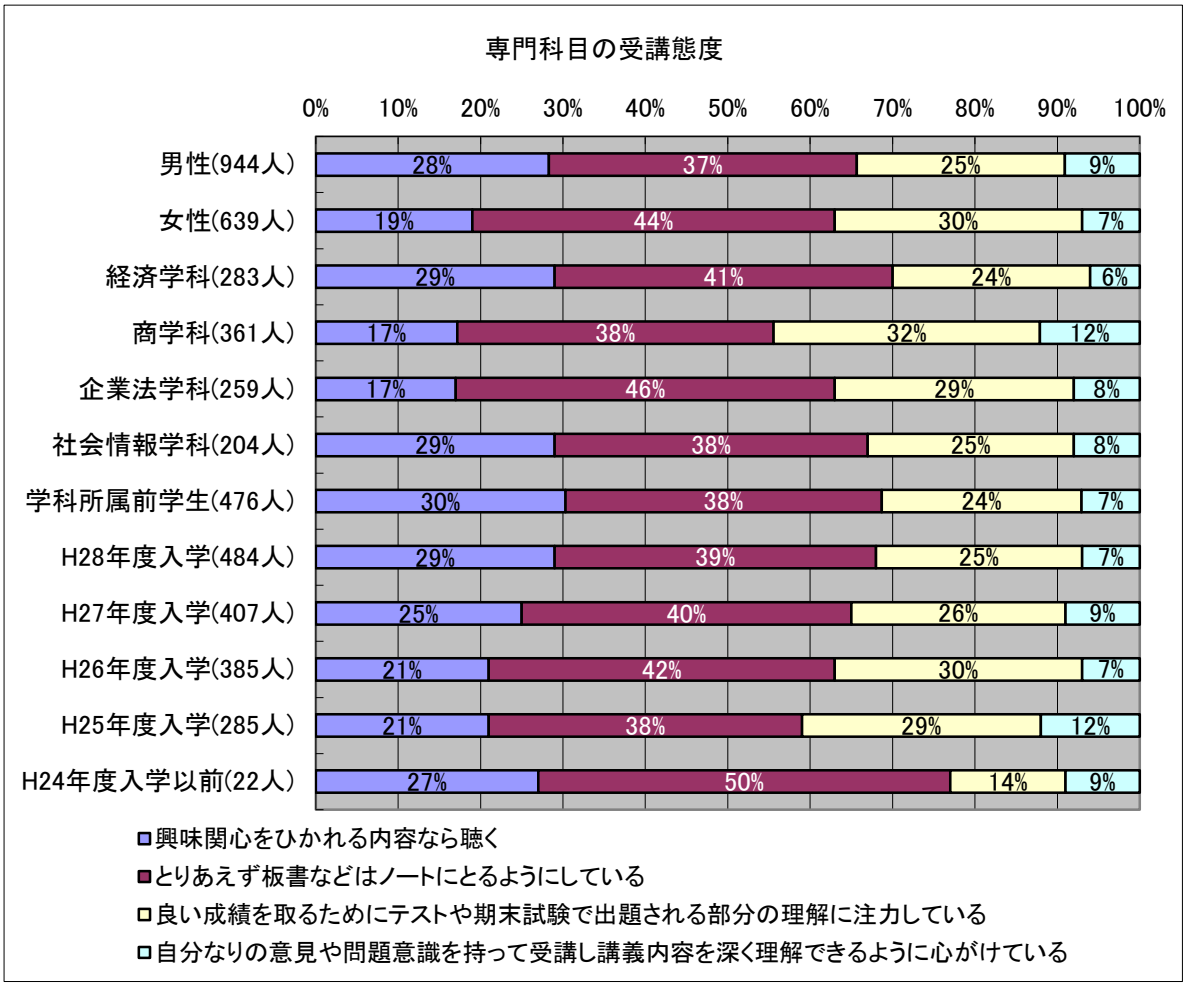


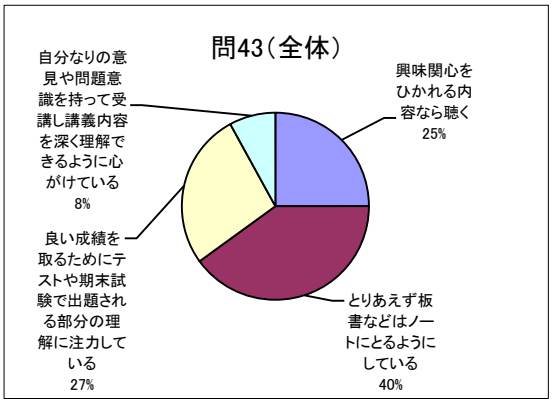



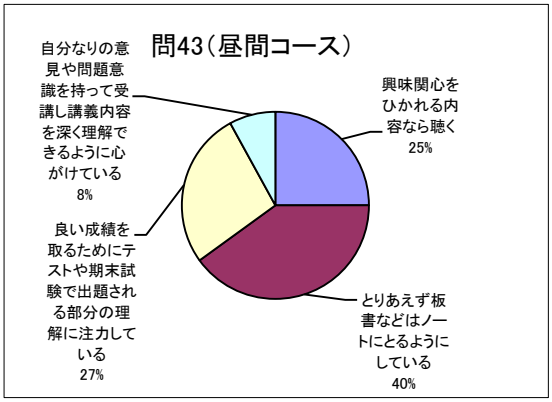



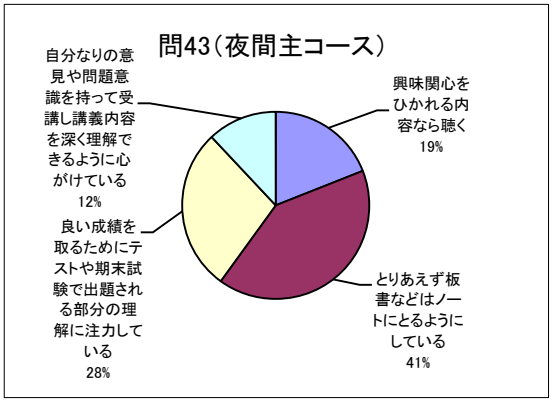



問 43　「受講態度」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。



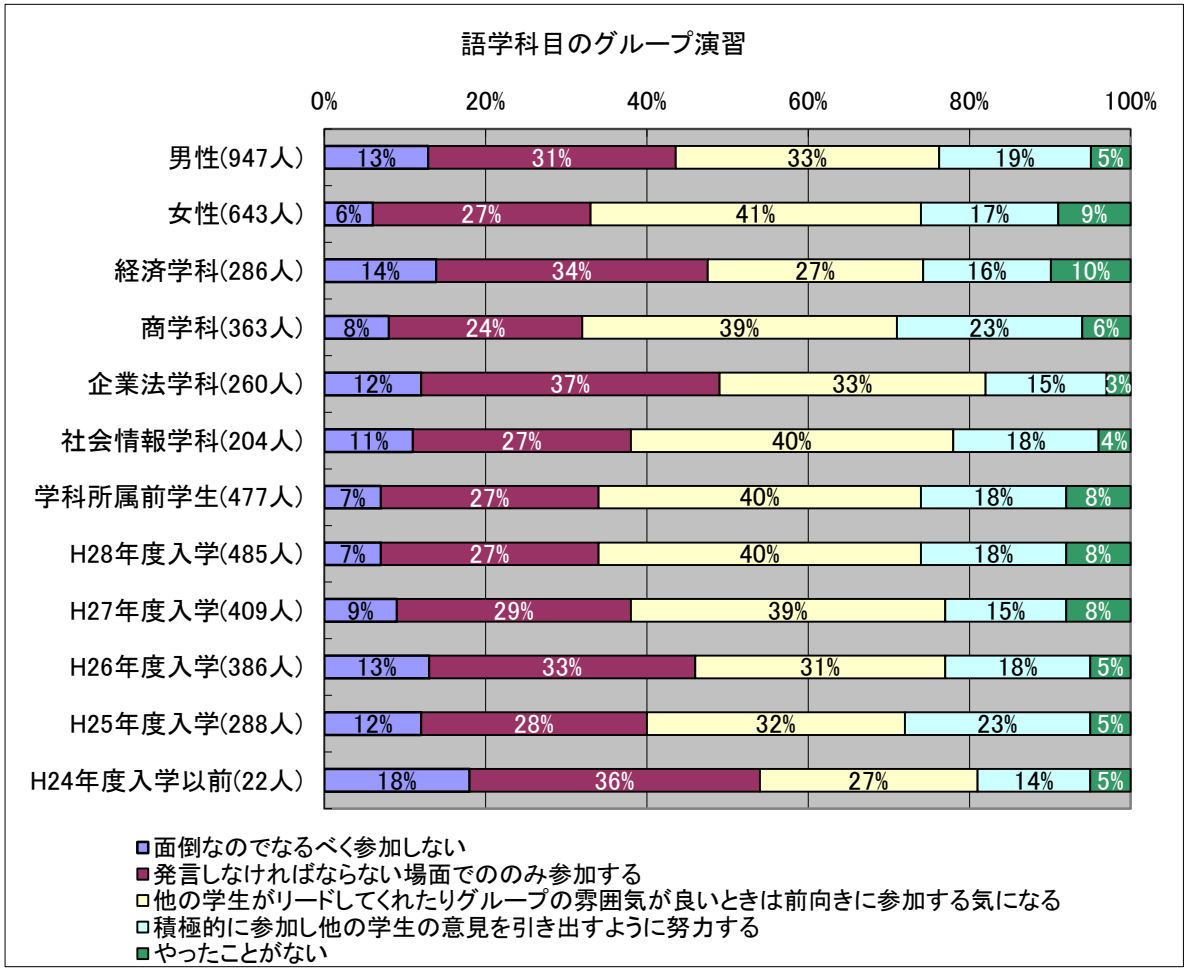



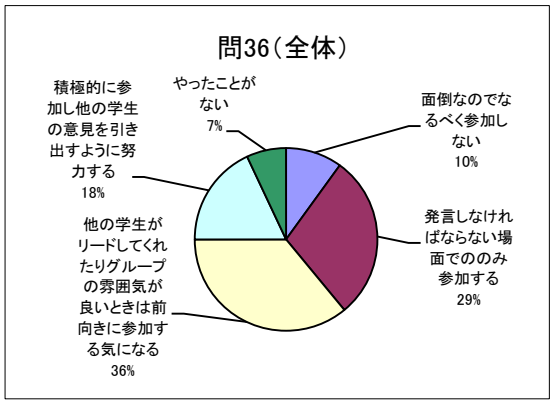



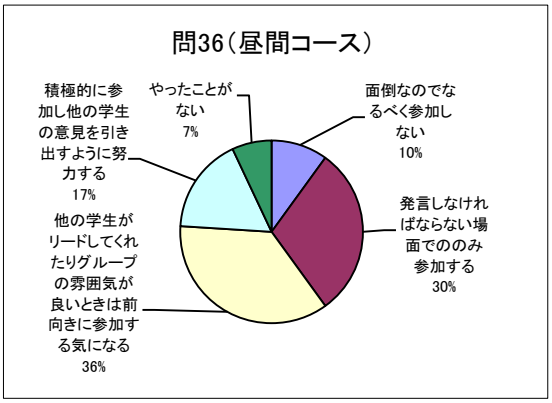
問 35・39・43 コメント

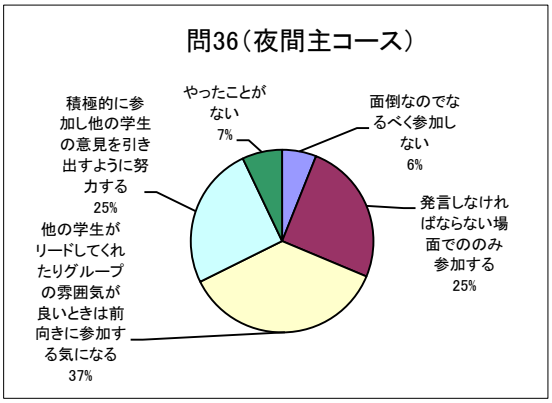
本学学生の学修態度を「受講態度」について分析した結果である。学生全体でみると，語学科目，基礎科目，専門科目を通じて，「興味関心をひかれる内容なら聴く」が 30%弱，「とりあえず板書などはノートにとる」が 40%強となっており，過半の学生が受動的な履修態度を取っていることが分かる。出席意向の調査と合わせて解釈すると，「とにかく出席はしておき，機械的にノートテイクしている」状態の学生が少なくないことが推察され，このことはアクティブ・ラーニングという観点から課題と言えよう。ただし語学科目と専門科目では「テストや期末試験で出題される部分の理解」を重視した受講態度がやや多くなることから，受講モラルを維持する上で，試験が一定の効果を持っていることも確認された。「自分なりの意見や問題意識を持って受講し，講義内容を深く理解できるように心がけている」を選択した割合は夜間主コース所属学生の方が高い。本学夜間主コースは原則として日中仕事に従事しながら履修することを想定されたカリキュラムが提供されており，いわゆる有職社会人学生を含む夜間主コース所属学生が相対的に主体的な学修動機を有することが推察される。

問 36　「グループ演習」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。

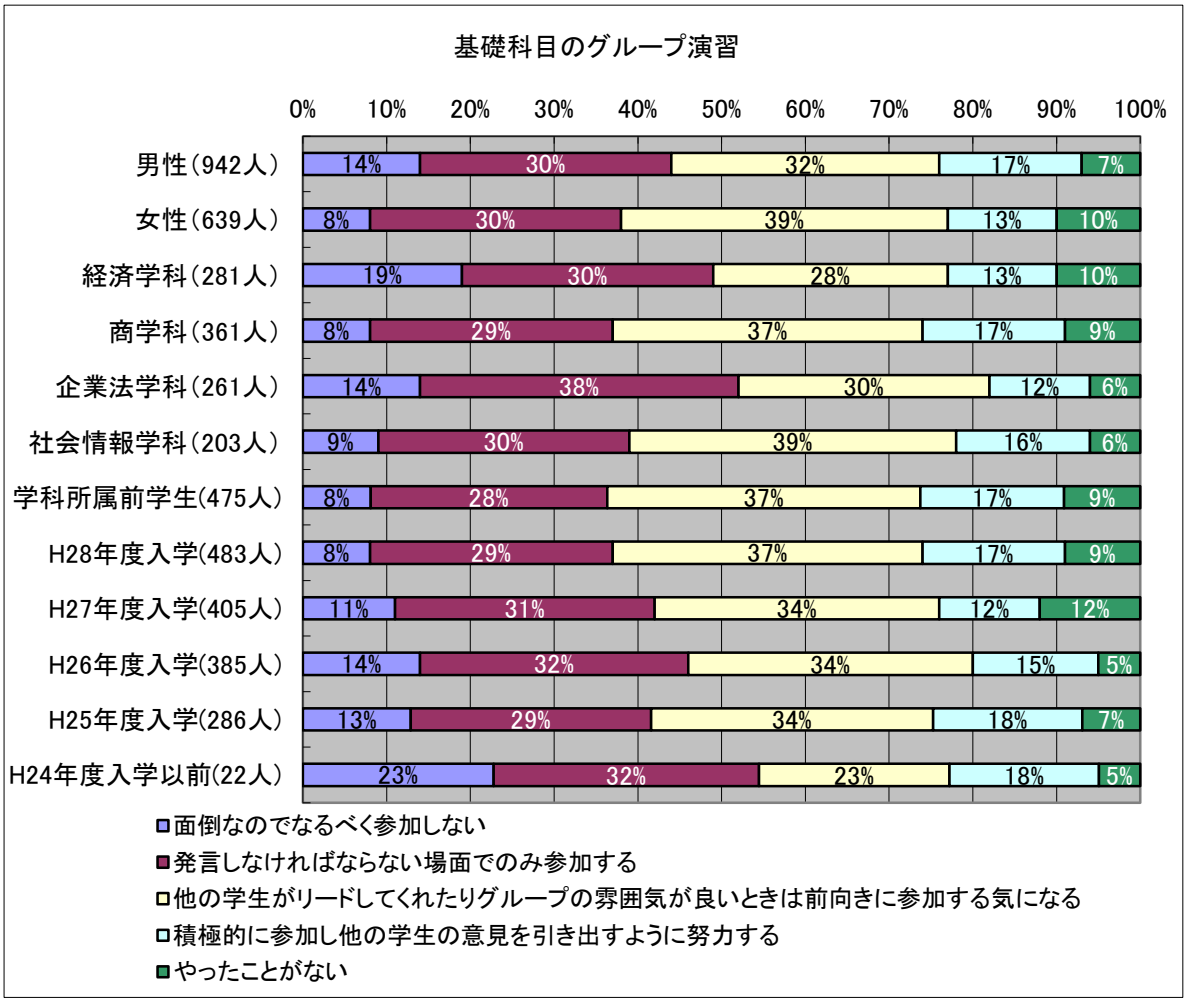


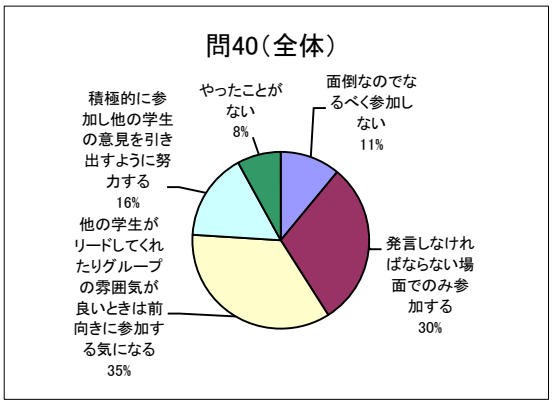


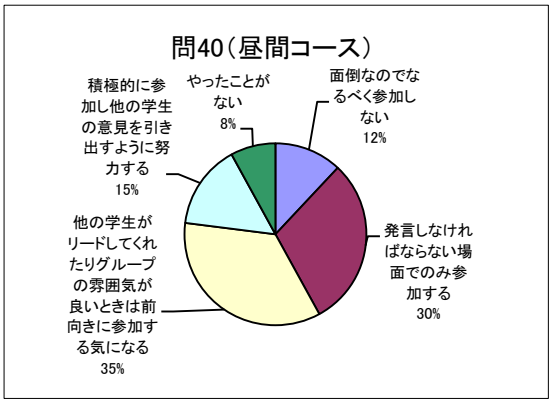



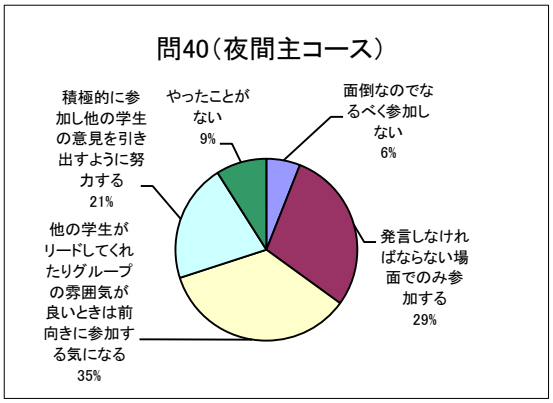




問 40　「グループ演習」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。

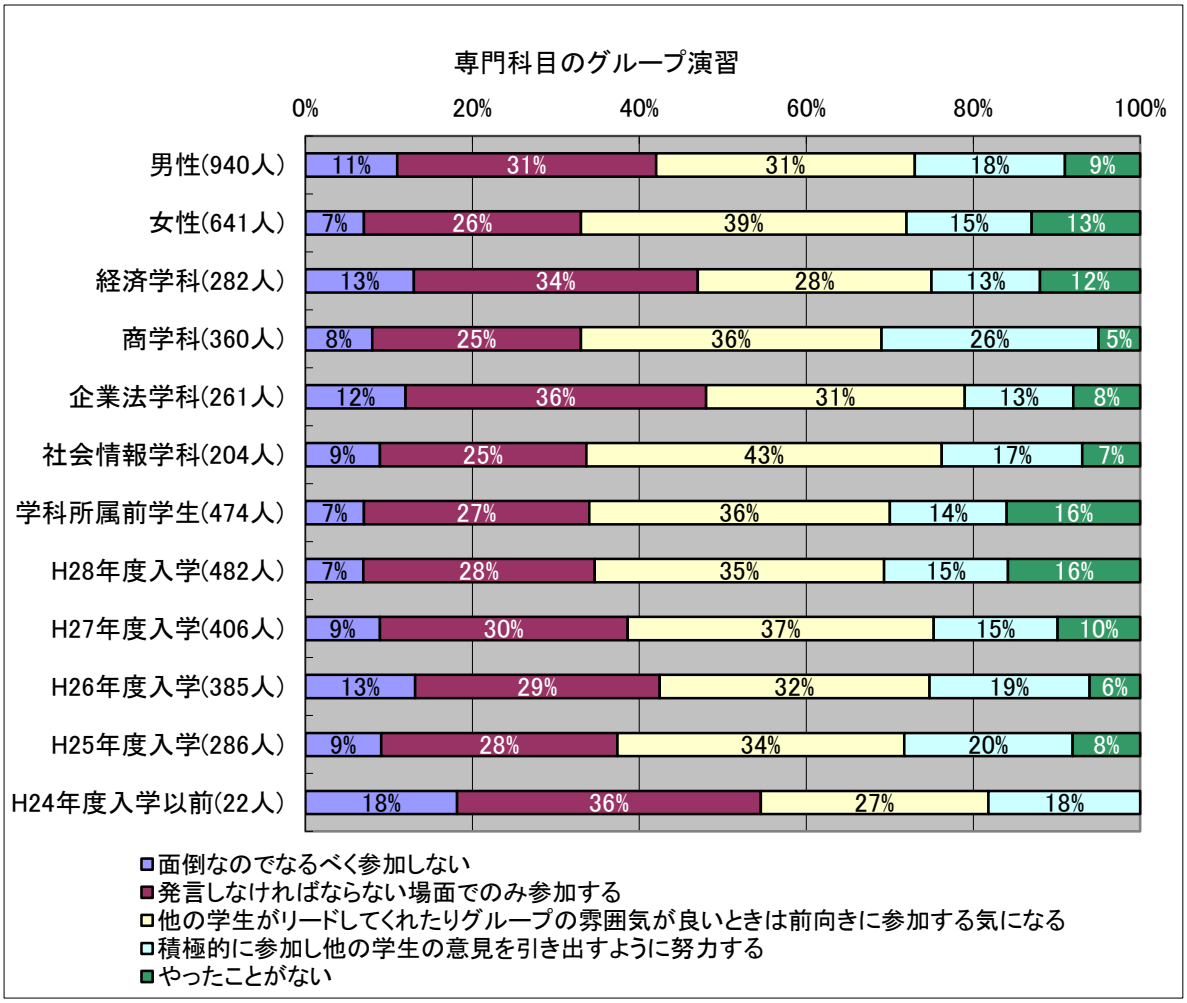


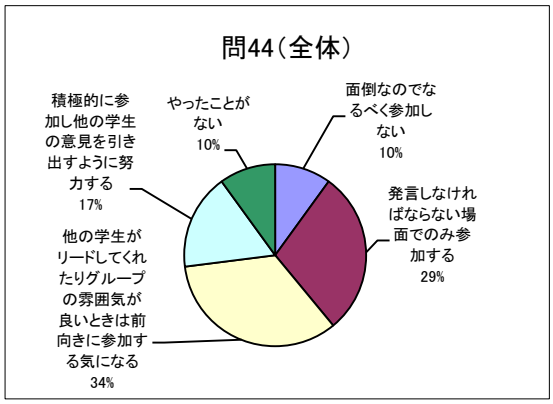


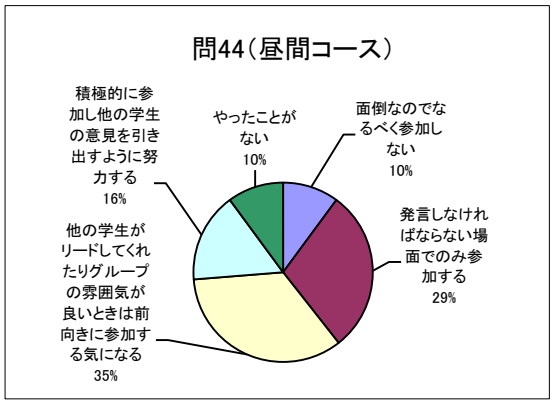



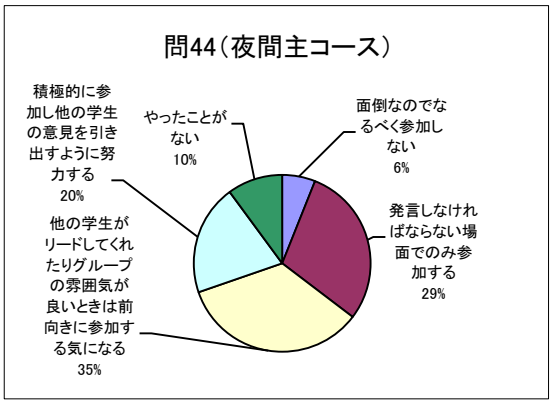




問 44　「グループ演習」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。





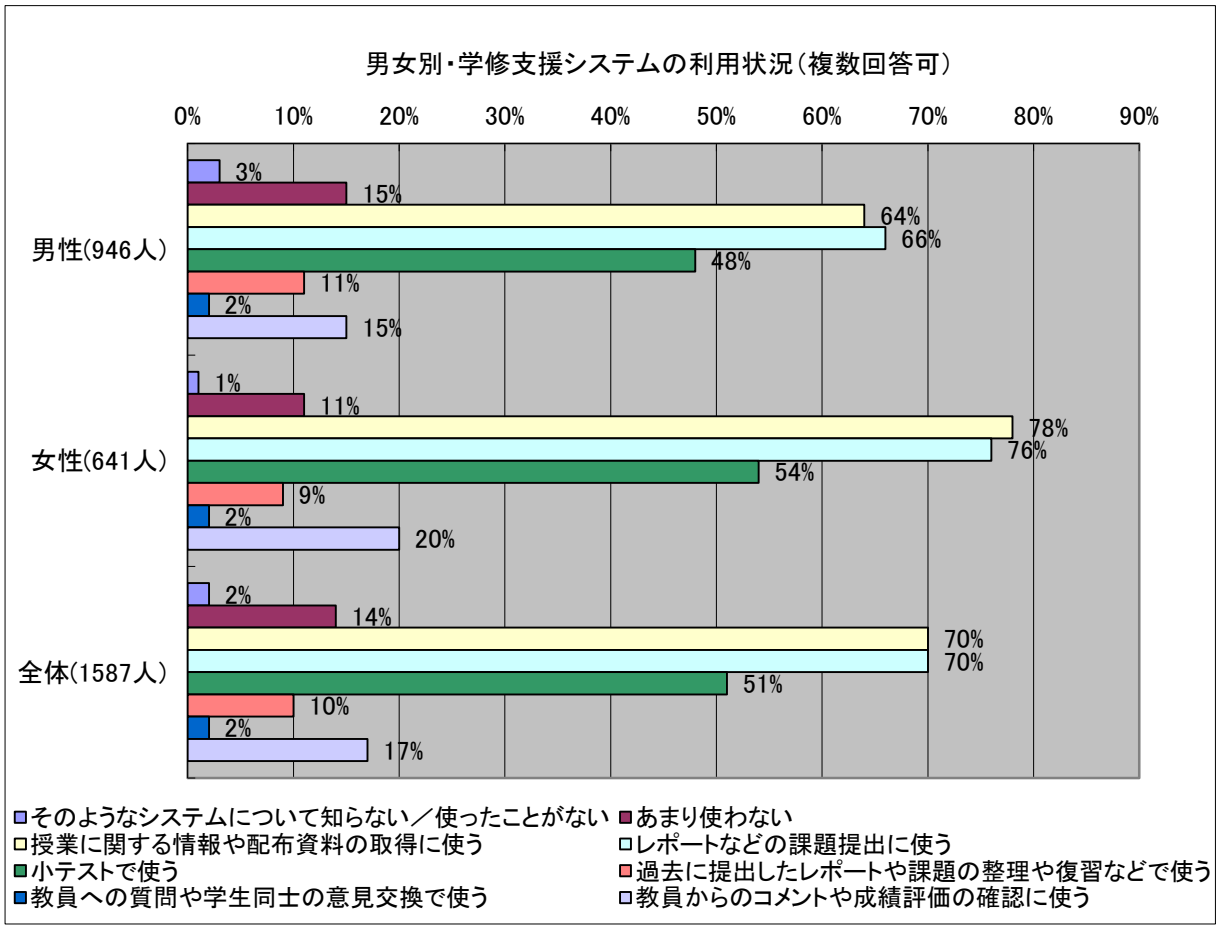



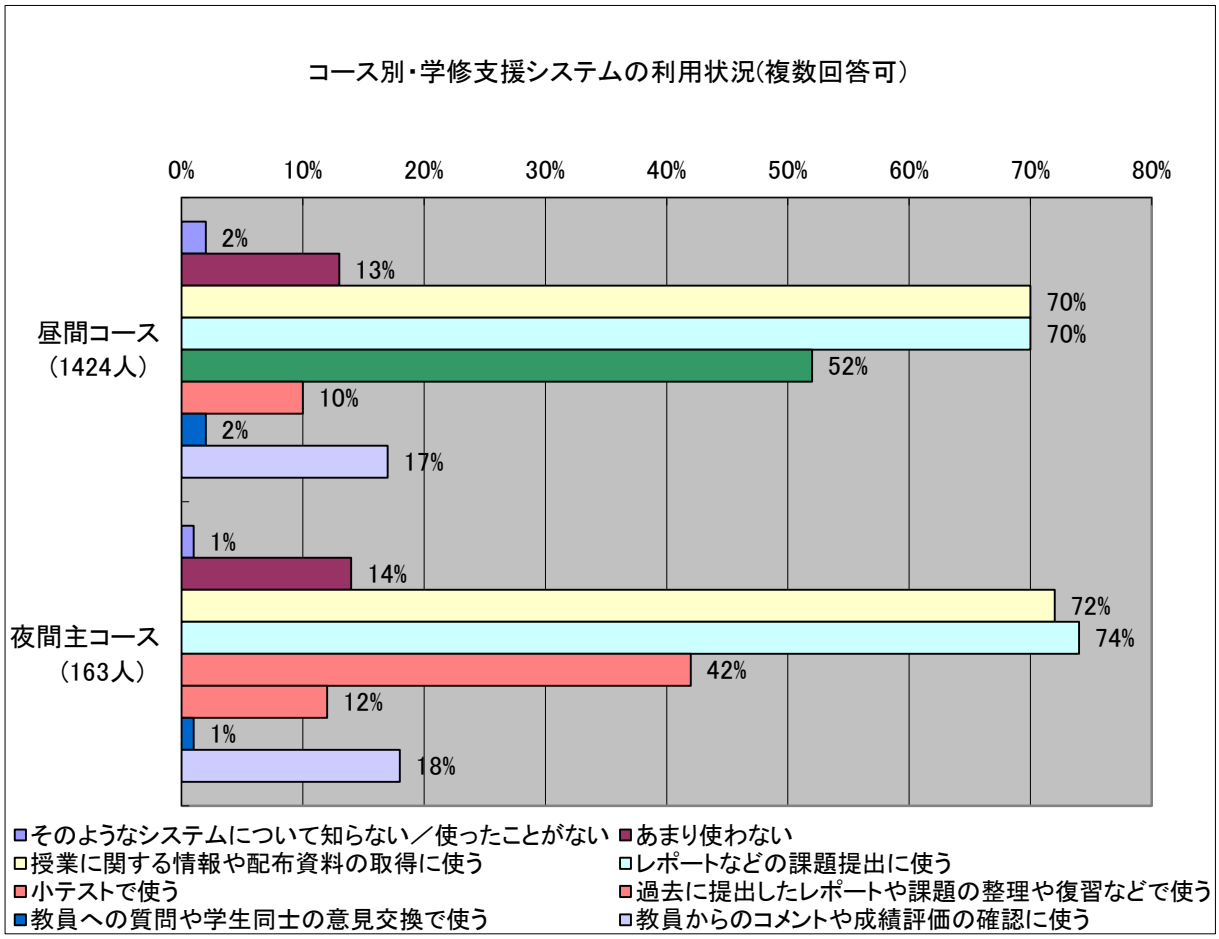



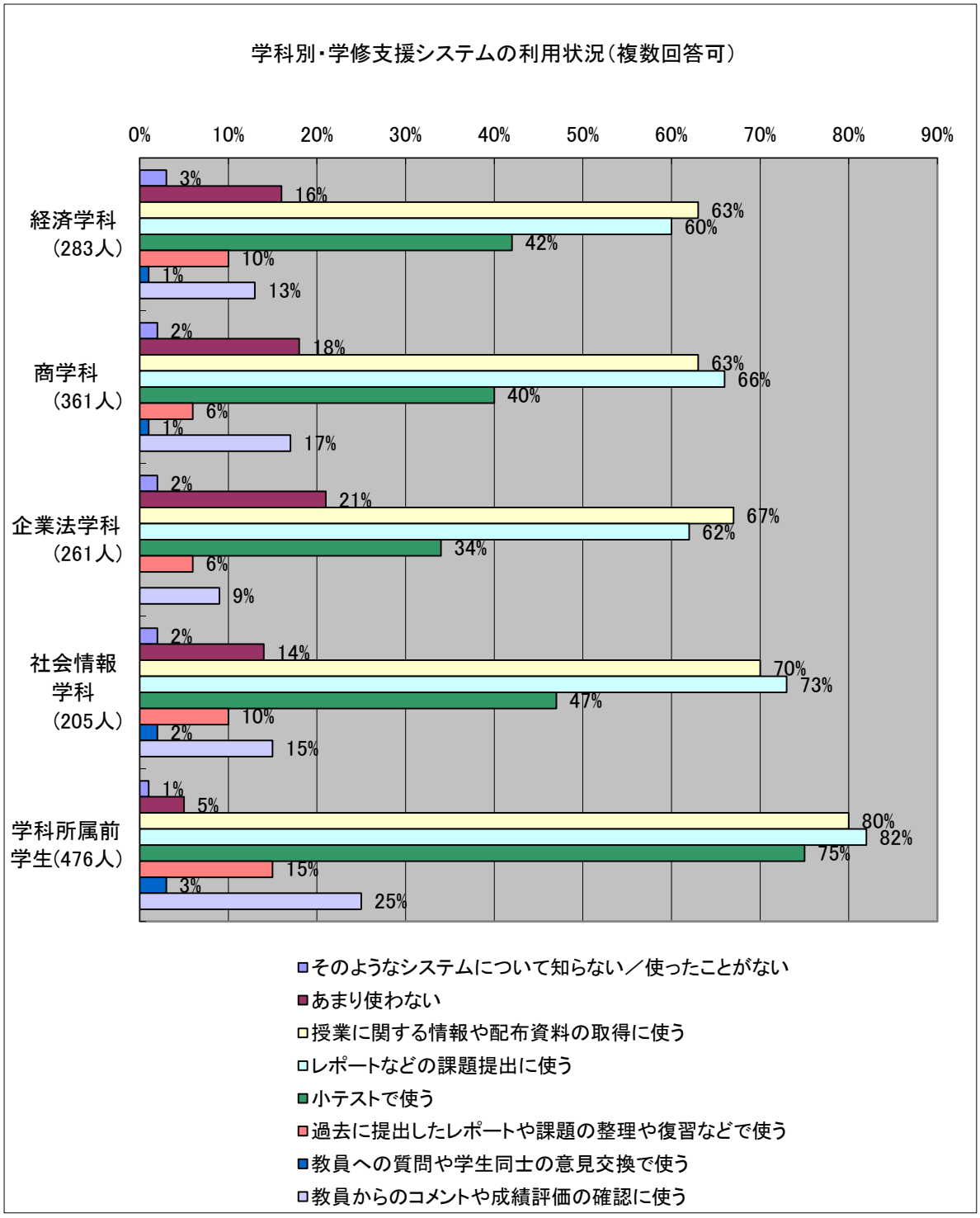

問 36・40・44 コメント

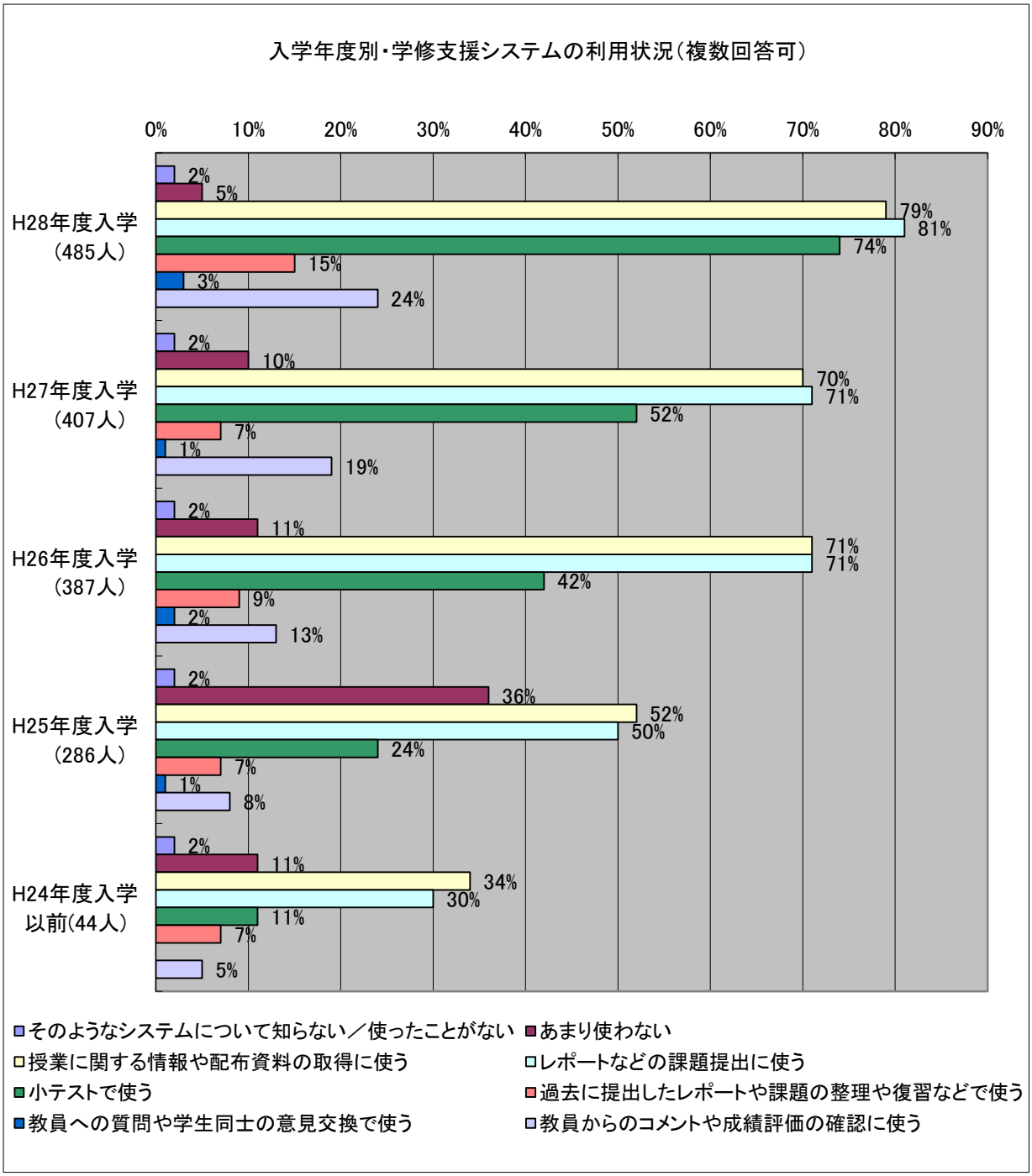
本学学生の学修態度を「グループ演習」について分析した結果である。語学科目，基礎科目，専門科目での差は少なく，いずれも「面倒なのでなるべく参加しない」が 10%前後，「発言しなければならない場面でのみ参加する」が 30%前後となっており，協調学修については消極的な態度を示す学生が少なくないことが分かる。ただし「他の学生がリードしてくれたり，グループの雰囲気が良いときは前向きに参加する気になる」がいずれも 30%半ばで多数となっており，グループ学修の形式について否定的という訳ではない。したがって，授業運営という観点では「積極的に参加し他の学生の意見を引き出すように努力する」と回答した 20%弱の学生とのグループ構成がグループとしての取り組み姿勢やクラス全体の学修態度を左右する要因となり得ることが分かる。またこの項目の調査には研究指導は含まれていないため，3 年次以降のゼミナール活動における協調学修環境については評価できない。

問 45　学修支援システム（manaba）について，あなたの利用状況で当てはまるものを選んでください。（複数回答可）



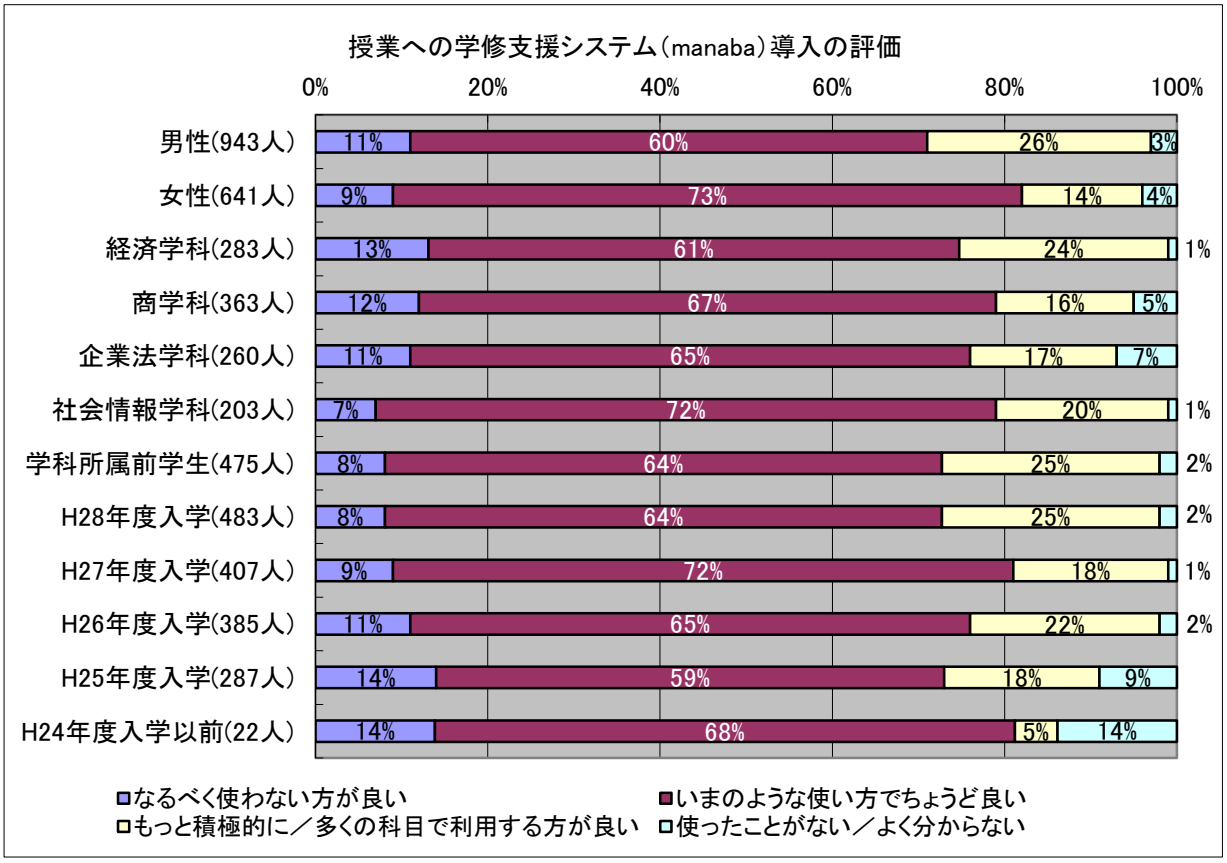

学科別・学修支援システムの利用状況（複数回答可）
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
経済学科（283人）
3%
16%
63%
60%
42%
10%
1%
13%
商学科（361人）
2%
18%
63%
66%
40%
6%
1%
17%
企業法学科（261人）
2%
21%
67%
62%
34%
6%
9%
社会情報学科（205人）
2%
14%
70%
73%
47%
10%
2%
15%
学科所属前学生(476人)
1%
5%
80%
82%
75%
15%
3%
25%
そのようなシステムについて知らない／使ったことがない
あまり使わない
授業に関する情報や配布資料の取得に使う
レポートなどの課題提出に使う
小テストで使う
過去に提出したレポートや課題の整理や復習などで使う
教員への質問や学生同士の意見交換で使う
教員からのコメントや成績評価の確認に使う

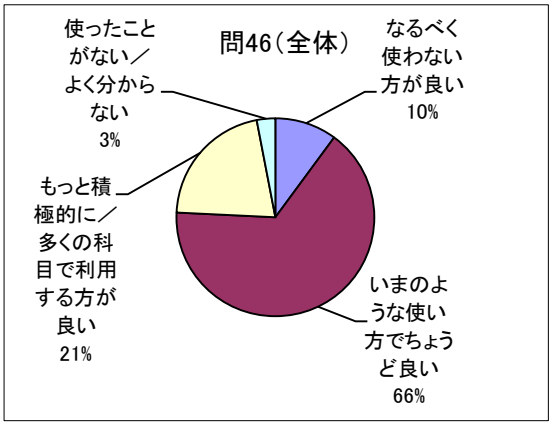


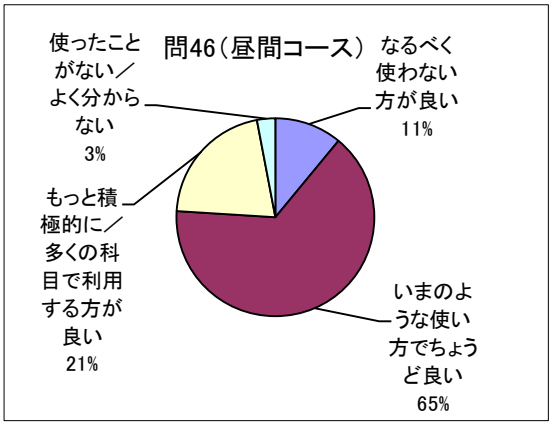

問 45　コメント

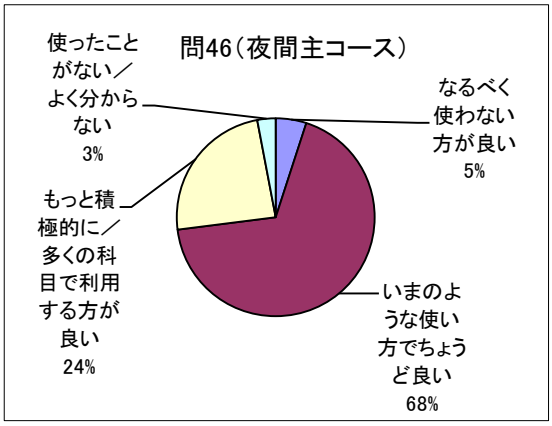
学修支援システム（manaba）は前回調査以降に本格導入されたため，その利用状況や学生の意見を全学的に取りまとめたのは今回の調査が初めてである。平成 25 年度入学生（4 年生）のみ，「あまり使わない」が 36%となったが，3 年生以下は何らかの用途で利用している。これは同システムの本格導入が平成 26 年度であったことが要因である。「授業に関する情報や配付資料の取得」と「レポートなどの課題提出」がともに 70%程度であり，いわゆる e ラーニングシステムを代替する機能が最も日常的に利用されていることがわかる。1 年生で「小テストで使う」が多いのは，主に語学科目での活用が先行して進んでいることが背景にあると推察される。「過去に出したレポートの整理や復習」として 10%程度，「教員からのコメントや成績評価の確認」といった学修ポートフォリオ機能として 20%程度の学生が利用しており，「教員への質問や同士の意見交換」のような教員や学生間のコミュニケーション支援機能についても一部で活用され始めていることが伺える。

問 46　授業への学修支援システム（manaba）導入をどのように考えているか当てはまるものを選んでください。



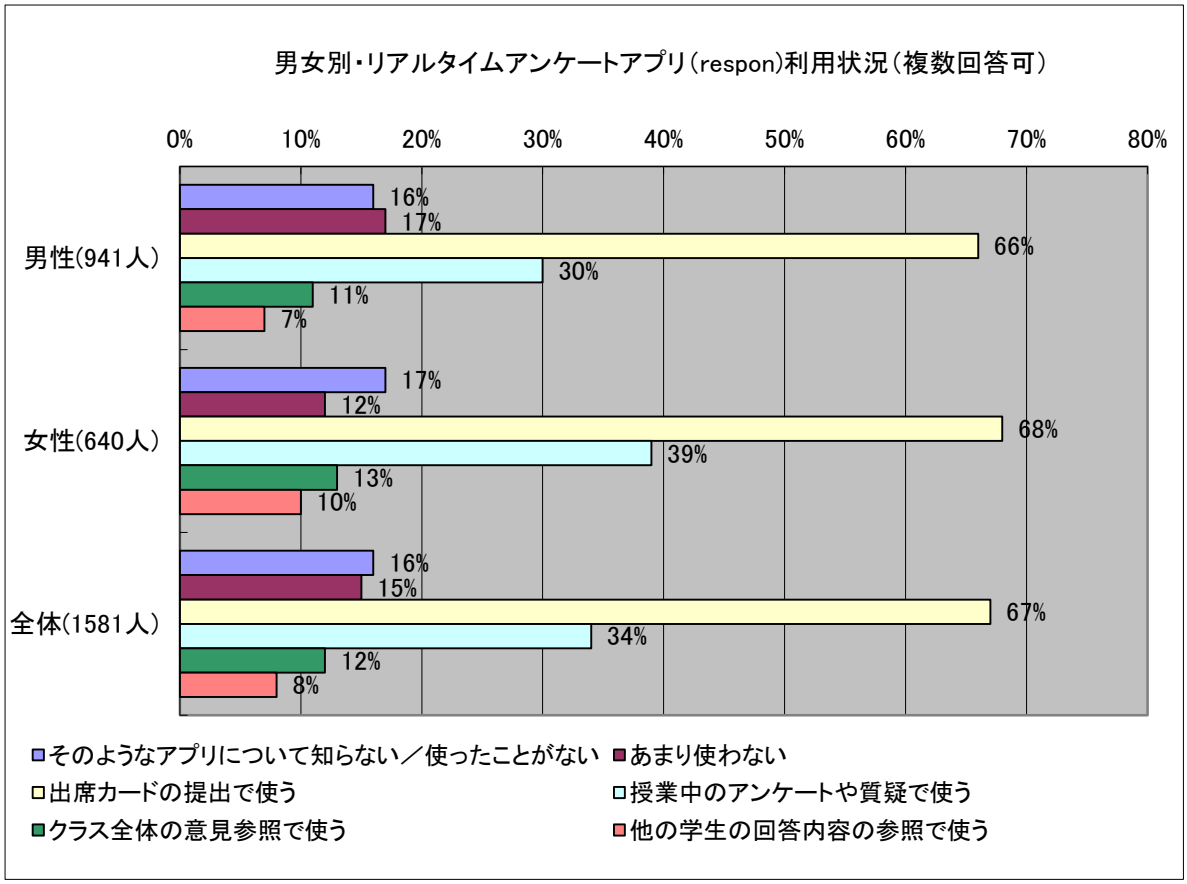



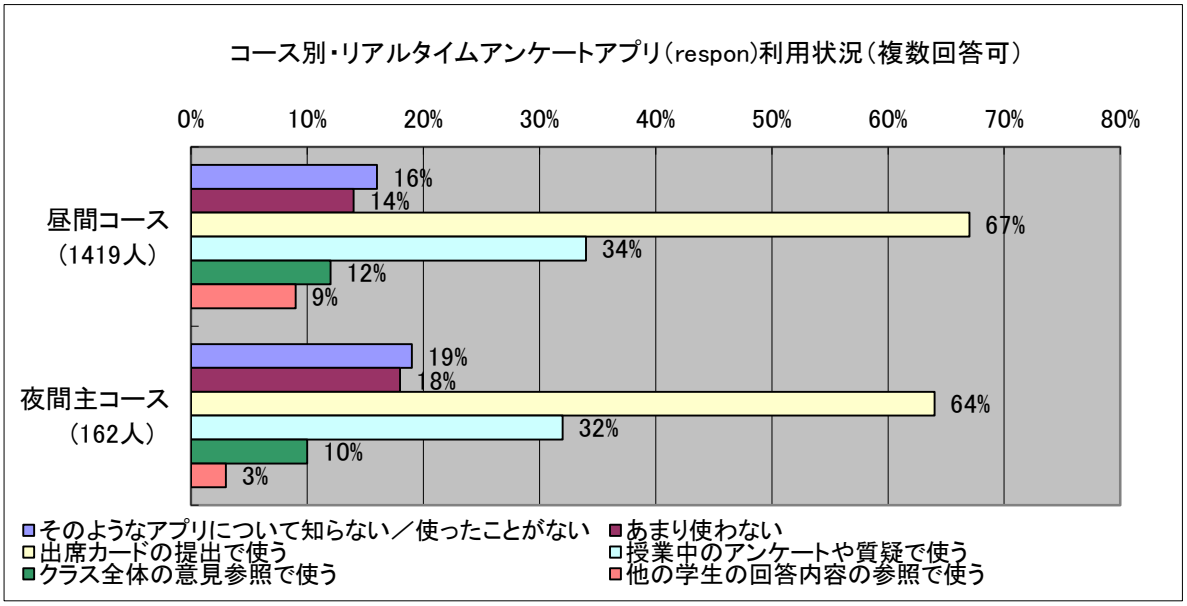



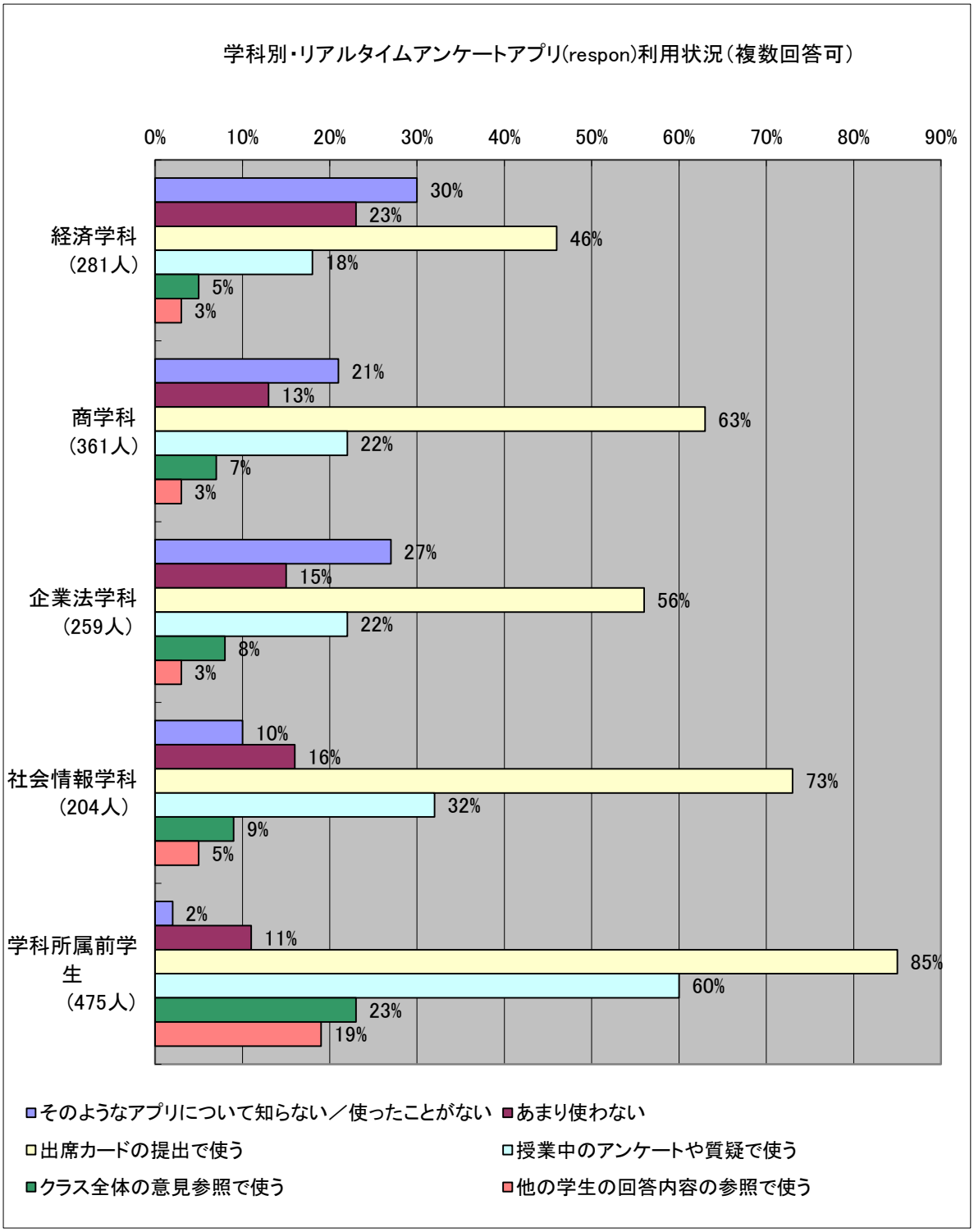
問 46　コメント

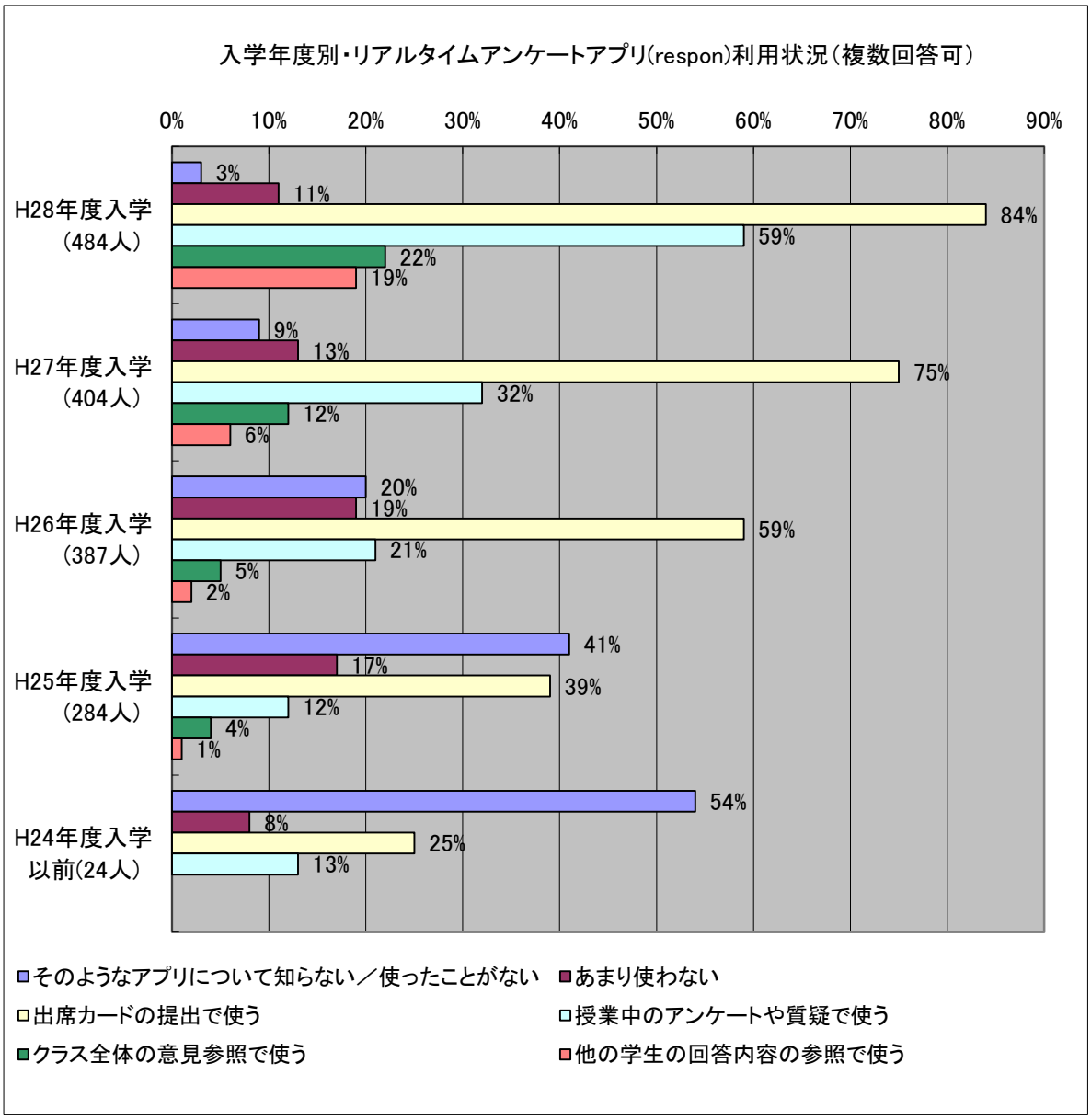
学修支援システムについての学生からの評価は，「いまのような使い方でちょうど良い」が 66%，「もっと積極的に／多くの科目で利用する方が良い」が 21%となり，同システムの導入・利用について前向きに評価する学生が過半であることが分かった。他方「なるべく使わない方が良い」と回答した学生も 10%程度居り無視することはできない。今回の調査では十分に評価できなかったが，自宅のインターネット環境や自分専用の PC などによって利用条件に制約が生じていることなどが要因ではないかと推察される。

問 47　リアルタイムアンケートアプリ（respon）について，あなたの利用状況で当てはまるものを選んでください。（複数回答可）



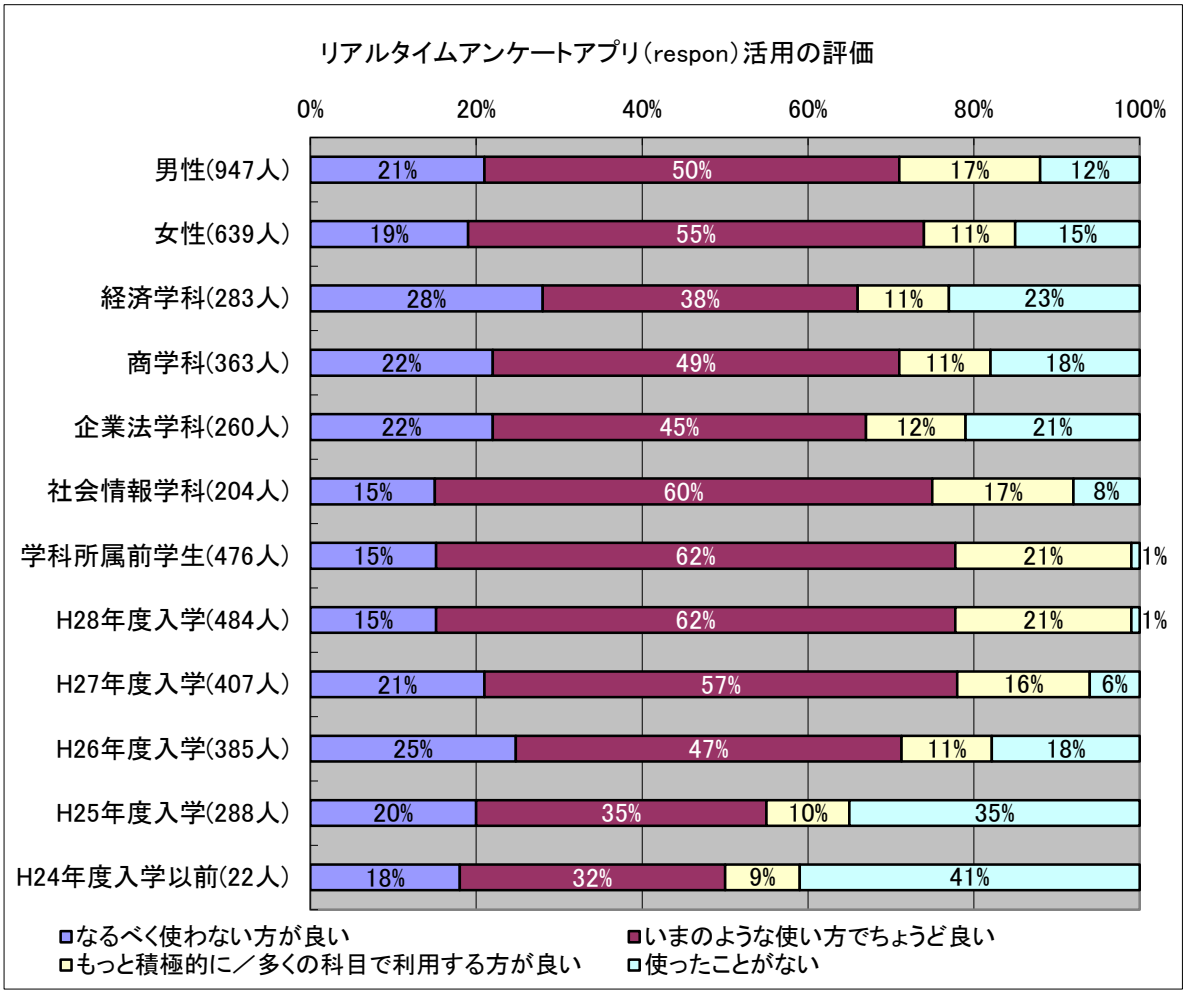

学科別・リアルタイムアンケートアプリ(respon)利用状況（複数回答可）
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
経済学科
（281人）
30%
23%
46%
18%
5%
3%
商学科
（361人）
21%
13%
63%
22%
7%
3%
企業法学科
（259人）
27%
15%
56%
22%
8%
3%
社会情報学科
（204人）
10%
16%
73%
32%
9%
5%
学科所属前学生
（475人）
2%
11%
85%
60%
23%
19%
そのようなアプリについて知らない／使ったことがない
あまり使わない
出席カードの提出で使う
授業中のアンケートや質疑で使う
クラス全体の意見参照で使う
他の学生の回答内容の参照で使う

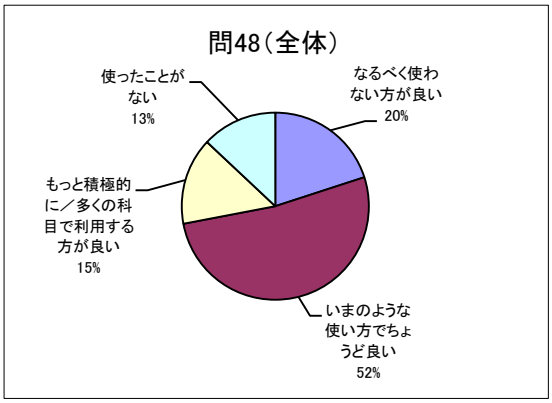


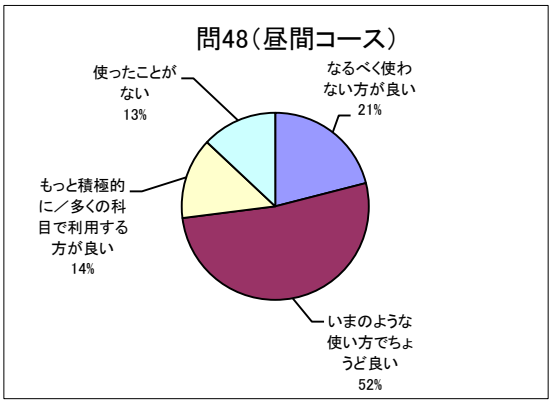

問 47　コメント

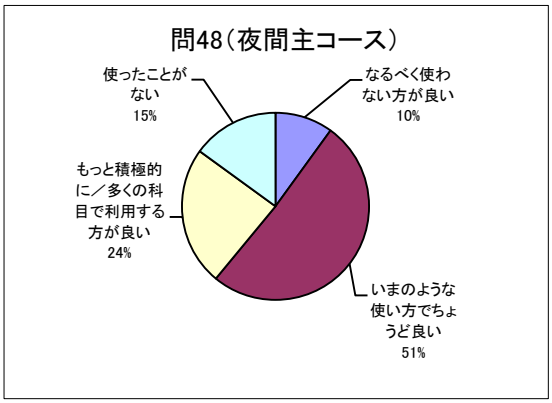
学生私有の情報端末（スマートフォン）にインストールさせて利用するリアルタイムアンケートアプリ（respon）は，平成 27 年度より本格的に導入されたことと，比較的受講者数の多い大規模クラスで先行的に導入が進められたことから学年間での利用状況の差が大きくなっている。現時点では「出席カードの提出」が 70%弱，「授業中のアンケートや質疑」が 30%強となっており，「クラス全体の意見参照（12%）」や「他の学生の回答内容の参照（8%）」を大きく上回る。出席確認機能を除けば，リアルタイムに学生の意見を集約するいわゆるレスポンスシステムとしての機能が最も活用され，受講者間の意見参照といったコミュニケーション支援機能を幅広く活用している講義そのものが少ないことが要因であろう。

問 48　授業でのリアルタイムアンケートアプリ（respon）活用をどのように考えているか当てはまるものを選んでください。



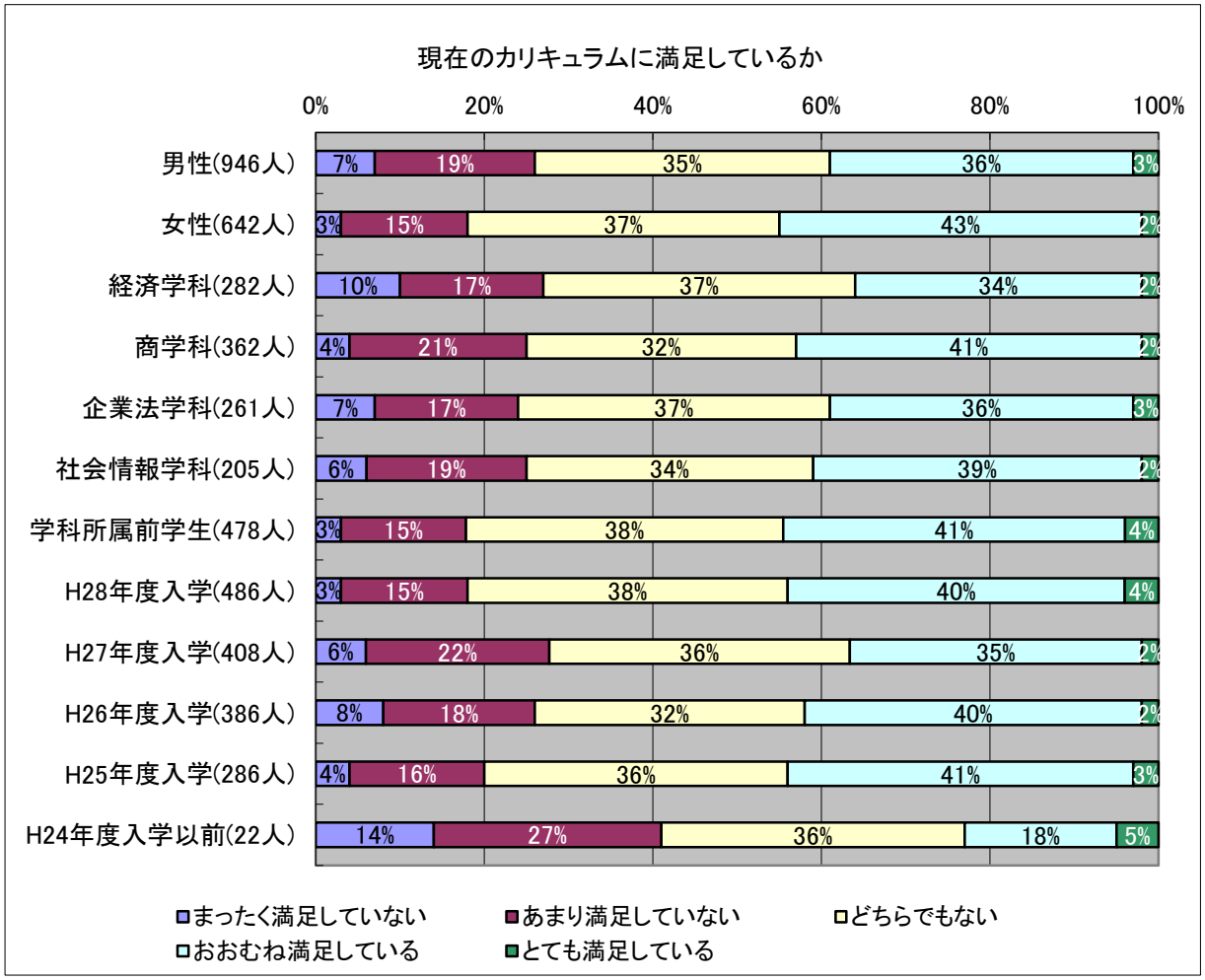



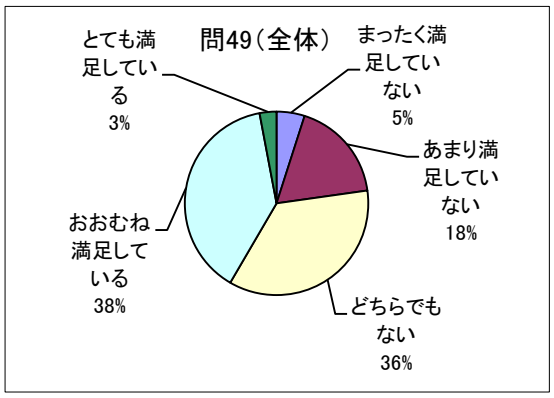
問 48　コメント

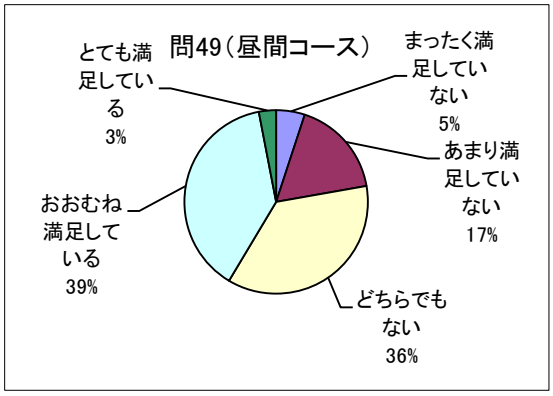
リアルタイムアンケートアプリ活用についての学生の評価は，「いまのような使い方でちょうど良い」52%，「もっと積極的に／多くの科目で利用する方が良い」15%と概ね好意的に受け入れられている。ただし本システムは導入してから十分な時間が経過しておらず，利用している授業も限定的であることから，確定的な評価を下すにはもう少し時間を要するものと考えられる。「なるべく使わない方が良い（20%）」は，学修管理システム同様に学生私有のスマートフォンと個人契約の通信回線の利用を事実上の前提としているため，利用環境についての不満と考えられる。

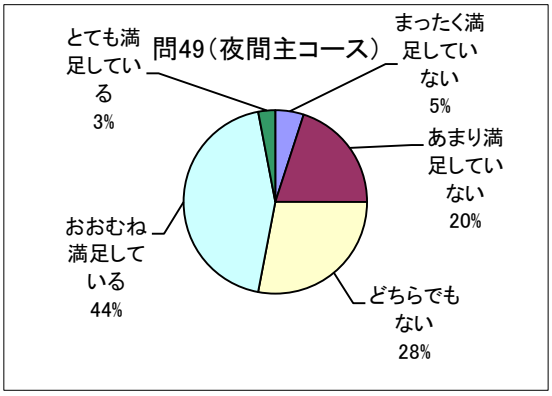
※なお，本学では学生の希望に応じて，AL サポートセンターでタブレット端末の期間貸与を行い，学内の無線ネットワーク接続環境は継続的に増強し利便性の向上を図っている

問49　現在のカリキュラムに満足していますか。



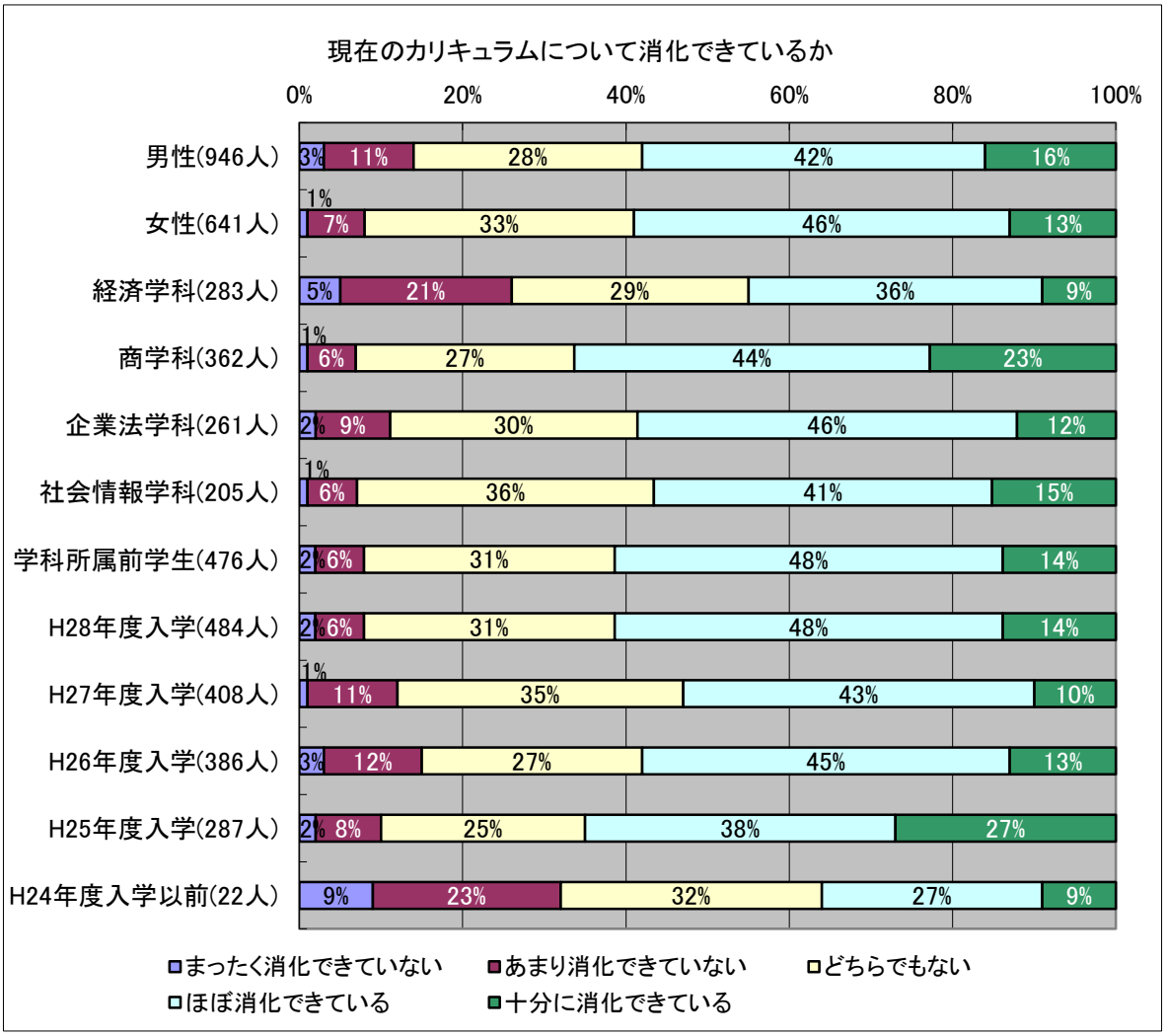


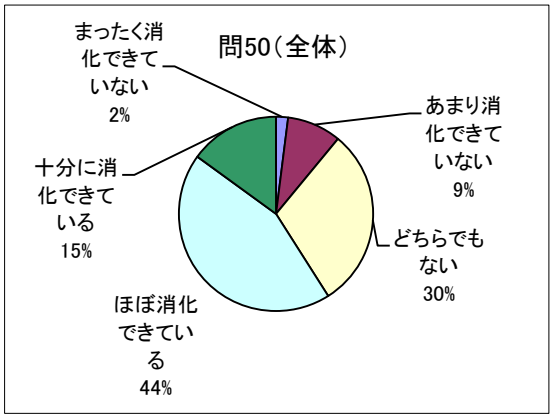



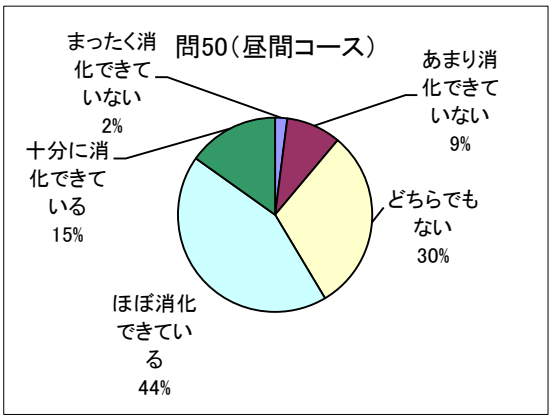

問 49　コメント

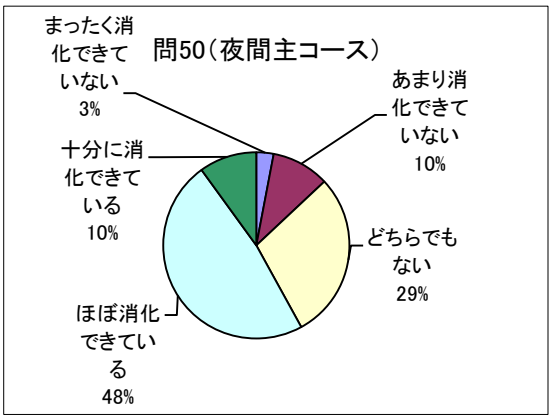
カリキュラム満足度については前回でも調査を実施している。前回調査では「満足している」23%，「どちらかというと満足」38%，「満足していない」7%，「やや満足してない」11%であり，今回の調査では「とても満足している」3%，「おおむね満足している」38%，「まったく満足していない」5%，「あまり満足していない」18%となった。これらに対して「どちらでもない」が 21%（H25）から 36%（H28）と大きく増加したが，これは「どちらかというと満足」という選択肢をなくしたことの影響も考えられる。また不満群全体としてはやや増加しており，カリキュラムへの不満の要因についてさらなる分析が求められる。

問50　現在のカリキュラムを消化できていますか。





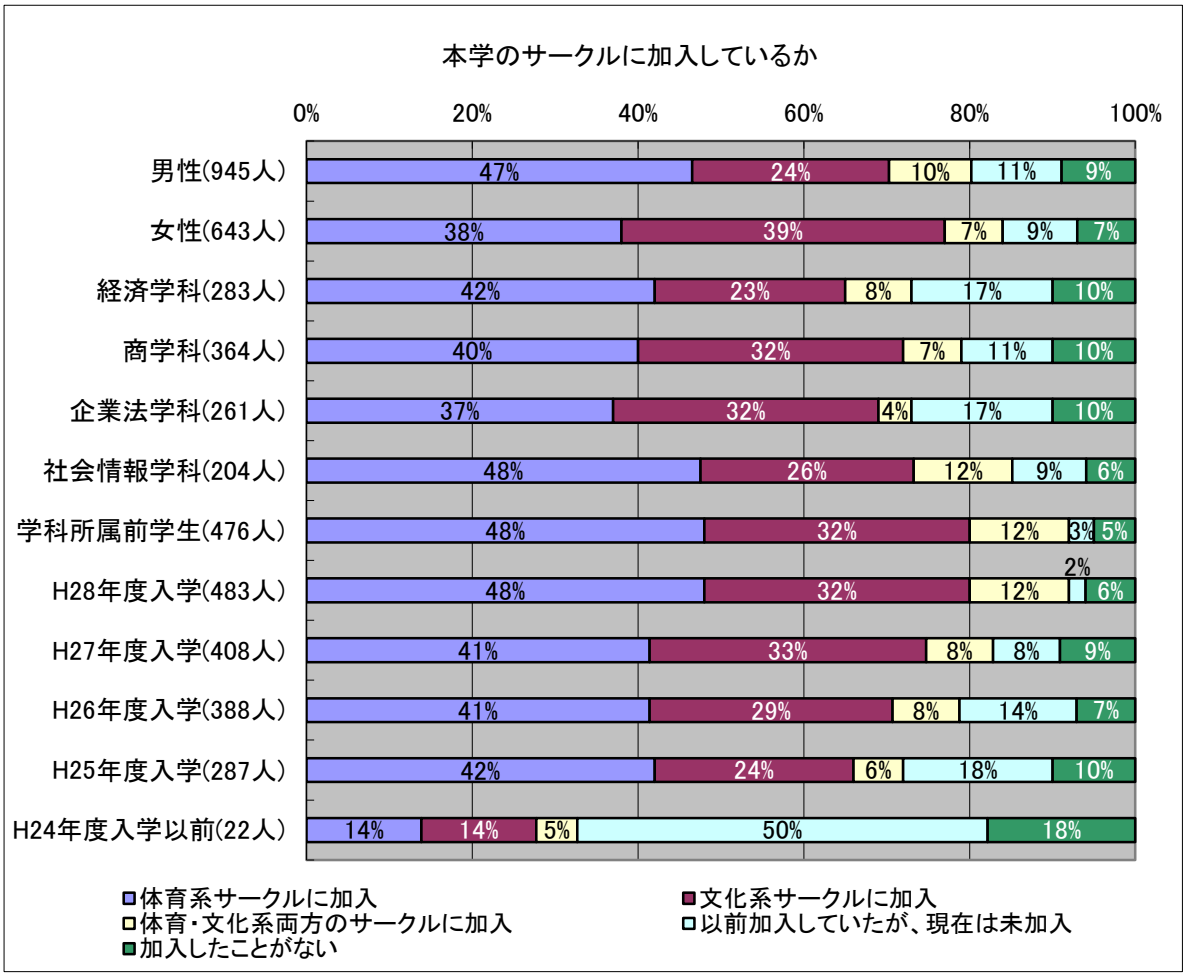



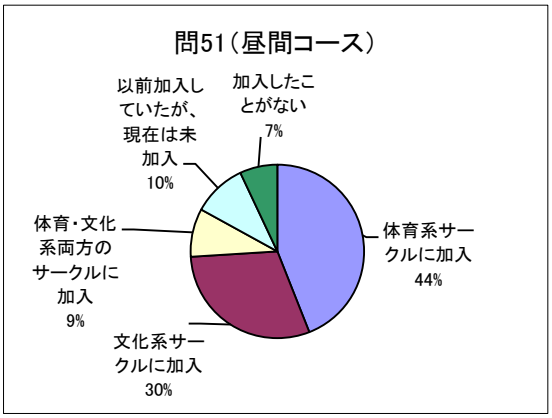

問 50　コメント

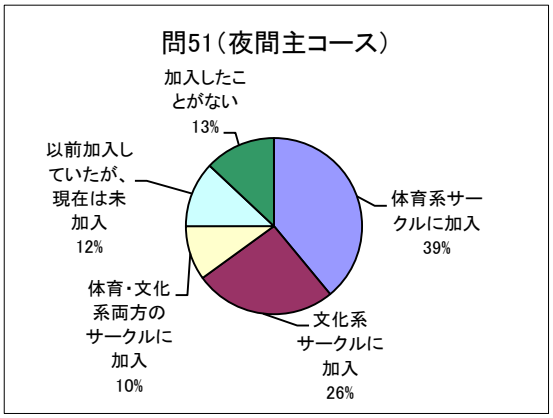
前回の調査結果が「消化できている」40%，「どちらかというと消化できている」37%，「消化できていない」2%，「どちらかというと消化できていない」6%であったのに対して，今回は「十分に消化できている」15%，「ほぼ消化できている」44%，「まったく消化できていない」2%，「あまり消化できていない」9%と変化している。またカリキュラム満足度同様に「どちらでもない」が 15%（H25）から 30%（H28）と増加しているが，これも「どちらかというと消化できている（消化できていない）」の選択肢を無くしたことによる影響と推察される。経済学科においてカリキュラム消化状況が低下しているのは，２年生進級時の不本意配属の影響が考えられる。

## 7　課外活動について

問 51　本学のサークルに加入していますか。（サークル：本学において学生が組織する部，サークル及び同好会等で顧問教員をおいている本学公認の団体）



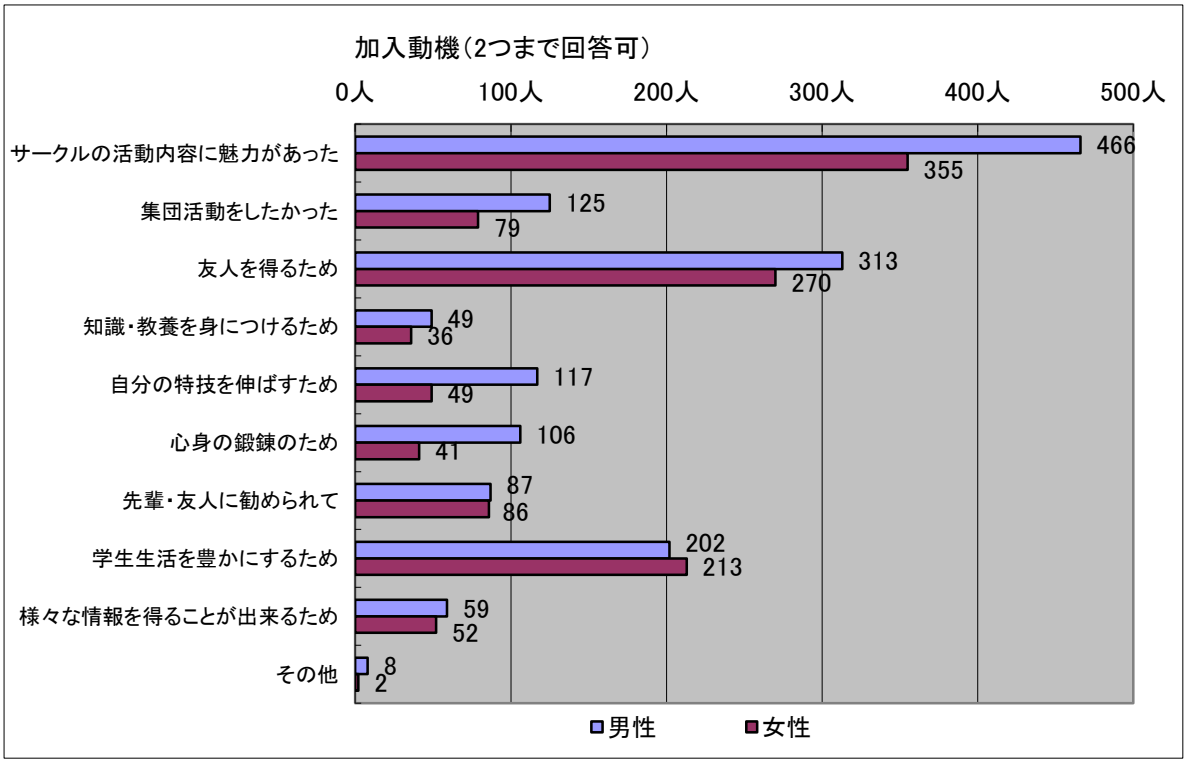




問51　コメント

男女共，8 割以上の学生が何らかのサークルに加入している実態は変化がない。その際，やはり今回も，女性の文化系サークルへの加入率（39%）が大きく男性のそれ（24%）を上回っている。学科別の傾向というものは顕著に見られるものではないが，学年別となると，学年が進むにつれて加入率が減少していくのは今回も同様である。今回は，体育系はそれほどではないものの，文化系サークル加入率が学年進行と共に 33%（2 年次生）から 24%（4 年次生）へと大きく減少しているのが目を引く。

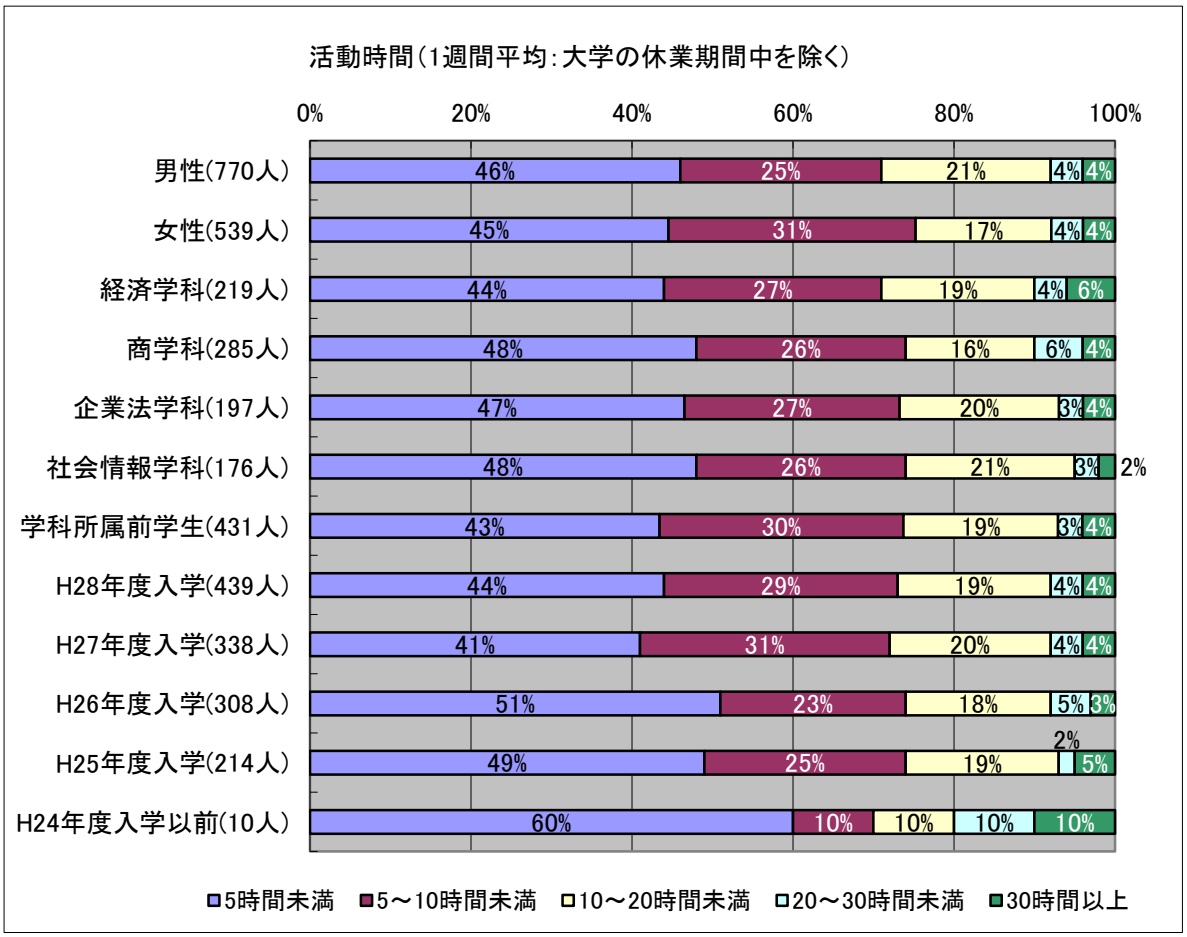
問 52　本学のサークルに加入した動機は何ですか。（2 つまで回答可）

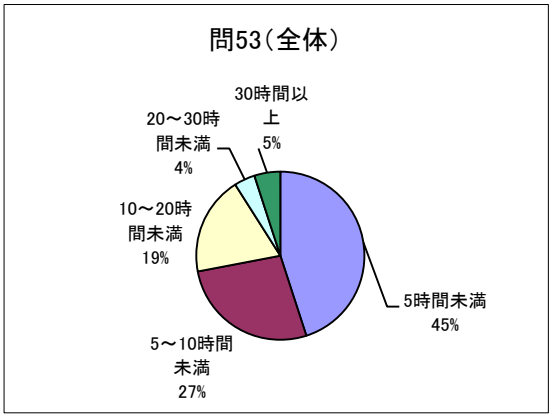


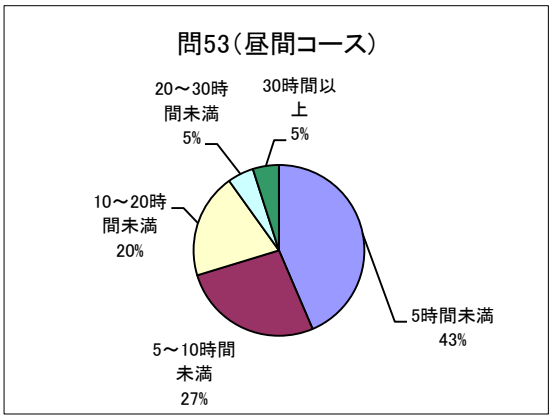

問52　コメント

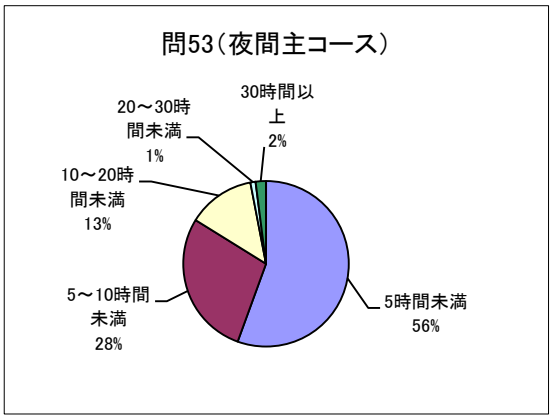
毎回の傾向だが，「活動内容に魅力があった」を先頭に，「友人を得るため」，「学生生活を豊かにするため」が続く。このうち，「学生生活を豊かにするため」という回答では，女性が男性を上回っているが接近しているが，この問い自体漠然としたところがある。推察するに，サークル加入率を問う問 51 の結果も勘案すると，女性の方が男性より「大学に入ったらとにかく何かサークルに入りたい」という漠然とした希望が強いのではないだろうか。

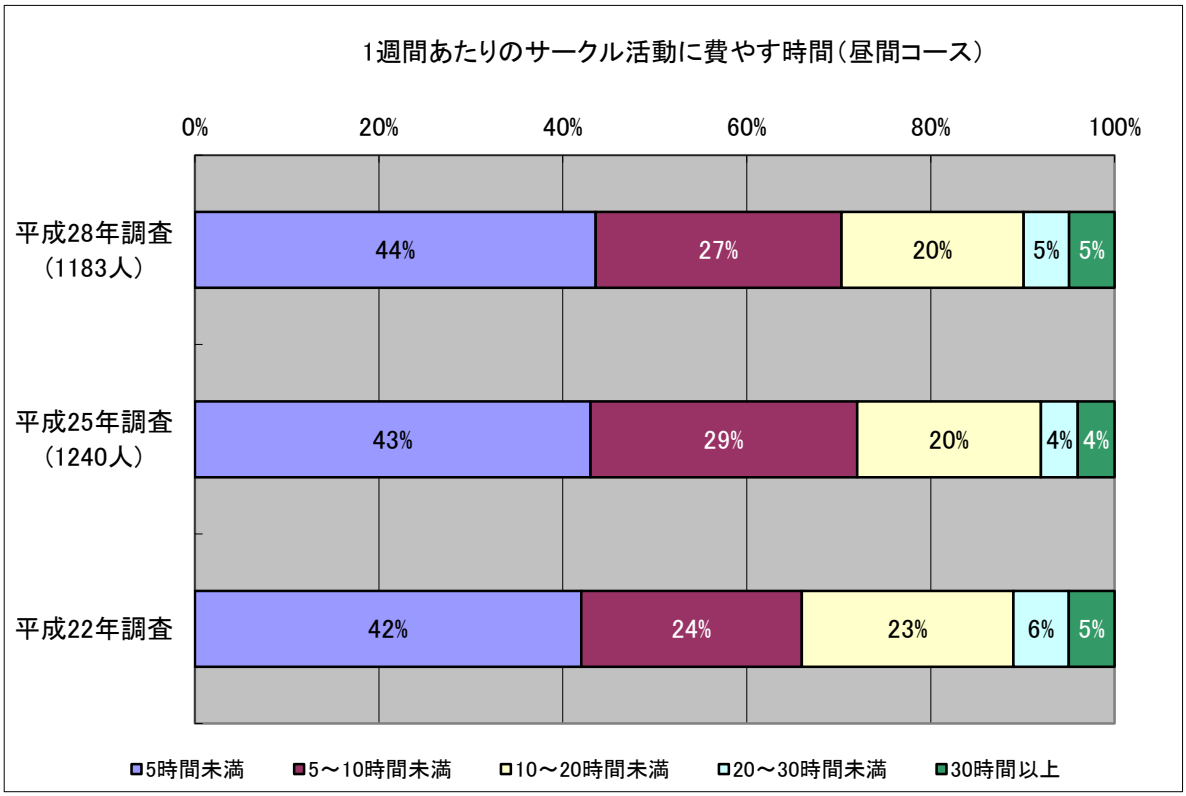
問 53　サークル活動に費やす時間は 1 週間に平均何時間ですか。（大学の休業期間を除く）

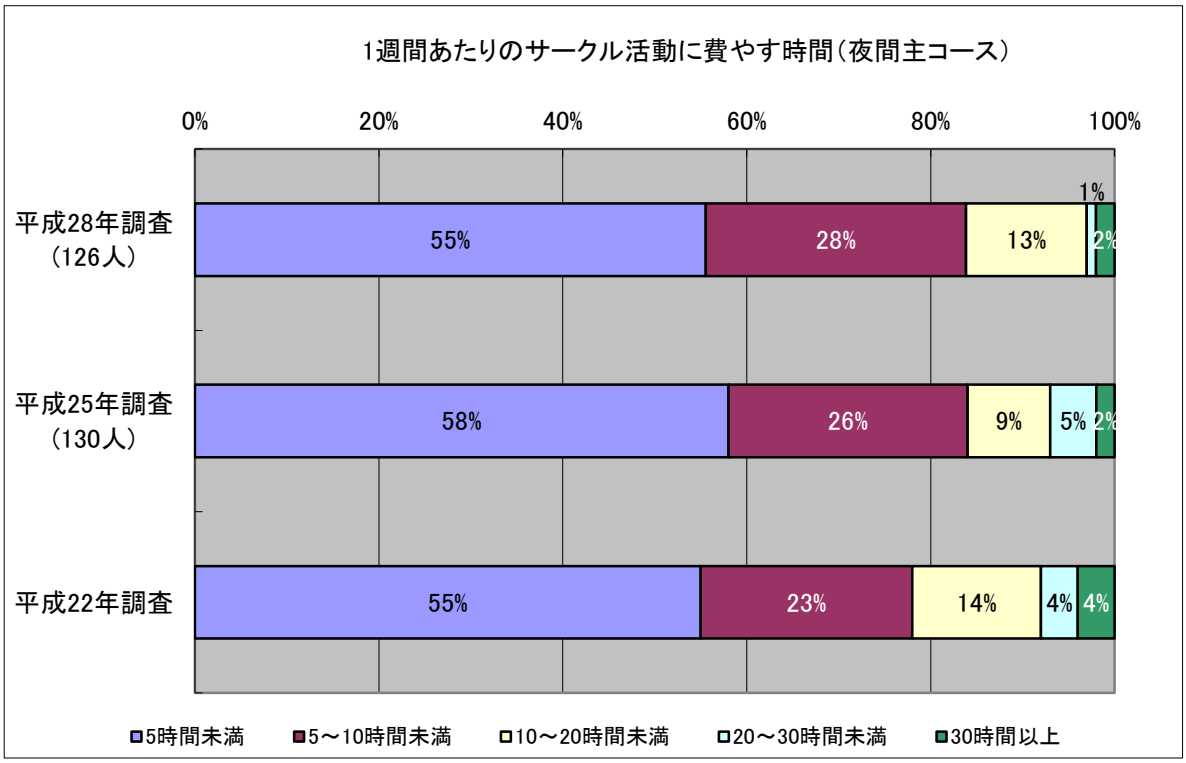


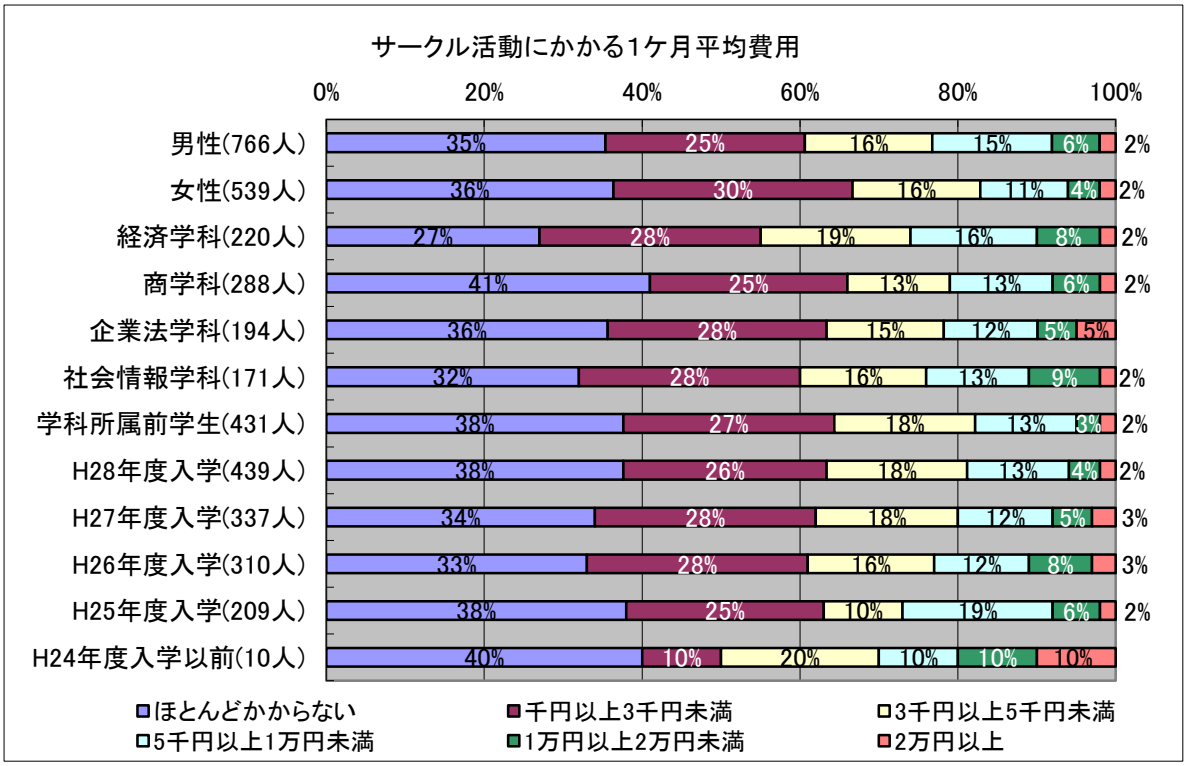


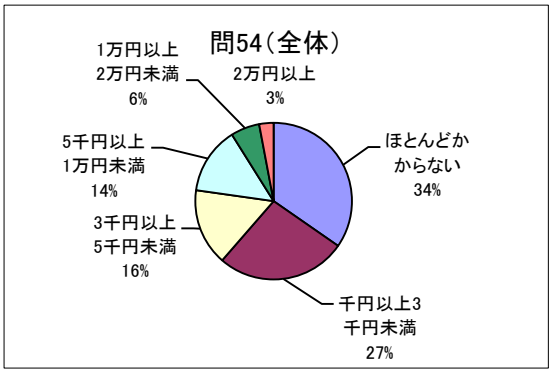



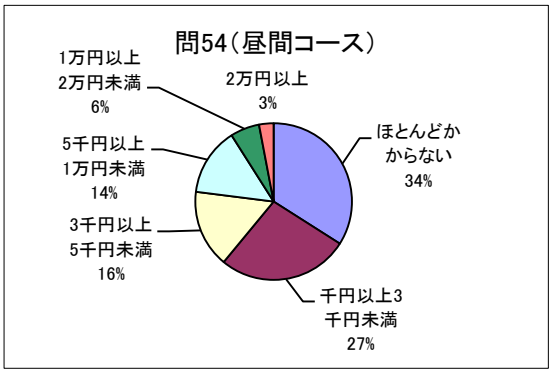

問53　コメント

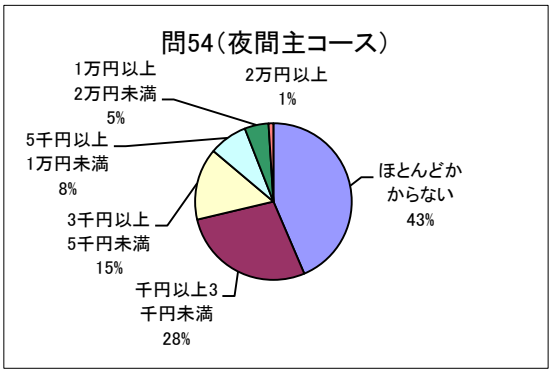
男女ともめぼしい差異は見られない。また，経年的にも大きな変化はない。学年進行により活動時間が減少していく傾向も変化しておらず，1 年次生は 56%が週 5 時間以上活動時間に充てているのに対し，4 年次生はその率が 5%ほど減少しているのは，既に「引退」をしている学生が多いことによるものと思われる。夜間主コースで週 5 時間以上活動している学生は大きく減少し，全学年平均 4 割程度となっている。

問 54　サークル活動にかかる費用は 1 ヶ月に平均いくらですか。（部費，遠征費，合宿費，コンパ代等）



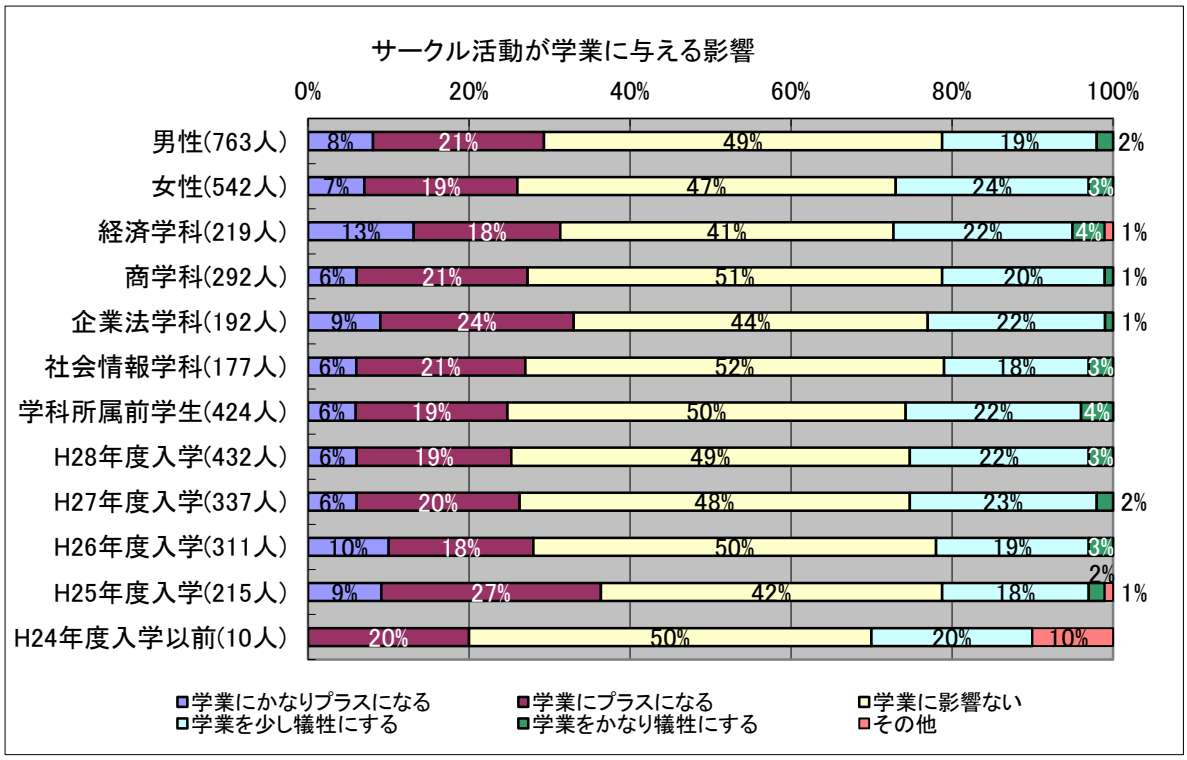



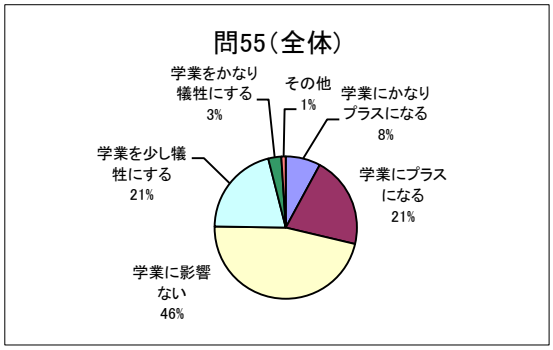



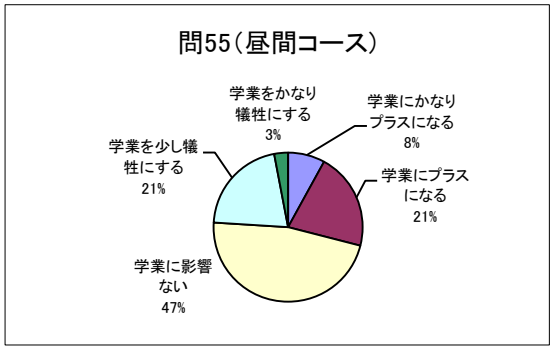

問54　コメント

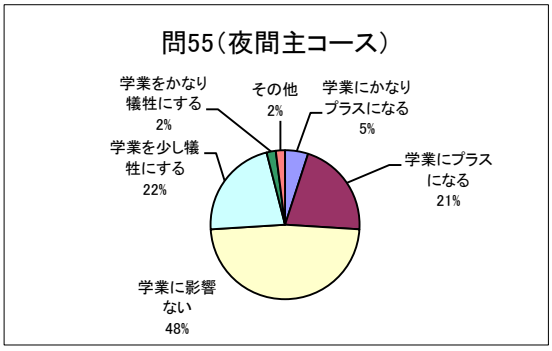
千円以上 3 千円未満の範囲で女性（30%）が男性（25%）をやや上回り，逆に 5 千円以上 1 万円未満の範囲で男性（15%）が女性（11%）を若干上回っている以外，男女ともほぼ同じ傾向を示している。男性がやや多く活動費を払っているという構図だが，これは学年別にも見られ，5 千円以上かける割合は，学年進行と共に増加している（19%→20%→23%→27%）。やはり財布は先輩が多く持つということであろう。

問55　サークル活動が学業に与える影響について答えてください。



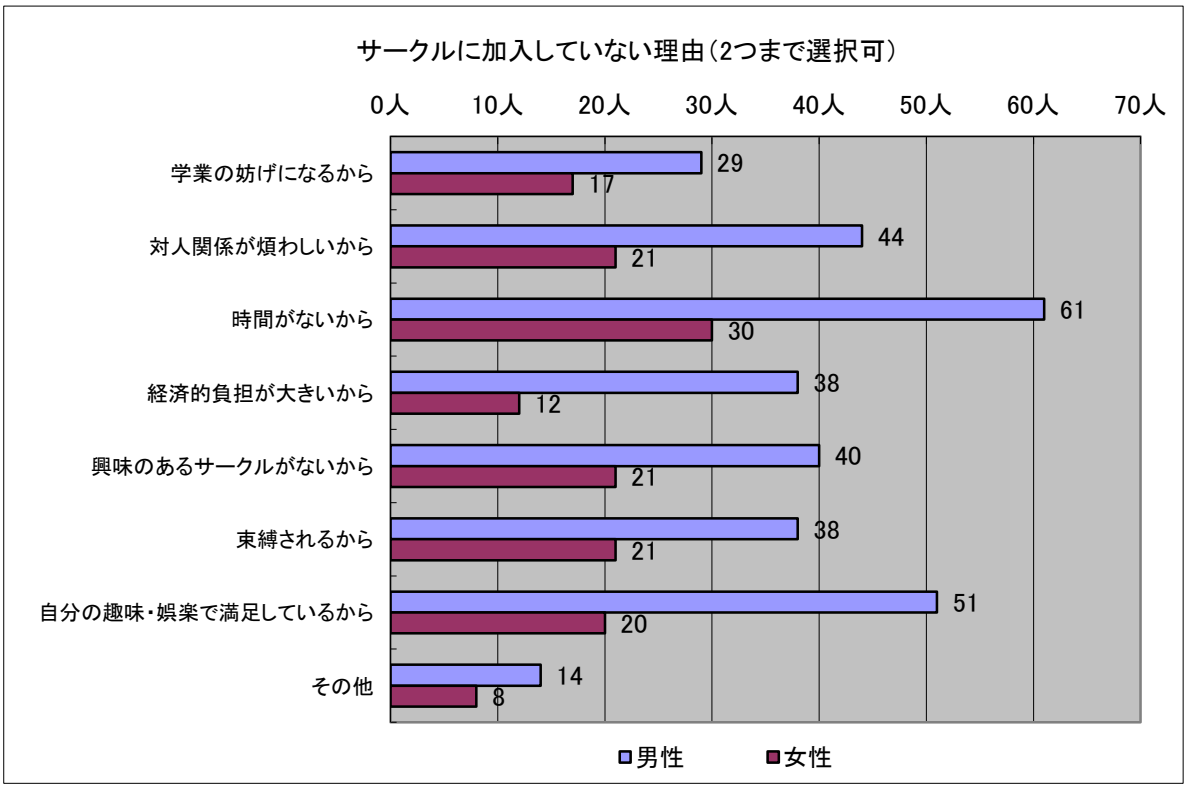



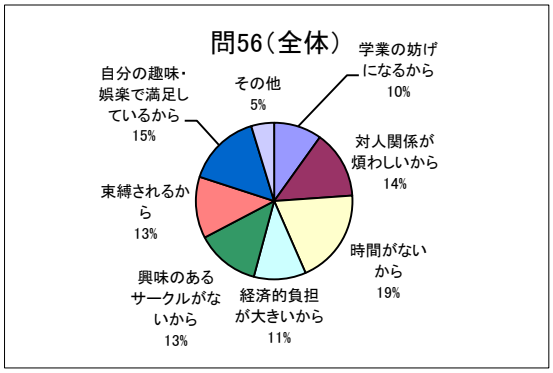



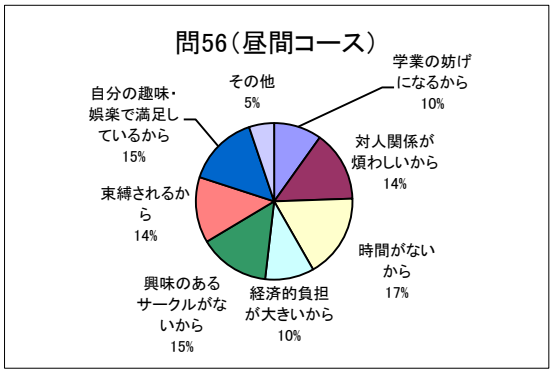

問55　コメント

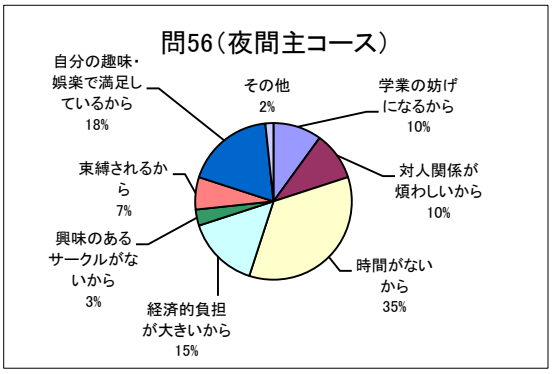
この問は，今回新たに設置したものであるが，回答は概ね想定の範囲内であった。「学業にプラスになる」か「学業に影響ない」と答えた学生が全体の 75%に達し，サークル活動が以前に較べ学業を圧迫することの少ない昨今のサークル事情が窺われる。注目したいのは，学年が進むと共に「学業にプラスになる」との回答が増加する点で，「学業にかなりプラスになる」も含めて，1 年次生から 4 年次生まで 25%→26%→28%→36%と漸増している。サークル活動は，中途退部者も少なくないが，その主要な理由に学業との両立困難があり，学業へのプラス面は活動を続ける大きな要因となるであろう。

問56　サークルに加入していない理由は何ですか。（2つまで回答可）



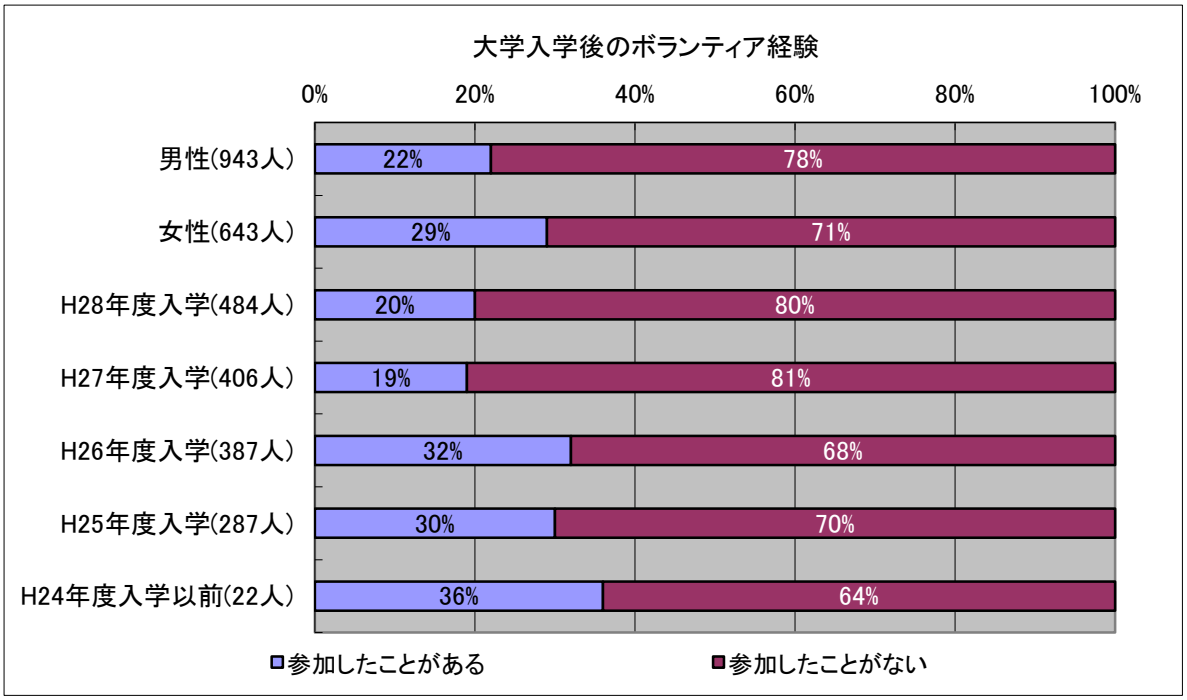



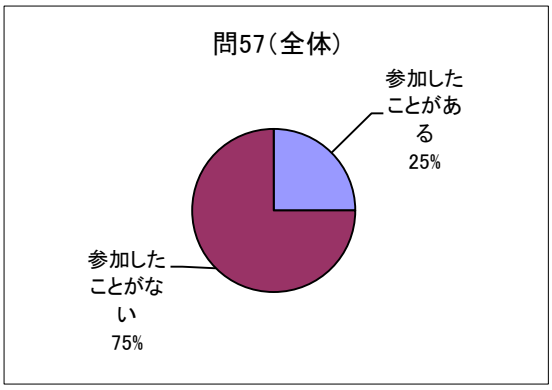

問 56　コメント

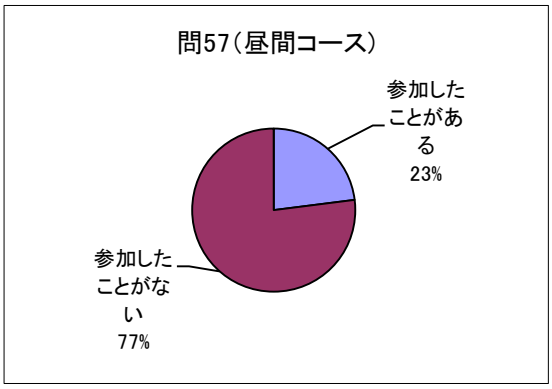
サークル活動をしていない理由としては，前回同様「時間がないから」が一番多く昼間コース全体で 17%である。夜間主コースになるとこの割合は増加し 35%となる。経済的負担に関しても，昼 10%，夜 15%と，アルバイト等に追われる夜間主コース学生の姿が垣間見える。逆に「対人関係が煩わしいから」と答えた学生は，昼 14%，夜 10%となっており，前回同様，昼に較べ夜間主コース学生がより社交的である一面を窺うことができる。

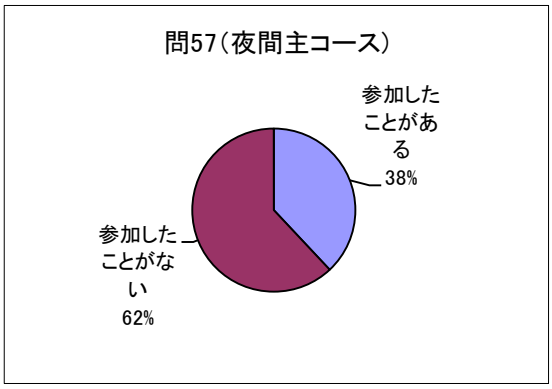
## ８　ボランティア活動について

問 57　大学入学後，ボランティア活動に参加したことがありますか。



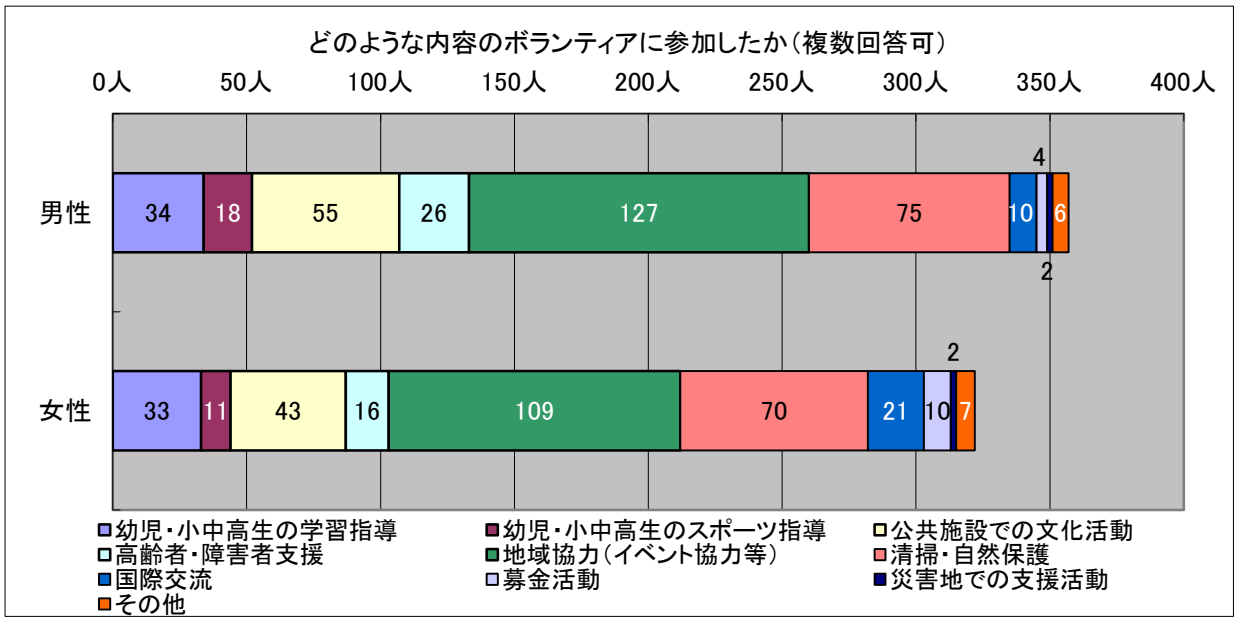



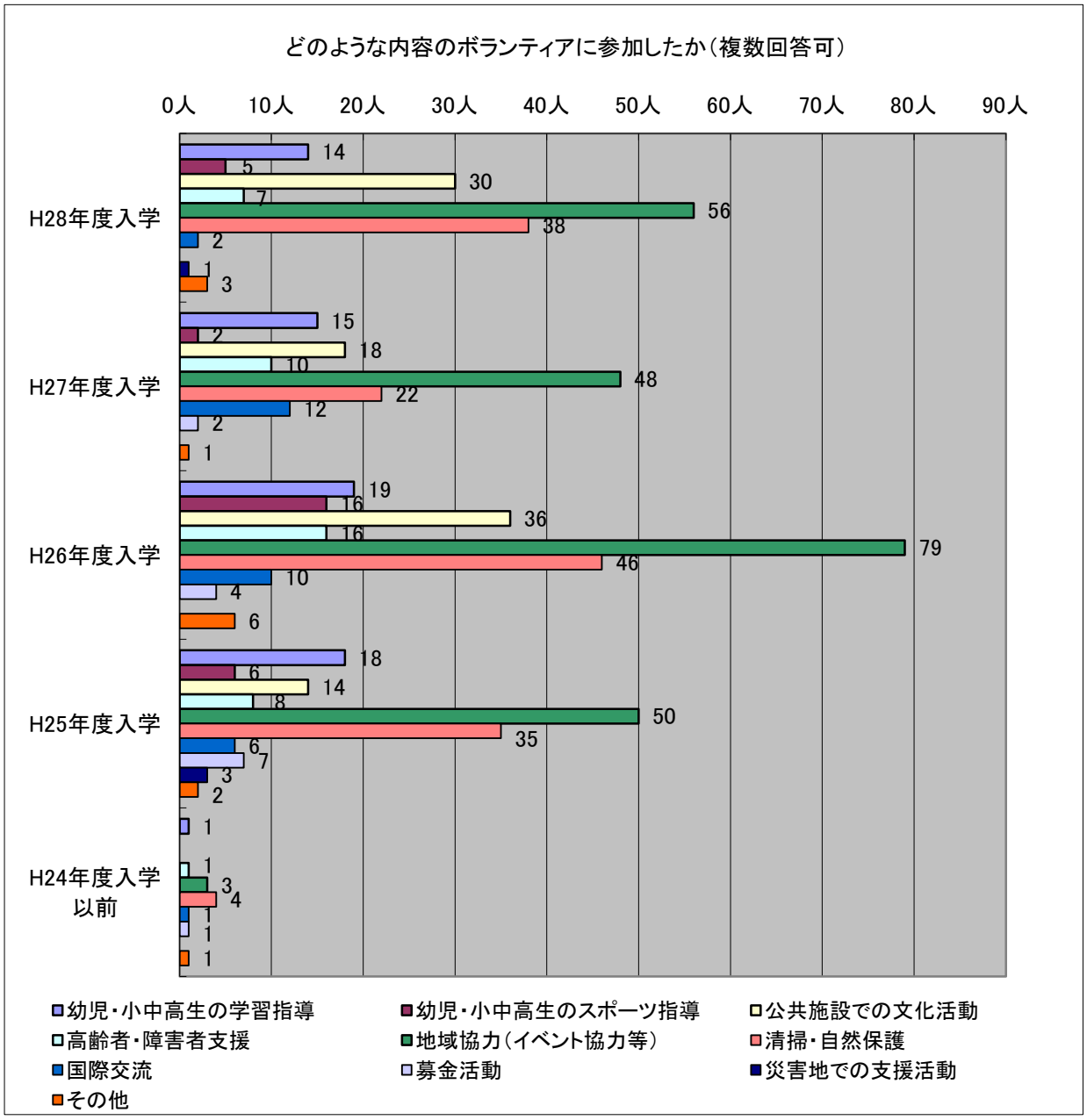

問 57　コメント

大学入学後のボランティア活動への参加率は，男性で 22%，女性で 29%にとどまっている。学年があがるにつれて参加率はやや上昇傾向にあるものの，それでも６割以上の学生がボランティア活動を経験していない。

日本学生支援機構の学生ボランティア活動に関する調査報告書（平成 17 年）によれば，大学生のボランティア活動の経験率は 65%であり，本学の傾向はそれに比較すると低いといえよう。

問 58　どのような内容のボランティア活動に参加しましたか。（複数回答可）

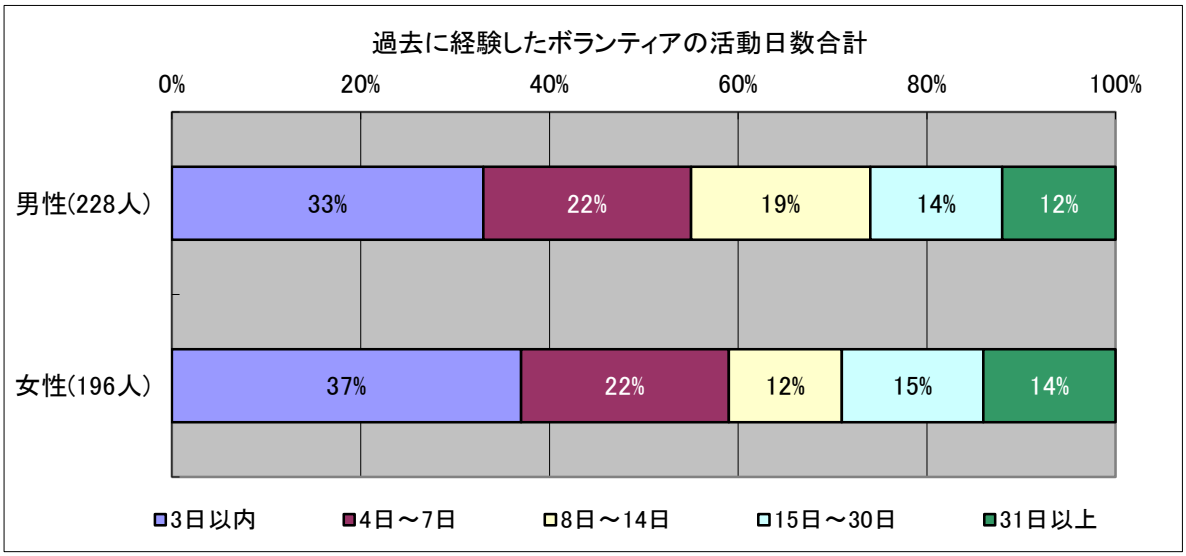


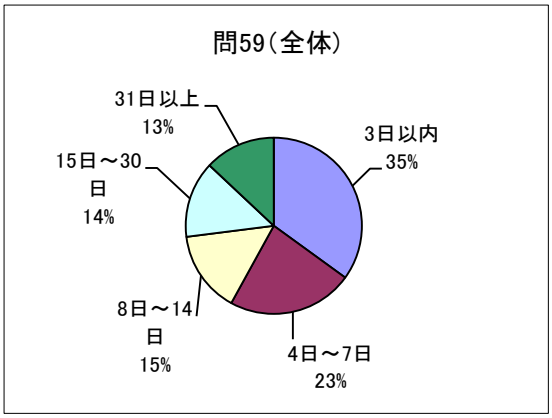



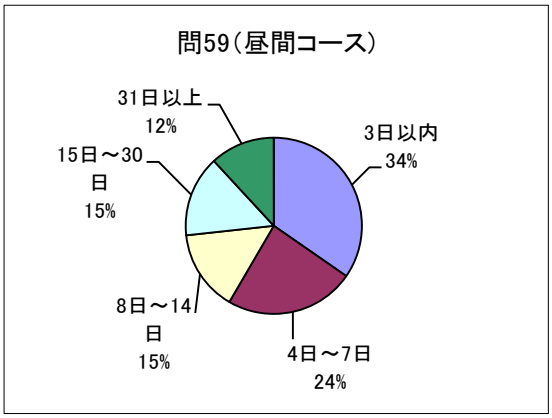
問 58　コメント

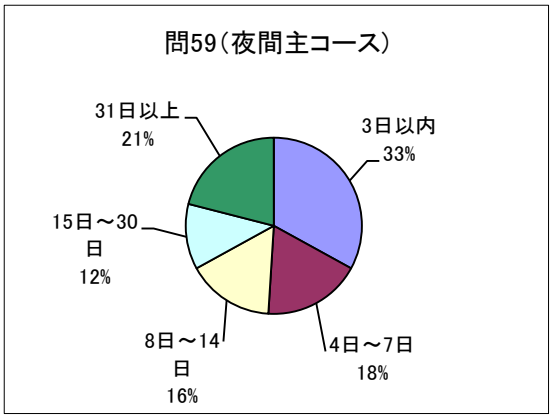
ボランティア活動の内容について男女差は見られず，多いものから「地域協力（イベント協力等）」，「清掃・自然保護」，「公共施設での文化活動」，「幼児・小中校生の学習指導」という順になっている。東日本大震災等の自然災害発生の際に注目された「災害地での支援活動」の参加経験者は少数であった。

問 59　過去に経験したボランティア活動の日数は合計でどれくらいですか。



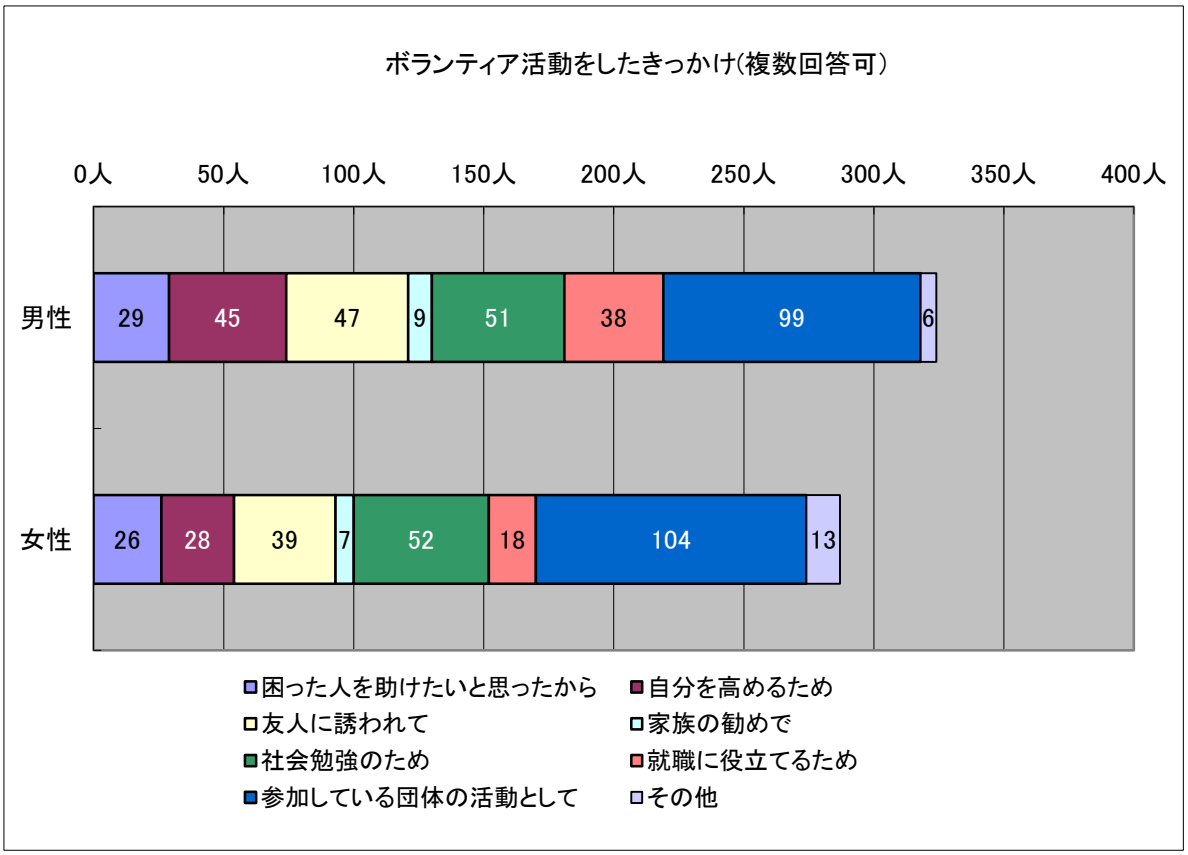




問 59　コメント

ボランティアの日数については，「3 日以内」が３割以上であり，7 日以内のものをあわせると５割を超える。他方，「31 日以上」という長期の活動も 10%以上ある。日数については，ボランティア活動の内容による部分が大きいことが推測される。

問 60　ボランティア活動をすることとしたきっかけは何ですか。（複数回答可）

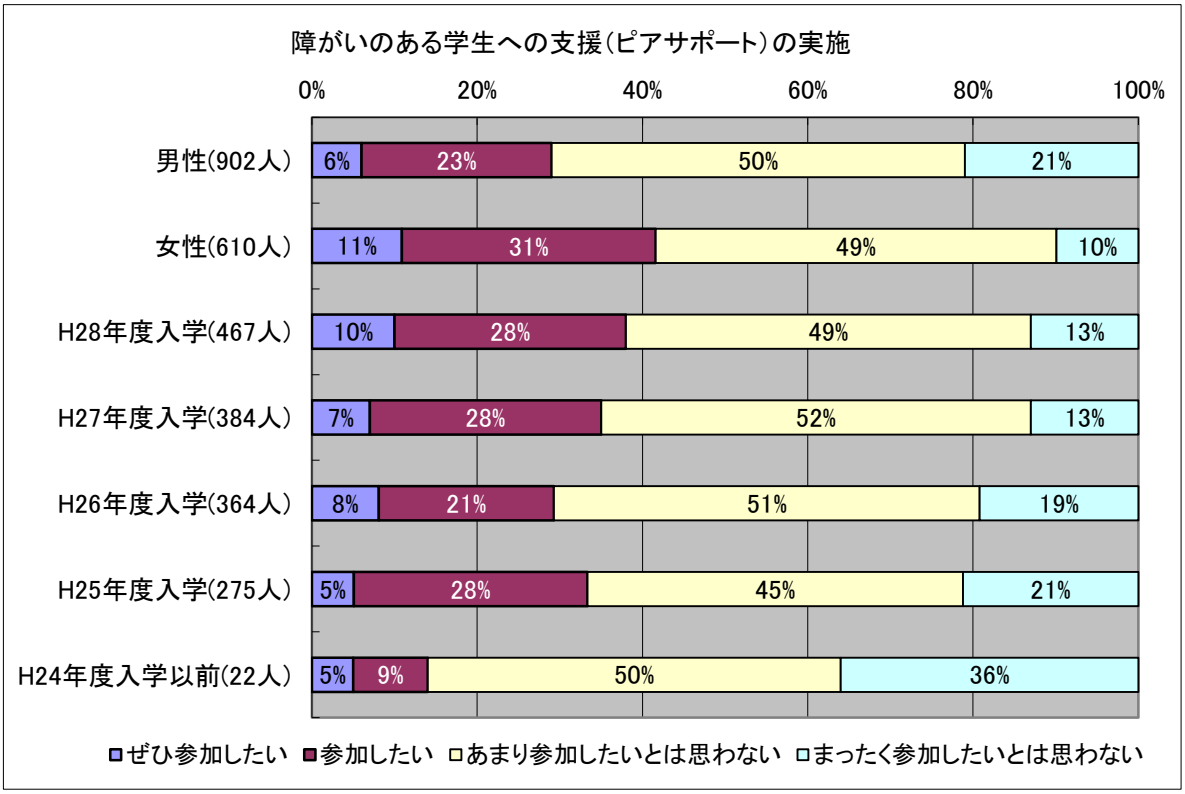


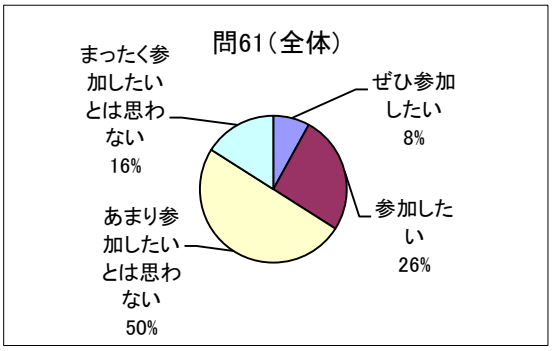

問 60　コメント

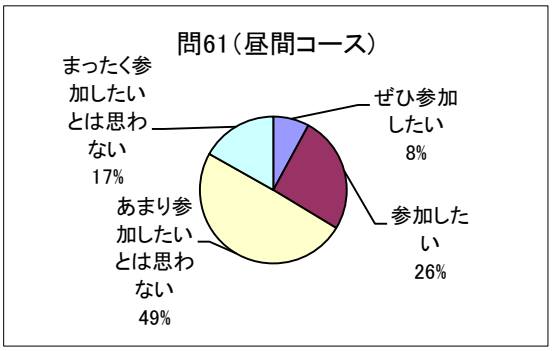
活動を開始したきっかけについては「参加している団体の活動として」が多く，部活動・サークルの地域貢献活動，または授業（研究指導や社会連携実践等）の活動の一環としてボランティア活動に関わりを持つ学生が多いことがわかった。

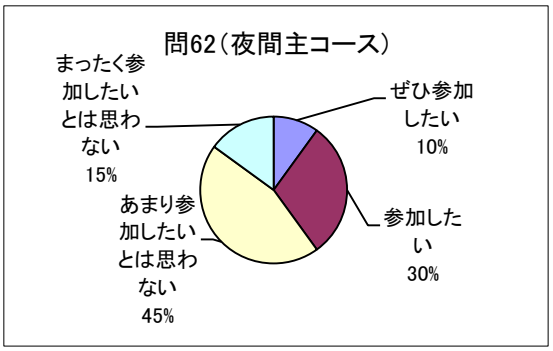
他方，「社会勉強のため」「自分を高めるため」といった回答も一定数存在し，自己研鑽を目的として開始する学生の存在も確認できる。

問 61　現在，本学では「学生による，障がいのある学生への支援」（ピアサポート）の実施について検討しています。このような活動が開始されたらボランティアとして参加する意志はありますか。



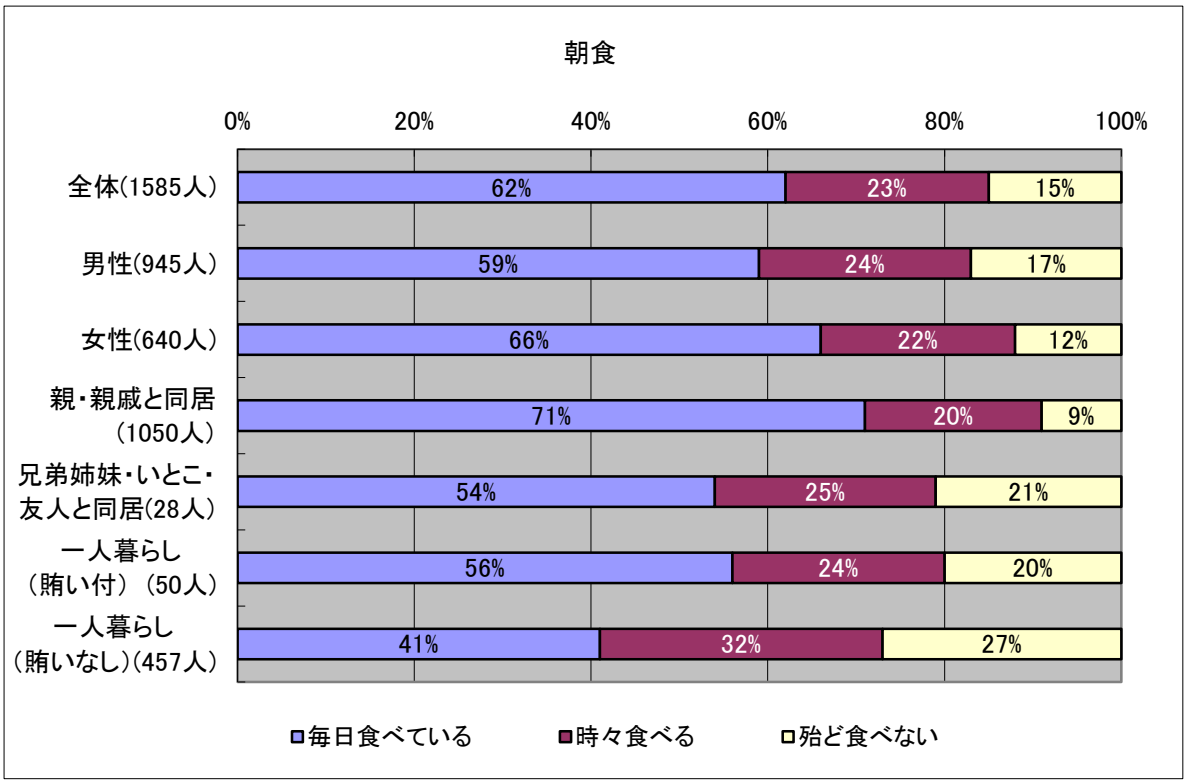

問 61　コメント

障がいのある学生へのピアサポートについての参加意思を尋ねたところ，参加への前向きな意見（「ぜひ参加したい」と「参加したい」の合計）の割合は男性で約３割，女性で約４割であった。

ただし，これは意識レベルでの傾向であるため，実際に募集し応募する行動レベルでの割合はもっと少なくなることが予測される。

## ９　健康について

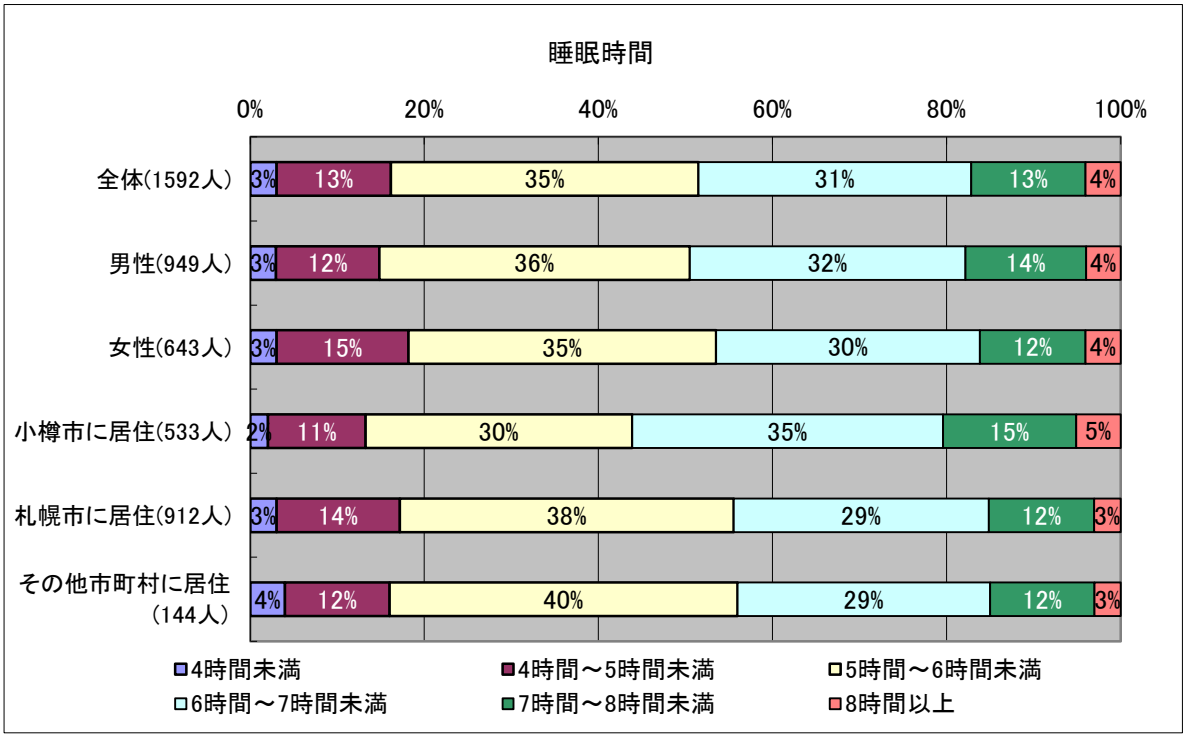
問 62　朝，食事をしていますか。

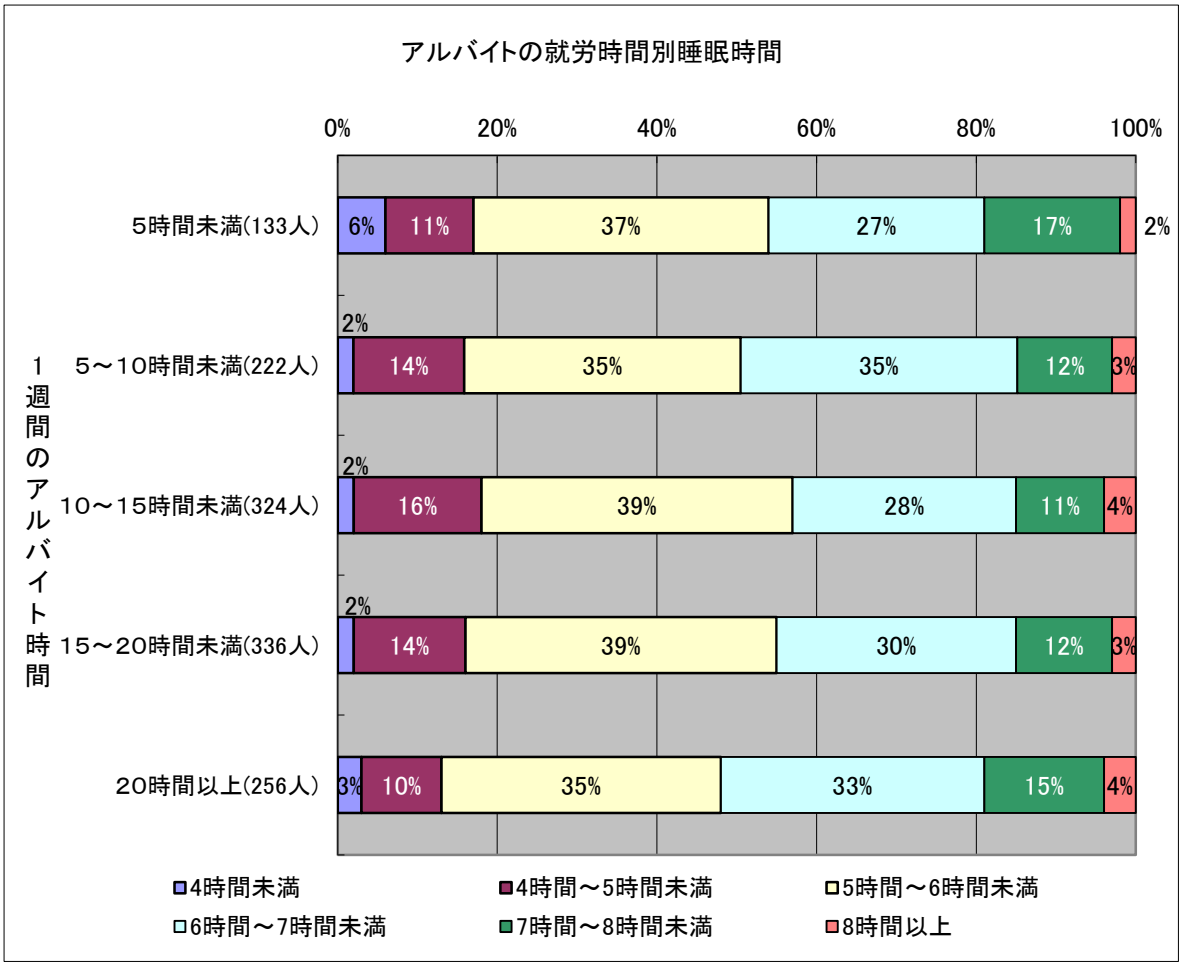



問 62　コメント

朝食を「毎日食べている」割合は全体では 62%であり，男性が 59%，女性が 66%と女性がやや多い。親・親戚と同居していると「毎日食べている」割合が 71%と高いのに対して，一人暮らし（賄いなし）は 41%と低くなっている。

問 63　睡眠時間はどのくらいですか。



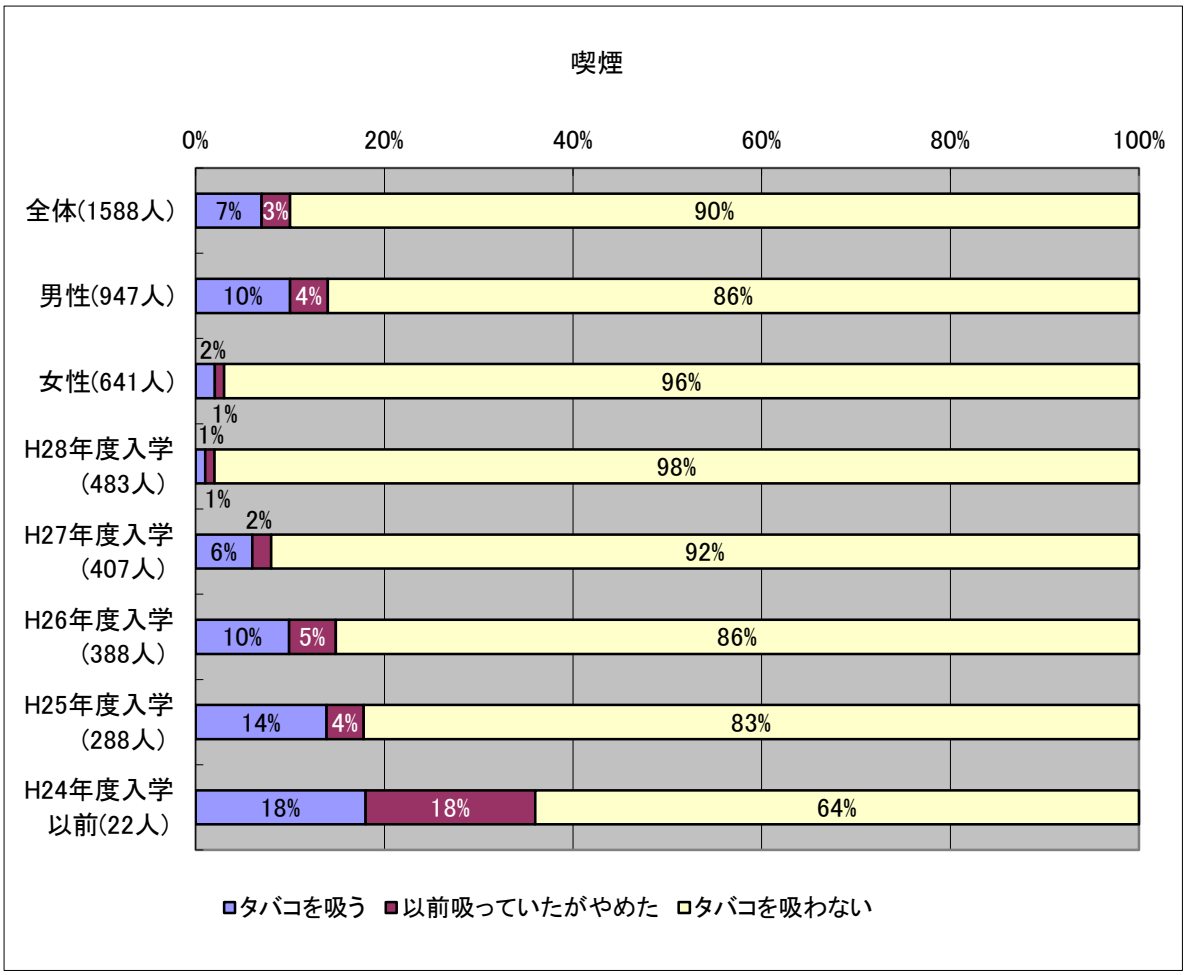



問 63　コメント

「5 時間～6 時間未満」の割合が最も高く，半数以上は 1 日 6 時間未満の睡眠時間である。睡眠時間と関連する要因の一つに居住地が考えられるため，居住地で比較をした。6 時間未満の睡眠となっている人の割合は小樽市の居住者は 43%であるのに対して，札幌市居住者 55%，その他市町村居住者が 56%であり，通学時間が長いと睡眠時間が削減されることが示されている。

アルバイトの影響として「睡眠，休養時間が不足している」という回答が多かったため，1 週間のアルバイト時間と睡眠時間との関連を見たが，アルバイト時間が多いと睡眠時間が減少するという傾向は見られなかった。むしろ週 20 時間以上のアルバイトの人の方が睡眠時間が長くなっており，疲労回復のために睡眠時間が長くなっている，という可能性もある。アルバイト時間と睡眠時間の関連は示されなかったが，学生全体の睡眠時間は短めであり，疲れが取れない，昼間に眠いなどの身体影響から「睡眠，休養が不足している」という実感があるものと考えられた。

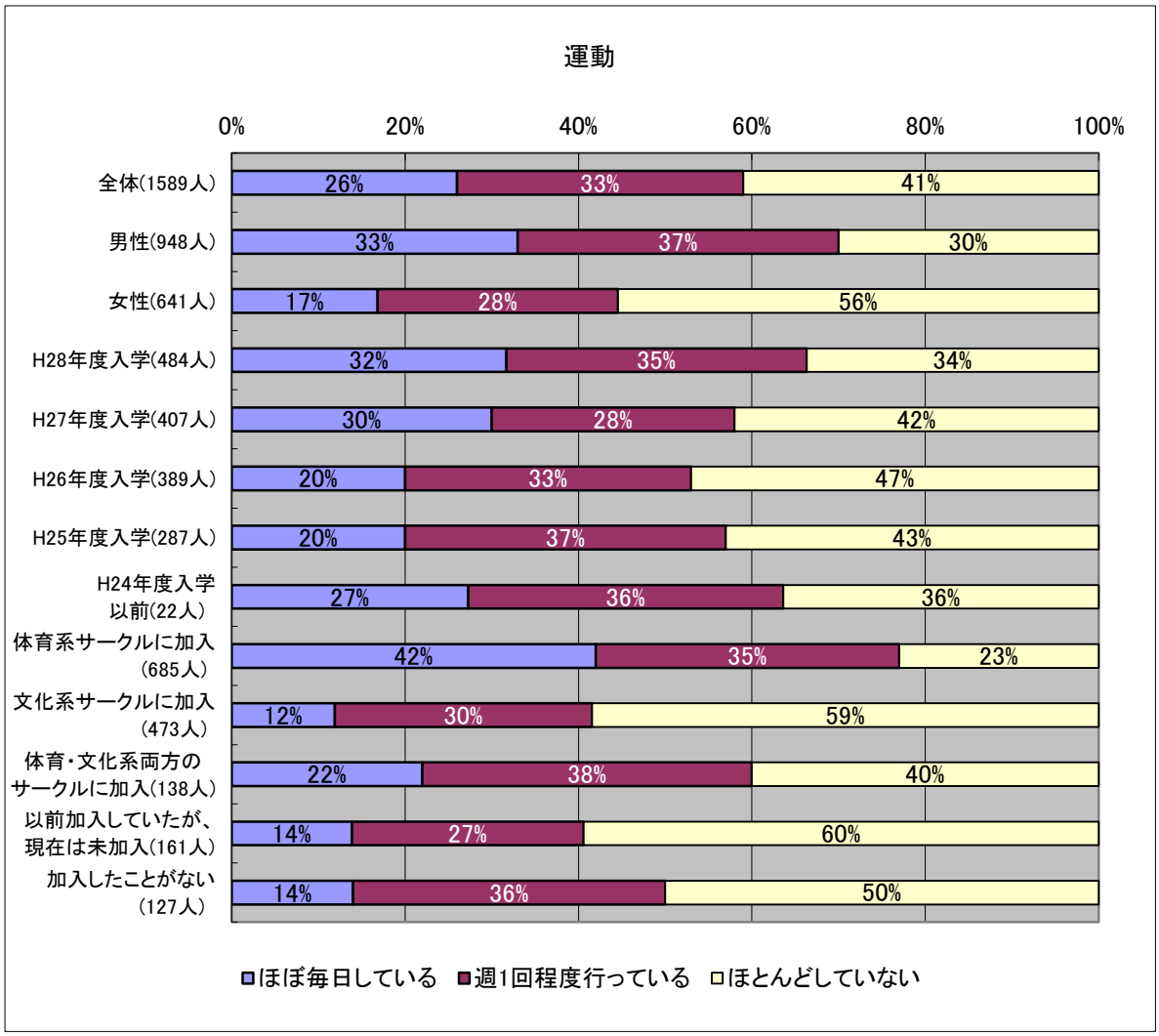
問 64　タバコを吸いますか。




問 64　コメント

全体の喫煙率は 7%であった。男女ともに平成 22 年調査から喫煙率は低下傾向にあり，男性 18%（平成 22 年）→17%（平成 25 年）→10%（今回調査），女性 5%（平成 22 年）→4%（平成 25 年）→2%（今回調査）であった。学年が上がるにつれて喫煙率が上昇する傾向は前回調査と変化ない。社会全体が受動喫煙防止や禁煙化の動きが強くなっているため，大学においても成人になっても喫煙をしない選択をとりやすいような環境整備も必要と考えられる

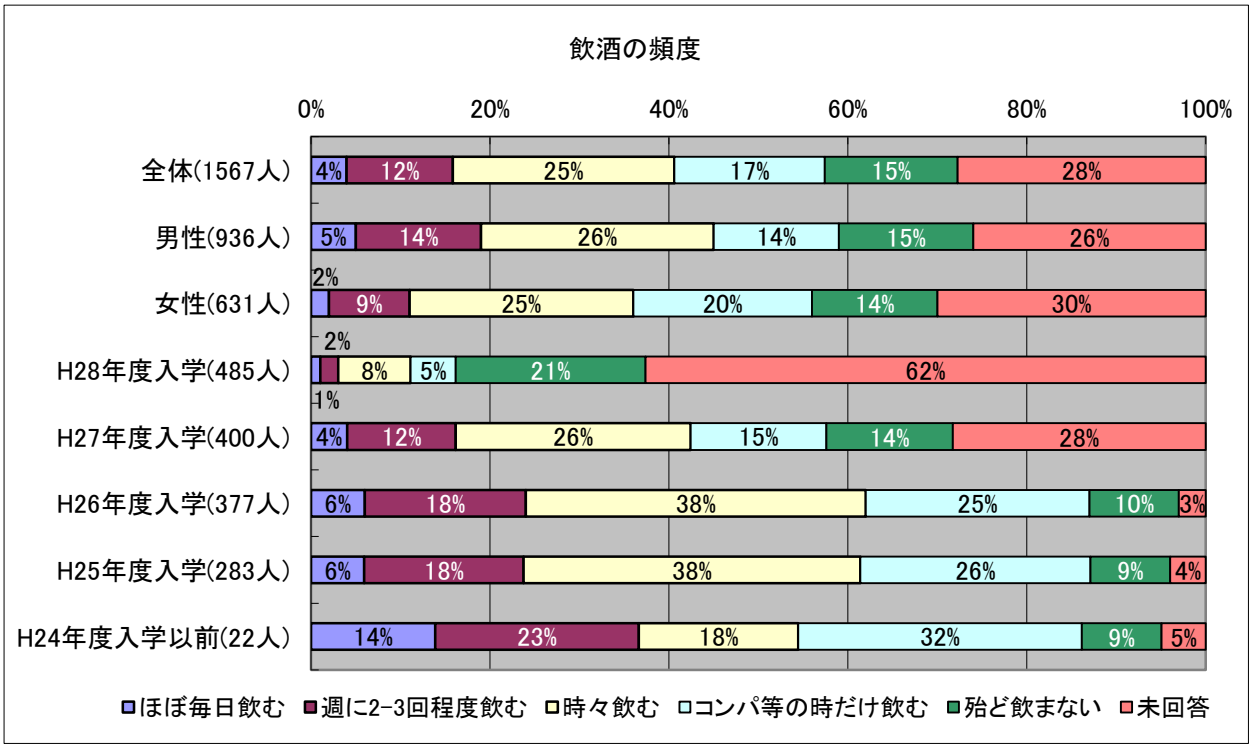
問 65　定期的に運動をしていますか。



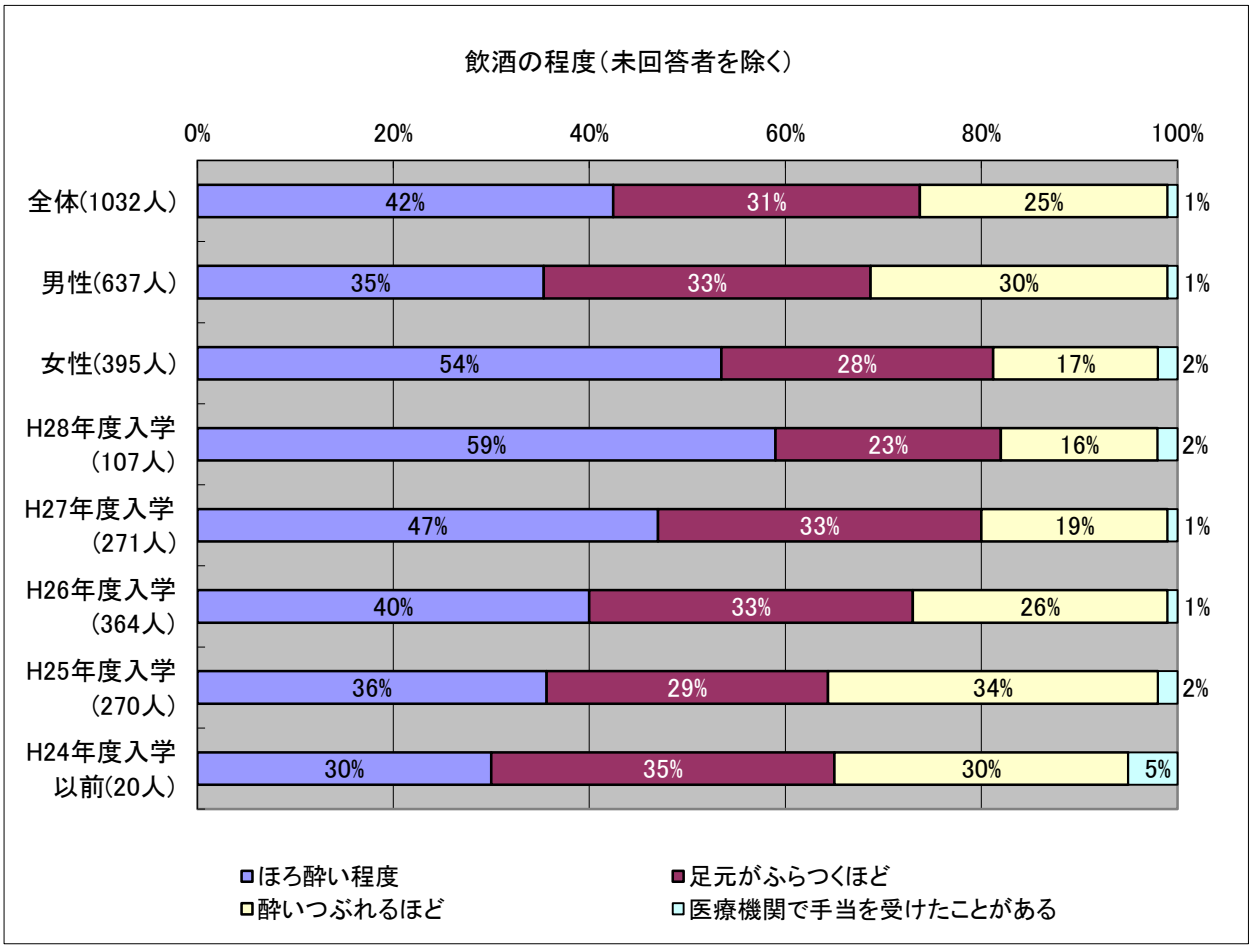

問 65　コメント

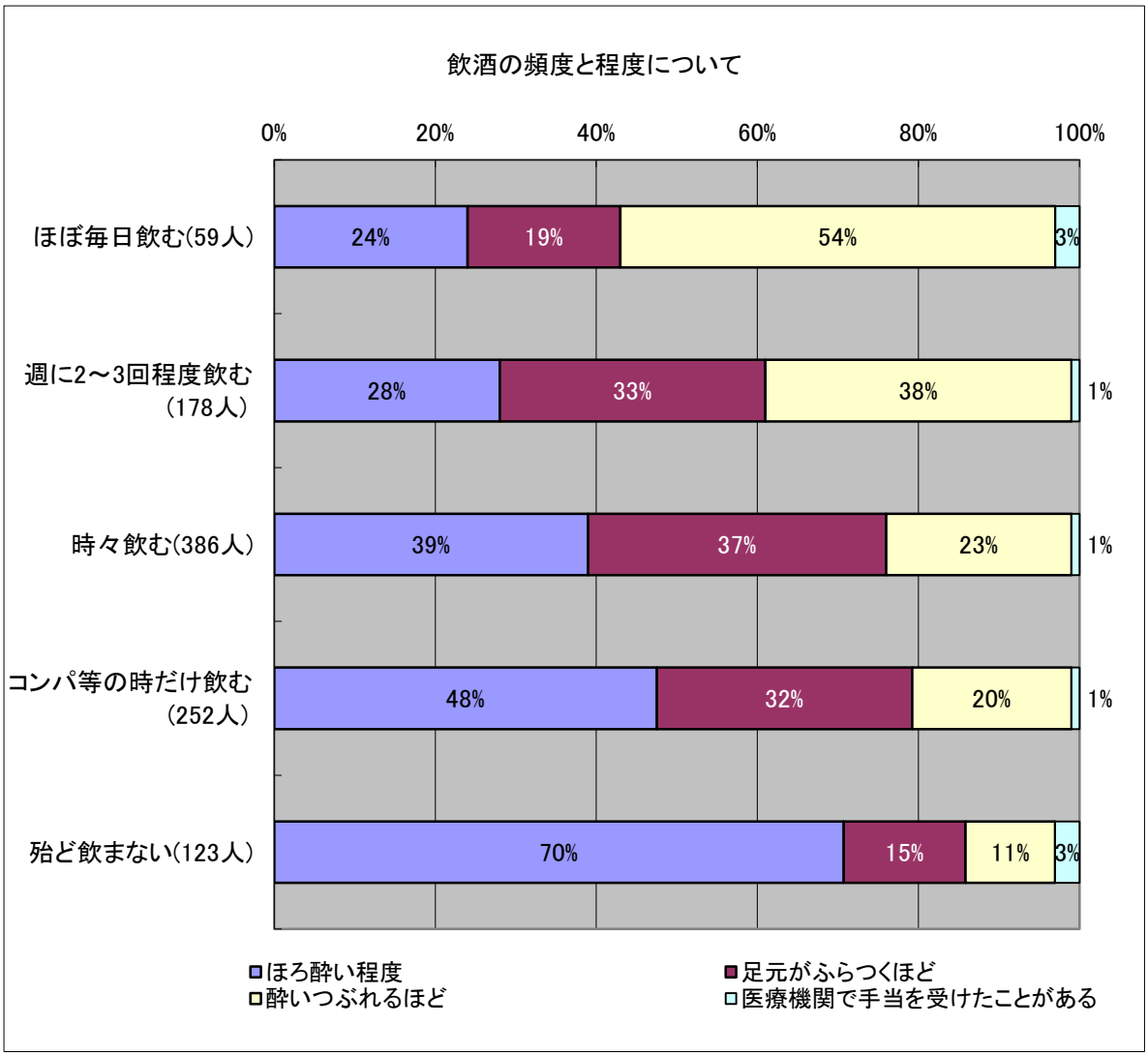
運動習慣のない人が 41%であるが，男女差が大きく男性では 30%であるのに対して，女性では 56%と半数を超える。1 年次，2 年次はサークル活動等で運動機会のある学生の比率が高いと考えられる。体育系サークル加入者の 23%，体育・文化系両方のサークルの加入者の 40%が「ほとんどしていない」と回答していることは，加入はしているものの，運動の機会が生かされていないと考えられる。

問 66　飲酒の頻度はどの程度ですか。




問 67　どの程度まで飲酒したことがありますか。






問 66～問 67　コメント

飲酒経験者のみに回答を求めた。「殆ど飲まない」「未回答」を除く飲酒者は全体で 58%であり，男女差はない。男性の方が飲酒頻度の多い人の割合が高い。入学年次別には，平成 28 年度入学では 16%が「コンパの時だけ飲む」も含めた飲酒者であり，全員が成人となる平成 26 年度入学以上になると 90%弱が飲酒者となる。

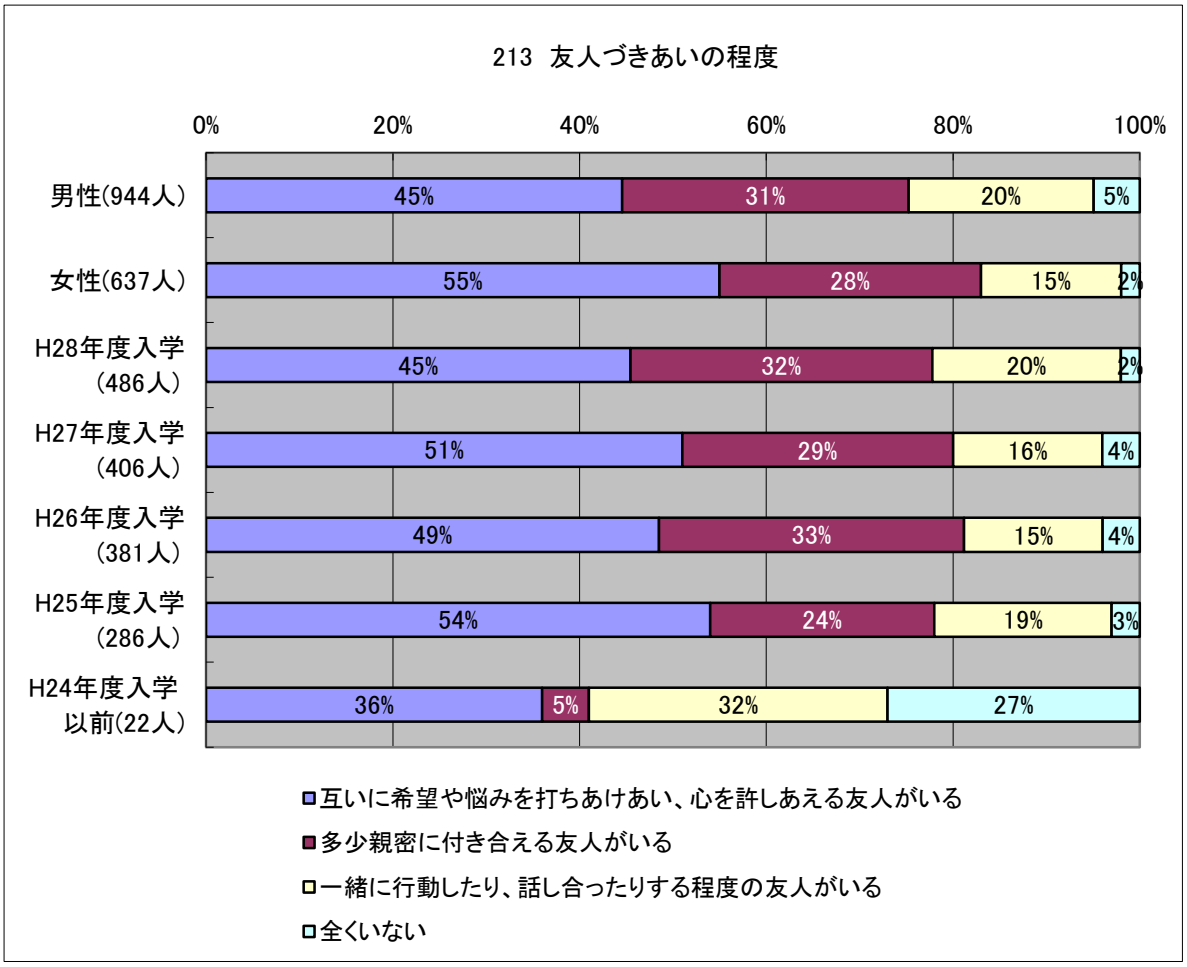
飲酒の程度に関しては，節度ある飲酒である「ほろ酔い程度」にとどまっている人は 42%であり，特に男性は 35%と少ない。年齢が上がるにつれて「酔いつぶれるほど」と「医療機関で手当てを受けたことがある」の割合が高くなり，生命に危険な飲酒の経験者が多いことが示されている。

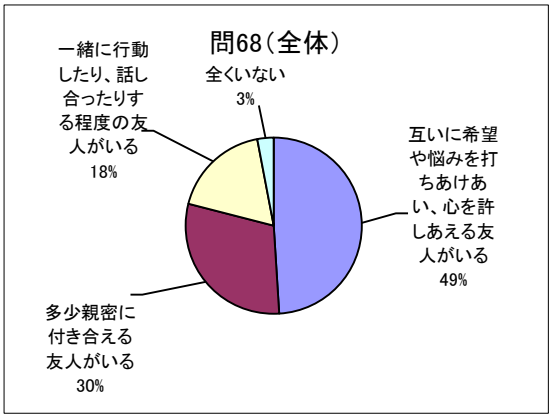
危険な飲酒に関しては，飲酒の頻度と程度の関係に見られるように，飲酒の頻度が高いほど「酔いつぶれるほど」以上の飲酒経験の割合が高くなる。一方で，「時々飲む」の 23%，「コンパ等の時だけ飲む」の 20%に「酔いつぶれるほど」以上の飲酒を経験している。また，「殆ど飲まない」人の 3%が「医療機関で手当てを受けたことがある」と回答している。

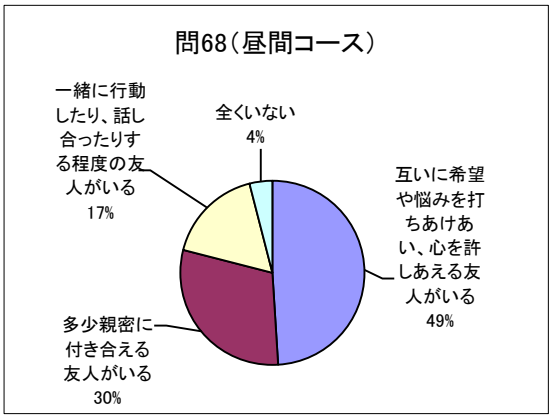
習慣的飲酒ではないが，短期間に大量に飲酒するいわゆる『ビンジ飲酒』（WHO では heavy episodic drinking （大量機会飲酒））は最も健康に危険な飲酒である，ということを知ってもらい，飲酒による事故を予防する必要性を強く感じる。

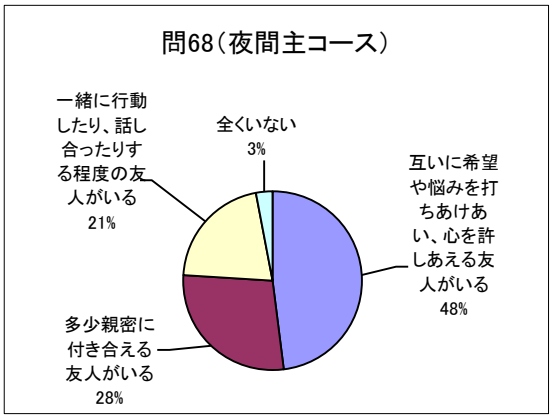
## １０　友人・悩みについて

問 68　本学の学生の中でどの程度つきあえる友人がいますか。



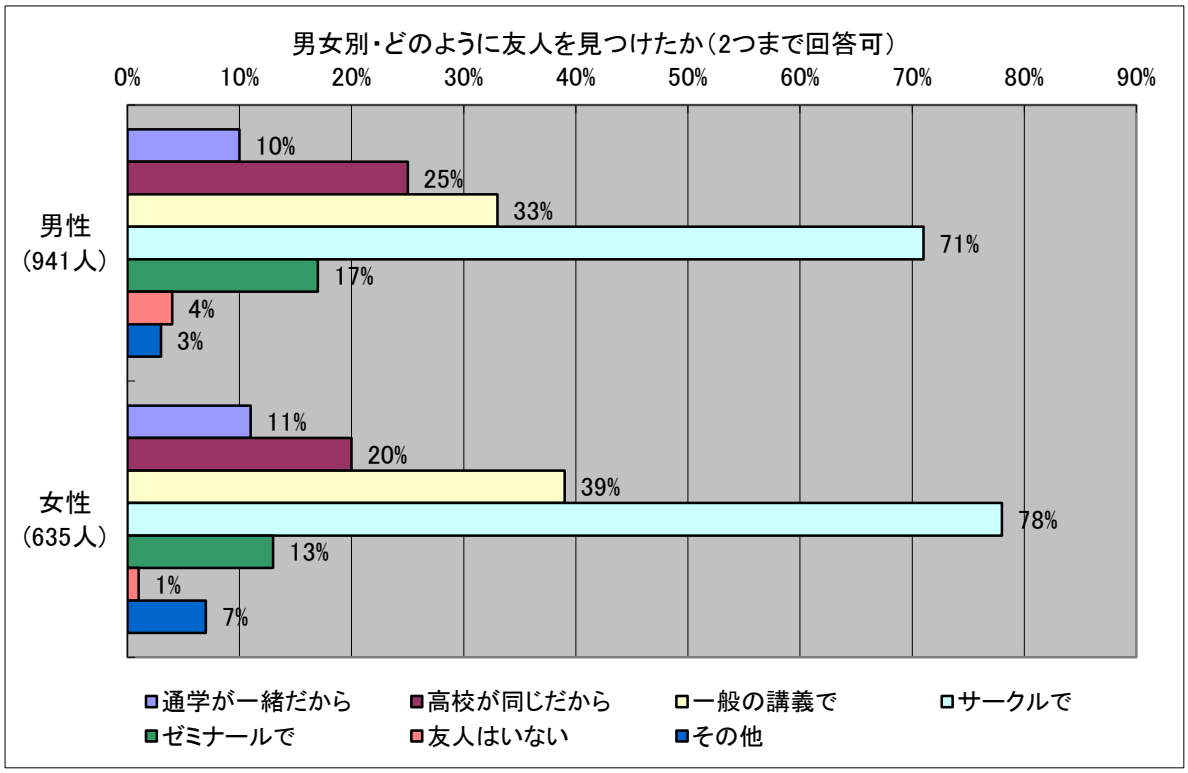



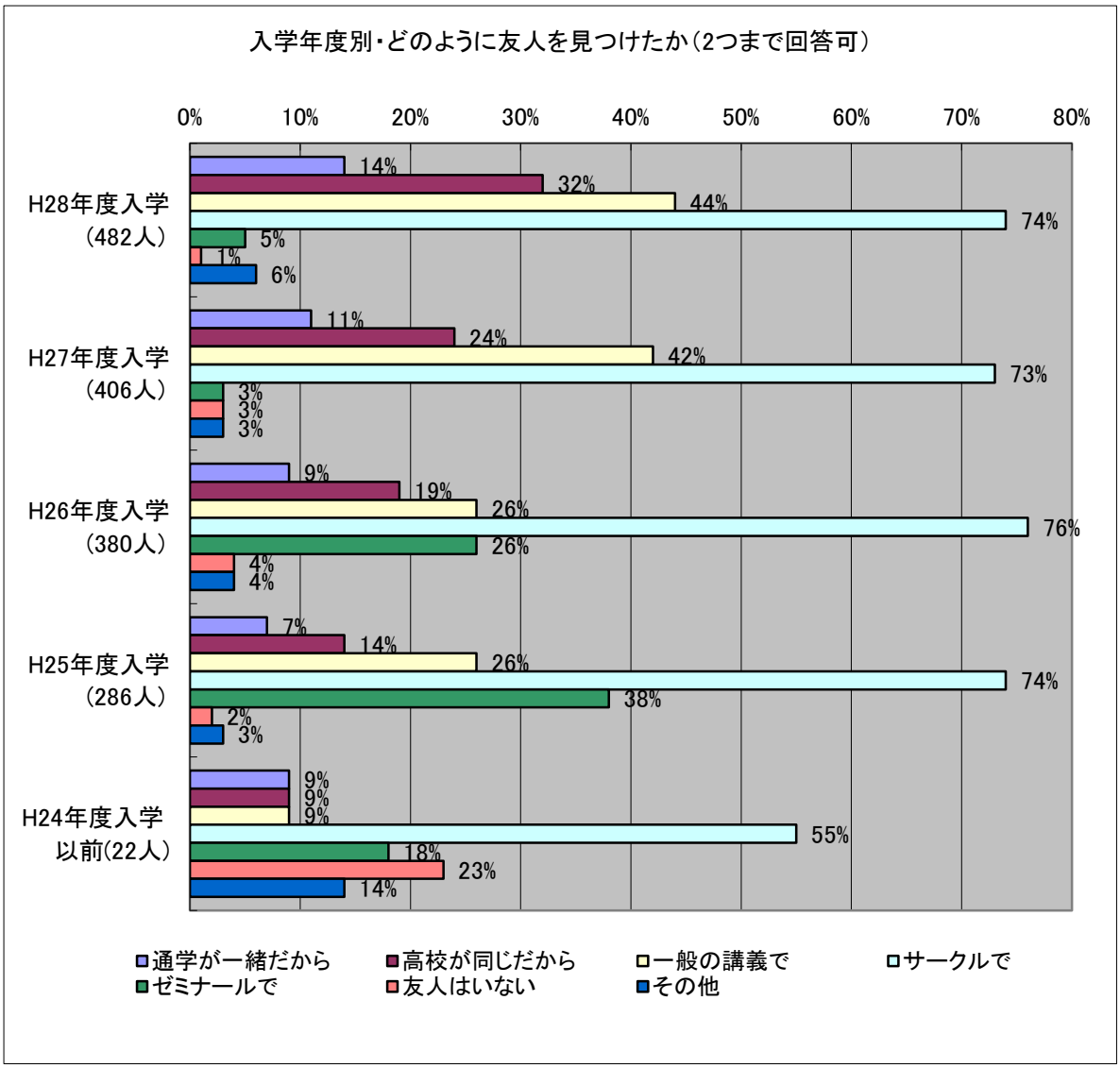
問 68　コメント

「互いに希望や悩みを打ち明けあい，心を許しあえる友人がいる」と回答したのは約５割であり，「多少親密に付き合える友人がいる」をあわせると，約８割が親密な友人がいると回答していることになる。

　他方，友人が「全くいない」と回答した学生の割合は男性で 5%，女性で 2%程度あり，過年度生では３割近くまで上昇する。

問 69　本学でどのように友人を見つけましたか。（2 つまで回答可）



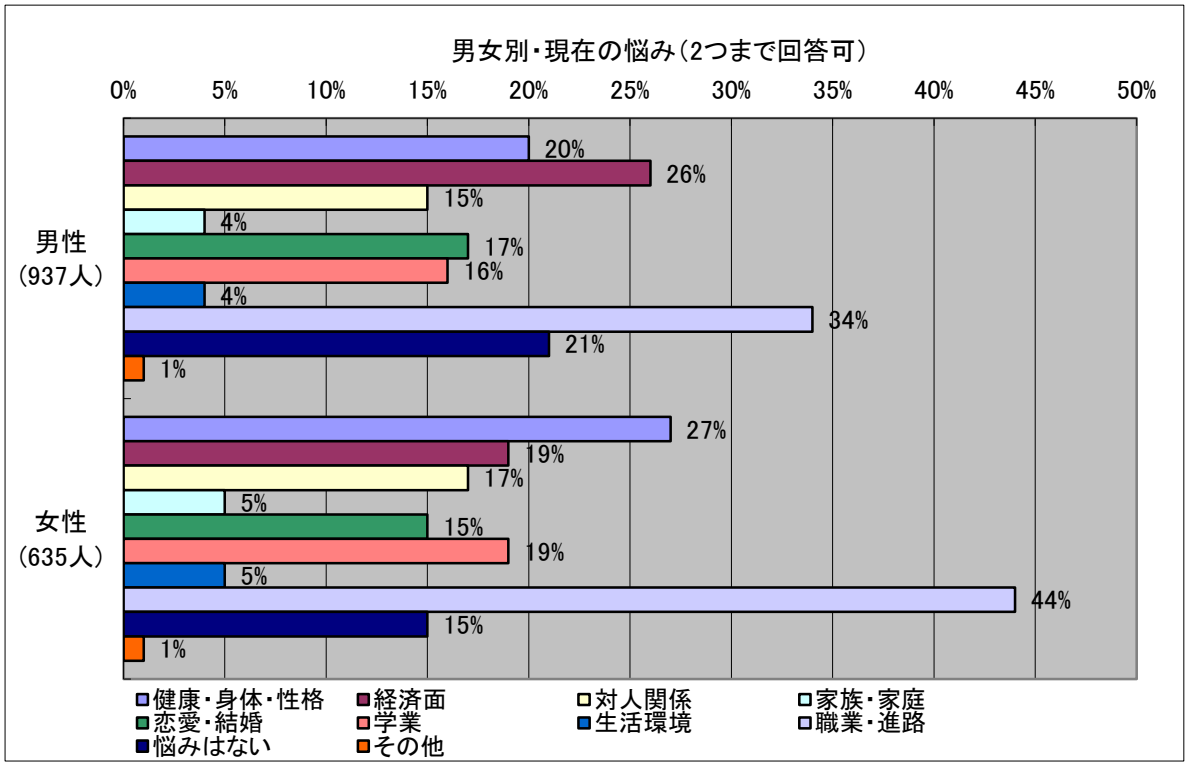


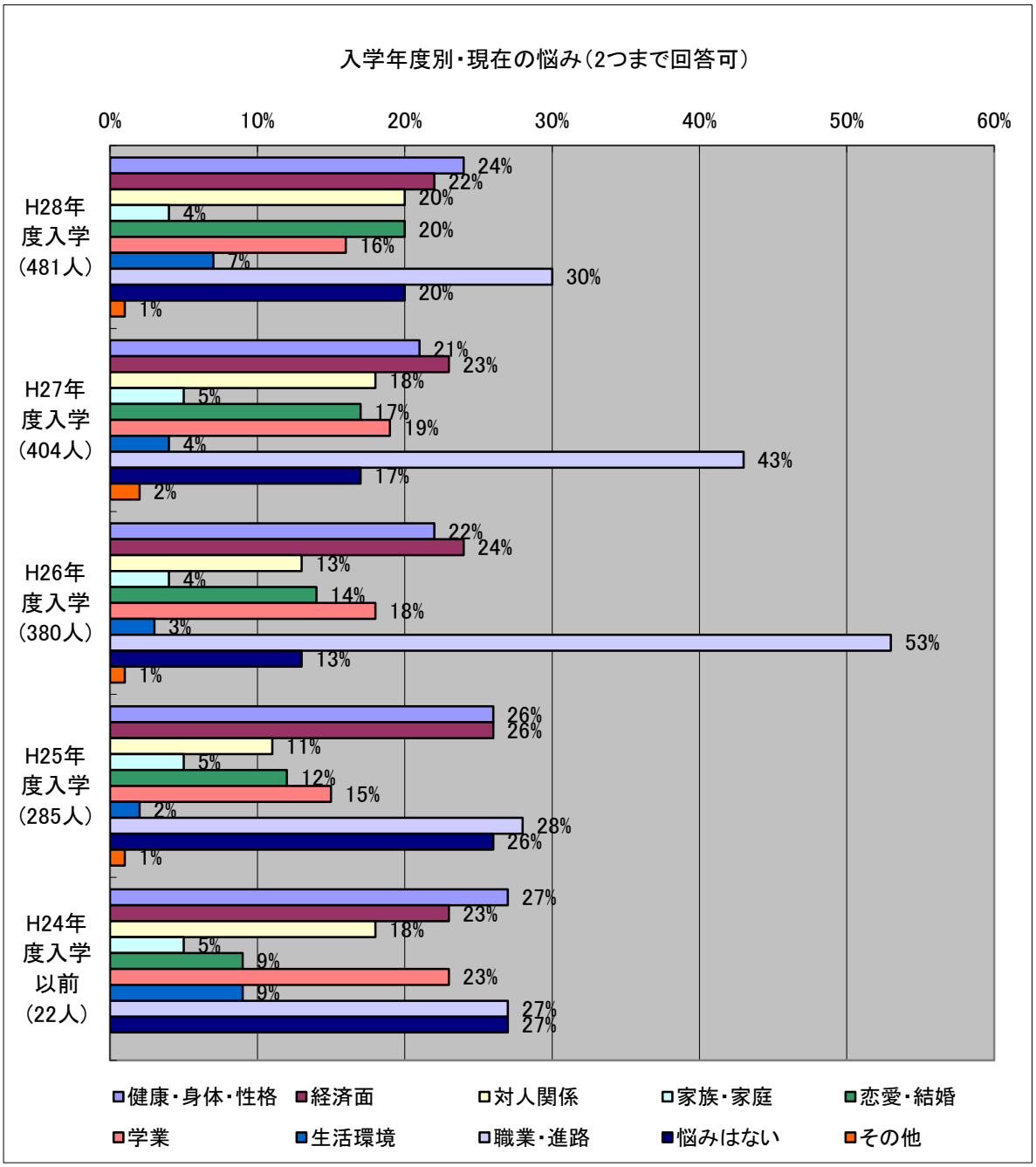

問 69　コメント

友人を作る場所は「サークルで」が最も多く，「一般の授業で」が次に多かった。クラス制度のない本学において，サークルが主な友人作りの場として機能していることが確認される。ただ，このことは同時に，入部したサークルを退部した場合，それらの友人関係が一気に失われてしまうリスクを孕んでいることに注意する必要がある。

H26 年度・H25 年度入学生では「ゼミナールで」の回答が増加しており，研究指導においてともに活動する中で新たな友人関係が形成されていることが示されている。

問 70　現在悩みがありますか。（2 つまで回答可）



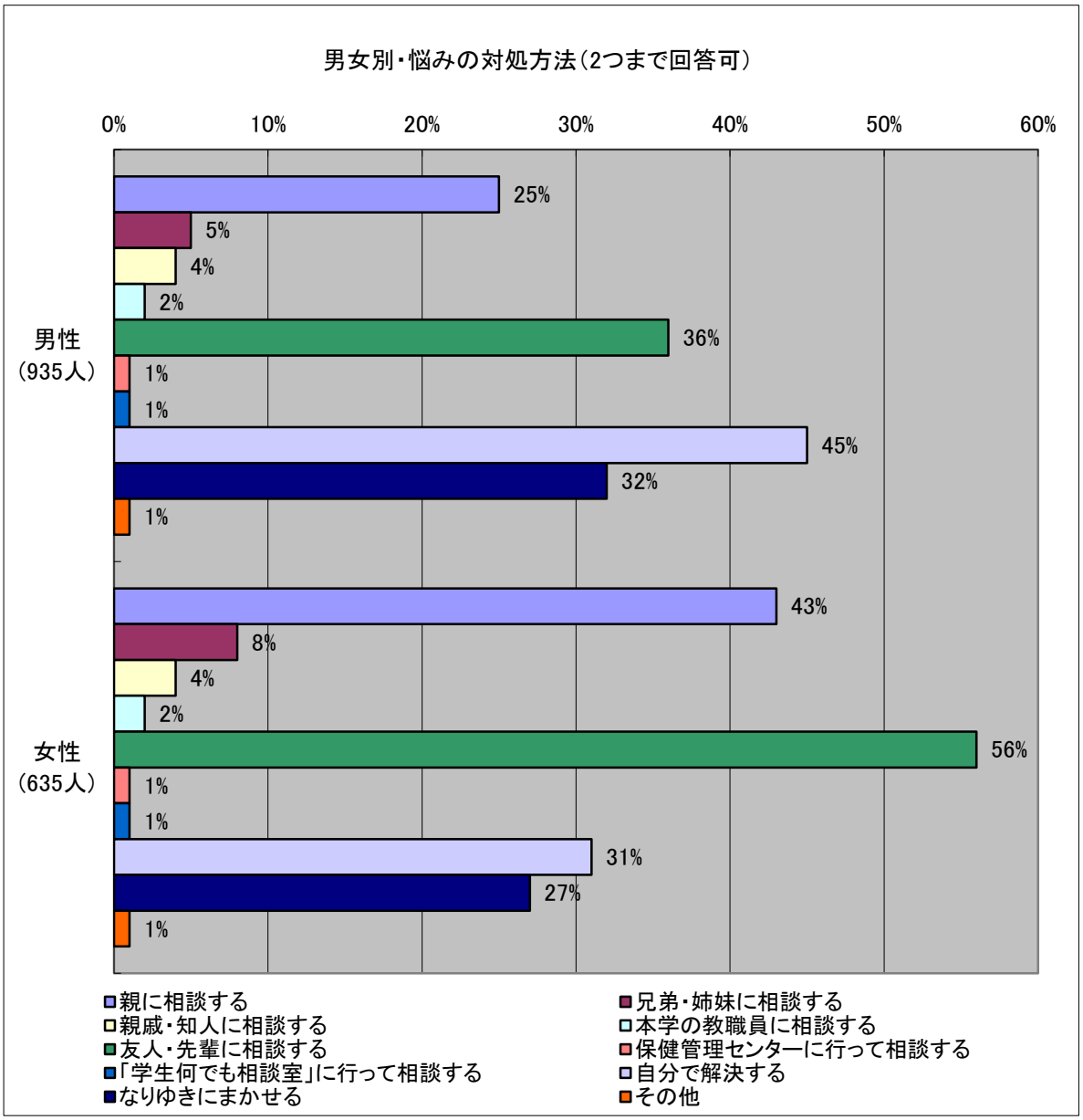


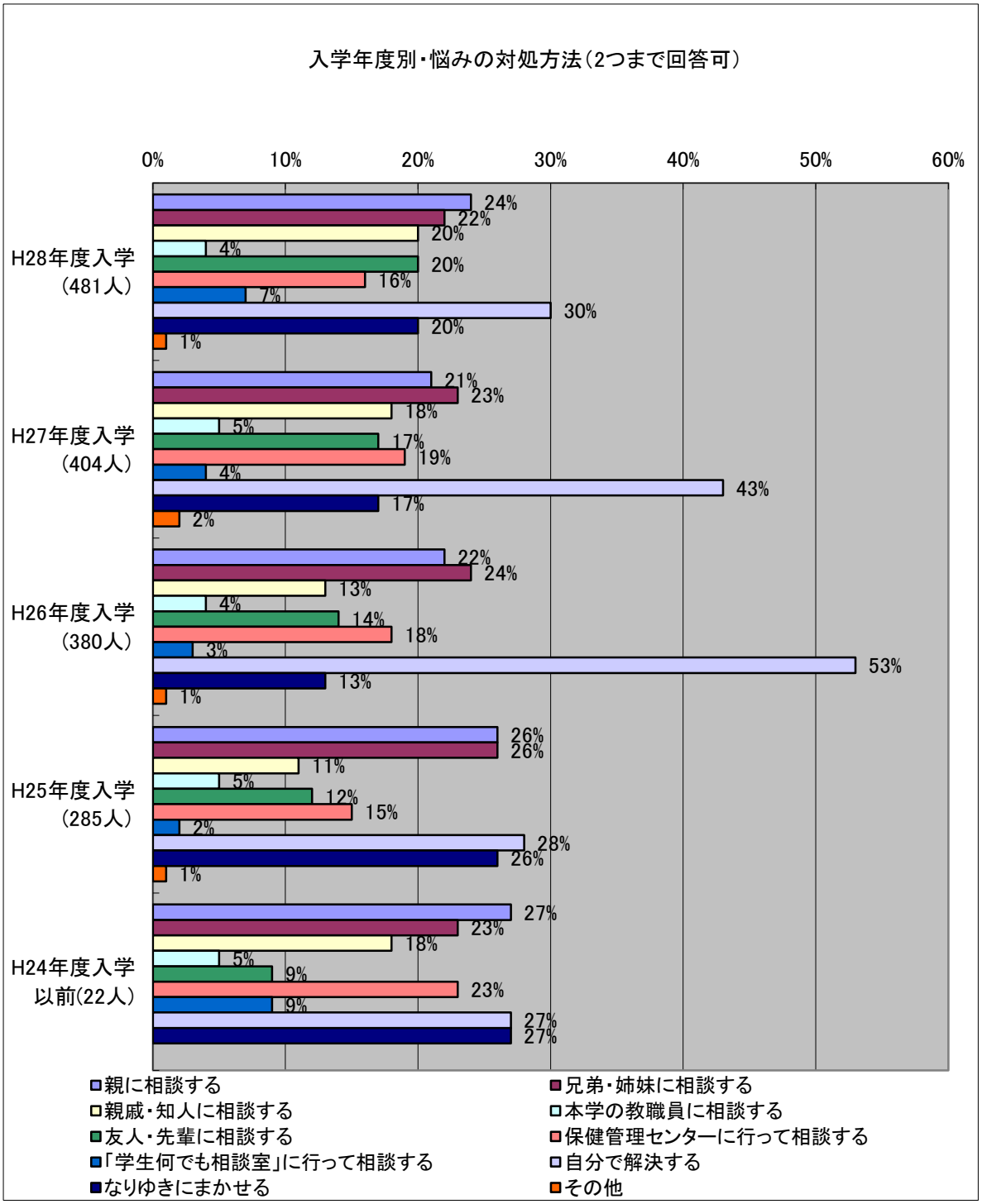

問 70　コメント

現在の悩みについては多様な回答が得られている。男性では「職業・進路」「経済面」の順に多く，それに続くのは「悩みがない」であった。女性でも「職業・進路」が最も多いのは共通だが，次は「健康・身体・性格」そして「経済面」「学業」の順となっている。

学年推移では学年を経るにしたがって「職業・進路」の割合が増加し，H26 年度入学生においては半数以上がこの項目を選択している。就職活動の開始を前にして，進路の悩みや迷いに直面していることがうかがえる。

問 71　悩みが生じた場合，どのように対処していますか。又は，対処するつもりですか。
（2 つまで回答可）



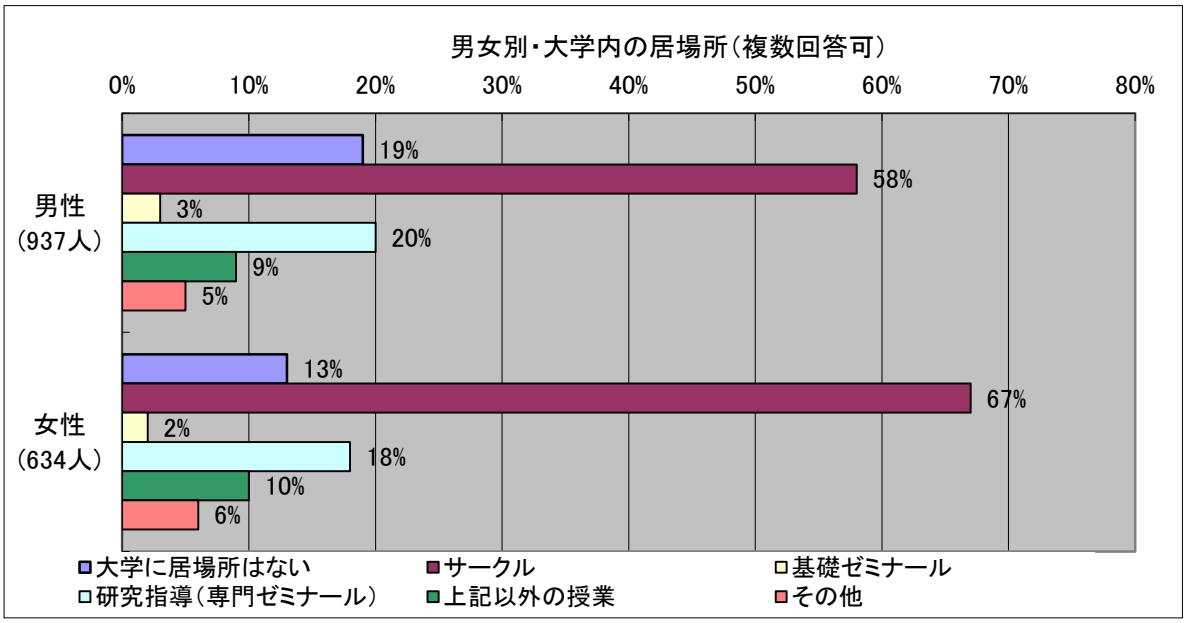


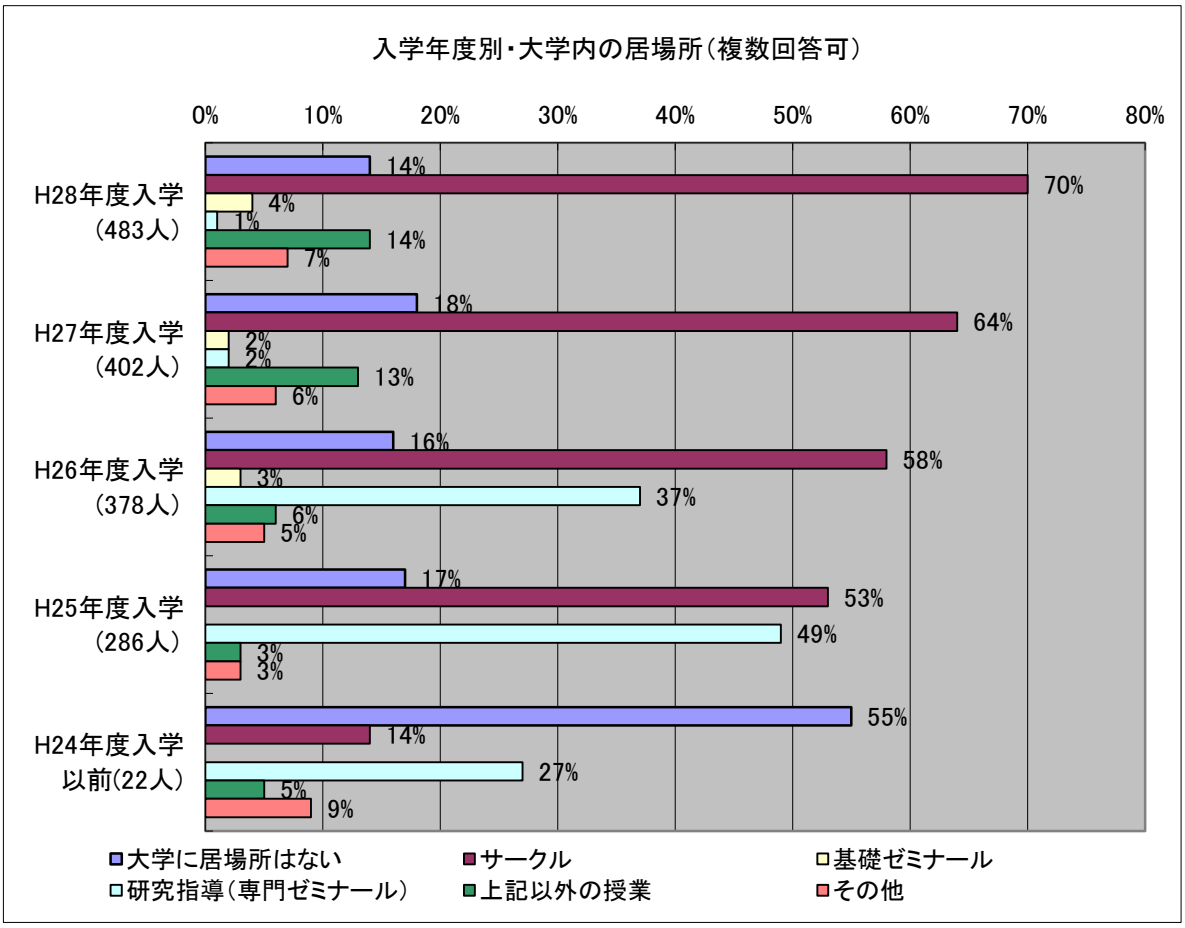

問 71　コメント

悩みが生じたときの対応には男女の違いがみられた。男性では「自分で解決する」割合が最も高く，「友人・先輩に相談する」「なりゆきにまかせる」の順であるのに対し，女性では「友人・先輩に相談する」「親に相談する」割合が高い。女性の方がストレスや悩みに直面した時の社会的資源を豊かに持っていることが推測される。

「保健管理センターに行って相談する」「学生何でも相談室に行って相談する」という選択の割合は低いものにとどまっている。この傾向には「自分で解決する」という選択肢への志向性の高さが関係していることが推測されるが，保健管理センターや学生何でも相談室の学内広報の在り方についても再検討する必要があるかもしれない。

問 72　大学内にあなたの「居場所」（安心して過ごすことのできる場所）はありますか。（複数回答可）



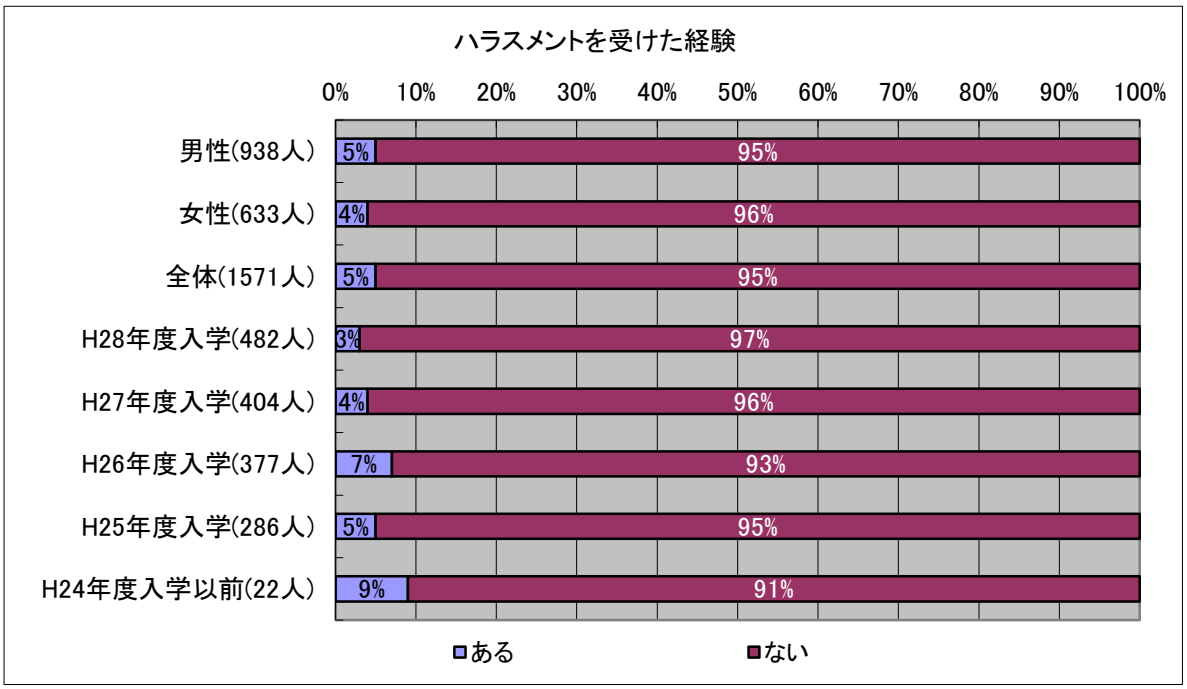

問 72　コメント

問 69（友人を作る場所）と類似した結果が得られた。全体的に「サークル」が居場所であるという回答が多く，学年が上がるにつれて「研究指導（専門ゼミナール）」の割合が増加する。

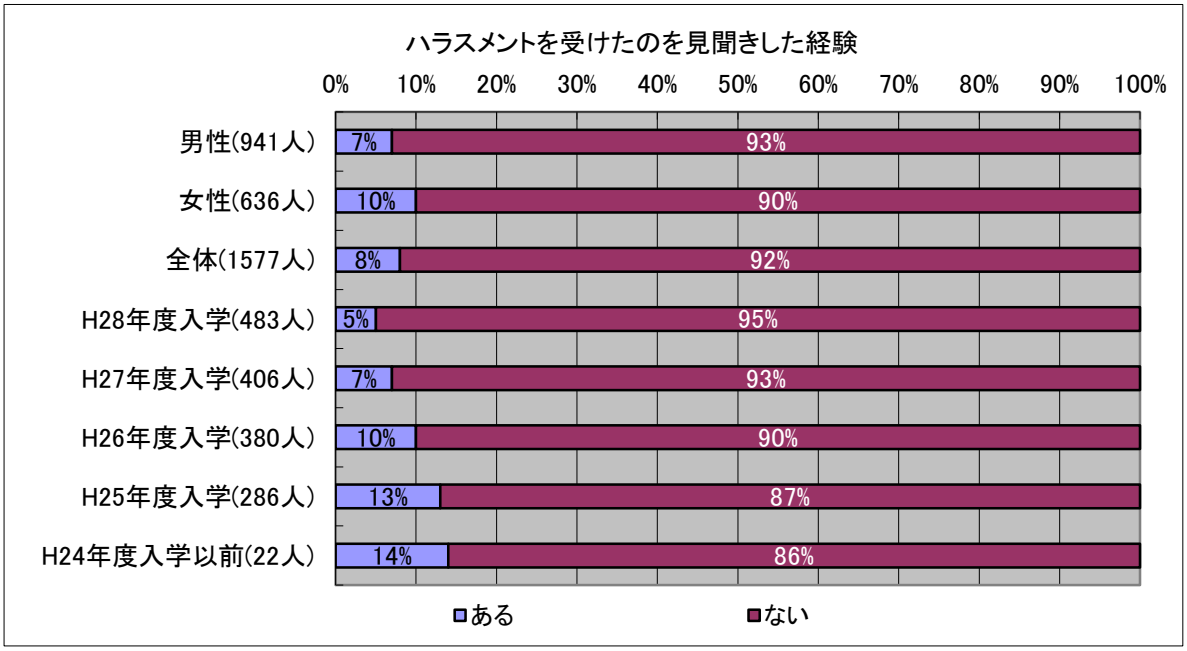
このことからは学生が友人との関係性を自分の居場所としてとらえていることが読み取れる。実際，友人たちの多くが卒業した過年度生では「大学内に居場所がない」との回答が５割を超えている。

## １１　ハラスメントについて

問 73　本学の教職員，先輩，友人などからハラスメントを受けたことがありますか。




問 74　本学の学生がハラスメントを受けるのを見たり聞いたりしたことはありますか。

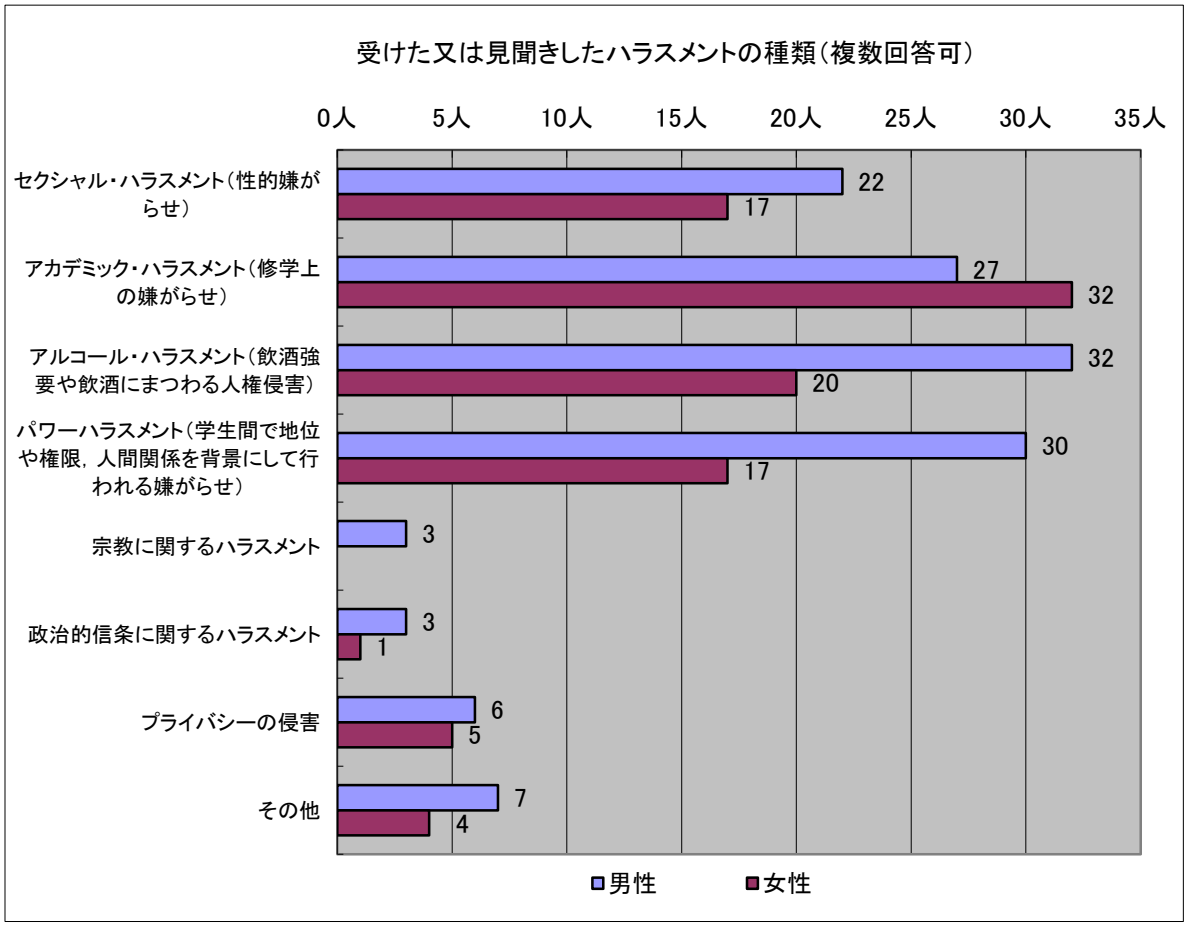



問 73～74　コメント

自分自身がハラスメントを受けた割合は，男子学生 5%，女子学生 4%，他人が受けたことを見聞きした割合は男性 7%，女性 10%である。

大学内においてハラスメントは他人事ではなく，予防対策の強化が必要と考えられる。

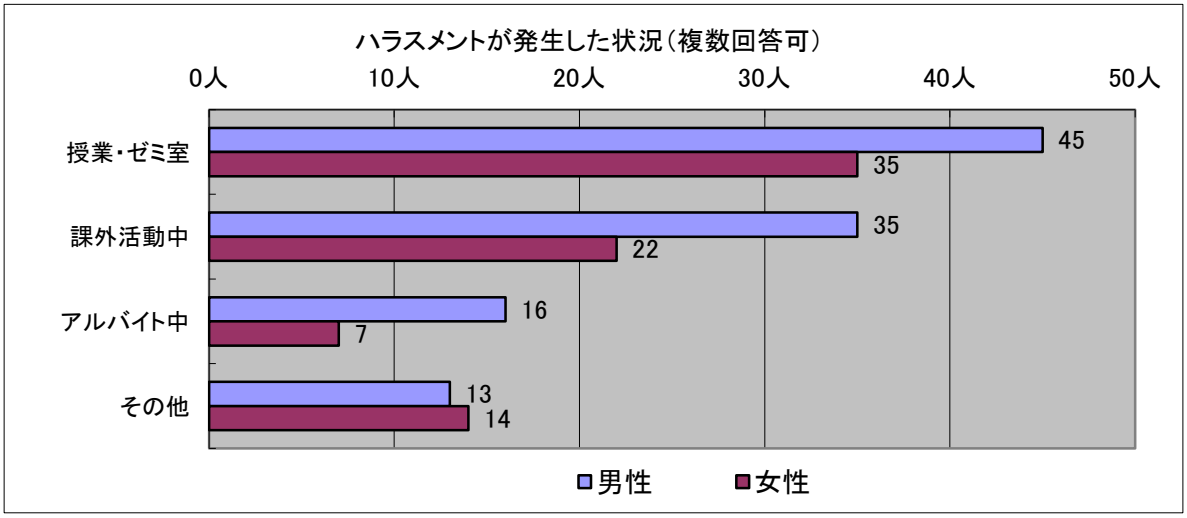
問 75　それはどのようなハラスメントでしたか。（複数回答可）




問 75　コメント

全体で最も多かったのはアカデミック・ハラスメントであり，教員のハラスメント防止に対する意識が不足している状況があると考えられ，早急な対策が必要である。アルコール・ハラスメントが次いで多いが，飲酒の程度の回答で見られた危険な飲酒がアルコールハラスメントによって引き起こされている可能性もあり，生命の危険に直結する行為であることの認識をもって予防してもらいたい。

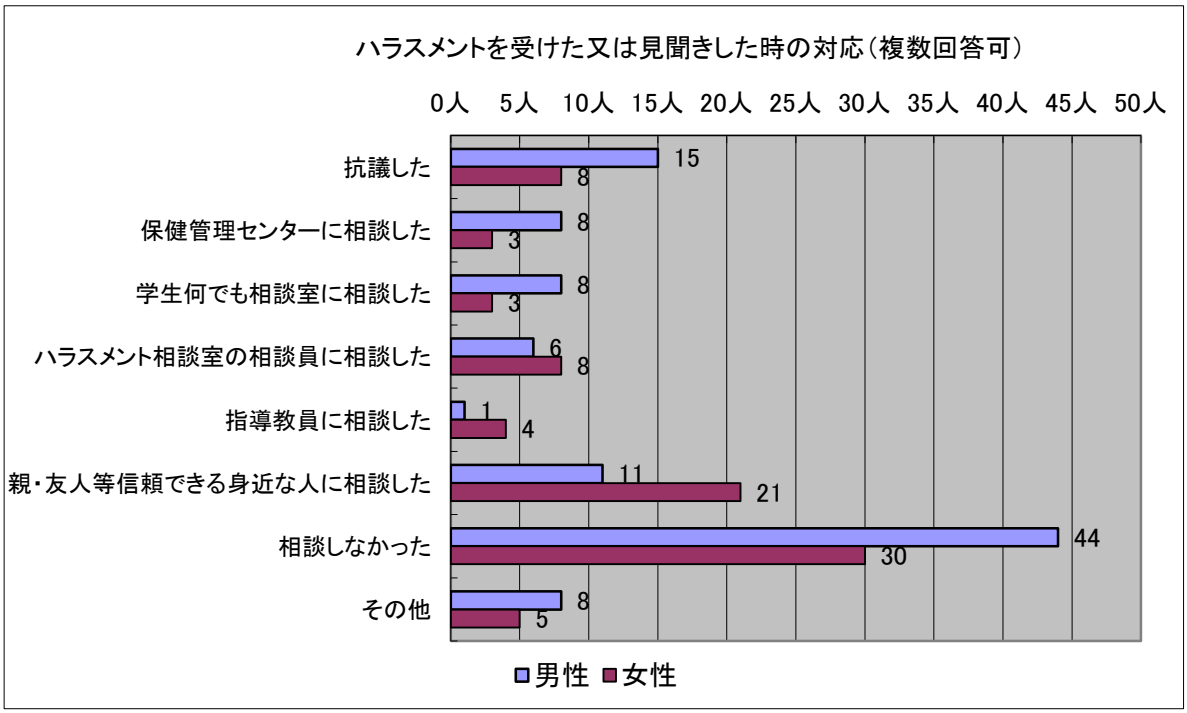
問 76　どのような状況でハラスメントは起こりましたか。（複数回答可）




問 76　コメント

アカデミック・ハラスメントが最も多かったことから，発生した状況も授業・ゼミ室が最も多かった。学生間のパワー・ハラスメントについては課外活動中などに行われていると考えられる。

問 77　ハラスメントに対してどのように対応しましたか。（複数回答可）

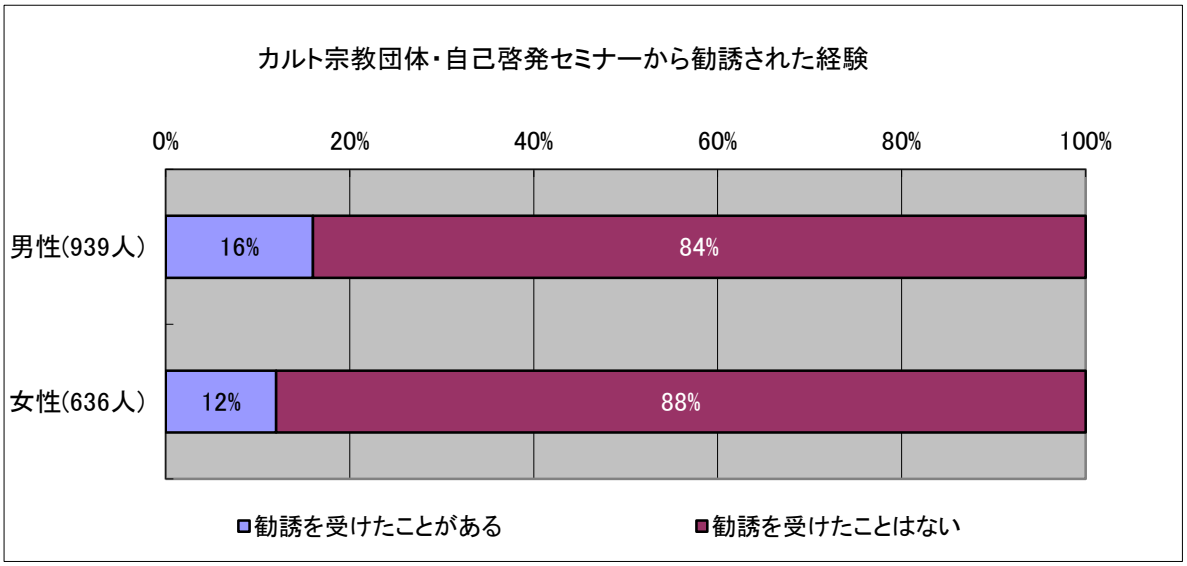



問 77　コメント

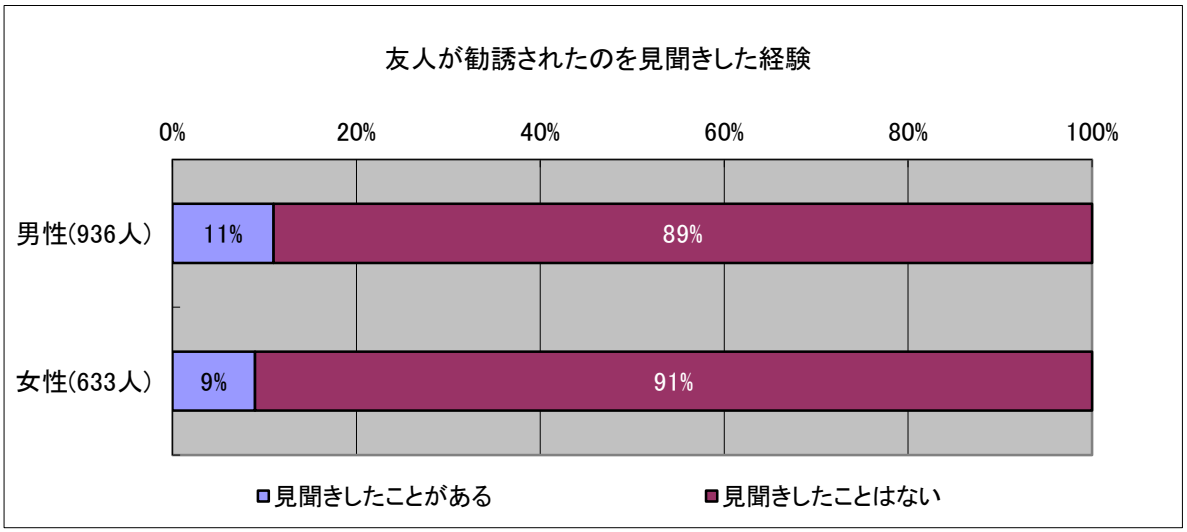
ハラスメントは立場の強い側から弱い側に行われることが多いため，直接抗議するということは難しく，多くはならないのは当然と思われる。「相談しなかった」という回答が最も多いが，相談しない状況では解決を図られず，再発防止も行われない。前回調査よりは保健管理センター，学生何でも相談室，ハラスメント相談室に相談した人が増えたが，依然としてハラスメント被害者が相談しやすい体制が不十分であると考えられた。

## １２　カルト，薬物について

問 78　カルト宗教団体・自己啓発セミナーから勧誘を受けたことがありますか。



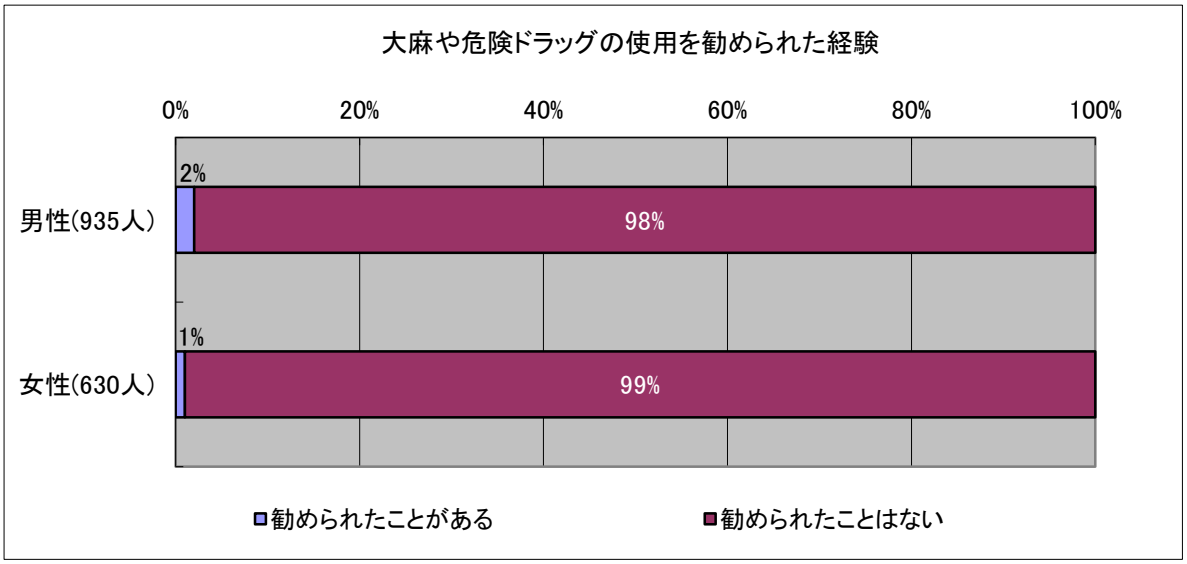

問 79　友人がカルト宗教団体・自己啓発セミナーから勧誘を受けて困っているのを見聞きしたことがありますか。



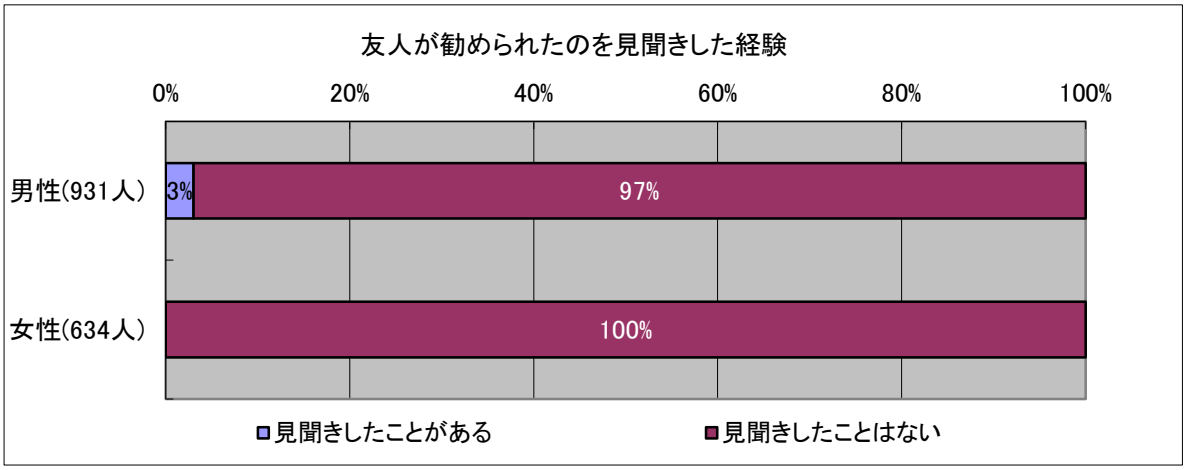

問 78～79　コメント

本調査項目は平成 25 年度調査から取り入れられたものであるが，カルト宗教団体・自己啓発セミナーからの勧誘は男女とも減少した。友人の状況についても男女とも減少している。友人からの状況のほうが本人に対する勧誘よりも少ないのは，こういった勧誘を受けたことをあまり相談できない状況にある可能性がある。

問 80　大麻や危険ドラッグの使用を勧められたことがありますか。




問 81　友人が大麻や危険ドラッグの使用を勧められたのを見聞きしたことがありますか。



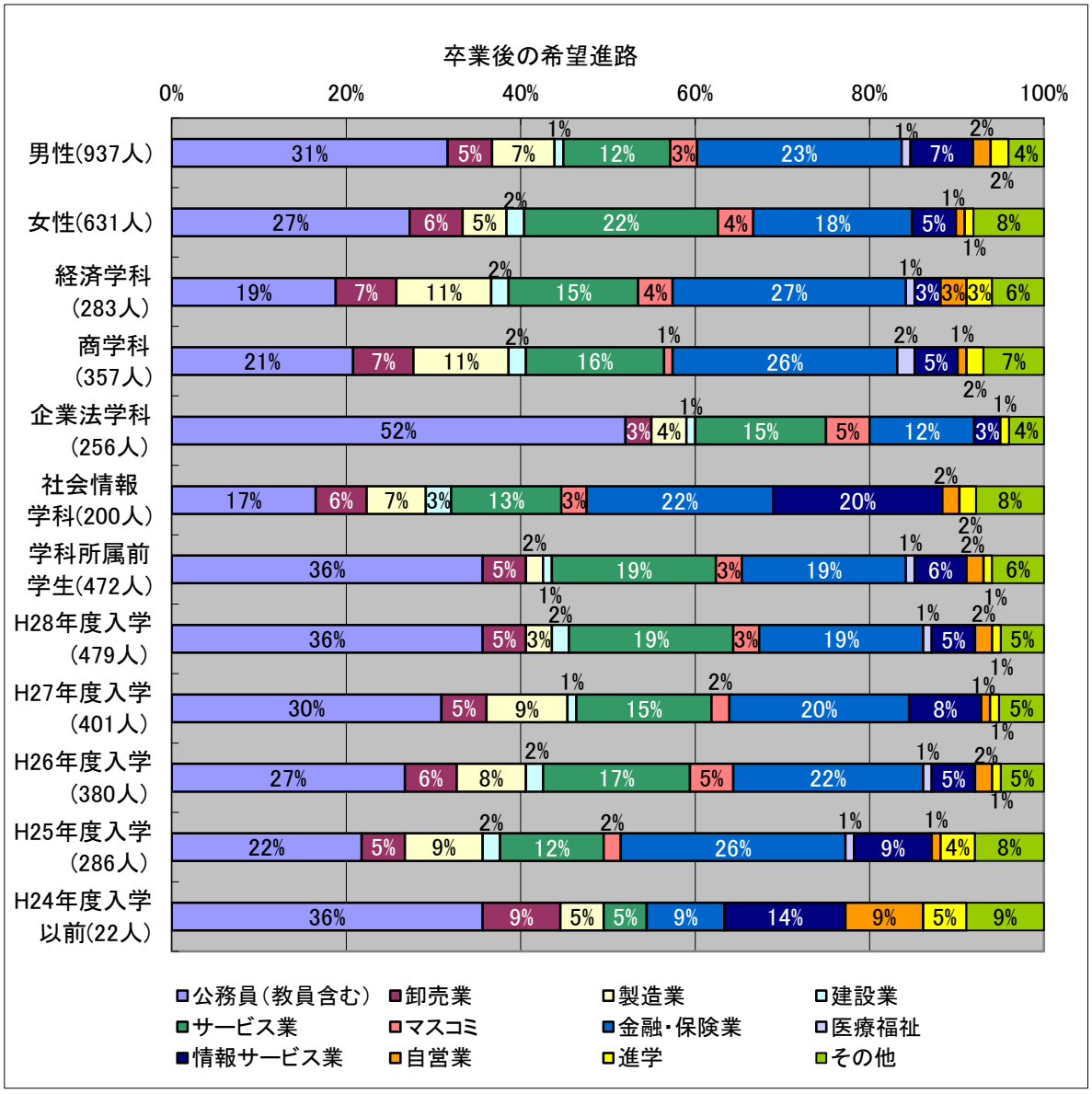

問 80～81　コメント

大麻や危険ドラッグの使用を勧められた人は男性 2%，女性 1%であり，友人が勧められたのを見聞きしたのは男性で 3%であった。

いずれも大学生を含めた若年層に入り込みやすい違法薬物であるため，決して興味本位などで近づかないこと，しっかりと断ること，警察などへの相談を行ってほしい。

## １３　就職について

問 82　卒業後の進路をどのように考えていますか。あるいはどこに決まりましたか。（決まっていないときは第一志望）



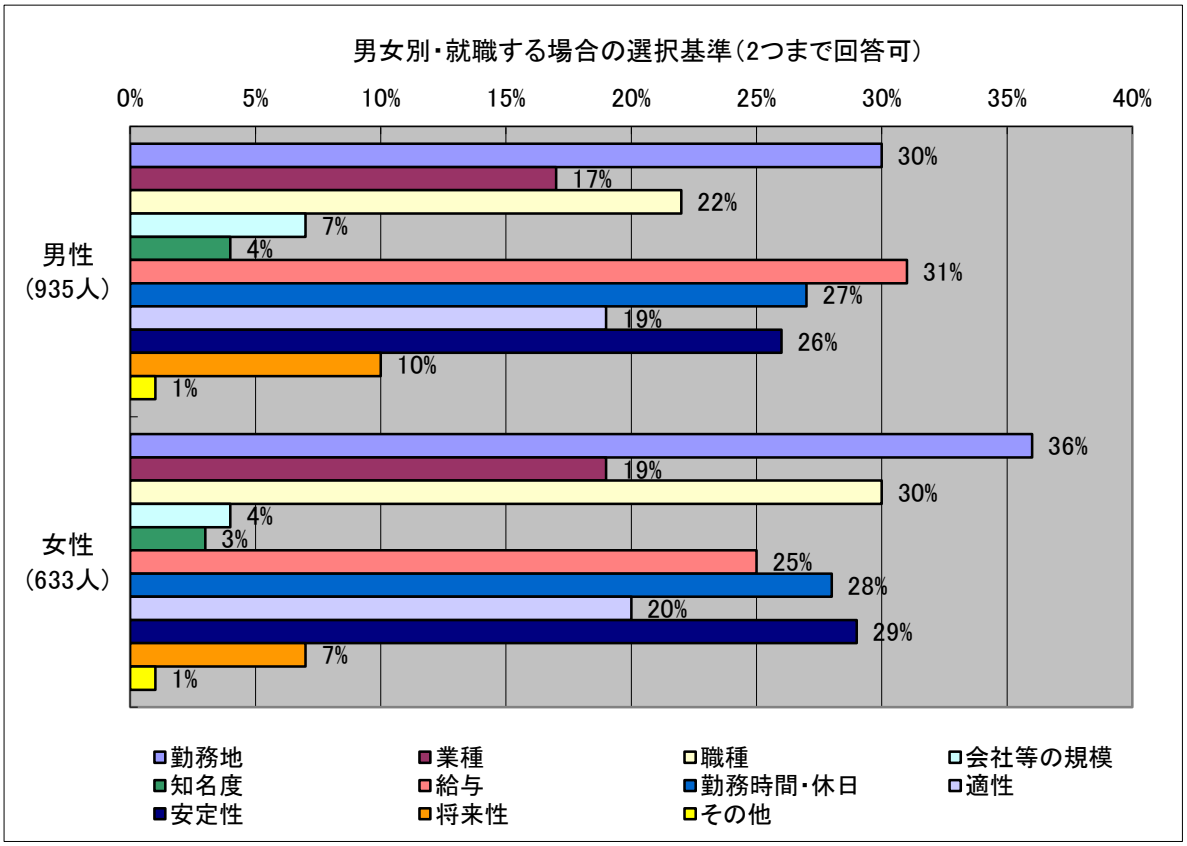

問 82　コメント

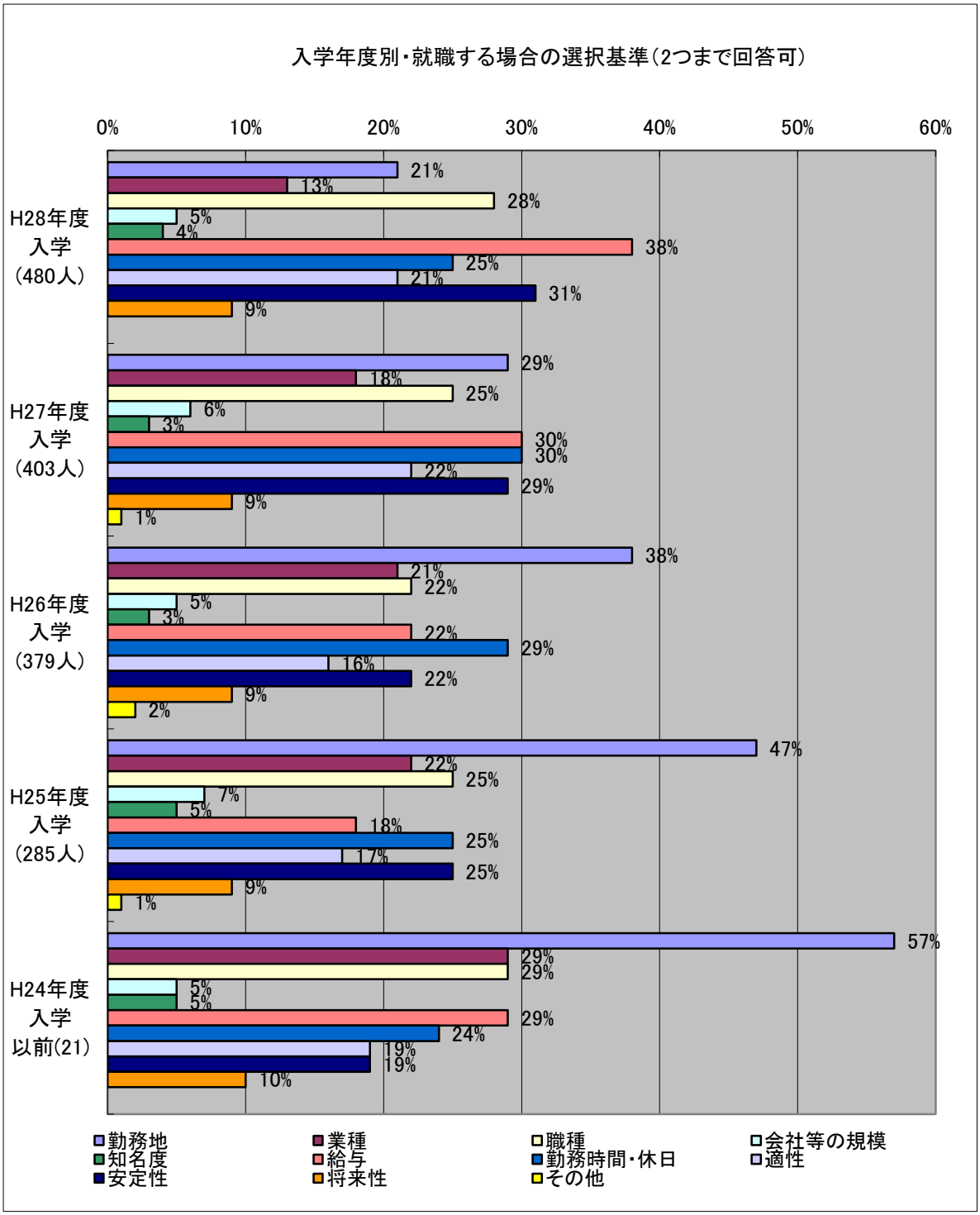
卒業後の進路希望について男女で異なるのは「サービス業」への志向では女性が 10 ポイント高いこと，「公務員」は 4 ポイント，「金融・保険業」への志向では男性が 5 ポイント高いことである。

学科ごとの集計では，企業法学科所属の学生の「公務員」志向の高さ，社会情報学科所属の学生の「情報サービス業」志向の高さが特徴的である。「金融・保険業」志向は（企業法学科所属の学生を除き）３学科において２割以上と高くなっており，商学系単科大学である本学の特徴といえるであろう。

「公務員」への志向については全体的に入学時では 36%と高いが，以降，減少する傾向にある。漠然と公務員を志望して入学したが，試験倍率や受験勉強等の現実を知ることによって受験を断念するというケース，また，大学での学習を通して入学時には知らなかった業界への関心が高まり民間企業志望に変更するというケース等が想定される。

問 83　就職する場合に何を基準に考えますか。あるいは考えましたか。（2 つまで回答可）



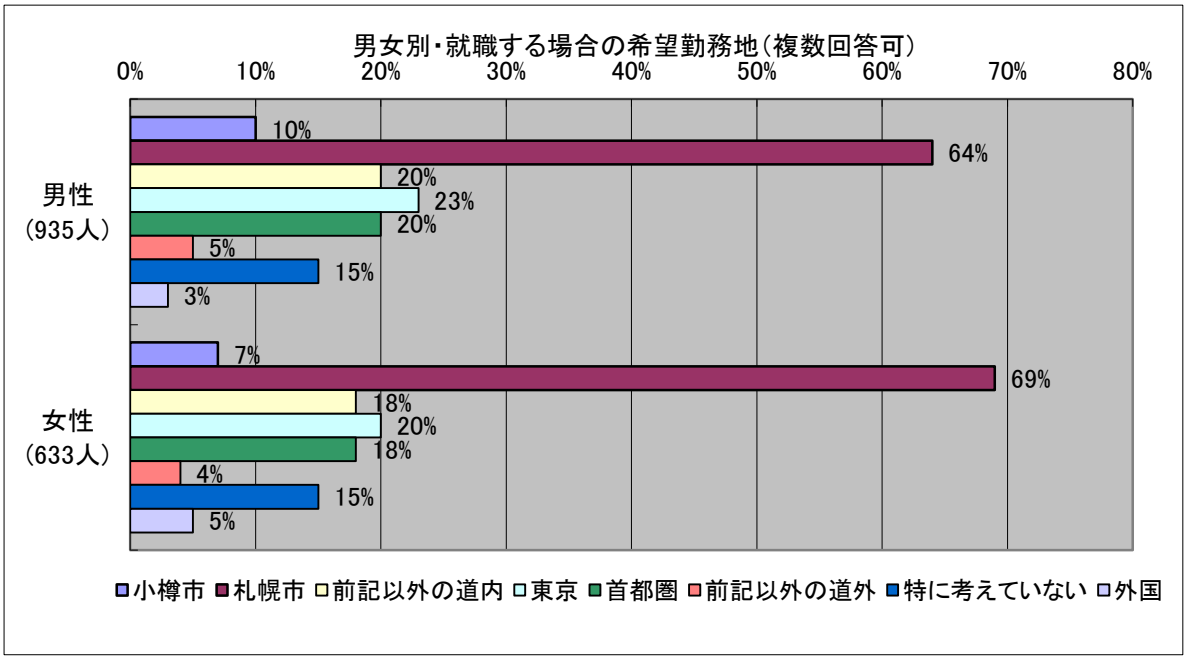


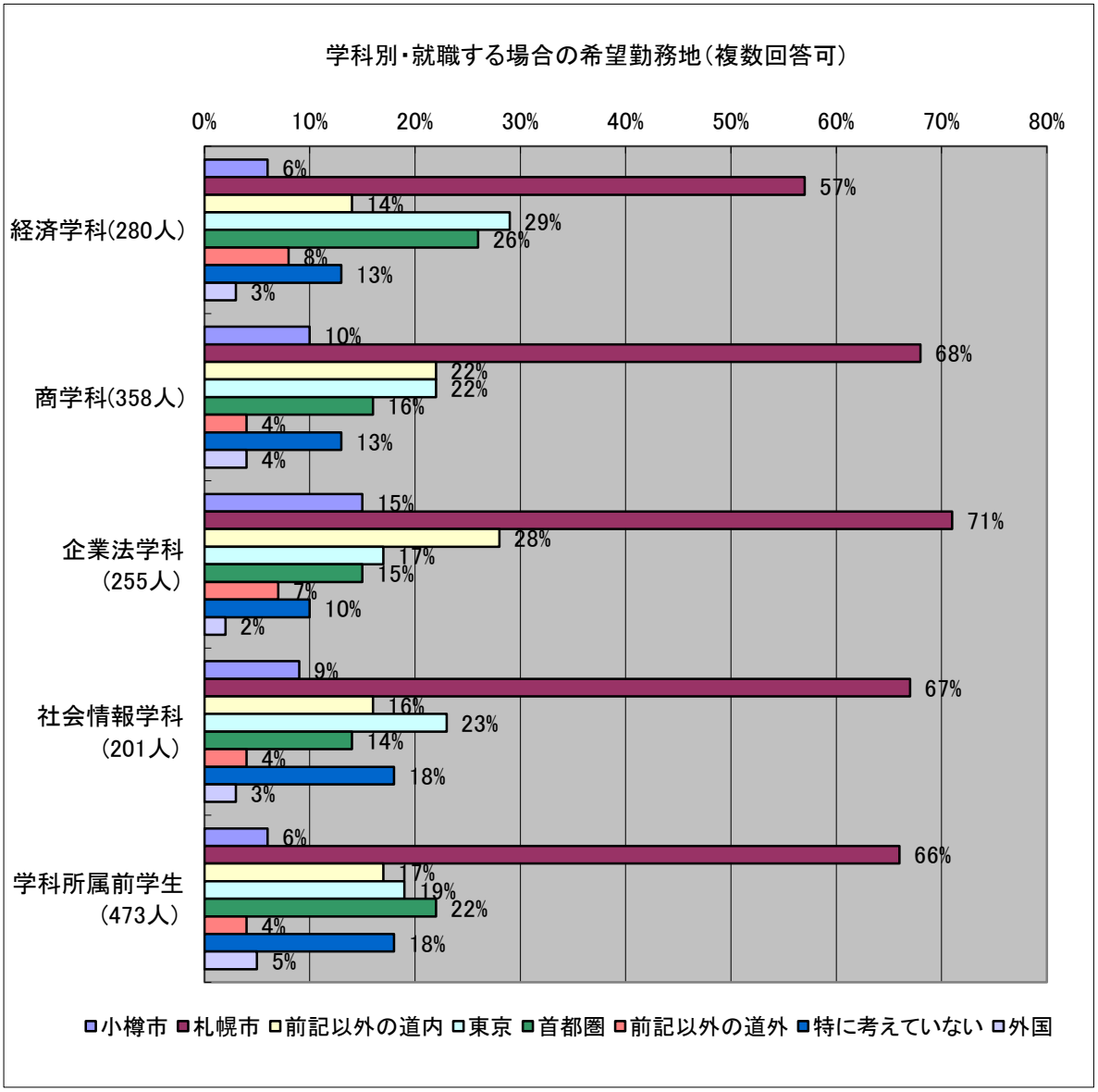

問 83　コメント

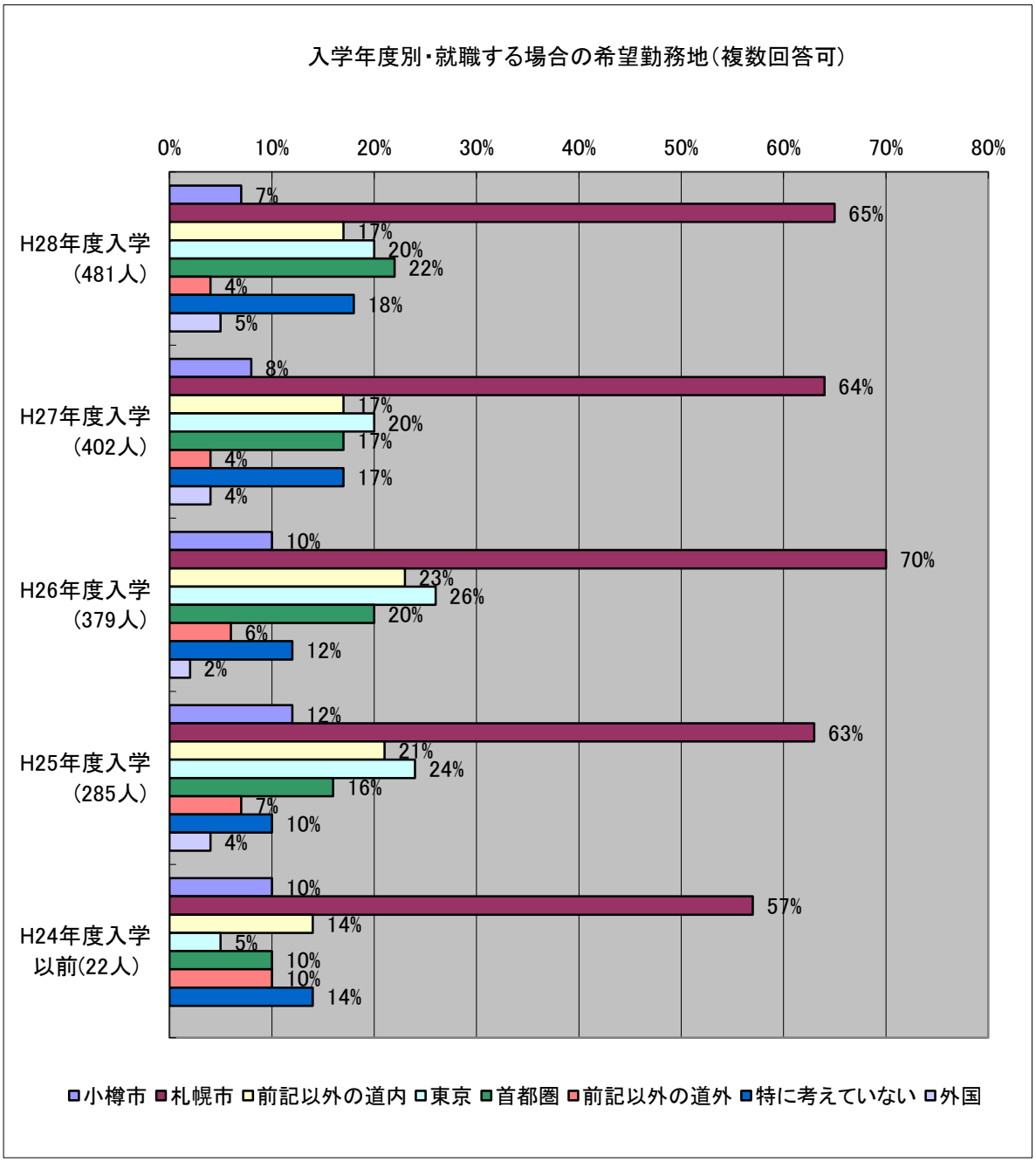
就職を決定する際の基準としては，さまざまな要因が検討されている。選択割合が多いものは男性では「給与」「勤務地」「勤務時間・休日」「安定性」，女性では「勤務地」「職種」「安定性」「勤務時間・休日」である。全体的に会社の規模や知名度よりも労働環境に関する要因が重視されているが，これにはマスメディアによるいわゆる「ブラック企業」報道が影響していることが推測される。

「勤務地」が高く意識されているのは，地方大学によくみられる傾向である。本学の場合，入学時には 21%にすぎなかったこの項目の選択率が学年推移とともに倍以上に増加している。

問 84　就職する場合に勤務地はどこを希望しますか。（複数回答可）



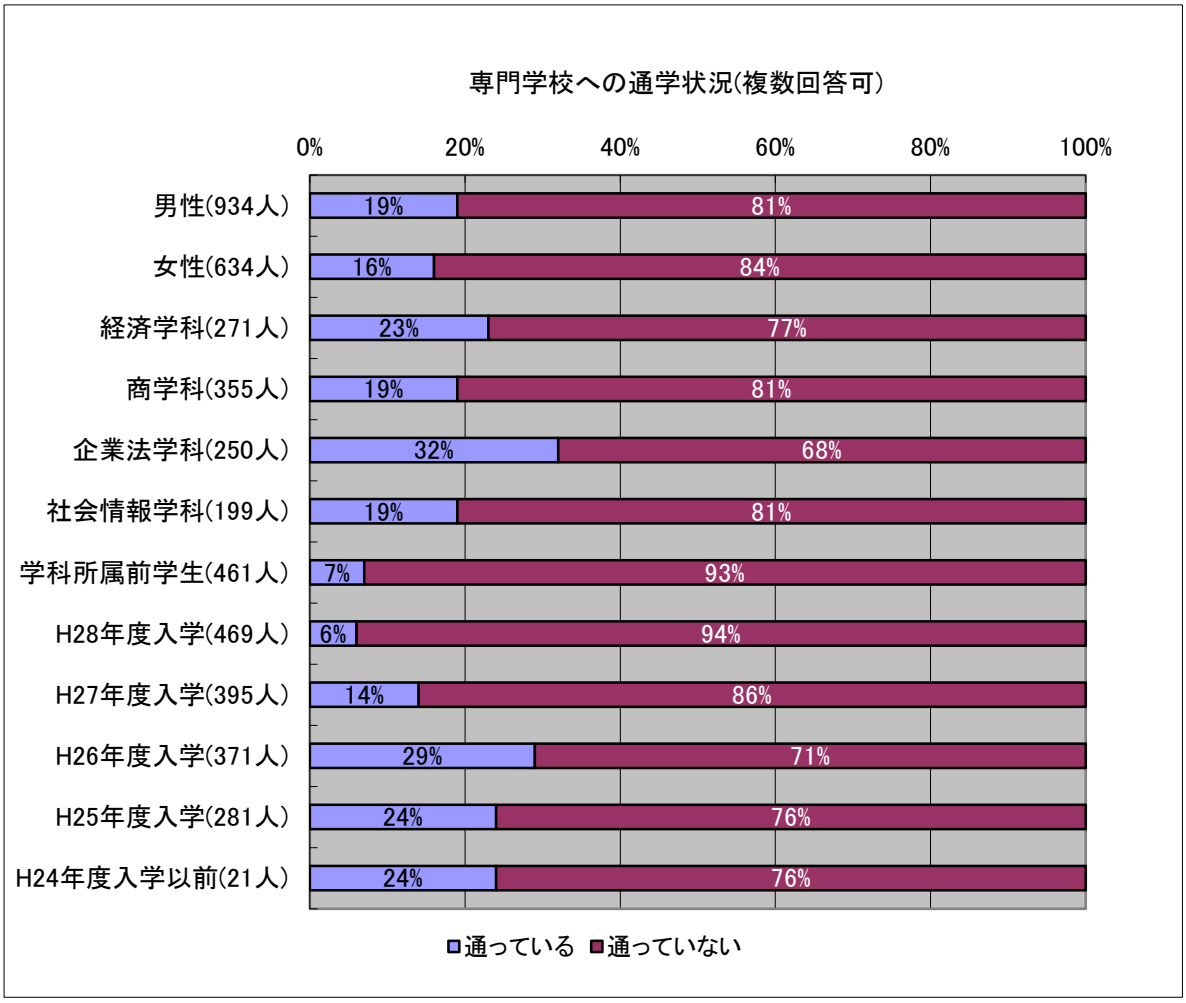



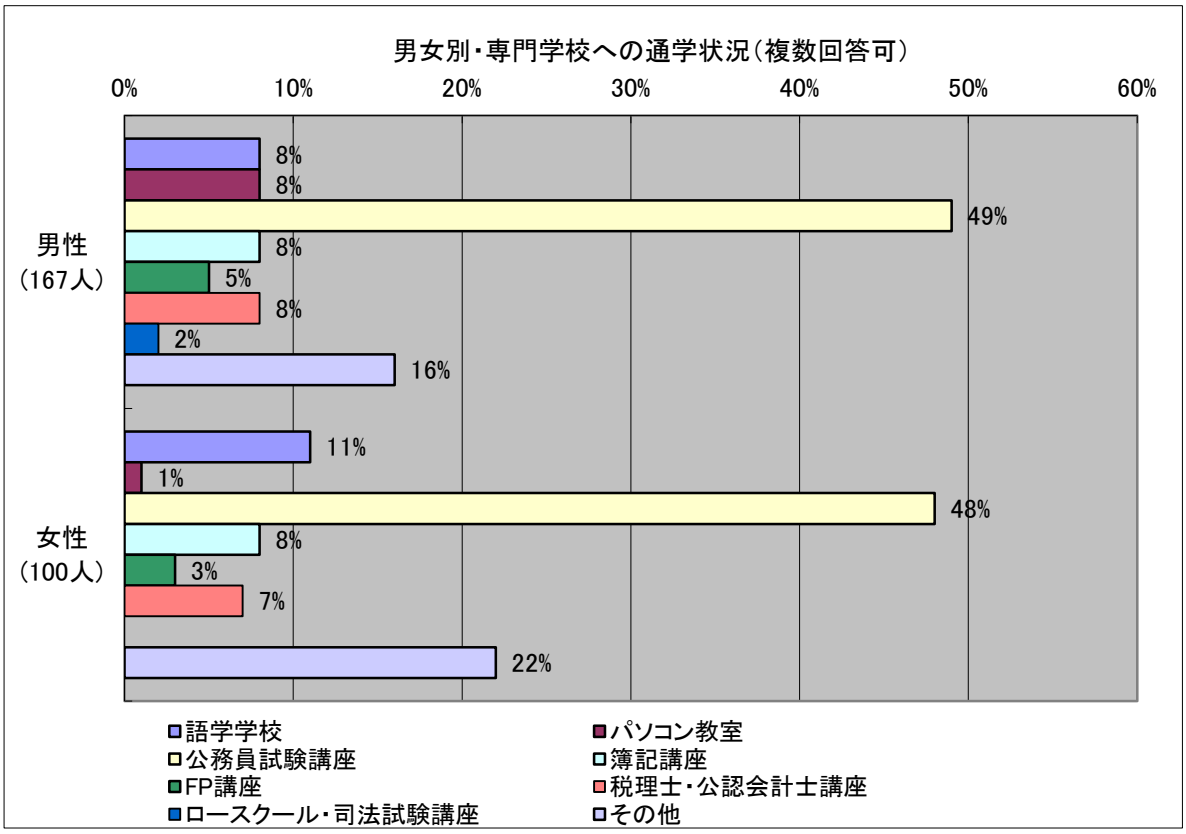


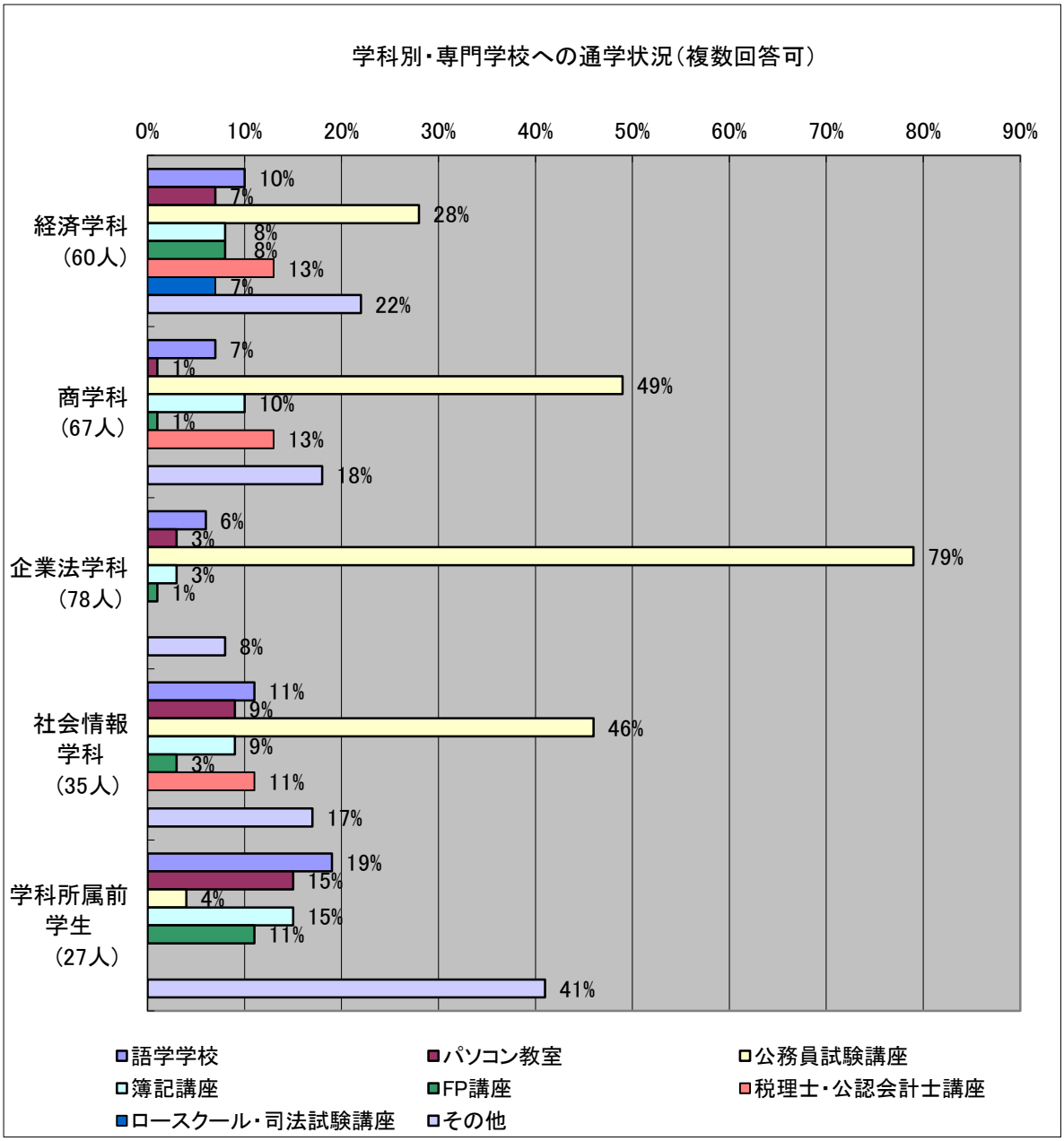

問 84 コメント

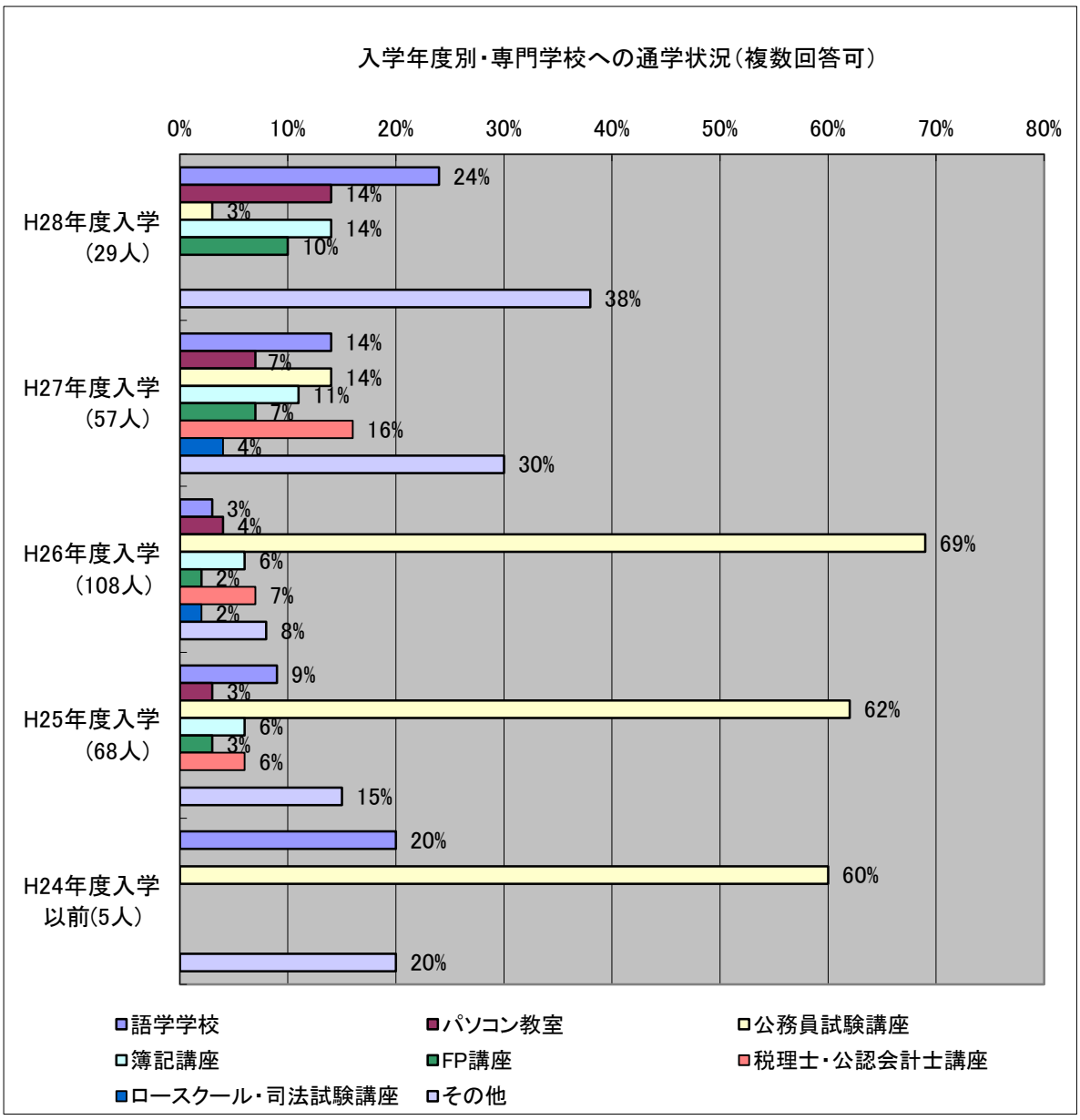
「勤務地」の希望は「札幌市」が圧倒的に多く，「東京」がそれに続く。これは男女に共通する傾向である。札幌への地元志向は強いものであるが，他方，東京・首都圏への就職を希望する学生が一定数，存在することも確認できる。

問 85　将来の就業のために，各種専門学校等に通っていますか。あるいは通っていましたか。（複数回答可）




学科別・専門学校への通学状況（複数回答可）
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
経済学科（60人）
10%
7%
28%
8%
8%
13%
7%
22%
商学科（67人）
7%
1%
49%
10%
1%
13%
18%
企業法学科（78人）
6%
3%
79%
3%
1%
8%
社会情報学科（35人）
11%
9%
46%
9%
3%
11%
17%
学科所属前学生（27人）
19%
15%
4%
15%
11%
41%
語学学校
パソコン教室
公務員試験講座
簿記講座
FP講座
税理士・公認会計士講座
ロースクール・司法試験講座
その他

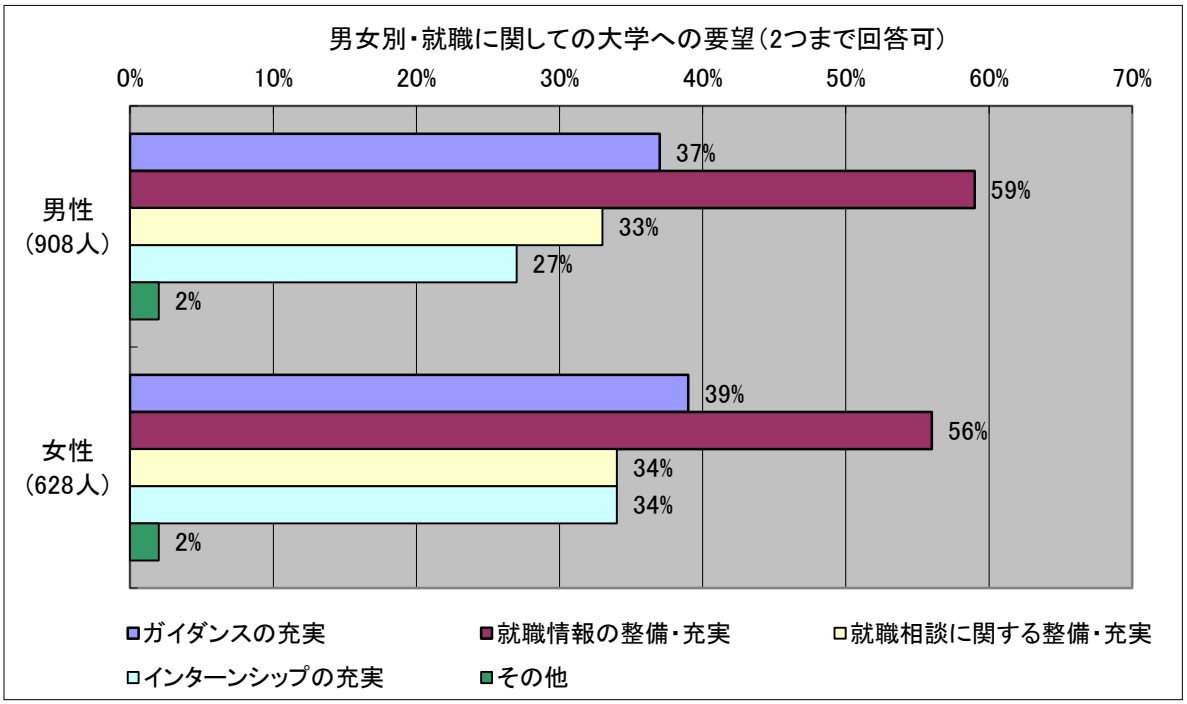


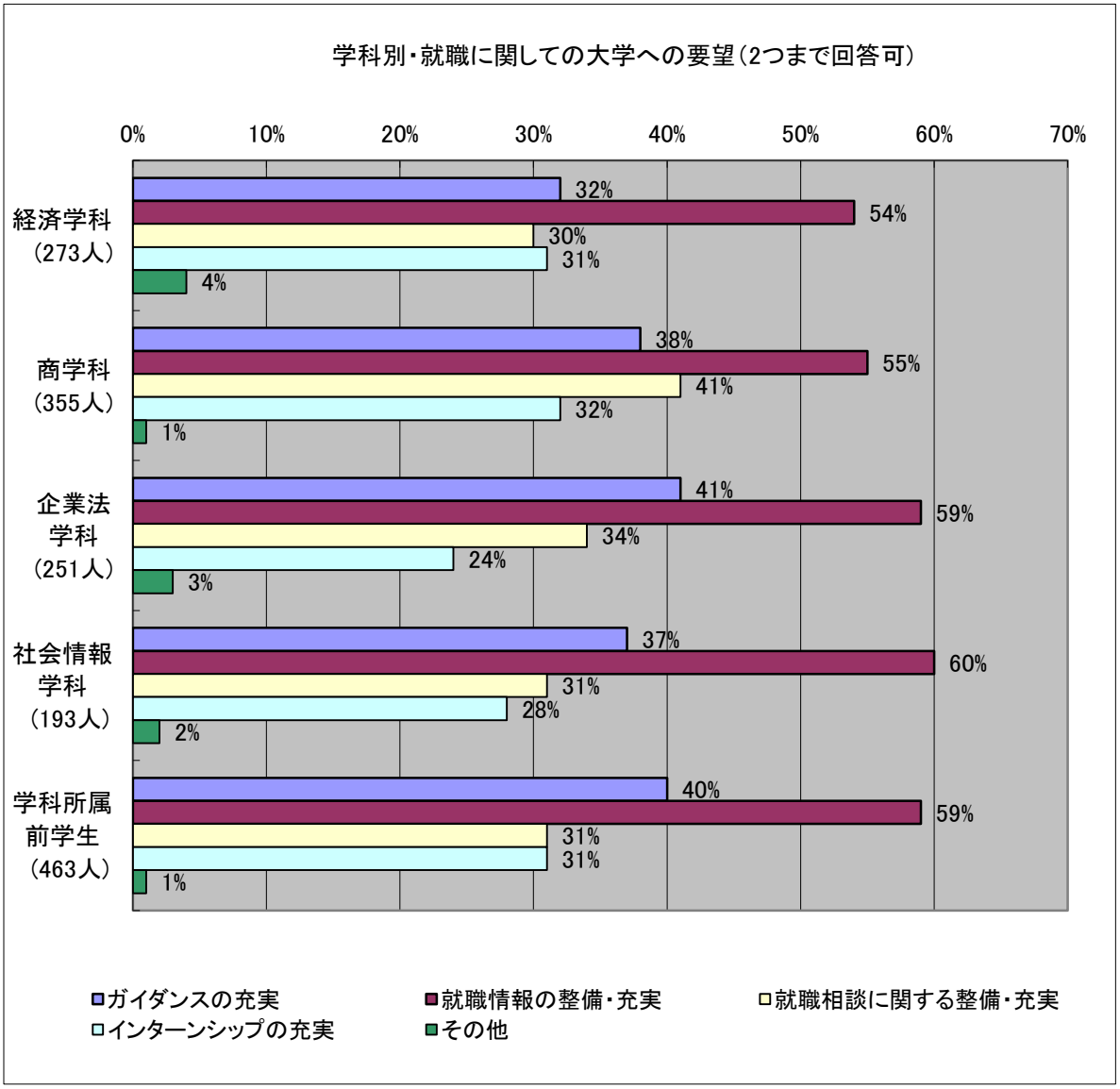

問 85　コメント

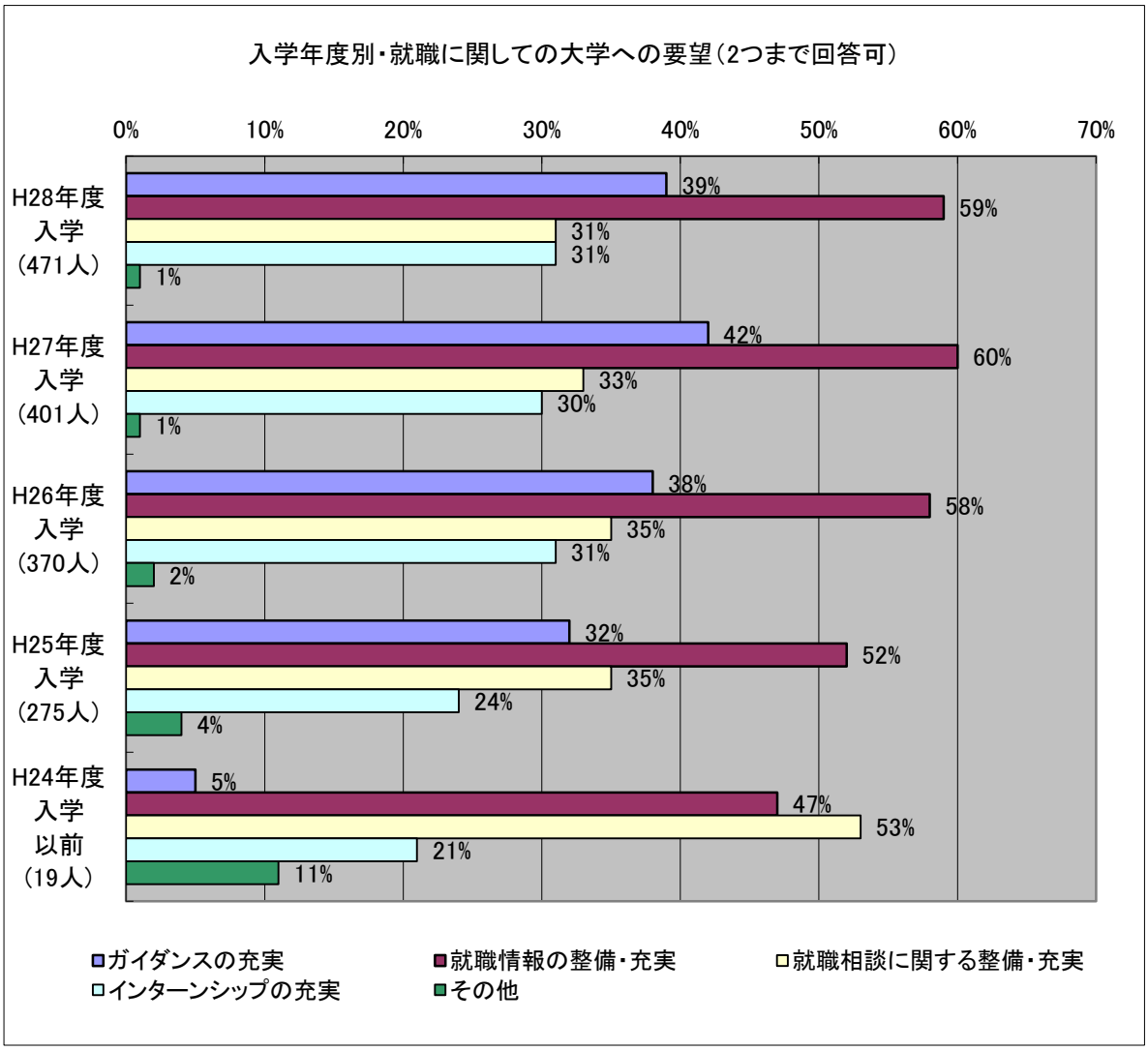
ダブルスクールを行っている学生は男性で 19%，女性で 16%であり，その内容としては「公務員対策講座」「その他」「語学学校」といった順になっている。「その他」の内容は「社会保険労務士」，「イラスト学校」であった。

学科ごとの違いでは，公務員への高い志向性を反映して企業法学科所属学生の「公務員試験対策講座」受講が多いのが特徴的である。

問 86　就職に関して，大学にどのような要望がありますか。（2 つまで回答可）



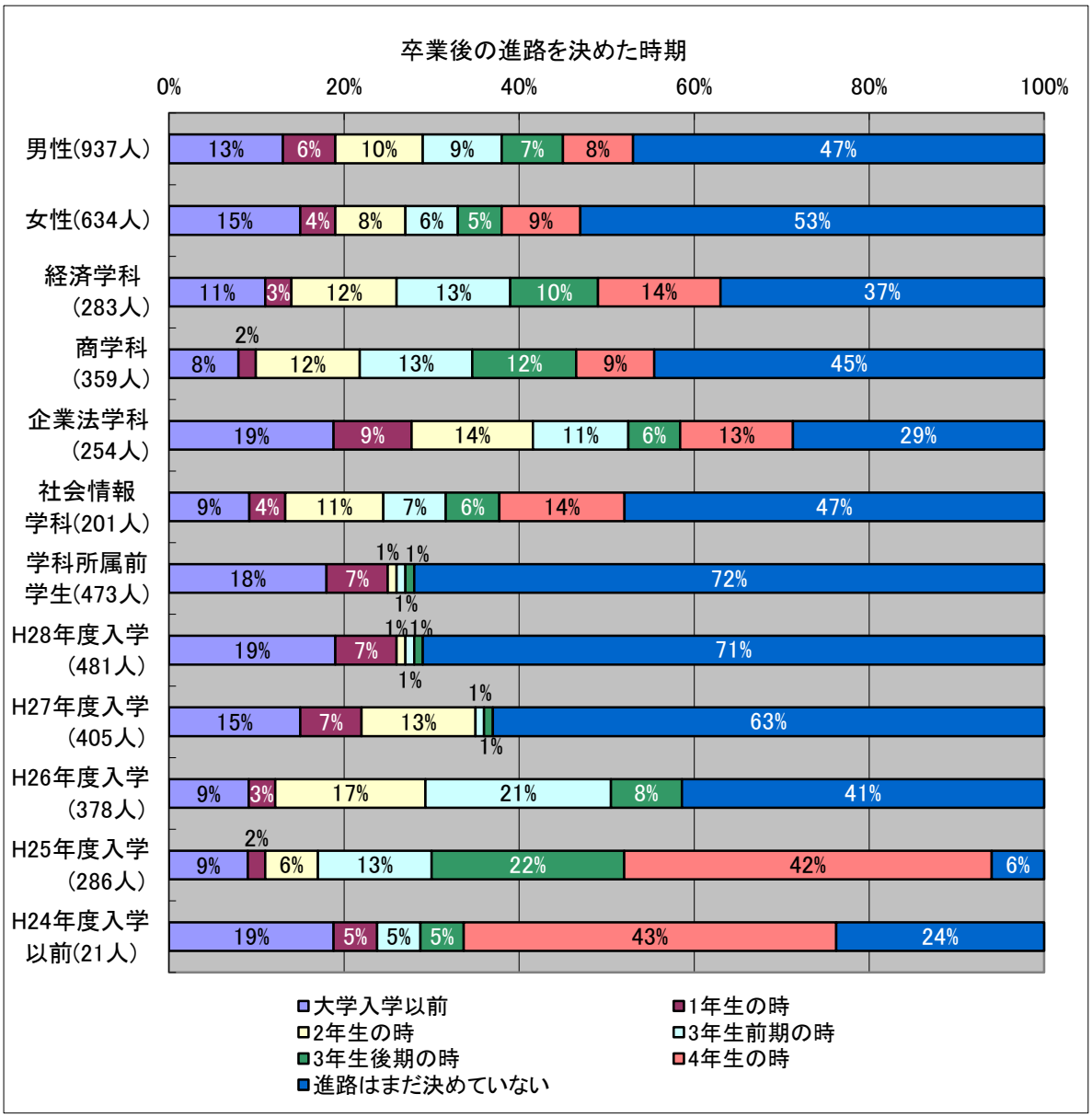



問 86　コメント

就職に関する要望として，「就職情報の整備・充実」「ガイダンスの充実」「就職相談に関する整備・充実」「インターンシップの充実」というすべての選択肢への反応がみられる。「その他」の自由記述には，「就職ガイダンスを札幌で行ってほしい」「公務員対策講座を大学内で行ってほしい」等があった。

この回答は，本学の就職支援体制が学生の要望を十分に満たしていない可能性を示唆する。さらに，学生に就職支援の情報が十分に届いていないことを示唆している可能性も否定できない。キャリア支援センターでは LINE による各種情報の発信を開始したが，多様な手法による情報発信が必要であろう。

問 87　卒業後の進路を決めたのはいつですか。

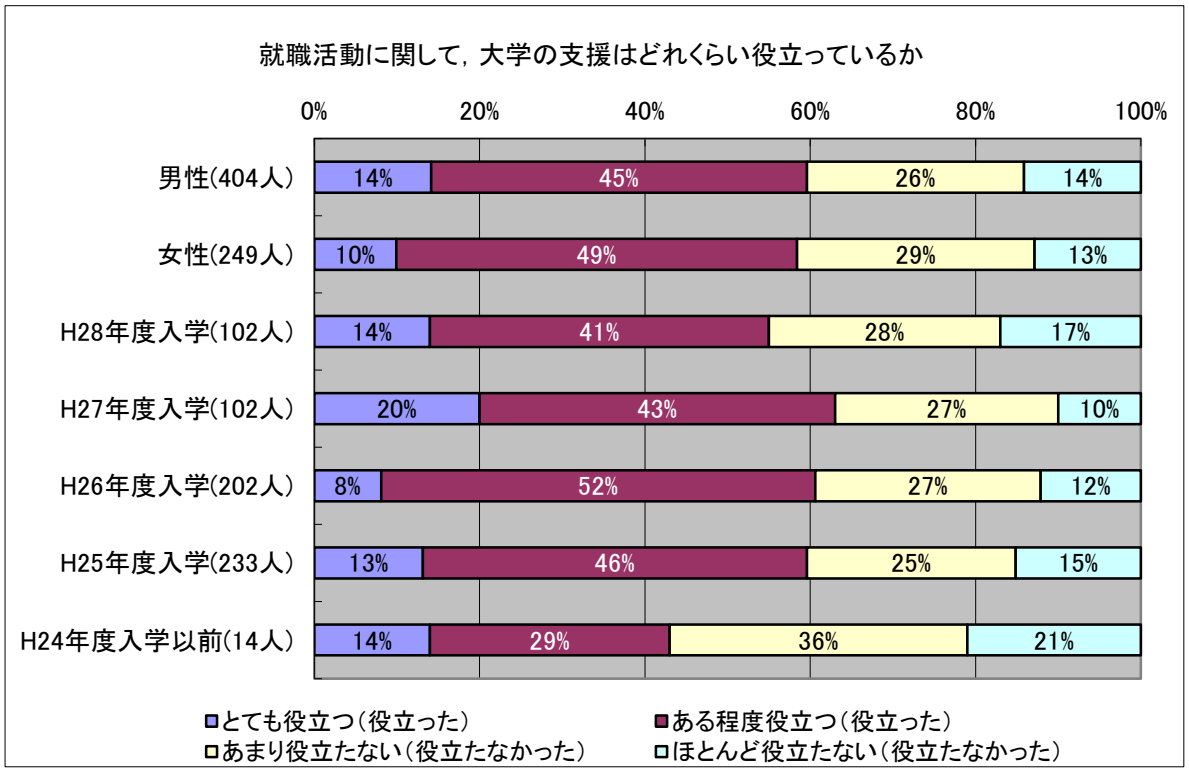



問 87　コメント

卒業後の進路について「進路をまだ決めていない」とする回答は，学年推移とともに減少する傾向がある。H26 年度入学生は３年生後期に位置する学生がほとんどだが，この時点で約６割の学生が進路を決定していることがわかった。

ほとんどが４年生となる H25 年度入学生の振り返りでは「３年生後期の時」に進路を決め　たのが約２割であるのに対し，「４年生の時」に進路を決めたのが約４割となっている。就職活動前に明確なヴィジョンが形成されるというよりも，就職活動の中でキャリアへの意識が具体化し実際の就職につながっていくというプロセスが推測される。

問 88　就職活動に関して，大学の支援はどのくらい役に立っていますか。あるいは役立ちましたか。



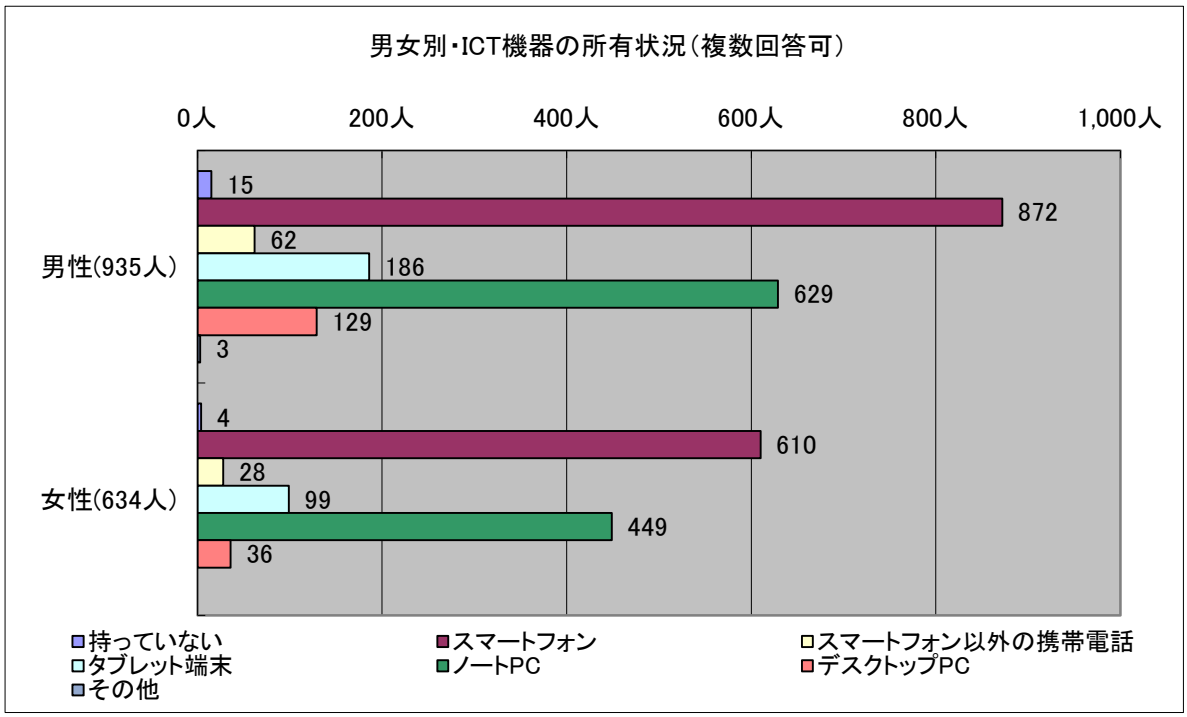

問 88　コメント

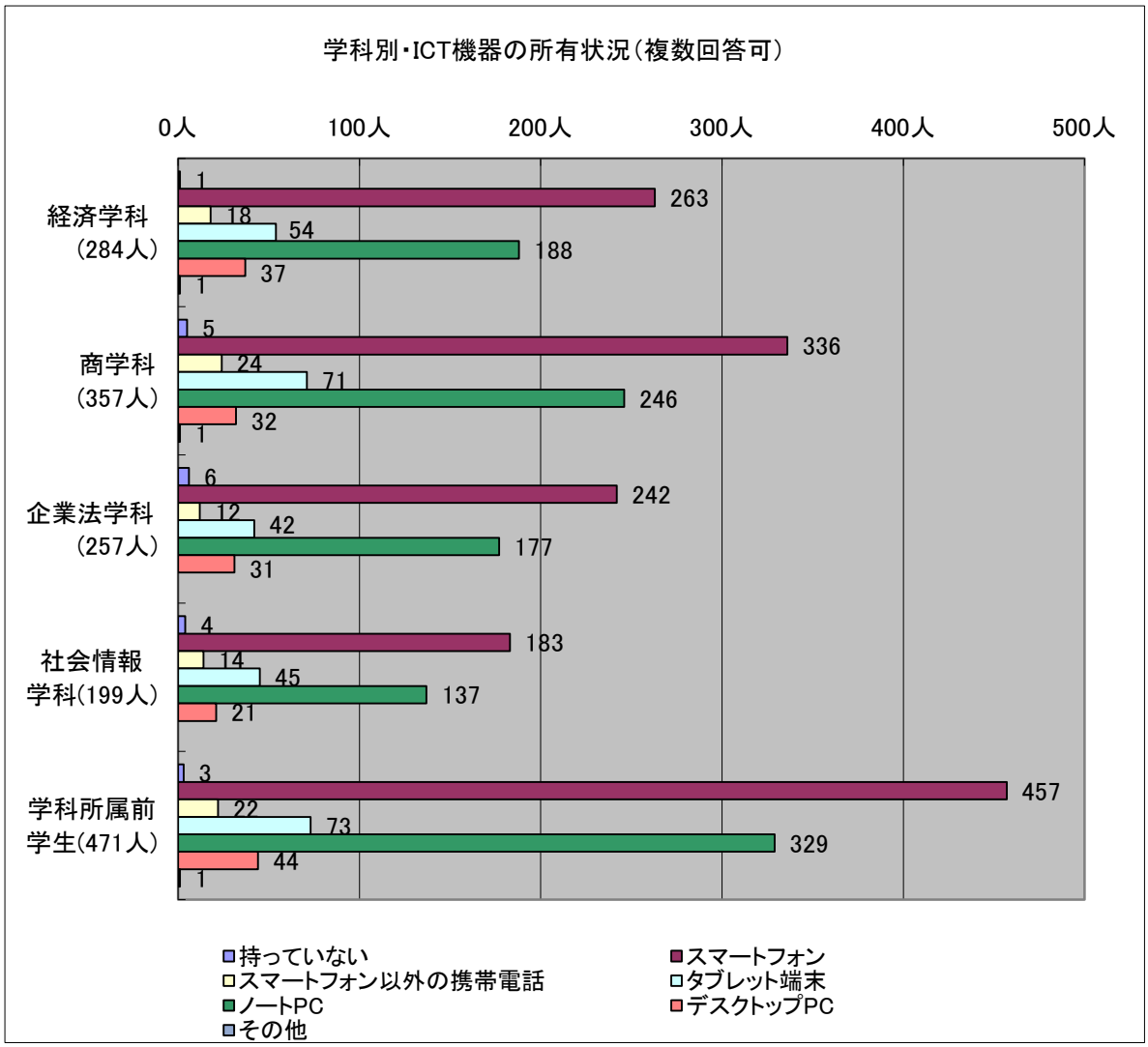
大学側の就職支援に関して学生側の評価は厳しく，肯定的な評価（「とても役立つ（役立った）と「ある程度役立つ（役立った）」を合計」は６割程度であり，過年度生においては５割に満たなかった。

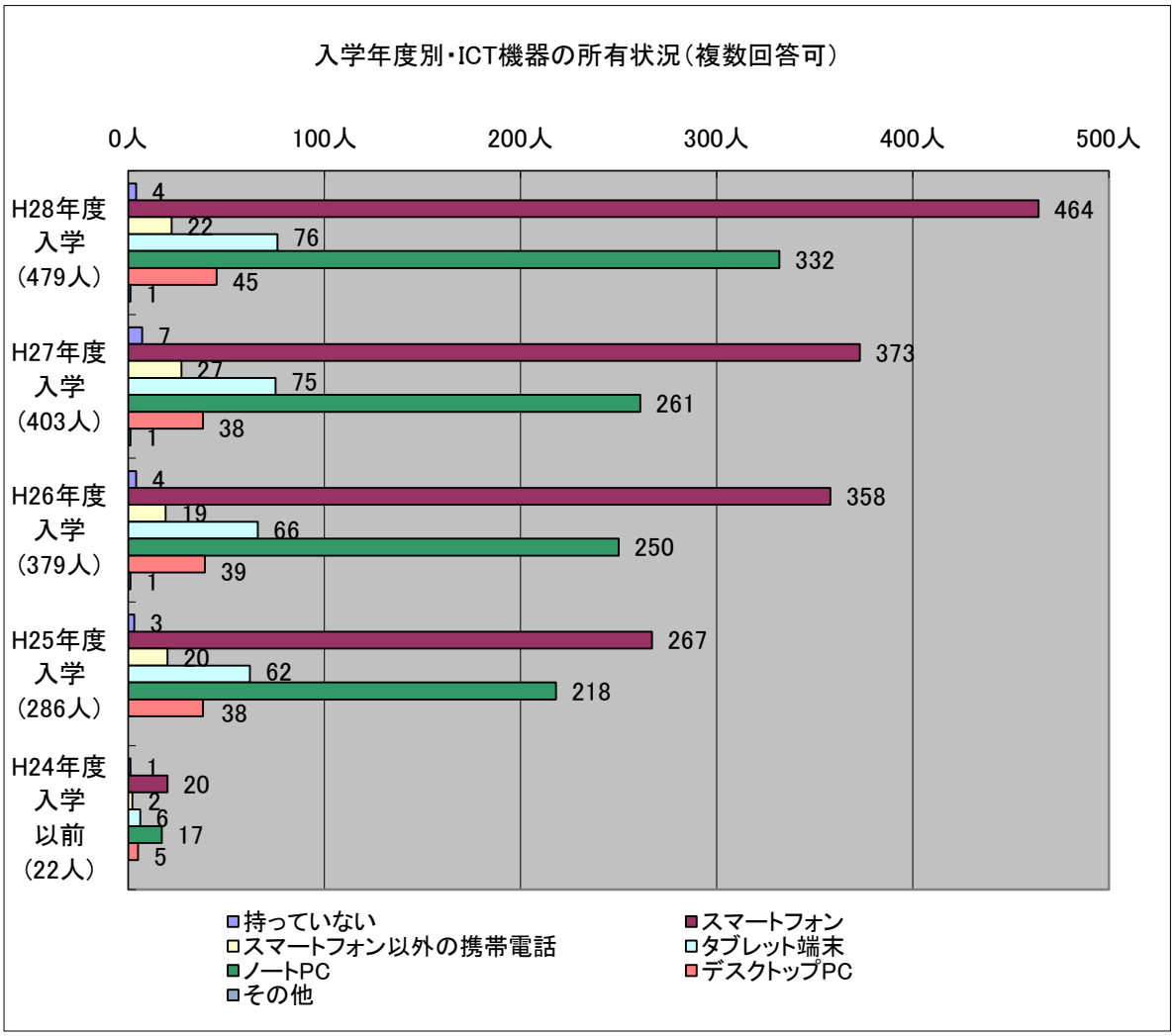
本学では，手取り足取りの手厚い就職支援を行うのではなく，さまざまなキャリア科目の受講を通し，学生が自ら進路を切り開いていく能力を身につけていくことをキャリア教育の指針としているが，こうした基本理念が学生に十分伝わっているか，検証する必要があるかもしれない。

## １４　その他

問 89　あなたが（個人で）所有している ICT 機器について，あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）





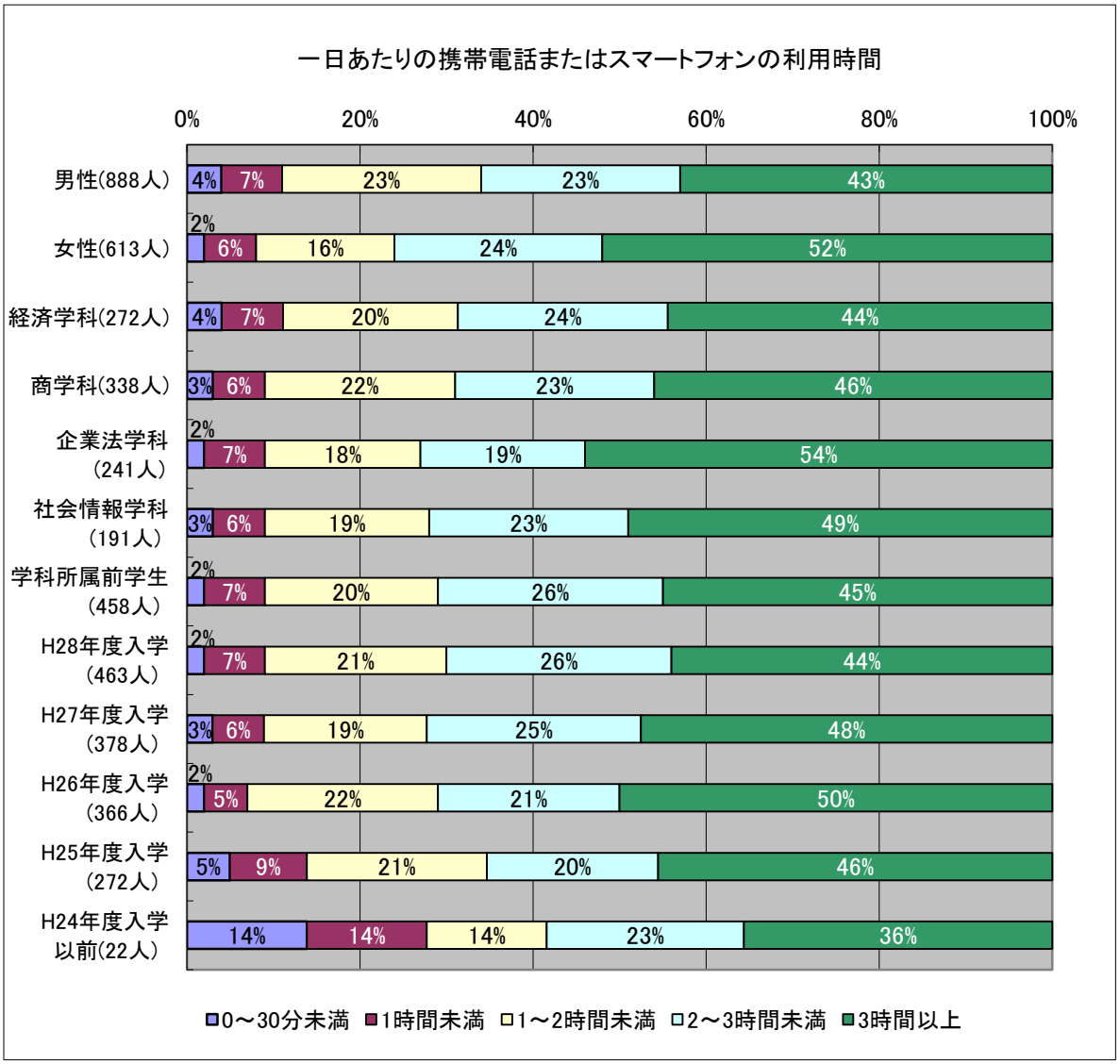

問 89　コメント

男女別では，男性の 93%（872 人）が「スマートフォン」，67%（629 人）が「ノート PC」，20%（186 人）が「タブレット端末」を，女性の 96%（610 人）が「スマートフォン」，71%（449 人）が「ノート PC」，16%（99 人）が「タブレット端末」を所有している。

また，各学科では，各学科とも 95%弱が「スマートフォン」，70%弱が「ノート PC」を所有している。「タブレット端末」所有の割合は，社会情報学科が 20%強と他学科より少し多く，次いで，経済学科，商学科が約 20%，企業法学科が 16%の割合である。

学年別では，全学年ともに約 95%の学生が「スマートフォン」を所有している。中でも，H28 年度入学生が一番多く，97%（464 人）の学生が所有している。これだけスマートフォンの所有率が高いとはいえ，スマートフォンを利用する講義を行う場合には，所有していない 5%強の学生に対しては十分に配慮する必要があるだろう。「ノート PC」については，H25 年度入学生と H24 年度入学以前の学生では 75%強が所有しているが，それに比べて H26 年度入学生と H27 年度入学生は約 65%，H28 年度入学生は 69%と低い。これは，4 年生になってはじめて自分用のパソコンが必要になり，購入したことが一因と考えられる。つまり，1～3 年生の間は大学のパソコンや自宅の家族兼用のパソコンを利用するだけで十分であったが，4 年生になり就活や卒論作成のためにWeb ブラウジングやWord,Excel などを長期間適宜利用しなければならなくなり，大学でも自宅でも作業のできるノートパソコンを選択して購入するのである。

問 90　一日あたりの携帯電話またはスマートフォンの利用時間はどのくらいですか。



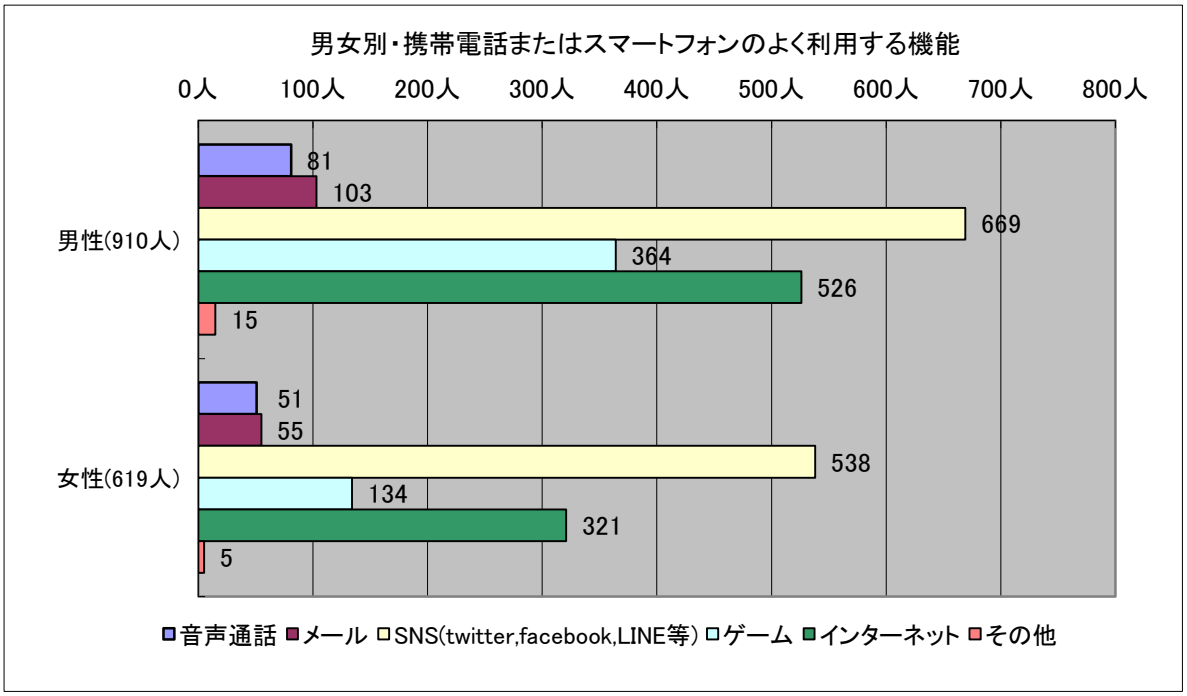

問 90　コメント

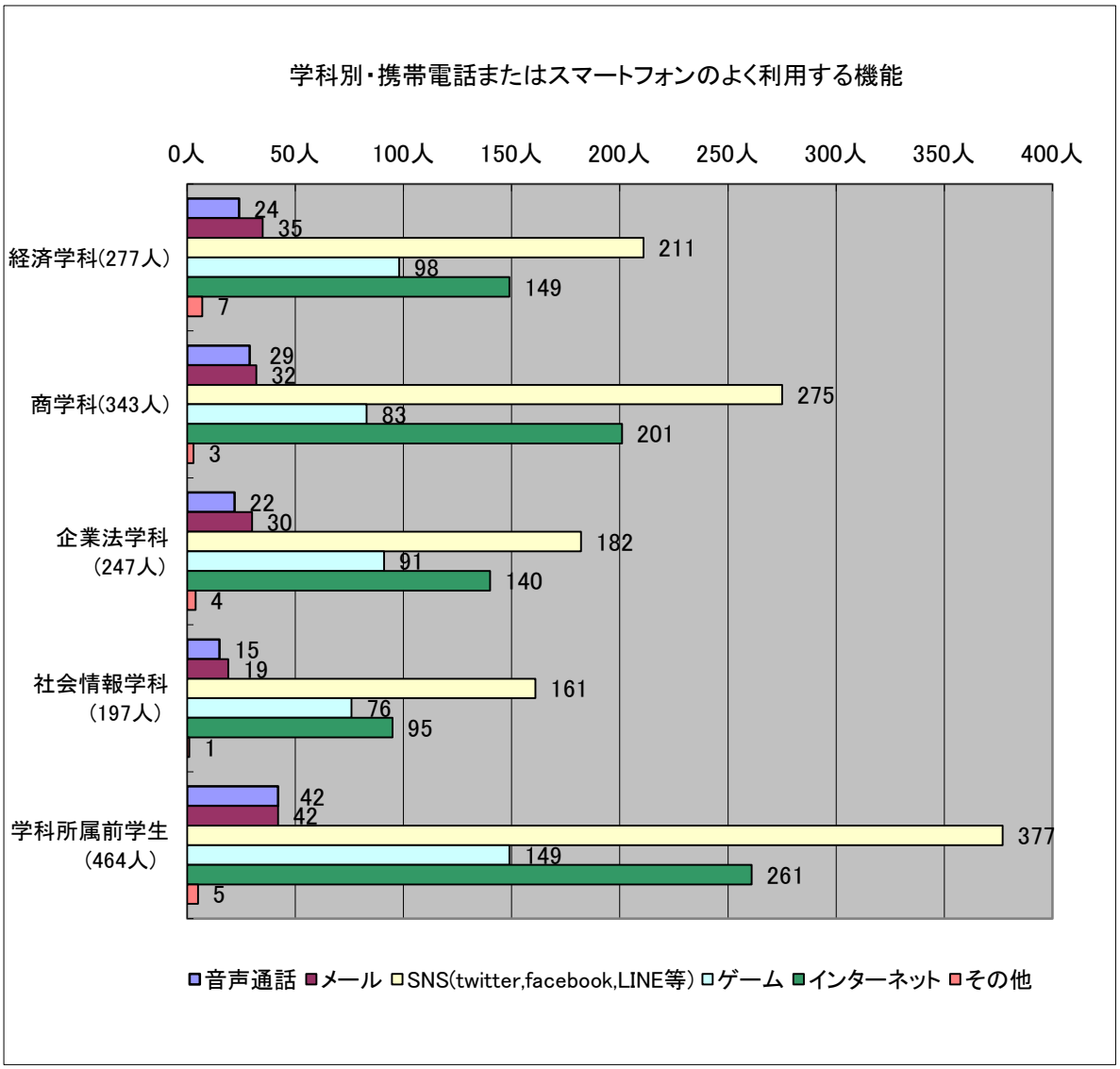
男女別では，女性が「3 時間以上」が 52%，「2 時間以上 3 時間未満」が 24%，「1 時間以上 2 時間未満」が 16%，男性が「3 時間以上」が 43%，「2 時間以上 3 時間未満」が 23%，「1 時間以上～2 時間未満」が 23%であり，割合の高い順位は同様であるが，「3 時間以上」の割合は女性の方が男性よりも 9%ポイント高い。

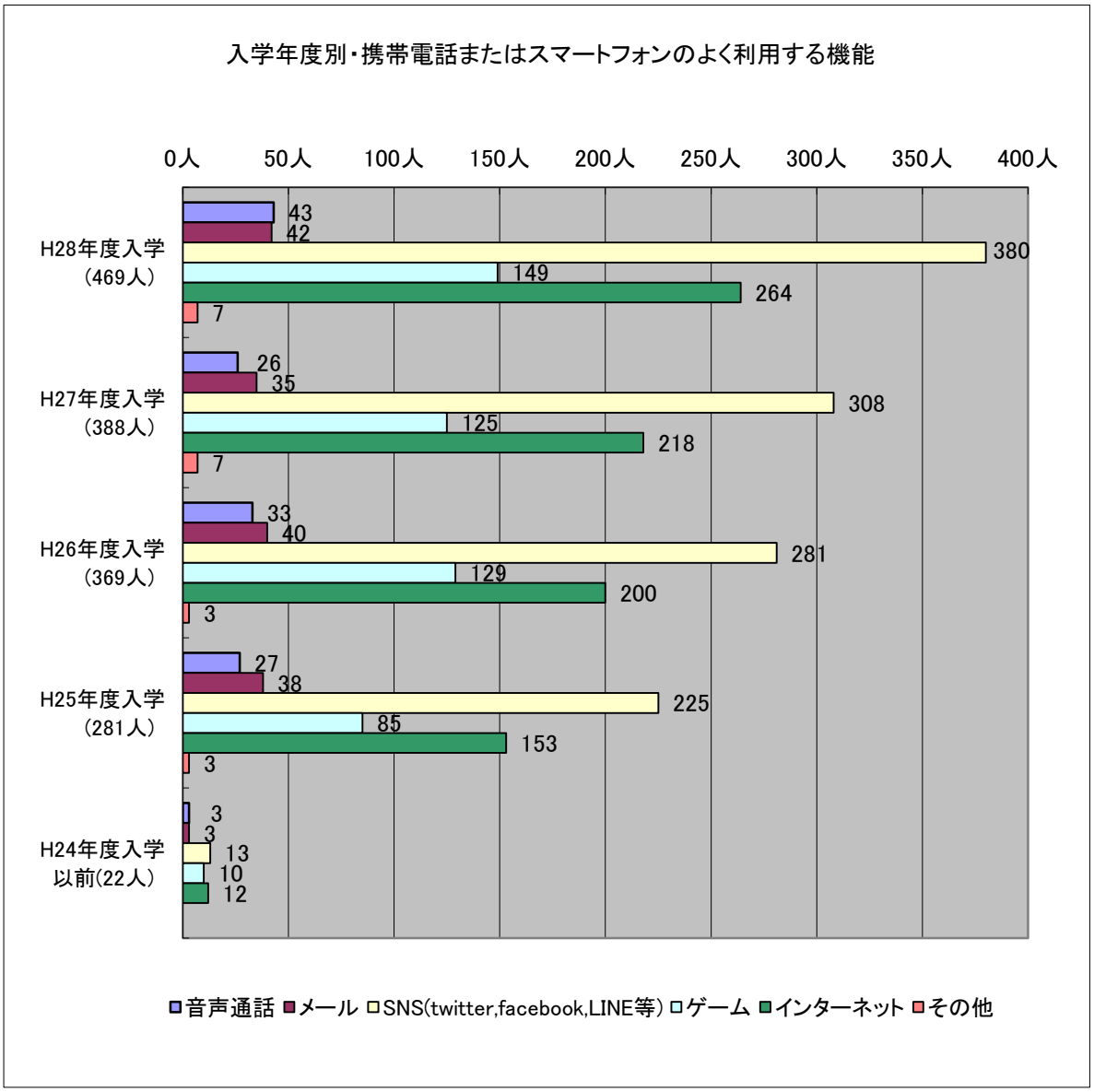
学科別では，企業法学科で「3 時間以上」が 50%を超えているが，各学科とも大きな差は見られない。

学年別では，H24 年度入学以前の学生を除いてすべて，大きな差は見られない。

問 91　携帯電話またはスマートフォンの機能であなたがよく利用する機能はなんですか。





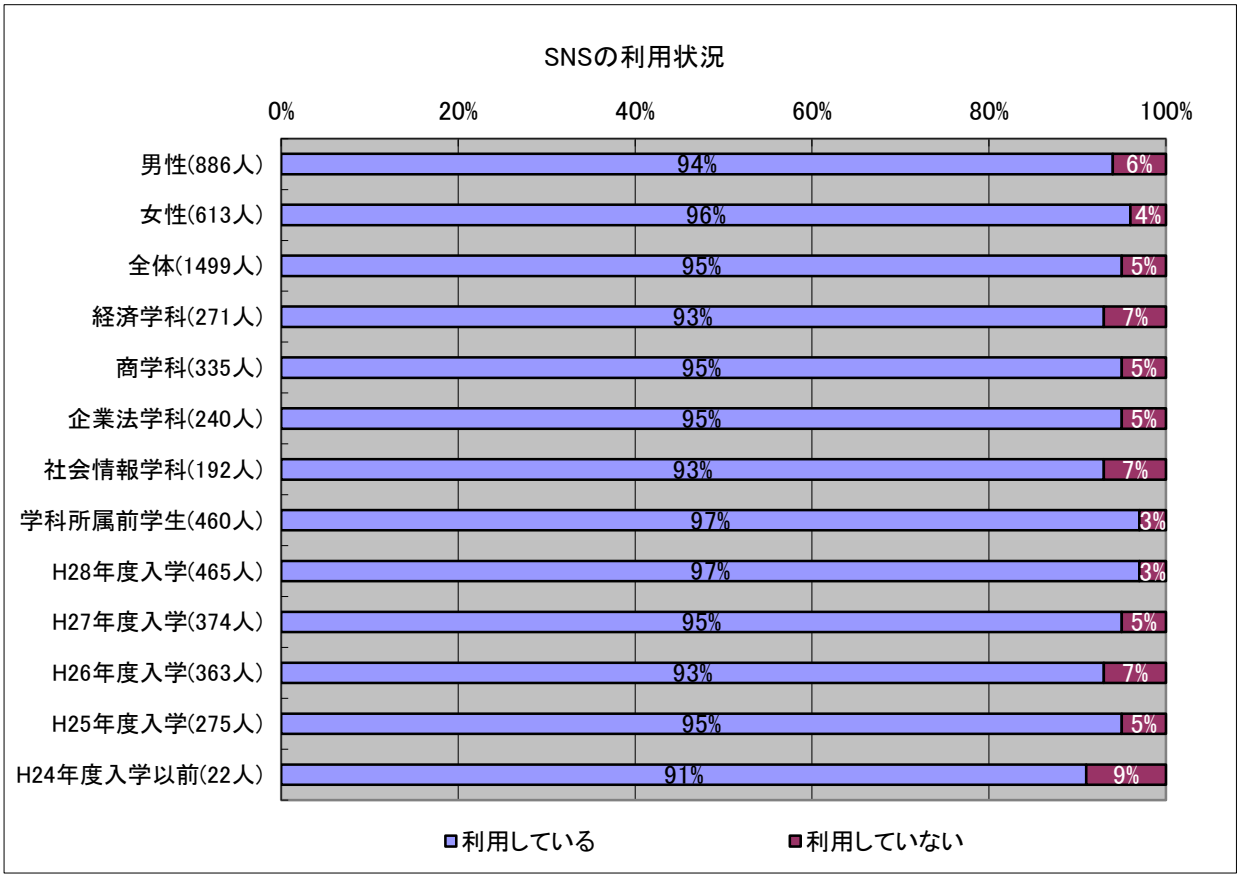

問 91　コメント

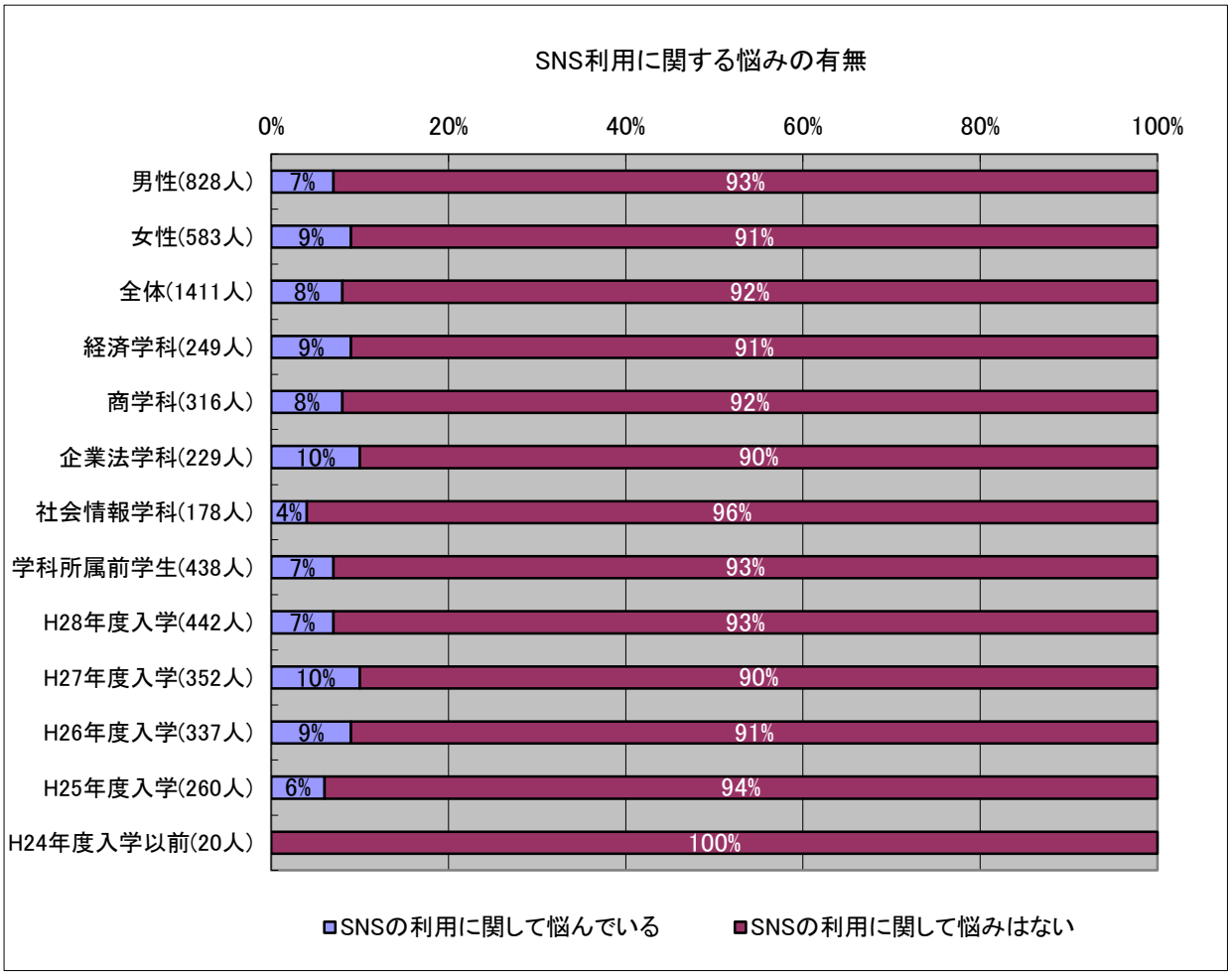
男女別では，男性も女性もそれぞれの順位は同様で，「SNS（twitter，Facebook，LINE 等）」が 1 位，「インターネット」が 2 位，「ゲーム」が 3 位である。「SNS（twitter，Facebook，LINE 等）」は，女性の割合の方が男性よりも 13%ポイント高い。「インターネット」と「ゲーム」については，男性の割合の方が女性よりもそれぞれ，6%ポイント，18%ポイント高い。

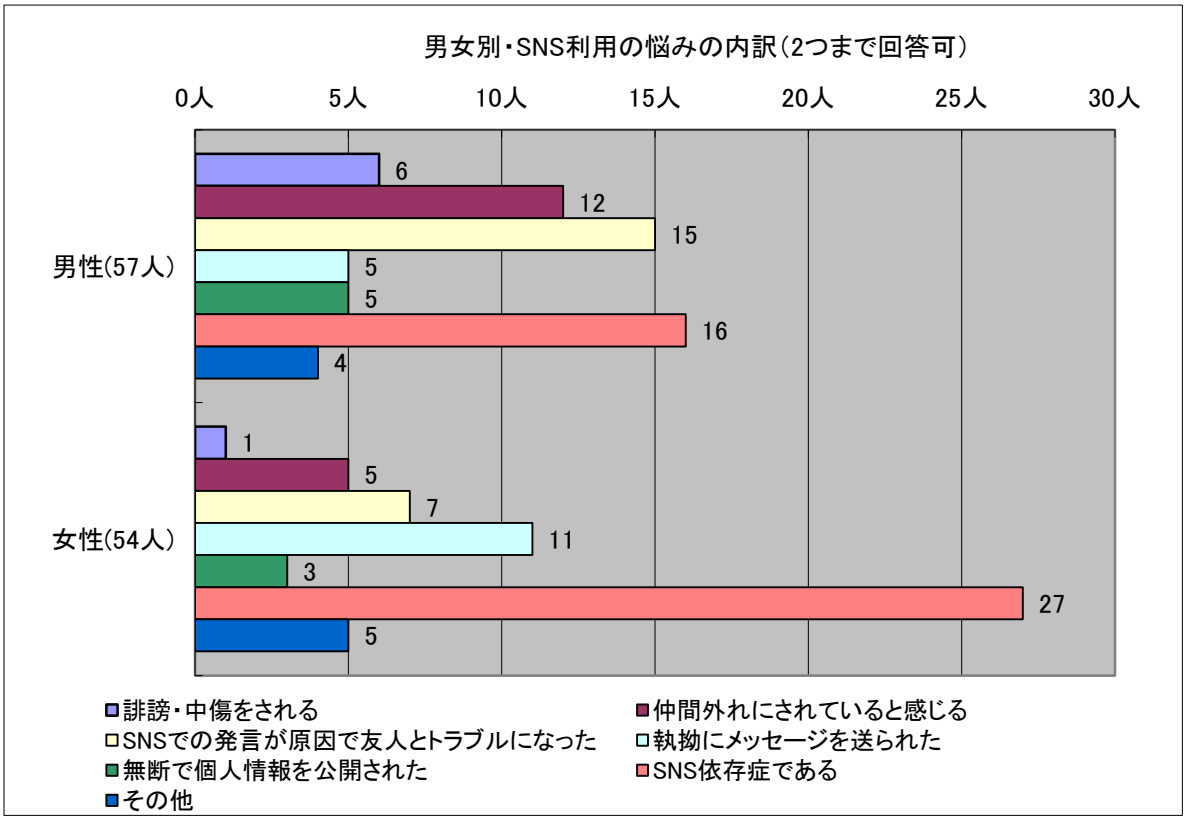
また，各学科では，1 位の「SNS（twitter，Facebook，LINE 等）」は商学科と社会情報学科が約 80%で経済学科や企業法学科よりも約 5%ポイント高い。2 位の「インターネット」は，社会情報学科が 48%で一番低く，一番高い商学科の 59%と比べると 11%ポイントの差がある。これに対して，3 位の「ゲーム」は，商学科が 24%で一番低く，一番高い社会情報学科の 39%に比べて 15%ポイント低い。

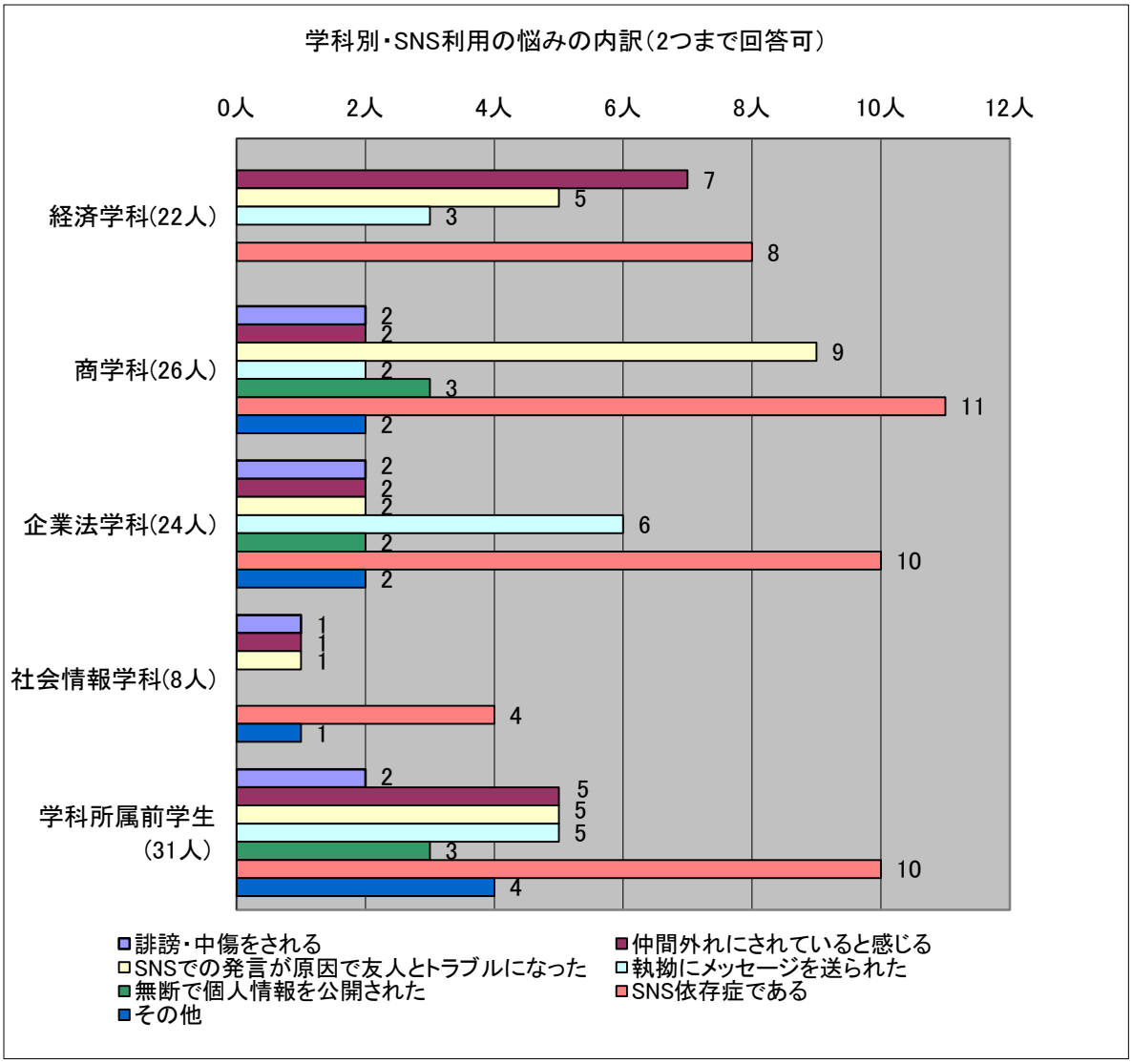
学年別では，H24 年度入学以前の学生を除いて，どの年度の入学生においても大きな差は見られない。

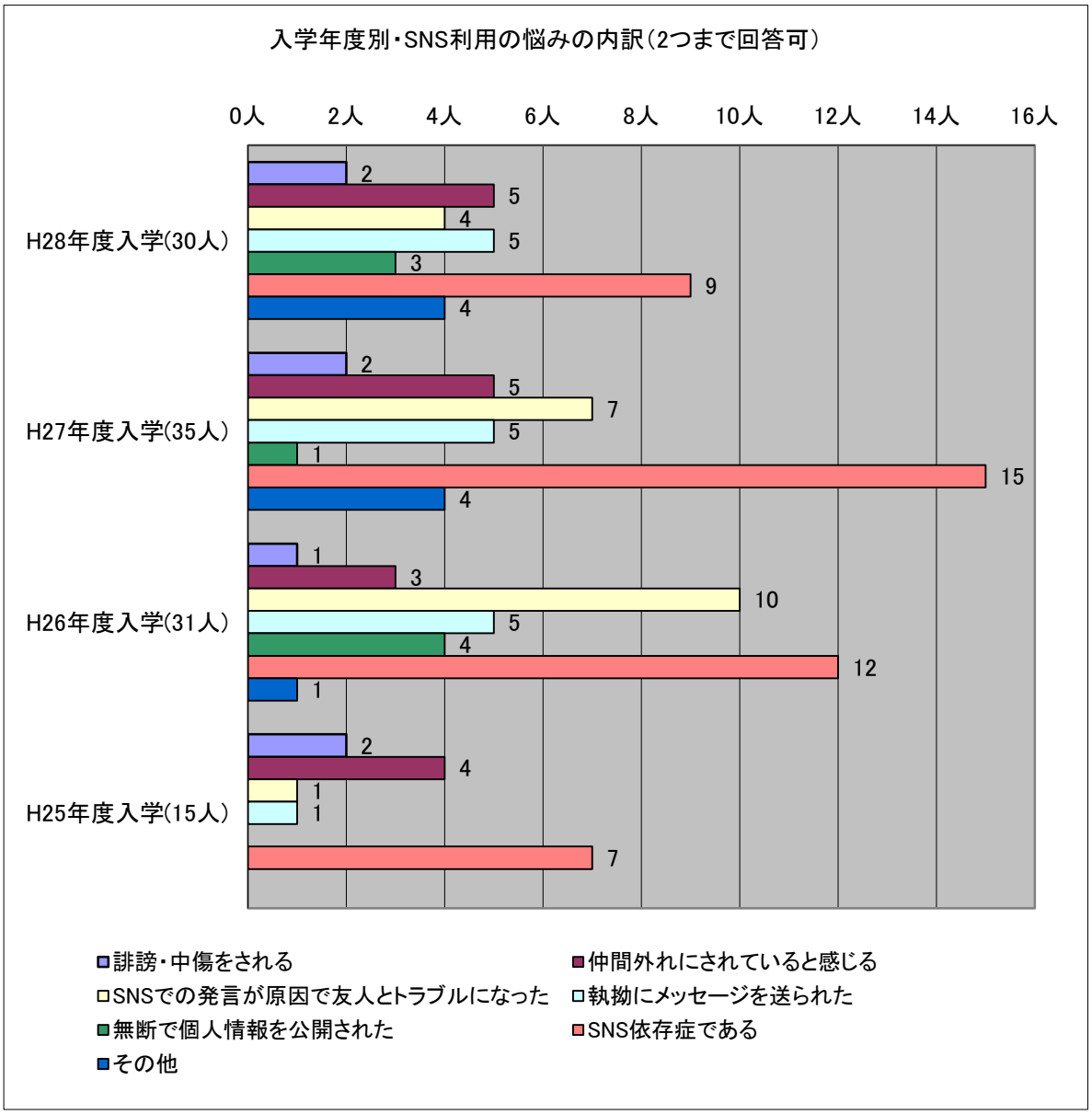
問 92　SNS（twitter, facebook, LINE 等）の利用に関して悩んでいることはありますか。
（2 つまで回答可）




男女別・SNS利用の悩みの内訳（2つまで回答可）
0人
5人
10人
15人
20人
25人
30人
男性(57人)
6
12
15
5
5
16
4
女性(54人)
1
5
7
11
3
27
5
誹謗・中傷をされる
仲間外れにされていると感じる
SNSでの発言が原因で友人とトラブルになった
執拗にメッセージを送られた
無断で個人情報を公開された
SNS依存症である
その他


学科別・SNS利用の悩みの内訳（2つまで回答可）
0人
2人
4人
6人
8人
10人
12人
経済学科(22人)
7
5
3
8
商学科(26人)
2
2
9
2
3
11
2
企業法学科(24人)
2
2
2
6
2
10
2
社会情報学科(8人)
1
1
1
4
1
学科所属前学生
(31人)
2
5
5
5
3
10
4
誹謗・中傷をされる
仲間外れにされていると感じる
SNSでの発言が原因で友人とトラブルになった
執拗にメッセージを送られた
無断で個人情報を公開された
SNS依存症である
その他




問 92　コメント

男女別，学科別，学年別ともにそれぞれ，SNS を「利用していない」の割合は 10%未満である。学年別では，H28 年度入学生が 3%と他の学生と比べて割合が低い。

SNS を利用している全学生の 8%が「悩みがある」と回答している。 学科別では，社会情報学科において「悩みがある」が 4%であり，他学科や学科等無所属よりも低い。

SNS 利用の悩みについては，悩みがある男性，女性ともに 1 位は「SNS 依存症である」であるが，その割合は女性が 50%で男性の 28%より 22%ポイントも高い。2 位，3 位については，男性が「SNS での発言が原因で友人とトラブルになった」，「仲間外れにされていると感じる」，女性が「執拗にメッセージを送られた」，「SNS での発言が原因で友人とトラブルになった」である。また，各学科，各学年でもそれぞれ，「SNS 依存症である」が 1 位であり，特定の学科や学年に SNS 依存症の学生が特に多いというわけではないことがわかる。

情報社会の発展に伴い SNS を利用する学生の割合も高まる現在，情報関連科目においては，ハードウェア，ソフトウェアおよびインターネットの技術面のみではなく， SNS の利用方法，利用上の問題点をはじめ，情報サービスやアプリ利用における情報モラルや情報セキュリティについても深く教育する必要があるだろう。

# Ⅲ　学生生活実態調査「自由意見」

自由意見に対するコメント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２１

「自由意見」
１．授業，成績に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２３
２．施設，整備，環境に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２３
３．就職に関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２４
４．学生センターに関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２４
５．アンケートに関すること　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２４
６．その他　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２５

主な自由意見に対しても，教育担当副学長を含む学生生活実態調査実施専門部会構成員によるコメントを付す。
なお，今回の調査では総数で 39 件の自由意見が寄せられたが，前回調査（平成 25 年度）時の 283 件と比べ回答数が減少した。減少要因については後述するが，多様で建設的な自由意見が数多く寄せられることは大学改革のためにも重要であり，次回調査では改善策を検討する必要がある。

【１】授業，成績に関すること
学科科目群の発展科目など授業科目開講数の更なる充実や，基礎科目や教育職員免許取得のための科目に対する時間割設定の工夫による履修ニーズへの更なる配慮に関する意見があった。教務委員会など関係委員会では，毎年，教育効果や学生の履修動向を踏まえた上で，カリキュラム及び時間割の検証と見直しを継続的に行っており，今回の意見についても可能な限り反映させていきたい。
履修の取扱いに関する意見では，英語科目の履修に際し，学生によるクラス選択を可能としてほしいとの意見があった。本学の語学教育は選択必修制のため，教育目標の達成には少人数で授業を行うことが非常に重要であり，クラス人数に過度な差が生じることは好ましくない。また，各クラスの達成目標は同程度であり，原則として，クラスによる極端な教育効果の差は生じない。従って，学生のクラス選択に関する要望には基本的に応えることができないことを理解願いたい。
成績に関する意見では，商学科の学科科目「簿記原理」について，同科目の履修に代えて学外での学修結果により単位認定を申請する場合に，申請条件である日商簿記検定１級合格が，シラバスに記述される履修達成目標よりも厳しいのではないかとの意見があった。同科目は簿記検定のためだけの科目ではないことを，改めてシラバスを参照して確認願うとともに，学外での学修結果による単位認定は，あくまでも本学授業科目による教育を補完する制度であり，大学が推奨する学修形態ではないことも理解願いたい。

【２】施設，整備，環境に関すること
問 72『大学内にあなたの「居場所」（安心して過ごすことのできる場所）はありますか』とも関連するが，一人で昼食を摂ることのできる場所がないとの意見があった。本学では，大学生活上の悩みや問題を抱える学生に対し，同じ学生が一緒に考えてサポートできるピア・サポートの体制を構築し，より快適なキャンパス環境を整備するため検討を進めているところである。
また，学内の Wi-Fi 利用環境が建物により差があることや，５号館のエレベーター設置などに関する改善要望意見もあったが，学修環境の更なる充実のため，順次，整備しているところであり，寄せられた意見も反映させていきたい。
各種案内表示が判りづらいとの意見もあり，構内の建物・講義室等の案内表示については，より丁寧な案内掲示等に取り組んでいきたい。

【３】就職に関すること
問 86「就職に関して，大学にどのような要望がありますか」とも関連するが，就職活動のためのカリキュラム強化，公務員志望の学生に対する支援強化についての意見があった。キャリア支援室の更なる活動充実も含め，引き続き取り組んでいきたい。

【４】学生センターに関すること
過去の調査では，多くの意見が寄せられていたが，今回は少なかったところである。過去の調査結果を踏まえ，職員による学生への支援体制が改善されてきた側面もあると思われる。

【５】アンケートに関すること
本調査は，これまで紙媒体のアンケート用紙に直接回答願う形を採っていたが，今回から学習支援システム“manaba”を利用した Web 入力方式に改め，調査項目についても，経年変化を分析するための継続性を維持しつつ，時代に対応した見直しや追加を行ったところである。
調査に協力してくれた学生の多くがスマートフォンなどの携帯端末を利用して回答していたこともあり，多数の質問に回答した後，自由記述欄に入力することへの煩わしさが，

自由意見の大幅減となった大きな要因と思われる。次回調査に向けての改善課題である。

寄せられた意見は，調査の趣旨がよく理解できない，質問項目が多すぎる，家庭の収入状況など個人情報を回答する必要性が理解できない，択一式の質問項目で複数回答が可能な仕様となっている，紙媒体でのアンケートにしてほしいなどであった。

本調査の目的は，「Ⅰ　調査の概要」（１頁）に記したとおり，本学学生の生活実態をより正確に把握することにより，学修環境の改善及び福利厚生の充実を図り，学生の多様なニーズに応えるための基礎資料を得ることである。過去の調査結果が多くの具体的な改革・改善に繋がっていることを丁寧に説明するよう，努力していきたい。

調査項目についても，例えば家庭の収入状況の確認は，本学において経済的支援制度を拡充すべきかどうかの判断材料となるものであり，質問の趣旨に対する理解が得られるよう説明するとともに，項目数は回答学生の負担度を考慮し，引き続き精査していきたい。また，一部の調査項目では，入力システムの仕様上，択一式質問では回答入力後のキャンセルが受付けられないため，該当者のみ回答する択一式質問を複数選択できるように設定したが，次回以降は回答者の混乱を招かないよう工夫することとしたい。

なお，今回の調査では，多くの意見を大学改善につなげるため，学生支援課職員による学生への回答呼びかけを積極的に行い，その結果，回答率は 70%以上を維持できたところである。回答はあくまでも任意であるが，今後も引き続き学生諸君の理解と協力を願いたい。

## 【１】授業，成績に関すること

| |
|---|
| 今３年生ですが，２年の時に履修できる自学科発展科目をもっと増やして欲しかったです。財務会計論，管理会計論など。語学学習は，E-Learning よりも TOEIC の問題集(紙)等を解く方が良いと思いました。 |
| 学科の専門科目と一般教養科目の時間割をなるべく被せないようにして欲しいです。 |
| 英語の授業が自ら選択できず，学校側に勝手に決められるというのは非常に不愉快である。一年前期や履修制限による人数調整は理解できるが，今年の２年次の英語の授業は全て学校側によって勝手に決められていた。その時間に他の取りたい授業や師事したい教員がいようとも選択できないのは学生の授業選択の自由を阻害しているように思える。大学側が人気の無い教員の授業にも人数を配置するためではないかという憶測が飛び交っても仕方ないことだと思われる。早急な改善を要求する。 |
| 簿記原理の授業は簿記検定３級程度の内容を扱うと明言しているのに，単位申請には簿記検定１級が必要というのはおかしいと思います。 |
| 商学科において経営学の講義・ゼミナールを充実させるべき。 |
| 授業の幅と数を増やして欲しい |
| 第一回目の授業と履修登録期間が重なっているため，授業の合間に教科書を買わなければならなかったり，履修するか決めかねている内に一回目の授業を逃してしまったりするのが不便です。 |
| 教職と卒業する上でとらなければいけない教科，または教職同士の授業で，時間割がかぶりすぎていて履修に苦労している。改善してほしい。 |
| 社会人学生ですが，時間割が硬直しており，履修が難しいです。社会人学生に限り，履修制限の解除や，時間割を早めの開示してほしい。 |

## 【２】施設，整備，環境に関すること

| |
|---|
| ３号館２階にあった部屋がグローカルラウンジに変わりましたが，それに伴い一人で過ごせる場所が図書館３階のみになりました。前後に授業がなければ一人で昼食などを食べられる場所がトイレしかありません。 |
| 図書館横と 210 教室横のトイレの換気扇が壊れてるのか，それとも単なる換気口になってるのか分かりませんが，臭いがこもって年中悪臭が漂っています。新たに工事を行い改善してください |
| 160 の電波が悪いのをどうにかして欲しいです |
| 総合２の授業など，respon や manaba を授業の中で使う講義では，電波のいい教室を使うか，学内 Wi-Fi そのものを強化してほしいと感じる。 |
| 五号館にエレベーターを設置して欲しい |
| ロシア語の木曜日の山田先生の授業の教室が暑いです。授業アンケートに書きましたが改善しません。対応お願いします。 |

| |
|---|
| 学校が全体的にとても寒いです。職員がいる部屋だけ暖かいというのもどうかと思います。 |
| 駅や最寄りの小売店から遠すぎるので，公共交通機関の他にレンタル等の移動手段があればいいな，と思っています。 |
| 各種案内が地味すぎてわかり辛い |

## 【３】就職に関すること

| |
|---|
| 就職に関してもっとカリキュラムを充実させてほしい |
| 公務員向けの支援をもっと充実させて欲しい |
| 就活の支援が学生任せになりすぎている。私立の大学のようにそういう授業を設けるべき。 |

## 【４】学生センターに関すること

| |
|---|
| 大学職員の方で，対応の悪い方がいらっしゃるのが気になります。 |

## 【５】アンケートに関すること

| |
|---|
| 質問内容が多すぎます。家庭の年収などあまり答えたくないことが多くあったので注意書き等が欲しかったです。質問内容を考えると解答が一つになるはずなのに多数回答ができるところが多すぎます。回答が面倒臭かったです。 |
| アンケートは，紙媒体で行った方がいいように思う. |
| なぜ，こんな事を聞かれるのか本当にわからない。親の年収などはどこに役立てるのか?親の年収が低い人には，支援するのか?全く，趣旨の説明のされないまま，アンケートに答えさせるのは，極めて遺憾である。多様なニーズというが，多様すぎるニーズに応えられるほど，学生支援課が優秀であるとは，普段利用してる私自身としては到底思えない。学生のプライバシーを聞ける状況にあると思っていることがおこがましい。 |
| このアンケートを行うことによって何の意味があるのか。集計結果と意味を学生には確実に知らせるべき。 |
| 長いです。 |
| 面倒かつ目が疲れるのでアンケートを紙媒体にしてほしい。 |
| こんなに長いアンケートでしたら，回答する方も大変ですよ。適当に回答する人も出てくると思います。 |
| 学費免除になったかどうか等，本当に必要なのかと思う質問項目があり，このアンケート自体に少しだけ不信感を抱きました。 |
| 社会人学生にそぐわない設問があるので，調査対象から外してほしい |
| アンケートの催促がうるさい |

| |
|---|
| アンケートが長すぎます。あとメールがしつこい。アンケートはあくまで任意だと思っているのですが，認識違いでしたか? |

## 【６】その他

| |
|---|
| イベントを充実させてください |
| 小さい大学のくせに融通が利かない。教員が偉そう。協調性がない。 |
| ハラスメントと言うほどなのかわからないので，こちらに記入しますが，ある講義を受け，その成績が出たあとに，担当教員にテストの結果についての疑問があったのでメールで連絡を取ろうとしたところ，ひと月の間返信がなく，私のメール内容の不備かと思い，学務課に相談したところ，私のメールの不備ではないと言われたので，念のためもう一度担当教員にメールしたところ，「あなたのメールは一般的なビジネスメールとしての体裁を取っていないので，返信しませんでした」と返信が来ました。今まで何人かの教員とメールで連絡を取り合っていて，このようなことを言われたのは初めてだったので，驚くとともに，学生のしかも成績やテストに関するメールを無視する教員が居るのかと非常に腹が立ちました。教員と学生の特に成績に関しては，ある種信頼関係で成り立っていると思います。学生は，教員に申し出なければ，自分の解答やそれに対する採点すら見ることができないわけですから。それを踏みにじられたように感じました。こういう事があるかと思うと，教員やひいてはこの大学に対する不信感の元になると思いますので，こういう事がないようにしてほしいことと，学生がわざわざ教員に申し出なければ自分の成績に対する疑問すら解決できないいまの状態を解決するような，新しいシステムを作ってほしいと思います。 |
| クラスをつくってほしい。 |
| 社会人入学生として，半年が過ぎました。仕事と学業の両立は，本当に大変ですが，これからも頑張ってまいりたいと思っております。今後も，分からないことがありました時は，学生課を始め，大学の皆様にお世話になることと思います。ご迷惑をおかけ致しますが，何卒よろしくお願い申し上げます。 |

# Ⅳ　資料　学生生活実態調査「アンケート用紙」

平成２８年度

# 学生生活実態調査

**学部生の皆さんへ**

## 調査協力のお願い

この調査は，本学学生の生活実態をより正確に把握することで，今後における学生の修学環境の改善及び福利厚生の充実を図り，学生の多様なニーズに応えるための基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

今回，この調査は，manaba を利用して行いますが，無記名式であり，個人識別は行うことが出来ない仕様となっています。ただし，どの学生が未回答であるかということは確認できるようになっています。

なお，本調査で回答いただいた内容は統計資料として活用され，上に掲げた以外の目的に利用されることはありませんので，ありのまま正確に記入してください。

また，この調査の集計結果は今年度末までに本学ホームページに掲載され，学内外に公表します。

**小樽商科大学学生委員会**

**調査期間：　平成 28 年 10 月 3 日（月）～10 月 14 日（金）**
**回答締切：　平成 28 年 10 月 16 日（日）**

# 小樽商科大学学生生活実態調査票

## １．基本的事項

| 質　　問 | | 選　　択　　欄 | 回 答 欄 |
|---|---|---|---|
| 問 1 | 入学したのは，いつですか。 | (0) 平成２８年度　(1) 平成２７年度<br>(2) 平成２６年度　(3) 平成２５年度<br>(4) 平成２４年度以前 | 【　　】 |
| 問 2 | あなたの性別は。 | (0) 男性　(1) 女性 | 【　　】 |
| 問 3 | 所属コースはどちらですか。 | (0) 昼間コース　(1) 夜間主コース | 【　　】 |
| 問 4 | 所属学科はどちらですか。（平成28年度入学者は，記入しないで下さい） | (0) 経済学科　(1) 商学科　(2) 企業法学科<br>(3) 社会情報学科 | 【　　】 |
| 問 5 | 出身高校の所在地はどこですか。 | (0) 小樽市　(1) 札幌市　(2) 前記以外の北海道<br>(3) 道外（　　都府県）　(4) 国外<br>(5) 高卒認定試験（旧大検） | 【　　】 |

## ２．入学の経緯等について

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 6 | 大学進学を決めた時の動機は何ですか。<br>（２つまで回答可） | (0) 教養や専門的知識を身につけるため<br>(1) 大学卒の資格を取得するため<br>(2) 将来の就職を考えて<br>(3) すぐ社会に出たくなかったから<br>(4) みんな進学する時代だから<br>(5) 友人が欲しかったから<br>(6) 親，親類に薦められたから<br>(7) 教師に薦められたから<br>(8) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】 |
| 問 7 | 本学を最初に知ったのは，どこからの情報ですか。 | (0) 教師から　(1) 親・親類から<br>(2) 先輩・友人から　(3) インターネット<br>(4) 受験雑誌　(5) 説明会　(6) 出前授業<br>(7) 新聞・テレビ<br>(8) その他（　　） | 【　　】 |
| 問 8 | 本学を選んだ主な動機は何ですか。<br>（複数回答可） | (0) 国立大学だから<br>(1) 学費が安いから<br>(2) 知名度が高いから<br>(3) 自分の進みたい専攻分野があるから<br>(4) 就職に有利だから<br>(5) 高校の成績・大学入試センター試験の成績を考えて<br>(6) 通学出来る範囲だから<br>(7) 親，親類に薦められたから<br>(8) 教師に薦められたから<br>(9) 予備校で薦められたから<br>(10) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |
| 問 9 | あなたにとって本学は何番目の志望でしたか。 | (0) 第一志望　(1) 第二志望　(2) 第三志望以下 | 【　　】 |

## ３．家庭状況について

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 10 | 主たる家計支持者の住居はどこですか。 | (0) 小樽市　(1) 札幌市　(2) 前記以外の北海道<br>(3) 道外（　　都府県）　(4) 国外 | 【　　】 |
| 問 11 | 主たる家計支持者の職業は何ですか。 | (0) 会社員　(1) 国・地方公務員　(2) 団体職員<br>(3) 商・工業（自営）　(4) 農林・水産（自営）<br>(5) 自由業（医師・弁護士・著述業等）<br>(6) その他（　　） | 【　　】 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| あなたの家庭の年収総額を「主たる家計支持者」と「その他の方」に分け，それぞれ回答してください。 | | | |
| 問 12 | 主たる家計支持者の年収額は，どのくらいですか。 | (0) 300万円未満　(1) 300万円以上500万円未満<br>(2) 500万円以上700万円未満<br>(3) 700万円以上1,000万円未満<br>(4) 1,000万円以上 | 【　　】 |
| 問 13 | その他の方（複数いる場合は合計）の年収額は，どのくらいですか。 | (0) なし　(1) 1円以上110万円未満<br>(2) 110万円以上300万円未満<br>(3) 300万円以上500万円未満<br>(4) 500万円以上700万円未満<br>(5) 700万円以上1,000万円未満<br>(6) 1,000万円以上 | 【　　】 |

## ４．住居・通学について

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 14 | あなたの現住所はどこですか。 | (0) 小樽市　(1) 札幌市<br>(2) その他の市町村（　　） | 【　　】 |
| 問 15 | 誰と一緒に住んでいますか。 | (0) 親・親戚　(1) 兄弟姉妹・いとこ・友人<br>(2) 一人暮らし（賄い付き下宿）<br>(3) 一人暮らし（賄いなし） | 【　　】 |
| 問 16，17は，問15で(1)～(3)のいずれかを選択した方のみ回答してください。 | | | |
| 問 16 | 現在の住居を選ぶ時に考慮した条件は何ですか。<br>（２つまで回答可） | (0) 家賃が安い　(1) 設備が良い<br>(2) 部屋が広い　(3) 部屋が新しい<br>(4) 大学に近い　(5) アルバイトに便利<br>(6) スーパーやコンビニが近い　(7) 通学に便利<br>(8) 友人又は親戚が近くにいる<br>(9) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】 |
| 問 17 | １ケ月の家賃又は下宿料はいくらですか。 | (0) ３万円未満　(1) ３万円以上４万円未満<br>(2) ４万円以上５万円未満<br>(3) ５万円以上６万円未満<br>(4) ６万円以上８万円未満　(5) ８万円以上 | 【　　】 |
| 問 18 | 通学のために要する時間はどのくらいですか。 | (0) １５分未満　(1) １５分～３０分未満<br>(2) ３０分～１時間未満<br>(3) １時間～１時間３０分未満<br>(4) １時間３０分～２時間未満　(5) ２時間以上 | 【　　】 |

## ５．生活費・アルバイトについて

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 19 | １ヶ月の生活費はどのくらいですか。自宅生は小遣いプラス仕事・アルバイト収入のうち自分のために使う金額を回答してください。 | (0) １万円未満　(1) １万円以上３万円未満<br>(2) ３万円以上６万円未満<br>(3) ６万円以上９万円未満<br>(4) ９万円以上１２万円未満　(5) １２万円以上 | 【　　】 |
| 問 20 | １ヶ月に親からもらう額(小遣い･仕送り等)はどのくらいですか。 | (0) １万円未満　(1) １万円以上３万円未満<br>(2) ３万円以上６万円未満<br>(3) ６万円以上９万円未満<br>(4) ９万円以上１２万円未満　(5) １２万円以上 | 【　　】 |
| 問 21 | 平成28年度前期授業料免除結果について答えて下さい。 | (0) 申請していない　(1)半額免除　(2)全額免除<br>(3) 許可されなかった | 【　　】 |
| 問 22 | 本年度の奨学金受給額（月額）はいくらですか。（日本学生支援機構以外の奨学金を含む） | (0) １万円未満　(1) １万円以上３万円未満<br>(2) ３万円以上６万円未満<br>(3) ６万円以上９万円未満<br>(4) ９万円以上１２万円未満　(5) １２万円以上<br>(6) 受給していない | 【　　】 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 23 | アルバイトの職種は何ですか。<br>（なお，(1)以下については，過去半年間に１ヶ月以上の期間（週１回以上）アルバイトをした方のみ回答してください）<br>（２つまで回答可） | (0) していない　(1) 飲食店<br>(2) 家庭教師・塾講師<br>(3) スーパー，コンビニの店員<br>(4) (3)以外の店員<br>(5) 軽労働（(1)，(3)を除くもの）<br>(6) 重労働（建設及び土木作業，荷運び他）<br>(7) 事務　(8)警備員<br>(9) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】 |
| 問24～27は，問23で(0)以外の回答をした方のみ回答してください。 | | | |
| 問 24 | アルバイトに費やす時間は１週間に平均してどのくらいですか。<br>（大学の休業期間中を除く） | (0) ５時間未満　(1) ５～１０時間未満<br>(2) １０～１５時間未満<br>(3) １５～２０時間未満　(4) ２０時間以上 | 【　　】 |
| 問 25 | アルバイト収入の平均額は１ヶ月にいくらくらいですか。<br>（大学の休業期間中を除く） | (0) ３万円未満　(1) ３万円以上５万円未満<br>(2) ５万円以上７万円未満<br>(3) ７万円以上１０万円未満<br>(4) １０万円以上 | 【　　】 |
| 問 26 | アルバイト代の主な使途は何ですか。（２つまで回答可）<br>（サークル：本学において学生が組織する部，サークル及び同好会等で顧問教員をおいている本学公認の団体） | (0) 授業料・修学費（教科書，参考図書等）<br>(1) 生活費　(2)サークル活動費<br>(3) レジャー（旅行を含む）娯楽・嗜好費<br>(4) 留学費用<br>(5) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】 |
| 問 27 | アルバイトが学業に与える影響について答えてください。<br>（複数回答可） | (0) 学業に役立った<br>(1) ほとんど支障がなかった<br>(2) 授業の出席が悪くなった<br>(3) 放課後の学習時間が取れない<br>(4) 睡眠，休養時間が不足している<br>(5) その他（　　） | 【　　】 |

## ６．学修状況について

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 28 | １週間のうち，大学に来ていない日は何日程度ありますか。<br>（２８年度前期） | (0) ０日<br>(1) １～２日<br>(2) ３～４日<br>(3) ５日以上 | 【　　】 |
| 問 29 | あなたは普段，どの程度本（マンガや雑誌を除く）を読んでいますか。 | (0) ほとんど読まない<br>(1) 月に１冊ぐらい<br>(2) 月に２～３冊ぐらい<br>(3) 月に４～５冊ぐらい<br>(4) 月に６冊以上 | 【　　】 |
| 問 30 | 研究指導（ゼミ）以外の通常の講義について，講義時間以外の１週間あたりの自習時間はどの程度ですか。 | (0) 自習しない<br>(1) 週あたり１時間未満<br>(2) 週あたり１～２時間程度<br>(3) 週あたり２～３時間程度<br>(4) 週あたり３～４時間程度<br>(5) 週あたり４～５時間程度<br>(6) 週あたり５～７時間程度<br>(7) 週あたり７～１０時間程度<br>(8) 週あたり１０時間以上 | 【　　】 |
| 問31は３年生以上でゼミに所属している学生のみ回答してください。 | | | |
| 問 31 | 研究指導（卒業研究も含む）について，ゼミ時間以外の１週間あたりの自習時間はどの程度ですか。 | (0) 自習しない<br>(1) 週あたり１時間未満<br>(2) 週あたり１～２時間程度<br>(3) 週あたり２～３時間程度<br>(4) 週あたり３～４時間程度<br>(5) 週あたり４～５時間程度<br>(6) 週あたり５～７時間程度<br>(7) 週あたり７～１０時間程度<br>(8) 週あたり１０時間以上 | 【　　】 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 32 | 自習を行う場所はどこですか。<br>（３つまで回答可） | (0) 自宅<br>(1) 本学図書館<br>(2) 本学以外の図書館<br>(3) 通学や帰宅の交通機関の中<br>(4) 大学会館<br>(5) グローカルラウンジ（３号館２階）<br>(6) 空き教室<br>(7) ゼミ室<br>(8) サークル会館<br>(9) 情報処理センター<br>(10) 言語センター<br>(11) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |
| 問33～36は，語学科目について回答してください。 | | | |
| 問 33 | 「予習と復習」についてのあなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。 | (0) やらないことが多い<br>(1) 教員に指示されたことは最低限やっている<br>(2) 授業を理解するために必要だと思うことをやっている<br>(3) より良い成績を得たり，さらに深く理解したりするために主体的に取り組んでいる | 【　　】 |
| 問 34 | 「出席」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。 | (0) なにかと欠席しがちである<br>(1) 単位取得に最低限必要な程度には出席している<br>(2) なるべく出席するように努力している<br>(3) ほとんど欠席したことはない | 【　　】 |
| 問 35 | 「受講態度」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。 | (0) 興味関心をひかれる内容なら聴く<br>(1) とりあえず板書などはノートにとるようにしている<br>(2) 良い成績を取るためにテストや期末試験で出題される部分の理解に注力している<br>(3) 自分なりの意見や問題意識を持って受講し講義内容を深く理解できるように心がけている | 【　　】 |
| 問 36 | 「グループ演習」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。 | (0) 面倒なのでなるべく参加しない<br>(1) 発言しなければならない場面でのみ参加する<br>(2) 他の学生がリードしてくれたりグループの雰囲気が良いときは前向きに参加する気になる<br>(3) 積極的に参加し他の学生の意見を引き出すように努力する<br>(4) やったことがない | 【　　】 |
| 問37～40は，基礎科目について回答してください。 | | | |
| 問 37 | 「予習と復習」についてのあなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。 | (0) やらないことが多い<br>(1) 教員に指示されたことは最低限やっている<br>(2) 授業を理解するために必要だと思うことをやっている<br>(3) より良い成績を得たり，さらに深く理解したりするために主体的に取り組んでいる | 【　　】 |
| 問 38 | 「出席」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。 | (0) なにかと欠席しがちである<br>(1) 単位取得に最低限必要な程度には出席している<br>(2) なるべく出席するように努力している<br>(3) ほとんど欠席したことはない | 【　　】 |
| 問 39 | 「受講態度」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。 | (0) 興味関心をひかれる内容なら聴く<br>(1) とりあえず板書などはノートにとるようにしている<br>(2) 良い成績を取るためにテストや期末試験で出題される部分の理解に注力している<br>(3) 自分なりの意見や問題意識を持って受講し講義内容を深く理解できるように心がけている | 【　　】 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 40 | 「グループ演習」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。 | (0) 面倒なのでなるべく参加しない<br>(1) 発言しなければならない場面でのみ参加する<br>(2) 他の学生がリードしてくれたりグループの雰囲気が良いときは前向きに参加する気になる<br>(3) 積極的に参加し他の学生の意見を引き出すように努力する<br>(4) やったことがない | 【　　】 |
| 問41～44は，専門科目について回答してください。 | | | |
| 問 41 | 「予習と復習」についてのあなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。 | (0) やらないことが多い<br>(1) 教員に指示されたことは最低限やっている<br>(2) 授業を理解するために必要だと思うことをやっている<br>(3) より良い成績を得たり，さらに深く理解したりするために主体的に取り組んでいる | 【　　】 |
| 問 42 | 「出席」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。 | (0) なにかと欠席しがちである<br>(1) 単位取得に最低限必要な程度には出席している<br>(2) なるべく出席するように努力している<br>(3) ほとんど欠席したことはない | 【　　】 |
| 問 43 | 「受講態度」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。 | (0) 興味関心をひかれる内容なら聴く<br>(1) とりあえず板書などはノートにとるようにしている<br>(2) 良い成績を取るためにテストや期末試験で出題される部分の理解に注力している<br>(3) 自分なりの意見や問題意識を持って受講し講義内容を深く理解できるように心がけている | 【　　】 |
| 問 44 | 「グループ演習」について，あなたの学習スタイルに最も近いものを選んでください。 | (0) 面倒なのでなるべく参加しない<br>(1) 発言しなければならない場面でのみ参加する<br>(2) 他の学生がリードしてくれたりグループの雰囲気が良いときは前向きに参加する気になる<br>(3) 積極的に参加し他の学生の意見を引き出すように努力する<br>(4) やったことがない | 【　　】 |
| | | | |
| 問 45 | 学修支援システム（manaba）について，あなたの利用状況で当てはまるものを選んでください。（複数回答可） | (0) そのようなシステムについて知らない／使ったことがない<br>(1) あまり使わない<br>(2) 授業に関する情報や配布資料の取得に使う<br>(3) レポートなどの課題提出に使う<br>(4) 小テストで使う<br>(5) 過去に提出したレポートや課題の整理や復習などで使う<br>(6) 教員への質問や学生同士の意見交換で使う<br>(7) 教員からのコメントや成績評価の確認に使う | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |
| 問 46 | 授業への学習支援システム（manaba）導入をどのように考えているか当てはまるものを選んでください。 | (0) なるべく使わない方が良い<br>(1) いまのような使い方でちょうど良い<br>(2) もっと積極的に／多くの科目で利用する方が良い<br>(3) 使ったことがない／よく分からない | 【　　】 |
| 問 47 | リアルタイムアンケートアプリ（respon）について，あなたの利用状況で当てはまるものを選んでください。（複数回答可） | (0) そのようなアプリについて知らない／使ったことがない。<br>(1) あまり使わない<br>(2) 出席カードの提出で使う<br>(3) 授業中のアンケートや質疑で使う<br>(4) クラス全体の意見参照で使う<br>(5) 他の学生の回答内容の参照で使う | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |
| 問 48 | 授業でのリアルタイムアンケートアプリ（respon）活用をどのように考えているか当てはまるものを選んでください。 | (0) なるべく使わない方が良い<br>(1) いまのような使い方でちょうど良い<br>(2) もっと積極的に／多くの科目で利用する方が良い<br>(3) 使ったことがない | 【　　】 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 49 | 現在のカリキュラムに満足していますか。 | (0) まったく満足していない<br>(1) あまり満足していない<br>(2) どちらでもない<br>(3) おおむね満足している<br>(4) とても満足している | 【　　】 |
| 問 50 | 現在のカリキュラムを消化できていますか。 | (0) まったく消化できていない<br>(1) あまり消化できていない<br>(2) どちらでもない<br>(3) ほぼ消化できている<br>(4) 十分に消化できている | 【　　】 |

## ７．課外活動について

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 51 | 本学のサークルに加入していますか。<br>（サークル：本学において学生が組織する部，サークル及び同好会等で顧問教員をおいている本学公認の団体） | (0) 体育系のサークルに加入している<br>(1) 文化系のサークルに加入している<br>(2) 体育・文化系両方のサークルに加入している<br>(3) 以前加入していたが，現在加入していない<br>(4) 加入したことがない | 【　　】 |
| 問52～55 は，サークルに加入している方のみ回答してください。 | | | |
| 問 52 | 本学のサークルに加入した動機は何ですか。<br>（２つまで回答可） | (0) サークルの活動内容に魅力があった<br>(1) 集団活動をしたかった<br>(2) 友人を得るため<br>(3) 知識・教養を身につけるため<br>(4) 自分の特技を伸ばすため<br>(5) 心身の鍛練のため<br>(6) 先輩・友人に勧められて<br>(7) 学生生活を豊かにするため(8) 様々な情報を得ることができるため<br>(9) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】 |
| 問 53 | サークル活動に費やす時間は１週間に平均何時間ですか。<br>（大学の休業期間中を除く） | (0) ５時間未満　(1) ５時間～１０時間未満<br>(2) １０時間～２０時間未満<br>(3) ２０時間～３０時間未満　(4) ３０時間以上 | 【　　】 |
| 問 54 | サークル活動にかかる費用は１ヶ月に平均いくらですか。<br>（部費，遠征費，合宿費，コンパ代等） | (0) ほとんどかからない<br>(1) 千円以上３千円未満<br>(2) ３千円以上５千円未満<br>(3) ５千円以上１万円未満<br>(4) １万円以上２万円未満<br>(5) ２万円以上 | 【　　】 |
| 問 55 | サークル活動が学業に与える影響について答えてください。 | (0) 学業にかなりプラスになる<br>(1) 学業にプラスになる<br>(2) 学業に影響ない<br>(3) 学業を少し犠牲にする<br>(4) 学業をかなり犠牲にする<br>(5) その他（　　） | 【　　】 |
| 問56 は，サークルに加入していない方のみ回答してください。 | | | |
| 問 56 | サークルに加入していない理由は何ですか。<br>（２つまで回答可） | (0) 学業の妨げになるから<br>(1) 対人関係がわずらわしいから<br>(2) 時間がないから<br>(3) 経済的負担が大きいから<br>(4) 興味のあるサークルがないから<br>(5) 束縛されるから<br>(6) 自分の趣味・娯楽で満足しているから<br>(7) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】 |

## ８．ボランティア活動について

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 57 | 大学入学後，ボランティア活動に参加したことがありますか。 | (0) 参加したことがある<br>(1) 参加したことがない | 【　　】 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問58～60は，大学入学後にボランティア活動に参加したことがある方のみ回答してください。 | | | |
| 問 58 | どのような内容のボランティア活動に参加しましたか。<br>（複数回答可） | (0) 幼児・小中高生の学習指導<br>(1) 幼児・小中高生のスポーツ指導<br>(2) 公共施設での文化活動<br>(3) 高齢者・障害者支援<br>(4) 地域協力（イベント協力等）<br>(5) 清掃・自然保護　(6) 国際交流<br>(7) 募金活動<br>(8) 災害地での支援活動<br>(9) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |
| 問 59 | 過去に経験したボランティア活動の日数は合計でどれくらいですか。 | (0) ３日以内　(1) ４日～７日<br>(2) ８日～１４日　(3) １５日～３０日<br>(4) ３１日以上 | 【　　】 |
| 問 60 | ボランティア活動をすることとしたきっかけは何ですか。<br>（複数回答可） | (0) 困った人を助けたいと思ったから<br>(1) 自分を高めるため<br>(2) 友人に誘われて　(3) 家族の勧めで<br>(4) 社会勉強のため　(5) 就職に役立てるため<br>(6) 参加している団体の活動として<br>(7) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |
| 問 61 | 現在，本学では「学生による，障がいのある学生への支援」（ピアサポート）の実施について検討しています。<br>このような活動が開始されたらボランティアとして参加する意志はありますか。 | (0) ぜひ参加したい<br>(1) 参加したい<br>(2) あまり参加したいとは思わない<br>(3) まったく参加したいとは思わない | 【　　】 |

## ９．健康について

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 62 | 朝，食事をしていますか。 | (0) 毎日食べている　(1) 時々食べる<br>(2) 殆ど食べない | 【　　】 |
| 問 63 | 睡眠時間はどのくらいですか。 | (0) ４時間未満　(1) ４時間～５時間未満<br>(2) ５時間～６時間未満　(3) ６時間～７時間未満<br>(4) ７時間～８時間未満　(5) ８時間以上 | 【　　】 |
| 問 64 | タバコを吸いますか。 | (0) 吸う　(1) 以前吸っていたがやめた<br>(2) 吸わない | 【　　】 |
| 問 65 | 定期的に運動をしていますか。 | (0) ほぼ毎日している　(1) 週1回程度行っている<br>(2) ほとんどしていない | 【　　】 |
| 問66～67は，飲酒経験のある方のみ回答してください。 | | | |
| 問 66 | 飲酒の頻度はどの程度ですか。 | (0) ほぼ毎日飲む　(1) 週に２～３回程度飲む<br>(2) 時々飲む　(3) コンパ等のときだけ飲む<br>(4) 殆ど飲まない | 【　　】 |
| 問 67 | どの程度まで飲酒したことがありますか。 | (0) ほろ酔い程度　(1) 足元がふらつくほど<br>(2) 酔いつぶれるほど<br>(3) 医療機関で手当を受けたことがある | 【　　】 |

## １０．友人・悩みについて

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 68 | 本学の学生の中でどの程度つき合える友人がいますか。 | (0) 互いに希望や悩みを打ち明け合い，心を許し合える友人がいる<br>(1) 多少親密につき合える友人がいる<br>(2) 一緒に行動したり，話し合ったりする程度の友人がいる<br>(3) 全くいない | 【　　】 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 69 | 本学でどのように友人を見つけましたか。<br>（２つまで回答可） | (0) 通学が一緒だから　(1) 高校が同じだから<br>(2) 一般の講義で　(3) サークルで<br>(4) ゼミナールで　(5) 友人はいない<br>(6) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】 |
| 問 70 | 現在悩みがありますか。<br>（２つまで回答可） | (0) 健康・身体・性格　(1) 経済面　(2) 対人関係<br>(3) 家族・家庭　(4) 恋愛・結婚　(5) 学業<br>(6) 生活環境　(7) 職業・進路　(8) 悩みはない<br>(9) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】 |
| 問 71 | 悩みが生じた場合，どのように対処していますか，又は，対処するつもりですか。<br>（２つまで回答可） | (0) 親に相談する　(1) 兄弟・姉妹に相談する<br>(2) 親戚・知人に相談する<br>(3) 本学の教職員に相談する<br>(4) 友人・先輩に相談する<br>(5) 保健管理センターに行って相談する<br>(6) 「学生何でも相談室」に行って相談する<br>(7) 自分で解決する<br>(8) なりゆきにまかせる<br>(9) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】 |
| 問 72 | 大学内にあなたの「居場所」（安心して過ごすことのできる場所）はありますか。<br>（複数回答可） | (0) 大学内に居場所はない<br>(1) サークル<br>(2) 基礎ゼミナール<br>(3) 研究指導（専門ゼミナール）<br>(4) 上記以外の授業<br>(5) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |

## １１．ハラスメント（種々の嫌がらせ）について

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 73 | 本学の教職員，先輩，友人などからハラスメントを受けたことがありますか。 | (0) ある　(1) ない | 【　　】 |
| 問 74 | 本学の学生がハラスメントを受けるのを見たり聞いたりしたことはありますか。 | (0) ある　(1) ない | 【　　】 |
| 問75～77 は，問73または問74で「ある」と答えた方のみ，回答してください。 | | | |
| 問 75 | それはどのようなハラスメントでしたか。<br>（複数回答可） | (0) セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）<br>(1) アカデミック・ハラスメント（主に教員による学生に対する修学上の嫌がらせ）<br>(2) アルコール・ハラスメント（飲酒強要や飲酒にまつわる人権侵害）<br>(3) パワーハラスメント（学生間で地位や権限，人間関係を背景にして行われる嫌がらせ）<br>(4) 宗教に関するハラスメント<br>(5) 政治的信条に関するハラスメント<br>(6) プライバシーの侵害<br>(7) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |
| 問 76 | どのような状況でハラスメントは起こりましたか。<br>（複数回答可） | (0) 授業・ゼミ中　(1) 課外活動中<br>(2) アルバイト中<br>(3) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |
| 問 77 | ハラスメントに対してどのように対応しましたか。<br>（複数回答可） | (0) 抗議した<br>(1) 保健管理センターに相談した<br>(2) 学生何でも相談室に相談した<br>(3) ハラスメント相談室に相談した<br>(4) 指導教員に相談した<br>(5) 親・友人等信頼できる身近な人に相談した<br>(6) 相談しなかった<br>(7) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |

## １２．カルト，薬物について

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 78 | カルト宗教団体・自己啓発セミナーから勧誘を受けたことがありますか。 | (0) 勧誘を受けたことがある<br>(1) 勧誘を受けたことはない | 【　　】 |
| 問 79 | 友人が宗教団体・自己啓発セミナーから勧誘を受けて困っているのを見聞きしたことがありますか。 | (0) 見聞きしたことがある<br>(1) 見聞きしたことはない | 【　　】 |
| 問 80 | 大麻や危険ドラッグの使用を勧められたことがありますか。 | (0) 勧められたことがある<br>(1) 勧められたことはない | 【　　】 |
| 問 81 | 友人が大麻や危険ドラッグの使用を勧められたのを見聞きしたことがありますか。 | (0) 見聞きしたことがある<br>(1) 見聞きしたことはない | 【　　】 |

## １３．就職について

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 82 | 卒業後の進路をどのように考えていますか。あるいはどこに決まりましたか。（決まっていないときは第一志望） | (0) 公務員(教員含む)　(1) 卸小売業<br>(2) 製造業 (3) 建設業　(4) サービス業<br>(5) マスコミ　(6) 金融・保険業<br>(7) 医療福祉　(8) 情報サービス業　(9) 自営業<br>(10) 進学<br>(11) その他（　　） | 【　　】 |
| 問 83 | 就職する場合に何を基準に考えますか。あるいは考えましたか。<br>（２つまで回答可） | (0) 勤務地 (1) 業種 (2) 職種 (3) 会社等の規模<br>(4) 知名度　(5) 給与 (6) 勤務時間･休日<br>(7) 適性 (8) 安定性 (9) 将来性<br>(10) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】 |
| 問 84 | 就職する場合に勤務地はどこを希望しますか。<br>（複数回答可） | (0) 小樽市　(1) 札幌市　(2) 前記以外の道内<br>(3) 東京　(4) 首都圏　(5) 前記以外の道外<br>(6) 特に考えていない　(7) 外国（　　） | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |
| 問 85 | 将来の就業のために，各種専門学校等に通っていますか。あるいは通っていましたか。<br>（複数回答可） | (0) 語学学校 (1) パソコン教室<br>(2) 公務員試験講座　(3) 簿記講座<br>(4) ＦＰ講座　(5) 税理士・公認会計士講座<br>(6) ロースクール・司法試験講座<br>(7) 通っていない<br>(8) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |
| 問 86 | 就職に関して，大学にどのような要望がありますか。<br>（２つまで回答可） | (0) ガイダンスの充実　(1) 就職情報の整備・充実<br>(2) 就職相談に関する整備・充実<br>(3) インターンシップの充実<br>(4) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】 |
| 問 87 | 卒業後の進路を決めたのはいつですか。 | (0) 大学入学以前　(1) 1年生の時<br>(2) 2年生の時　(3) 3年生前期の時<br>(4) 3年生後期の時　(5) 4年生の時<br>(6) 進路はまだ決めていない。 | 【　　】 |
| 問 88は，学年を問わず，就職活動をしたことがあり，かつ，大学の支援を利用したことがある方のみ回答してください。 | | | |
| 問 88 | 就職活動に関して，大学の支援はどのくらい役に立っていますか。あるいは役立ちましたか。 | (0) とても役立つ（役立った）<br>(1) ある程度役立つ（役立った）<br>(2) あまり役立たない（役立たなかった）<br>(3) ほとんど役立たない（役立たなかった） | 【　　】 |

## １４.その他

| | | | |
|---|---|---|---|
| 問 89 | あなたが（個人で）所有しているＩＣＴ機器について,あてはまるものをすべて選んでください。<br>（複数回答可） | (0) 持っていない<br>(1) スマートフォン<br>(2) スマートフォン以外の携帯電話<br>(3) タブレット端末(4) ノートＰＣ<br>(5) デスクトップＰＣ<br>(6) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】<br>【　　】<br>【　　】<br>【　　】 |

| 問90～92は問89でスマートフォンあるいはスマートフォン以外の携帯電話を持っていると回答した方のみ回答してください。 | | | |
|---|---|---|---|
| 問 90 | 一日あたりの携帯電話またはスマートフォンの利用時間はどのくらいですか。 | (0) ０～３０分未満 (1) １時間未満<br>(2) １～２時間未満 (3) ２～３時間未満<br>(4) ３時間以上 | 【　　】 |
| 問 91 | 携帯電話またはスマートフォンの機能であなたがよく利用する機能はなんですか | (0) 音声通話 (1) メール<br>(2) ＳＮＳ(twitter,facebook,LINE等)<br>(3) ゲーム (4) インターネット<br>(5) その他（　　） | 【　　】 |
| 問 92 | SNS(twitter,facebook,LINE等)の利用に関して悩んでいることはありますか。<br>（２つまで回答可） | (0) 利用していない (1) 悩みはない<br>(2) 誹謗・中傷をされる<br>(3) 仲間外れにされていると感じる<br>(4) SNSでの発言が原因で友人とトラブルになった<br>(5) 執拗にメッセージを送られた<br>(6) 無断で個人情報を公開された<br>(7) SNS依存症である<br>(8) その他（　　） | 【　　】<br>【　　】 |

＊　ご協力ありがとうございました。

＊　自由意見がありましたら，別紙に記入のうえご協力ください。

提出期限：１０月１６日(日)

# 自 由 意 見